平成 26 年度中部地域における持続可能な地域づくりを担う
人材育成事業に係る ESD 環境教育プログラムの作成・展開業務

報告書

株式会社 TREE

平成 27 年 2 月 27 日

はじめに

2002 年のヨハネスブルグでの持続可能な開発に関する世界首脳会議で採択された「ESD の 10 年」を総括する会議、「ESD ユネスコ世界会議」が、昨年 11 月に開催された。

この 10 年の、日本における ESD 施策において、昨年度から開始されている本事業は、地域への ESD 取組の促進のために、重要な役割を果たしていると捉えている。

具体的には、環境省と文科省が連携し、「持続可能な社会をつくるための人材の育成」を、地域の多様なステークホルダーの参画を得て、主に小中学校で実施しており、中部地域においては、それぞれの地域の特色や人材、資源をベースに、地域の学習テーマを素材とした映像教材と共に学習プログラムを作成し、実施校や実施エリアで実証授業や学習発表会を展開している。

2 年目となる今年度は、「学習者主体」、「児童生徒の参加」を重要視して、地域の素材を教材にした授業づくりを行った。各県において、富山「市電通りのたから」、石川「伏見川」、福井「敦賀の世界遺産」、長野「四賀地区の自然」、岐阜「環境といのち」、愛知「季節と堀川」、三重「嘉例川」を学習教材に展開した。

全てのプログラムに、地域の素材があふれており、教員、学校、地域の人々、ESD の専門家による、児童生徒の学びが深まる ESD 授業づくりを実施し、保護者や地域の人々とその成果を共有した。

中部地域の本事業の特徴の一つとして、授業内で活用する映像教材の制作がある。今年度はこれまでの取組に加え、最新の ICT を活用し、AR（拡張現実）の仕組みを取り入れ、愛知県においては、藤前干潟の既存の印刷物から誰でも手軽に映像コンテンツを視聴出来る仕組みを提供し、ESD の取組に加え、地域の豊かな自然環境の場を普及啓発する観点からも貢献することが出来た。

本事業を通して、学校現場の児童生徒や教員、地域の人々、保護者、他関係者の、「持続可能な社会への意識」が高まり、ESD が「全ての人々が社会変革の担い手」となる学びあいであることを改めて確認した。

本報告書が、今の社会に必須である「ESD」の価値や手法をより多くの人に伝え、その取組が深化・拡大するための参考になればと願う。特に、地域で「未来を育む人づくりを担いたい」という教員や学校、NPO、地域の人々に活用いただきたい。

※本事業の推進において、株式会社 TREE は、業務の一部を、特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズへ委託すると共に、環境省中部環境パートナーシップオフィスとの協働により、実施しています。

目 次

1．地域プログラムの作成 ---------- 3
（1）中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会の設置・開催
（2）各県ごとのプログラムの作成等

2．地域性を踏まえた ESD プログラムの実証 ---------- 28
（1）授業実証プログラム
（2）映像教材を活用した授業展開例

3．評価検証に関して ---------- 96

4．周知啓発事業の実施 ---------- 101

5．ESD に対する理解に関する調査 ---------- 110
（1）教員（授業実施者等）を対象にしたアンケート
（2）協力者（各県ワーキンググループメンバー）を対象にしたアンケート
（3）周知啓発事業参加者対象アンケート

6．業務の周知・広報等 ---------- 164

7．本事業の成果と課題 ---------- 166
（1）形成推進委員会による評価
（2）各県ワーキングループの評価
（3）授業実施者の評価
（4）児童・生徒の変化
（5）保護者の感想
（6）映像教材の活用について
（7）総括～今後に向けての提案

添付資料 1 ---------- 193
中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員対象アンケート結果まとめ

添付資料 2 ---------- 201
中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員会議事録

１．地域プログラムの作成

（1）中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会の設置・開催

各県に設置するワーキンググループから主に学識者を構成員とした会議体を設置した。本事業全体の枠組みの作成、各ワーキンググループとの情報共有、成果の検証を行った。計 2 回開催。

①形成推進委員会委員(敬称略)

	地 域	名 前	所属
1	富山県	松本 謙一	富山大学人間発達科学部教授
2	石川県	池端 弘久	金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課キゴ山ふれあいの里館長
3	福井県	前園 泰徳	福井大学教育地域科学部特命准教授
4	長野県	中澤 朋代	松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科准教授
5	岐阜県	巽 徹	岐阜大学教育学部教授
6	愛知県	千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授
7	三重県	松岡 守	三重大学教育学部教授
8	中部	鈴木 克徳	金沢大学環境保全センター長・教授
9		新海 洋子	環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー

②実施内容

ア 第 1 回中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会

日 時：平成 26 年 7 月 4 日(金) 15:00～17:30

場 所：中部環境パートナーシップオフィス

出席者：委員 9 名、中部地方環境事務所 3 名、
受託団体 3 名

議 事：挨拶-中部地方環境事務所所長 池田善一
自己紹介（昨年度の事業の振り返りも兼ねて）
本事業における共通コンセプト、方針、目標について
各県の状況・授業実施について
今後のスケジュールについて
意見交換 他

議事内容：今年度本事業を実施するにあたり、下記の通り意見交換をし、共有をした。

中部圏域で共通の認識を持ち、具体的には各地域で議論し、考えながら事業を実施する。いかに地域で取組を進めていく「核」となる基盤を形成していくか、地域に ESD が根づくための仕掛けをつくるか、が重要となる。教育委員会や行政、校長会も視野に入れ、本事業を紹介するプロセスを入れていくことに留意する。本事業を実施することで、ESD 授業や ESD 授業実施のための枠組みがきちんと残ることを念頭に実施する。

授業内容については、昨年同様、地域の課題、地域の良さを入れることを基本として、反転学習等の映像の活用法を考えていく。地域の足元の課題を、大人と子どもが共有できるような授業、映像を考える。それらの素

材を有効に使用する方法を考える。

「本気」の授業をいかに作り上げるか。子どもは与えられた条件や知識の中で考え、話し合おうとする。義務教育では、取り組む子どもたちの「姿勢」が大切である。コミュニケーションを図り、良い結論を出していこうと努力しなければ、未来を考えていく力は育めない。資質能力の育成に根本を置いているのが ESD であり、学び合うことでの信頼感や人間関係の育みに重きを置くことを見せていく。そして学び方を学ぶことが重要である。

評価については、それぞれの地域で議論し、考えていく。「もっと学びたい、知りたいというスイッチが児童・生徒に入る」ということも評価軸の一つとなる。また、事業の評価方法としては、昨年の実施校が ESD を継続しているかどうかを確認し、その成果を把握することができる。昨年の学習が子どもたちの行動において持続しているかどうかという視点もある。また、児童・生徒の授業実施前後の変化、変容を把握するアンケートを実施する。

事業実施に当たっての、中部全体の共通コンセプトについても議論し、以下の共通目標を持って各ワーキンググループにて授業づくりを行うこととした。

■中部 7 県の共通目標

①地域の課題や良さを、子どもも大人も共有する。

②自分ごと、当事者として、子どもが「なんとかしたい」「何とかしよう」という意欲をもつ。

③答えを明確にだすことではなく、子どもが、もっと知りたい、学びたくなる「スイッチ」が入るように導く。

④地域に体を使って働きかけるような「体験」をいれた授業をつくり、実施する。

イ 第 2 回中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会

日　時：平成 26 年 12 月 17 日(水) 16:00～18:20

場　所：中部環境パートナーシップオフィス

出席者：委員 5 名　代理 2 名

中部地方環境事務所 3 名　受託団体 3 名

欠席 2 名

議　事：第 1 回形成推進委員会のふりかえり

今年度事業の各県の進捗状況

本事業の成果と課題、次年度以降の展開について

本事業終了後、本事業に成果及び改善策を地域に何をどう残すのか

＊今後の ESD 事業展開について

＊ESD の取組を継続するための仕組みについて

＊本事業終了後の提案について

今後のスケジュール　他

＊次年度及び本事業終了後の提案づくり

＊ESD ユネスコ世界会議の報告会の実施（予定）

議事内容：今年度の各県の事業内容の進捗状況報告後、中部 7 県での本事業の現状課題を共有し、次年度以降についての事業展開についての意見交換をした。事前に形成推進委員を対象に行ったアンケートの結果を踏まえつつ、改善点や本事業の発展的展開についても議論した。形成推進委員会の方のアンケート結果から、以下の来年度の本事業の検討課題を把握した。

①各県ワーキンググループが主体的積極的に実践する、実践を支援する環境を整える。

②各県で ESD 授業の評価方法を協議する。事業を実施しつつ評価方法を検討する。

③アンケート項目（プログラム前後の児童・生徒の変容を測る）を作成する際に協議して進める。

④昨年度のプログラムと映像教材を活用できるように公開、ダウンロードを可能にする環境をつくる。

今年度の実践の成果を踏まえ、次年度の事業をどう展開するかについて意見交換をした。本事業で一番良かったことは、「ワーキンググループ」での意見交換等である。地域の様々な方と多様な視点から、授業について意見交換をし、ブラッシュアップしていくことで、授業も教員も児童も地域も変わることができる。ワーキンググループという形であれば、資金をあまりかけずに実施することができ、学校が地域にはこういう人がいる、困った時には相談できる人がいるという道筋が立ったところが大きな成果である。一方で、映像教材がないと絶対にできない事業ではない。

課題は、①実証校の早期決定、②モデルプログラムの活用、③本事業のメリットの見える化、④他校の教員の参加、⑤学校間、教員間、学校地域間の情報共有と学びあう場づくり、⑥教員が実施しやすくなるサポートメニューの可視化、⑦映像の活用、である。次年度に向けて、改善・解決方策を探ることとした。

また、ESD の取組を継続するためには「仕組み」が必要である。そのために、①教員の好奇心とモチベーション維持（向上）、②評価手法の確立、③教育の本体に ESD を組み込む、④ESD を当たり前にするためのアプローチ、⑤資金調達先の確保、⑥コーディネーターの設置、⑦学校をサポートするしくみ、⑧EPO 中部の役割の確認、⑨ビジネス化、と言った視点での検討を必要とし、次年度の課題として共有した。

本事業終了後、培った成果を活かした新しい別の施策や新たな仕組みづくりを提案する必要がある。単年度の事業では、モデルとして 1 度しかできない。地域における継続を考えるならばモデル事業は向かない。本事業が行われる 3 年間は、環境省のモデルプログラムを実証することによって、より地域に合ったプログラムにブラッシュアップするといった流れであった。その成果をどう活かして、地域の ESD 実践が広がり、改善され、質も向上するような次の事業が作られる必要がある。本日の意見交換を踏まえ、次年度に向けての提案をまとめ、平成 28 年以降に環境省が行う本事業の後継となる ESD 事業について来年度提案する。

③各県でのプログラムの作成・実証に当たっての必要事項

事業コンセプト、方針、目標、ガイドライン、実証場所等

各県の学識者、NPO、教育委員会、行政、授業実施校、実施者等が構成員とするワーキンググループを形成し、ワーキンググループ会議で検討し、ESD モデルプログラムの中から 1 ～ 2 プログラム(10 単位時間程度)を参考に、各県ごとに ESD 授業カリキュラムを作成した。

■中部 7 県の共通目標

①地域の課題や良さを、子どもも大人も共有する。

②自分ごと、当事者として、子どもが「なんとかしたい」「何とかしよう」という意欲をもつ。

③答えを明確にだすことではなく、子どもが、もっと知りたい、学びたくなる「スイッチ」が入るように導く。

④地域に体を使って働きかけるような「体験」をいれた授業をつくり、実施する。

（2）各県ごとのプログラムの作成等

各県の環境教育・学習及び ESD を専門とする学識者、実践をしている NPO や民間事業者、授業実施校の管理職及び教員、自治体等に本事業の目的やワーキンググループの役割を伝え、依頼し、ワーキンググループを設置した。また、実施校及び教育委員会に対して、

ア．ワーキンググループへの参加（2 回程度）と地域の ESD プログラム作成
イ．作成した ESD プログラムの授業実施と、普及啓発事業の実施
ウ．授業に使用する映像機器、視聴覚室利用
エ．地方紙等広報

等の協力を得ることができた。また、事業を実施するにあたり、NPO などの協力を得た。

ア 各県ワーキンググループメンバー （敬称略）

	名 前	所 属	備 考
富山県 9 名	松本 謙一	富山大学人間発達科学部教授	形成推進委員
	高木 要志男	富山市立堀川小学校校長	
	石田 和義	富山市立堀川小学校教頭	
	山口 浩二	富山市立堀川小学校教務主任	
	高多 利明	富山市立堀川小学校教諭	
	福田 有児	富山市立神通碧小学校教頭	
	本田 恭子	環境教育ネットワークとやまエコひろば環境教育コーディネーター	
	山崎 昌昭	富山県生活環境文化部環境政策課主任	
	富山市教育委員会		協力
	富山県教育委員会		協力
	鈴木 克徳	中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員・北陸コーディネーター	
石川県 8 名	鈴木 克徳	中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員・北陸コーディネーター 金沢大学環境保全センター長・教授	形成推進委員
	池端 弘久	金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課キゴ山ふれあいの里館長	形成推進委員
	橋本 有可	金沢市立三馬小学校校長	
	田中 哲也	金沢市立三馬小学校５年１組担任	
	松本 亮	金沢市立十一屋小学校校長	
	中谷 亜紀	金沢市立十一屋小学校５年１組担任	
	新 広昭	石川県環境部次長/温暖化・里山対策室長	
	青海 万里子	金沢エコライフくらぶ代表	
福井県 6 名	前園 泰徳	福井大学教育地域科学部特命准教授	形成推進委員
	今井 尚子	学校法人嶺南学園敦賀気比高等学校付属中学校中学部主任	
	土橋 佳久	福井県安全環境部環境政策課環境計画推進グループ主任	

	吉川　守秋	特定非営利活動法人エコプランふくい事務局長	
	小竹三恵子	ふくいユネスコ協会副会長	
	鈴木　克徳	中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員・北陸コーディネーター	
長野県 10 名	中澤　朋代	松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科准教授	形成推進委員
	丸山　勝久	松本市立会田中学校校長	
	吉田　正人	松本市立会田中学校 2 学年主任	
	渡辺　隆一	信州大学教育学部特任教授	
	中林　直子	中信地区環境教育ネットワーク事務局長	
	丸山　一博	長野県環境部環境政策課企画経理係担当係長	
	宮島　和雄	一般社団法人長野県環境保全協会専務理事	
	石塚　聡実	特定非営利活動法人やまたみ理事・事務局	
	東山 睦子	松本市市民環境部環境政策課温暖化対策係主任	
	長野県教育委員会事務局数学指導課義務教育指導係		協力
	松本市教育委員会教育部学校教育課指導主事		協力
	新海　洋子	環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー・長野コーディネーター	
岐阜県 6 名	巽　徹	岐阜大学教育学部教授	形成推進委員
	鈴木　清人	羽島市立正木小学校校長	
	大野 由里子	羽島市立正木小学校 5 年学年主任	
	小林　由紀子	特定非営利活動法人 e-plus 生涯学習研究所代表理事	
	小川　美鈴	岐阜県環境生活部環境生活政策課政策企画係課長補佐兼係長	
	岐阜県教育委員会事務局学校支援課課長補佐		協力
	羽島市教育委員会学校教育課指導係長兼指導主事		協力
	新海　洋子	環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー・東海コーディネーター	
愛知県 8 名	千頭　聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授	形成推進委員
	太田　敬一郎	名古屋市立八熊小学校校長	
	服部　易弘	名古屋市立八熊小学校教務主任	
	大村　邦仁	名古屋市立八熊小学校努力点推進委員長	
	戸苅　辰弥	特定非営利活動法人藤前干潟を守る会藤前活動センタースタッフ	
	川原田　真弓	名古屋市環境局環境企画部主幹（環境教育）	
	寺西　慶徳	名古屋市環境局環境企画課施策推進係	
	新海　洋子	環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー・東海コー	

		ディネーター	
三重県 9 名	松岡　守	三重大学教育学部教授	
	寺本　豊	学校法人津田学園　津田学園小学校校長	
	勝野　学	学校法人津田学園　津田学園小学校教頭	
	窪田　裕志	学校法人津田学園　津田学園小学校教諭	
	矢口　芳枝	四日市大学エネルギー環境教育研究会副会長兼事務局長	
	寺田　卓二	四日市自然保護推進委員会運営委員	
	内田　郁夫	三重県環境生活部地球温暖化対策課環境評価・活動班副参事	
	水谷　芳春	桑名市教育委員会事務局文化課文化振興係係長	協力
	新海　洋子	環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー・東海コーディネーター	

イ　各県ワーキンググループ会議

【富山県】

日時・場所・参加者	会議内容
第 1 回会議 日時：9 月 19 日(木) 9:00～12:00 場所：富山市立堀川小学校 参加者：合計　12 名 （内メンバー8 名）	本事業の説明後、授業実施者である教員から授業内容（案）や映像教材に対する要望についてを共有した。その後、授業と映像教材の内容、スケジューリングについての意見交換を行い、下記を決定した。 1.実証授業について （1）授業実施者：高多利明先生 （2）対象：小学 2 年生（2 年 2 組） （3）授業内容 単元名「私のすき（すてき）な市電通り」 児童が市電通りを探検し、自分が気になったこと、すき（すてき）なところを発見し、自分ごとにして探求し、人に出会い、知りえたことを他者に伝えたいという気持ちを育む。 （4）モデルプログラム： ⑩「公園、探検・発見・ほっとけん！・・・誰が？」 （5）公開日時：第 1 回　10 月 22 日(水）9:45～10:30 第 2 回　11 月 27 日(木）13:35～14:20 2.地域への報告会について 日時：平成 27 年 1 月 24 日(土） 内容：「ESD 富山シンポジウム」において児童が発表する。 3.映像教材について （1）神通碧小学校 2 年生プログラム「名もない滝」と連携し、映像を製作する。

	映像①：神通碧小学校の２年生児童の探究学習において、人にインタビューしている様子 映像②：神通碧小学校２年生児童が人に伝えている、発表している様子 ４.今後の作業について （1）堀川小学校と神通碧小学校が連携、共有して授業案、映像教材案を作成する。 （2）授業前後の児童の変容を把握するためのアンケートを作成する。
第２回会議 日時：11 月 27 日(木) 17:00～17:40 場所：富山市立堀川小学校研修室 参加者：合計 11 名 （内メンバー7 名） ※各公開実証授業実施後にはふりかえりを実施。	第 1・2 回の授業を終え、授業実施者の感想、評価を踏まえつつ、①授業全体、②映像教材、③ESD の視点・手法、④本事業のスキームやコンセプト等についての振り返りを実施し、下記のような意見が出された。 **【授業実施者の感想・評価】** 映像の児童の追究の様子を教材に、児童自身が自分を重ねて捉え、共感していた。映像視聴後、児童から「手紙でありがとうを伝えたい」と自分の追究を振り返りながら考えた発言があった。 **①授業全体** ・掲示物や授業の方法も工夫され、先生の熱意が見てとれた。 ・今後の改善点として、共感する場や話合いの場などをより工夫すると良い。 **②映像教材** ・映像の価値は、他の児童の追究をみて、自分を重ねて見られた。映像を通じて学習対象に対する学習の質の変換がされた。 **③ESD の視点・手法** ・生活科で、自分の価値観を深く見つめようとする授業であり、自分を見つめながら、級友の価値観が違うことを知り、世界中の価値観を理解し合う基本となる。級友の価値観を認め、みんなが幸せになりたいと思っていることを感じ合える児童を育んでいた。 **④本事業のスキームやコンセプト等** ・子どもからいかに引き出すかが ESD 授業のポイントである。プログラムづくりとともに、引き出すテクニックが共有できると、より発展する可能性がある。 ・本事業を周知・展開するための冊子が必要である。

【石川県】

日時・場所・参加者	会議内容
第１回会議 日時：8 月 25 日(月) 16:00～18:00 場所：金沢市立三馬小学校 参加者：合計 14 名 （内メンバー６名）	本事業、映像教材について説明後、教員からの今年度の授業カリキュラムや希望する映像教材についての紹介、実証授業や今後のスケジュールについての意見交換を行い、下記を決定した。 1.実証授業について （1）授業実施者：田中哲也先生 （2）対象：小学５年生（5 年 1 組）

	（3）授業内容 単元名：総合的な学習の時間「つながりに気付く・つながりを築く～これからの伏見川を考えよう～」 ※テーマを絞った 10 時限程度のプログラムを実施する。 2.映像教材について プログラムの内容、ねらいに沿って、効果的な映像を、最も適切なポイントで活用する。授業案を再度、検討した後に、映像のイメージについて検討する。 3．今後の作業について （1）9 月上旬～中旬に授業案を検討し、テーマを絞り、10 時限程度のプログラムに整理する。 （2）授業案を作成後、授業の課題設定、ESD の概念や手法をどう取り入れるかを検討する。 （3）授業のどの部分に映像教材を活用するかを検討し、制作に入る。 ４．その他 （1）授業内容を検討した後、授業実施日、映像撮影、報告会等スケジュールを調整する。 （2）授業前後の児童の変容を把握するためのアンケートを作成する。 （3）次年度の実施校（予定）として、十一屋小学校にワーキンググループに参加いただく。十一屋小学校に関しては今年度、映像教材は作成しないが、実施する ESD 授業については可能な限りワーキンググループでアドバイスをする。
第 2 回会議（ふりかえり） 日時：1 月 23 日(金) 15:10～16:10 場所：金沢市立三馬小学校 参加者：合計 14 名 （内メンバー５名）	実証授業を終え、授業実施者の感想、評価を踏まえつつ、①授業全体、②映像教材、③ESD の視点・手法、④本事業のスキームやコンセプト等についての振り返りを実施し、下記のような意見が出された。 **【授業実施者の感想・評価】** 映像教材をいかに児童に捉えさせて進めるかを考えた。映像の導入部で、なぜ地域の人に話を聞くのかなど、児童の思考とのつながりを考えると難しかった。中学生がつくった宣言を聞く機会があり、それを参考にして伏見川宣言をつくることを児童に提案したところ、みんなの気合いが入った。つくる段には、議論になりなかなか決まらなかったが、ほとんど介入せず、児童だけの思いで宣言文をつくった。この宣言文を地域の人に見せて納得してくれるのかどうかを、もう一回検討するために今回、映像教材を活用した授業を実施した。「自然と防災どちらが大事か」という児童への質問については自然派が多いとイメージしたが、結果は半々でどちらかというと防災派の方が強かった。自然派が強いという想定の下で、討論の最後にゆさぶりのつもりで洪水の避難経路地図を見せようと思っていたが、想定外のことに焦った。最後には児童を引っ張ることができなかった。最後に「自然と防災どちらが大事か。」と問うた時に、どちらも大事だと思う児童がたくさんいたが、それでは議論にならないと思い、敢えてどちらか選ばせたが、それがど

	うだったのか。自然と防災という言葉が抽象的なので、それぞれイメージが違うと議論が出来ず、同じ土俵に立てないと思い、最後までこの課題でいいかを考えていた。もう一案として、「中州を残すか残さないのか。」を問うことを考えた。中洲をさらうと野鳥がいなくなる、防災面や景観も絡む議論ができ、イメージを共有できるかと思ったが、極端な写真を提示するためいろいろ考えて止めた。どのように進めたら良いのか助言をいただきたい。 **【同学年担任・校長の感想・評価】** ・普段から一生懸命総合の授業に取り組んでいる児童は、はきはきと自分の意見や立場を発言できていた。自分が授業する場合も難しいと思う。なぜなら、伏見川宣言が黒板に提示してあり、児童の自然派と防災派の立場の両方の意見を聞き合いながらゆさぶっていく。ゆさぶっていって最後に自然も防災も両方大切だという流れに持っていきたい時に、宣言の中には自然ばかりが入っていて、そこに気づかせたいが、どこで気付かせるのか。児童が活発に議論をぶつけあうところに、上手く入っていくタイミングが難しい。「自分達の宣言を見てみようか」と、両方の立場で揺れている子たちに、自分達の宣言を見直させる、「防災の観点って入っているのかな」と児童の意見に対してきりかえしていくことがいかにできたのか。 ・児童は先生の自然な促しのもとで自分達の意見を発言し、児童同士で話が進んでいき、すごいと思った。自然派と防災派が半々で、防災派がかなり優勢だった。防災派の言い分で「自然を守るために防災があるんだ」というのがあり、自然派は詰まってしまった。宣言の中に自然という言葉がたくさん入っていたので、授業の始めの部分と上手くつなげるように、手を打てると良い。しかし最初の段階で防災派が想定以上に多く、どうしたらうまく宣言に目を向けさせることができたのだろうか。児童同士が相手の意見を踏まえて本音を言えるところが羨ましいなと思い、参考にしたい。 ・今まで教科で学習したことで、自分があいまいだと思っている考えを何とか補強しようとしていたところに、総合的な学習の時間と教科とのつながりを感じた。児童に宣言で自然という言葉が多いことに気づかせたかった。時間がもう少しあれば、「防災が大事だと言っているけど、自分たちが自然のことしか言っていない」と気づけたと思う。そこを、どのように切り返し、突っ込んでいくのかを教えてほしい。他のクラスでも取り組む際の参考にしたい。 ・国語と総合的な学習の時間をコラボレーションしてこの単元をつくり、総合的な学習の時間でも頑張り、良い単元ができた。総合的な学習の時間も今後、変わっていくと思う。三馬小学校の児童は校外学習の機会が実は少ない。今の 5 年生児童もこれまでに生活科などで校外にでかけて調べる活動や、地域と関わる経験が少ない。今年は 2 年生の町探検や 3 年生の伏見川を調べる単元などで様々な学年が校外学習をしている。今日の単元は、今の児童が様々な経験をつないで自分達に何が出来るかを考えていく素地にな

	っていくような、児童を育む単元だと思った。今までの積み上げがあまりない児童が、あれだけいろいろなことに関して話合いを進めていたところが素敵だった。自分なりの思いや理由があり、どの児童もみんな伏見川を良くしたい、何かしたい、そして悩みながら関わっているところが素敵だった。友達に対して反対意見を言う際も、良いところは認め、でももっとこうしたいという思いから意見をぶつけていた。日頃から様々な意見が出しやすい環境があって、児童も安心して話が出来ているのだととても勉強になった。 ・児童は自分で発言するのは好きで、友達の発言も聞いているが、友達の発言を聞いて自分の話を高めていくという点は弱く、ディベートのように自分の意見と相手の意見を交わすような経験をあまりしていないためその点は、さらに弱い。そういった話合いの実施が田中先生のチャレンジであった。田中先生のチャレンジは３点、①ディベートのような形式の話合い、②児童は地域を見ているようで見ていない。そこを見直してくれるような単元構成にする、③三馬小学校児童には、総合的な学習の時間で一番大事なアウトプットの部分が弱い、である。地域に向かって発信することがほとんどなかったのでそれも入れて単元をつくる、ことである。その一つがこの宣言である。良い宣言をつくってくれたと思ったが、つくっただけで安心するのではなく、これから実際に活用して「自分たちが、どうするのか」、この後自分たちができることはこれを言い続けることや、何かできることがあるのではないかと考えるところまで行けると良い。児童の実態からして今回は映像教材を視聴して考えるので精いっぱいだったとも思う。映像教材を活用して授業を進めることの難しさが改めて分かった。映像教材での取り上げ方次第で違うことが考えられるという点も改めて勉強させていただいた。 **①授業全体** ・先生と児童とのやりとりが生き生きしたとても良い授業だった。 ・児童がしっかり自分たちの考えを交流できていて素敵な流れだった。後半の自然と防災の議論で対象としているものがあいまいになっていたように感じ、残念だった。最初、防災派は人のための防災という意識だったが、自然を守るより防災をすること大切だと主張するために、自然を守るための防災だと後付けしていったように感じられ、もったいなかった。最初に人のための防災だという流れがあれば、その点で議論が深められたのではないか。 ・この時間だけでなく、今までの学習の長い積み重ねが見られた。 ・自然も防災もそれだけではだめだという気づきを生み、児童に考えてもらえるような材料があっても良かった。議論の終わりがどうなったのかが分かり難く感じたので、児童は両方大切だということを予測していたのであれば、その考えの上で何をしたらいいのかという議論のストーリーがあっても面白かったのではないか。 ・議論をする際に、今までの学習や家庭生活の中での伏見川との関わりという

	部分もあると、自分と地域、伏見川との接点や、将来のイメージが具体的にイメージできたのではないか。 ・宣言の一つ目、「川を見て笑顔になる」、笑顔になるという指標がすごく良い。上流・下流・中流にいる人も、生き物も、そこにいると笑顔になれるという考え方を防災との議論の時にすると面白い。宣言を一つ一つ見直しをしていくと、一文一文にストーリーがあり、地域の人に説明するときも魂が込められると思う。 **②映像教材** ・映像それぞれにふりかえりをしていたが、もう少し整理すると良い。下流・中流・上流とあったが、議論は中流に偏ってしまっていた。全体とのリンクを考え、板書をより工夫すると、議論にもより深みが出てきたのではないか。 ・映像のナレーションの中にある情報を読み解くだけではなく、映像に映る風景などさまざまなところから考えていく、気づきを与えるような活用の仕方など工夫ができると思った。 ・映像を活用して、様々な発問が出来る。今後、すごく可能性のあるプログラムだから、授業改善をしていく中で、最後のゴールにいくために映像をどのように使うのかを検討すると良い。 **③ESD の視点・手法** ・コミュニケーションをする時には考えを持たないといけない。考えをノートに書くだけでは、コミュニケーションが次に生まれない。書いたことを順番に読むことがコミュニケーションではない。自分の意見と相手の意見を絡めていくために方法を工夫する、ディベート形式の時でも、論点をはっきりさせることや、主張がいくつあったか人の視点をまとめていくともっとコミュニケーションの力付けることができるのではないか。児童にとって結論の出ないところを、いろいろな視点で考え、出し合う経験は欠かすことができない。児童から、良い意見がたくさん出て感心した。天秤の考え方をした児童はしっかり時間経過の中で、今できること、10 年先、20 年後の考え方も現れていて、感心した。 ・発問の仕方がポイントになる。「伏見川付近の人は伏見川をどのように思っているのか。」と発問があったが、伏見川付近の人を児童がどのように捉えるか、下流・中流の関係をどのように受け止めているのかなどを問うていくと、いろいろな面で、相互関係の面でヒントになり、活かせたと思う。 ・知識が不十分な状況で、総合的な学習の時間に議論すると、当然無理は出てくるため、二項対立は難しい。そのような授業では知識も当然大切ですが、学び方が獲得できると良い。 ・11 時間以上の取組での文脈で、児童の意識が保たれ、話合いが 2 時間できたことが一番すごいと思った。話合いが単発ではなく、ベクトルのある単元になっていたからである。その中で ESD の力が育まれた。そうでなかったらここまで集中力が続かないだろう。

	・いろいろな観点で宣言を見ていくと、ESD の多面的思考にもなる。一つ目だけでも、「どうやって笑顔になってもらう？」「そのために護岸は必要？」「生き物が喜ぶ川？」、「新しい方法をみつけないといけない」などの発問もでき得る。いろいろな見方ができる宣言であり、すごい。しかも自分たちでつくっている。

【福井県】

日時・場所・参加者	会議内容
第 1 回会議 日時：9 月 29 日(月) 16:30～18:30 場所：敦賀気比付属中学校 参加者：12 名 （内メンバー4 名）	本事業について説明後、担当教員から紹介された今年度の学習指導案について意見交換をし、今後のスケジュール調整を行った。下記が決定事項である。 1.実証授業について （1）授業実施者：今井尚子先生 （2）対象：中学校 1 年生～3 年生　生徒 80 名 （3）授業内容 単元名：総合学習「ふるさと敦賀塾」 2.映像について （1）授業のねらいと内容に沿って、効果的な映像を、最も適切なポイントで活用する。授業案を再度検討した後に、映像のイメージについて検討する。 3．今後の作業について （1）総合学習「ふるさと敦賀塾」のテーマの中から、学習を深めたい部分にフォーカスした 10 時限程度の単元計画を作成する。 （2）授業案の作成後後、授業の課題設定、ESD の概念や手法をどう取り入れるかについて検討する。 （3）授業案の中でどの部分に映像を入れるかを検討し、映像教材を制作する。 ４.その他 （1）授業内容を検討した後、授業実施日、映像撮影、報告会等などスケジュールを調整する。 （2）授業前後の生徒の変容を把握するためのアンケートを作成する。
第 2 回会議 日時：1 月 22 日(木) 15:20～16:30 場所：敦賀気比付属中学校 参加者：15 名 （内メンバー6 名）	実証授業後の振り返りのための会議を実施した。授業実施者の評価・感想を基に、①授業全体・内容について、②映像教材について、③ESD の視点・方法について、下記のような意見が出された。 **【授業実施者の感想・評価】** ・生徒の学力や興味関心は幅広いので、その状況の中での実施は難しかったが、生徒の考えが深まったと感じた班もあった。 ・他の班の考えや異なる意見を聞くことで、関心のない生徒の考えや価値観が少しでも変わっていくことが大切である。映像を使い、以前見たことのある風

	景等忘れていたことを思い出すことができ、良かった。 ・1 年生もそれぞれの班で自分の意見を発言していた。 ・こういった授業を年度の始めに行い、その年度の総合学習に入ると、今まで以上に関心を持って生徒は授業に取り組めるのではないかと感じた。 ・敦賀の魅力として、中池見湿地と考える生徒もいると、改めて感じた。生徒の興味関心をさらに広めていくために、教員がどのような情報を与えていくかも大事だと思った。発表を見て、生徒が中池見湿地の魅力を再発見できたと感じた。 **①授業全体・内容について** ・福井県で初めて環境教育ではない、ESD 授業を見た。 ・生徒中心に自分達の討論会という形態での実施が素晴らしかった。 ・生徒が敦賀や中池見湿地、原発に本当に興味を持つきっかけ、足りない物を考えるきっかけ、家族で考えるきっかけ、将来についても考えるきっかけにもなったと感じられ、すごく価値があった。 ・議論についてはディベート形式を取り入れるとよい。 **②映像教材について** ・映像は強力であるが、一番良いのは実物を見る、触ることである。それが無理な場合に映像で補うものである。 ・映像により中池見湿地のインパクトが強く残ってしまうため、敦賀原発一号機についての映像があると生徒のフラットな意見が出てくると思う。しかし、1 本増やすと時間的に厳しくなることが懸念される。 **③ESD の視点・方策について** ・異年齢の生徒が集まり、実施したことが興味深かった。三年、二年、一年生も活動を継続的に行うことで、生徒の ESD 的な視点が育まれていく要素になる・。 ・持続性と考えると難しいが、考えることが重要、どちらかを選択することが目的ではなくそれを考える、みんなで考えて決めていくことが気比中学校のウリだと思った。 ・いろいろな選択肢や議論があり、結論を出す人がいる。それを許容できるような社会にしないといけない。そのような認識、価値観を生徒が持つことがとても重要である。それに向かっていくステップとして、今回の授業はパーフェクトではないが、とても良いステップとなった。これを繰り返し続けると理想的なものになっていく。

【長野県】

日時・場所・参加者	会議内容
第 1 回会議 日時：7 月 9 日(水)	本事業の説明後、実施校の取組や授業案について担当教員より紹介があり、今後の本事業の進め方やスケジュールについての意見交換を行った。

9:50～11:30 場所：松本市立会田中学校 参加者：13 名 （内メンバー9 名)	検討事項として、 ①プログラムの課題の設定（生徒のアンケートから抽出する） ②課題設定後、プログラム内容や手法、どの時間に組むか ③映像教材の制作 ④今後のスケジュール を確認した。主な決定事項は下記である。 1.実証授業について （1）授業実施者：松島　裕先生　藤原賢先生 （2）対象：中学 2 年生（2 年 1 組 24 名･2 組 24 名） （3）授業内容：学校登山体験（7 月に実施）を中心に、生徒を対象に行うアンケート結果から抽出した課題を設定し、10 時間程度のプログラムの組み立てを行う。 2.映像教材について （1）授業のねらいと内容に沿って、効果的な映像を、最も適切なポイントで活用する。登山体験での生徒の動きを映像にすると効果的になると想定されるため、登山体験で、生徒が見た、体験したポイントの写真等を使ってイメージを共有しつつ進める。 3.事業について （1）授業前後の生徒の変容を把握するためのアンケートを作成 授業前：学校登山体験において、上高地、乗鞍といった高山の自然と、身近な地域の自然の共通点、異なる点について生徒が思ったこと、感じたことについて 授業後：課題設定後に、実践における目標に対しての変化を図るアンケートを検討する。 （2）形成推進委員会で共有した中部のプログラムの共通目標の確認 ①地域が近しくなる。 ②子どもが何とかしたい、何とかしなきゃと自分事にできる体験。 ③答えははっきりしなくてもよい。もっと知りたい、もっと学びたいと思える。 ④体を使って地域に働きかけるような体験。
第 2 回会議 日時：9 月 19 日(水) 16:30～18:30 場所：松本市立会田中学校 参加者：12 名 （内メンバー9 名）	進捗状況の共有、授業案の確認、今後のスケジュールの調整をした。検討事項は、①カリキュラム内容の整理、②授業案の作成、③今後の学習に携わる外部講師とカリキュラムのねらいとストーリーを共有し、学習を効果的につなげること、であった。下記が決定事項である。 1.プログラムについて （1）授業内容：学校登山の経験、水の学習、身近な里山の木材を使ってのエネルギー学習、バウムクーヘンづくり、木の体験学習を通して、地域（四賀）の自然、里山への理解を促し、自主的、自発的に関わる思考を育む。

	2.映像教材について 映像①：テーマ「水」-四賀地区の水源、都市部の取水、下水処理のしくみ 映像②：テーマ「木」-森林の機能、木材を活用した事例等地域資源の活用方法を考えるための素材
第３回会議（ふりかえり） 日時：12 月 5 日(金) 15:40～17:20 場所：松本市立会田中学校多目的ホール 参加者：14 名 （内メンバー7 名　欠席１名）	実証授業後の振り返りのための会議を実施した。授業実施者の評価・感想を基に、①授業全体・内容について、②映像教材について、③ESD の視点・方法について、下記のような意見が出された。 **【授業実施者の感想・評価】** ・これまで環境学習は単発でやっていた。今年は学校登山ともつなげていければと思った。一連のプログラムを通して、生徒からは裏山でバーベキューや竹炭などをしたいといった意見も出てきた。今年一年間で実施してきたものが生徒にもつながり、自分達でもできる、その材料がすぐ身近にあると気付くことができた。いろいろな方から教わりながら、実施していくと、水や森、燃料や資源といった単発でなく、地域、自然に関わるプログラムにまとまり、生徒にも伝わったと感じた。最初は大変だと思っていたが、やって良かった。次はこうしていきたいという意欲も出てきた。やり方、手法、考え方はたくさんあるので、これが正解と言うものはない。試しながらやっていきたい。 ・実際にやってみるまで、5 時間目から 6 時間目のつなぎのイメージができていなかった。生徒は予想した以上にいろいろ考えていて、たくさんの意見が出たことに驚くと同時に嬉しかった。ワークショップで生徒は止まってしまうかと心配していたが、やってみるとたくさんの意見がでてきて良かった。森には人の手を入れなければいけない、ほっといてはいけない、考えなきゃいけないと思ってくれていた。自分の考え方をみんなが言えて、他の生徒の付箋を見て考えが深まっていた。 ・振り返りをして、生徒は「水」であまりワークシートに書けなかったが、森、バウムクーヘンのところではスイッチが入ってきたことを肌で感じた。年輪は長い間の自然によってできた、裏山、この学校にしかないといった意見も出ていた。生徒は、当たり前のようにある自然ではあるが、バウムクーヘンづくり等ができる環境であることに気づいた。ワークシートに書かれた文章から生徒の反応が分かった。竹を伐る体験をした生徒はその経験を書いた。自分が自然の中で体験できたからこそ、大事に思う、記憶に残っていることが書けたのだと思う。裏山にある森は生徒にとっては当たり前ではあるが、だからこそできる特別な活動を考えていきたい。山に入って、手を加えないといけないといった意見、今できることについての意見も出てきているので、毎年実施している「森の整備」もその意味を考えながらやっていきたい。 **①全体について** ・環境の授業で、これまで点だった様々な体験活動がまとまった一つの流れになり、生徒の思考も整理された。

	・森、水の授業、森から水の流れと内容が盛りだくさんとの意見もあったが、生徒から森と水は地域の素晴らしい資源だ、つながっているかどうかというのではなくそれが大事だと思うという反応があり、それが学びだと気づかされた。次のステップでは、深みを引き出すことが大切である。 ・四賀の自然環境からの自然の恵み、生き物と遊ぶ経験等、街中では当たり前ではないことがある。このプログラムが地域の豊かさ、大事さに気付くきっかけになると良い。 ・付箋に書かれた生徒の意見は宝物である。一つ一つが生徒からの大切なメッセージ。一つでも今後の授業展開に活かしてほしい。これを使って次の授業をどうやっていくかを考え、授業改善をしていくと、クラス改善、子ども同士の人間関係も変わっていくのではないか。生徒だけで話し合いができる可能性を感じた。生徒は授業への向かい方、取り組み方もそれぞれである。人間社会の縮図のようであった。教員がそういった場づくりをすることが大切であるが、今日の授業を見ていて「できる」と確信できた。こういった手法を取り入れたことで次が見えた。 ・生徒は今回、地域の自然について「気付く」というステージに上がった。もっと先へと見がちであるが、生徒のスペースで実施できると良い。気づいたことを、どのように考えて、こうしたいと思うことを実現していきながら、本当にここに住み続けること、この地域の価値を見つけていくことを考えてほしい。教育の場として、そういった学びに対応できる窓、体制をつくることは大切である。 **②映像教材について** 映像の多くは、生徒が普段見慣れている風景であったが、最終的な生徒の意見では地域の居住、地域に関わることや森の機能について語っていて、映像の内容が伝わっていたことを感じた。 **③ESD の視点・方法について** ・先生方の授業はティーチングではなく、ファシリテーションであった。生徒から考えや可能性を引き出していた。ファシリテーションにゴールはないので、今後も改善し続けてほしい。考えたプロセスが大事である。ワークショップでは考えたことを付箋に書いていく。友達の考えを見て、考えが深まっていくと良い。答えは 1 つではない。 ・生徒に自由にワークショップのテーマを与えたことが、生徒の思考を揺さぶった。次をつくり出すためのワークショップである。でてきたことの中から調べ学習をする等といった展開をすると学びが深まる。 **④本事業全体について** ・SD は説明が難しい、サステナビリティについても歴史や思いがある言葉である。こういった授業の導入部で、「ここ 100 年の環境の変化が著しい、このままいくと・・・」という片鱗を説明する文書を EPO 中部で作成していただきたい。それを活用すると、自然に対する意識もより緊迫感を持ったものになるのではな

	いか。 ・登山入門のガイドから流れを見てきた。中信地区環境教育ネットワークの横の連携を活かし、体系としてつながってできたことが成果である。単体のプログラムを組み合わせた一つのプログラムとしても展開の可能性がある。個々にやってきた環境学習が、まとまる可能性も見えてきた。 ・中信地区環境教育ネットワークでは、依頼を受けて単発で実施することが多い。会田中学校では、ESD のプログラムをきっかけに、年間を通していくつかのプログラムを組み立てる方法を学んだ。先生方の思いやご要望を受けて、それぞれの講師の方と連携して実施した。年間を通して希望されたテーマでできたことが学びであった。 ・環境教育のプログラムをそのまま提供するのではなく、学校に応じたプログラムを提供できた。新しい相互方向のプログラムづくりを中信地区環境教育ネットワークのネットワークを活かして、今後もやっていきたい。 ・地域の方には学校に関わり続けて、サポートしてほしい。

【岐阜県】

日時・場所・参加者	会議内容
第 1 回会議 日時：7 月 22 日(火) 16:00～18:00 場所：羽島市立正木小学校 参加者：14 名 （内メンバー6 名）	本事業や映像教材について説明し、実施校のこれまでの取組、授業案についての紹介、意見交換を行った。テーマ設定や、ESD の手法をいかに組み込むかについて、また今後のスケジュールについて共有した。下記が決定事項である。 1.プログラムについて （1）授業実施者：大野由里子先生 （2）対象：小学 5 年生（5 年 1 組、2 組　計 67 名） （3）授業内容：省エネを軸として、地球温暖化を入口に自分達がこれからも続けられるエコ実践を行う。これからも続けていこうという意欲を育むため、児童の思考に揺さぶりをかける問いかけ、手法を入れる。 2.映像教材について （1）授業の課題を設定し、映像案を検討し、映像案の提案と制作を行う。 （2）映像教材の内容（案） 映像①地元産の食材を使った給食 映像②地域で行われている省エネ
第 2 回会議 日時：10 月 1 日(水) 12:40～14:00 場所：羽島市立正木小学校 参加者：13 名 （内メンバー6 名）	実証授業後、授業実施者の感想や評価を交えながら、①授業全体、②映像、③ESD の視点・手法、④本事業のスキームやコンセプト等、について意見交換をした。 **【授業実施者の感想・評価】** ・児童に強く考えさせ、思考を深める、討論にまで持ってく時間を取りたかった。ゆさぶりをかける問いに時間を取ることができたら、児童の考えをもっと引き出

	すことができたかもしれない。 ・児童が真剣に考える姿が見られて嬉しかった。発表だけではなく、「でもそれって」と突っ込んでいくと、児童が考えられると実感した。出来る教科の中で学んだことを活かしていきたい。 ・普段の取組の延長線で、ESD の授業ができると分かった。授業後の給食の時間には、児童が給食のお茶について興味を持ち、「岐阜産のお茶？」と質問された。授業だけでなく、実生活にも意識がつながっていると嬉しく感じた。 **②授業全体について** ・『ESD とは、将来の自分がより良く生きる、将来の社会がより良くなる。自分だけでなく、他の人にも心を寄せられる温かい心を育むことである。』とある先生が言っていた。その言葉に沿うような授業であった。 ・単に省エネ、節電の通り一遍ではなく、学んだ理論を実生活と併せて示し、投げかけで、児童全員でできることを問いつづけるといった点に先生の工夫があり、先生からの学びも多かった。 ・児童の可能性を感じた。児童から意見や考えを引き出す先生方の力量が素晴らしく、いきいきとゆさぶりをかける姿がとても良かった。 ・自分の取組が『大事だ』と堂々と言える、授業に食い入る姿、自分も考えているからこそ、仲間の発言を受けいれることができる児童が見られた。 **③映像教材について** ・映像が発問、揺さぶり、しかけの上で効果を発揮していくと良い。 ・映像を見ている児童が「えっ？」、「学校の電気、ある」等とつぶやいていた。映像により気づきが促された。 **④ESD の視点・手法について** ・ESD の授業には、しかけと揺さぶりが大切である。揺さぶりをかけた後の児童の発表内容は確実に変わってくる。地産地消の給食を毎日はできない、どうしよう、と気持ちが動揺する、葛藤していく、自分で答えを出していくプロセスが大切である。 **⑤本事業のスキームやコンセプト等** ・ワーキンググループで意見をいただき、勉強になった。 ・新しい手法を学べたことが有難かった。 ・本事業を通して総合的な学習の時間を、一層充実する道筋が出来た。今後に活かせる。若い先生が多い学校で、良い学び合いが教師間でできた。改めて児童の良さを自覚し、さらに伸ばし、正木小らしいもっと良い学びのできる児童を育みたい。そのエネルギーが得られた。

【愛知県】

日時・場所・参加者	会議内容
第 1 回会議 日時：10 月 1(水) 16:00～17:30 場所：名古屋市立八熊小学校 参加者：11 名 （内メンバー6 名）	本事業や映像教材について説明し、実施校教員からこれまでの取組、授業案についての紹介、本事業の実証事業について意見交換を行った。下記が決定事項である。 1.実証授業について （1）授業実施者：大村　邦仁先生 （2）対象：小学 4 年生 2 クラス　43 名 （3）授業実施日 日　時：11 月 5 日(水）9:35～11:25　90 分（45 分×2 コマ） （4）授業内容：学校近くを流れる堀川、藤前干潟についての季節を通した生き物観察、環境の学習を通じて、生きものの生息環境について考える。 前半：映像教材を活用して藤前干潟、堀川の学習の振り返りをし、カニの調査データから、カニの生息環境について児童が予想をたてる。 後半：児童の予想を確かめるために、、白鳥公園のの船着き場もしくは堀川でフィールドワークを行う。観察結果を共有し、生きものの生息環境について考える。 2.映像教材について 映像案①：カニを中心に藤前干潟の生息環境を撮影する。カニ、渡り鳥の食べる・食べられる関係、つながりを見せられる内容にする。 映像案②：カニを中心に堀川の生息環境を撮影する。 3.今後の作業について （1）10 月 7 日までに授業案、映像案を整理して作成、共有する。 （2）10 月 8 日(水)　映像撮影 （3）映像教材の編集制作 （4）10 月下旬　映像教材と授業進行等についての打合せ （5）11 月 5 日(水）公開実証授業実施
第 2 回会議（ふりかえり） 日時：2 月 12 日(木) 16:00～17:00 場所：名古屋市立八熊小学校 参加者：６名 （内メンバー４名）	実証授業を終え、授業実施者の感想、評価を踏まえつつ、①授業全体、②映像教材、③ESD の視点・手法、④本事業のスキームやコンセプト等についての振り返りを実施し、下記のような意見が出された。 **【授業実施補助者の感想・評価】** 学校の財産となる良い物、映像教材をいただいた。AR も良かった。視覚的な教材は今後にも活用でき、役に立つと考える。児童の反応も良かった。映像を活用したことで、堀川と藤前干潟とを結びつけられ、良かった。来年度はどこまで、藤前干潟と堀川のカリキュラムができるかは分からないが、ゼロにはならない。フィールドワークに行く前や後の学習に役立てられると考える。また、これまで環

	境をエネルギーに絞ってユネスコスクールの活動を展開してきたが、人間環境づくりや文化など幅広く、浅く続けていきたい。 **①授業全体について** ・ワーキンググループに堀川で活動している地域の方に入ってもらっていれば、関心を持って学校を支えてもらえる関係づくりができた可能性があると考え、反省点である。 ・より広い視野でカリキュラムの展開を考えるならば、ワーキンググループに堀川と文化的に関わっている方、堀川沿いの人との関わりがあるとなお良い。近辺では、木材の関係の人や、この地域の在り方にも目を向けられると堀川について、より様々な学習ができる。ESD 活動の視点も広がり、良いと考える。 ・文化的観点を入れるならば、この辺りは古くから住む方が多い地域であるため、地域の方に昔話を聞くなど、地域との関わりがあるとさらに良い。 **②映像教材について** ・AR については保護者の反応も良いとは思うが、全ての家庭において視聴できる環境があるかが懸念される。 ・藤前干潟、堀川についての学習は、児童が実際に体験できると良い。児童が入れない水中の映像、藤前干潟の泥の中の映像など、児童が体験できない、見えない部分の映像化ができれば面白い。 ・映像に文化の観点が織り込まれるとより、カリキュラムの幅が広がり、効果的である。 ・映像の素材は今回、藤前干潟と堀川の四季の変化と生き物が中心であったが、例えば堀川について今昔、昔の堀川についての内容が入っていると、広がりを見せられたのではないか。 ・AR の映像は藤前干潟の内容だけであったため、堀川とのつながりが見え難かった。 ・藤前干潟や名古屋市のゴミの歴史についても知らない人が増えてきている。映像で藤前干潟がゴミの埋め立て地になっていたらといったシミュレーションが出来ると面白い。 ・映像では自然のきれいな部分だけではなく、生々しいところがでてくると良い。 ・藤前干潟近くの空見スラッジリサイクルセンターの渡り鳥の餌場づくりの計画や、藤前干潟の堤防にカニ穴をあけるなど工夫をして人間と一緒に暮らそうとしている、開発と自然、共生についても映像内容に含めると良かった。 ・AR には冊子や視聴する端末なども必要になるため、普及啓発の教材としては弱いのではないか。 ・AR は導入としては使える。事前に視聴し、興味を持って、現場に行きたいという気持ちにさせることができる。 **③ESD の視点・手法** ・環境教育を学校教育に入れていきたいと考える。そのためには、積極的なアプ

	ローチが必要である。 ・ESD や環境学習を展開する上で、課題となるのは、維持できる教員がいれば続くことである。 ・藤前干潟にもコーディネーターの機能があると良い。 **④本事業のスキームやコンセプト等** ・発表会の場があり、報告できたことがよかった。 ・教員は会議時間の確保が難しいため、事業を進める上では大事ではあるが、時間を短くするなど会議を最小限にしていくと良い。 ・地域の人と議論しながらの授業づくりを学校がしたいと思っていても、地域の人を探してきて一からすることは難しい。本事業で、こういった場があり、コーディネートしてもらえたことはありがたい。 ・本事業で得た気づきを活かし、学校やワーキンググループメンバーの次なる取組に展開できると良い。

【三重県】

実施日・場所	会議内容
第 1 回会議 日時：10 月 6 日(月) 17:30～19:30 場　所：津田学園小学校 参加者：12 名 （内メンバー8 名）	本事業について説明し、実施校のこれまでの取組、授業案についての紹介、意見交換を行った。下記が決定事項である。 1.実証授業について （1）授業実施者：窪田　裕志先生 （2）対象：小学 4 年生 2 クラス（53 名） 2.事業について （1）授業前後の児童の変容を把握するためのアンケートを作成する。 ①授業前のアンケートは環境調査活動の前に実施する。アンケートたたき台は事務局で作成し、学校と相談して作成する。 （2）第 2 回ワーキンググループ会議 日時：10 月 22 日(水）18:00～19:30 3.今後の作業について （1）授業のポイントを整理し、授業案を作成する。 （2）授業案作成後、授業の課題設定、ESD 手法や概念をどう取り入れるかを検討する。 （3）授業案の中でどの部分に映像を入れるかを検討し、映像教材の制作に入る。 （4）実証授業、報告会等、今後のスケジュールを調整する。
第 2 回会議 日時：10 月 22 日(水) 18:00～20:00 場　所：津田学園小学校	進捗状況、授業及び映像内容についての確認・検討、今後のスケジュール及び課題の共有をした。決定事項は下記である。 1.実証授業について （1）授業実施者：窪田裕志先生

参加者：13 名 （内メンバー 8 名、ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ 2 名）	（2）対象：小学 4 年生（4 年 2 組 26 名） （3）公開授業日時：11 月中旬以降　80 分（40 分×2 時限）1 コマ （4）授業内容：単元名「川との関係を考えよう」 現地調査、学校の近くを流れる嘉例川で、「5 つのものさし」で計測した調査結果を踏まえ、生き物の生息環境について考える。そして、発表会に向けてのまとめ作業につなげる。 2.事業について （1）実証授業にメディア取材を依頼する。 3.今後の作業について （1）授業のポイントを整理し、授業案を作成いただく。 （2）授業案を提示いただいた後、授業の課題設定、ESD 手法や概念をどの時間にどう取り入れるかを検討する。 （3）授業案の中でどの部分に映像を入れるかを検討し、映像教材の制作に入る。 （4）実証授業、報告会等、今後のスケジュールを調整する。
第 3 回会議（ふりかえり） 日時：12 月 8 日(月) 11:00～11:50 場所：津田学園小学校 参加者：14 名 （内メンバー8 名、ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ 2 名）	実証授業後、授業実施者の感想や評価を交えながら、①授業全体、②映像、③ESD の視点・手法、④本事業のスキームやコンセプト等、について意見交換をした。 **【授業実施者の感想・評価】** ・児童から予想と反した発言が出たため、授業の持って行き方が経験不足でぎこちなくなってしまった場面もあった。映像をもう少しうまく使えたら発問に活かせていなかったかもしれない。また、生き物のマップづくりで想定していたよりも時間を使ってしまったことが後半に響いてしまった。省略した部分は今後、児童たちに伝えていきたい。 ・本事業はとにかくやってみようと、前に進んでいこうという気持ちを児童に育みたいと日頃から思っており、取り組むことに決めた。学校、先生、児童にとって、ワーキンググループで協議したことが活かされ、よい機会になった。ESD の取組はこれからもずっと回転してやり続けるべきである。これで終わりではなく、これからも取り組んでいきたい。貴重な学びになった。 **①授業全体について** ・授業を通して、児童は生き物が身近に生きていることを感じられたと思った。 ・児童から、「意見を聞いてほしい」という意欲が現れていた。児童の意見を聞く時間、考えを深める時間をもっと持つと良い。 ・生き物マップづくりで生き物だけに限定したところが、より生き物に親しみを持って考えられ、印象づけられ、効果的だった。水槽の生き物たちは残念であったが、子ども達に環境を守っていかないと水槽と同じ状況になってしまう、大事にしようというメッセージとして伝えられた。 ・嘉例川の生き物マップに貼ってあった生き物の名前と絵が描かれた付箋を、嘉

	例川を守らないと付箋を外していく授業展開が強く印象づけられ、良かった。 ・児童の気持ちにも訴えるような授業展開であった。水槽の生き物の様子や、嘉例川の生き物マップの生き物の名前と絵を描いた付箋を外す場面もショックを与えたのではないかと思う。生き物マップを、これから生き物を増やしていくには等今後の展開にも活かしてほしい。 ・「生き物がいなくなったら」というところでは大体の反応は予想できた。コンクリートの質問では、人間を中心に考えてきた一面、伊藤さんの活動では生き物の生きる場所を守っているといった面、この二つのジレンマがある。4 年生では難しいかもしれないが、児童の中でも意見が違ってくると思うので、これから考えていけると良い。 ・教室で水槽に生き物を飼うと、小さな世界を考えることができる。検討されると良い。知識として食物連鎖を理解している。自分のものとして取り込んでまとめ、生き物が生きていける環境にするために、自分に何ができるのかといった自分の行動につなげて考える時間もてると良い。 **②映像教材について** ・ホトケドジョウなど、観察では見られなかった生き物も映像で見られ、嘉例川の環境がよく分かる映像教材だった。 ・映像は家庭でも見られる。宿題でも出ているが、今日の映像を家族で見て、どんなことを話合って、考えたのかを共有できると良い。 ・映像を止めて、活用するなどアレンジされていて、良かった。先生のアレンジで活用できると良い。 ・2 時間の授業で映像 3 本を入れるのは、時間配分にも苦労されたのではないかと感じた。内容をもう少し絞ると良い。 **③ESD の視点・方法について** ・ESD の視点では、川に対する責任性、他者の意見を聞く、批判的に思考を揺さぶる場面があった。 ・「なぜ川をコンクリートで固めているのか？」といった質問は素晴らしかった。児童はそれに答える正解、きれいな答えを持っていない。児童が「なんでだろう？」と考えられる質問であった。もっと掘り下げられると良い。 ・児童と対話しながらスキルをどんどん磨いてほしい。教員は児童が何を伝えたいかを察知して、学び合う場づくりをしていく、素晴らしい。 ・最後の「自然やいきものの命の大切さや環境が考えられなくなる」という発言には感動した。4 年生でここまでのことを考えられるのはすばらしい。 **④本事業のスキームやコンセプト等全体について** ・違う視点で見ている人が参加して意見を言ってもらえる場が良い。 ・津田学園小学校は毎年、水質調査をしていただき有難い。団地ができたことにより、保存活動をしている水系も変わってきている。子ども達と頑張りながら守っていきたい。津田学園の水質調査も今後も応援していきたい。

ウ 各県実証モデルプログラム

	地 域	番号	モデルプログラム名と応募校（団体）	**授業単元名・実施する学校と対象学年**
1	富山県	10	公園、探検・発見・ほっとけん！・・・誰が？ ：幕張ベイタウンにエコパークをつくる会	**市電通りのたからを見つけよう ：富山市立堀川小学校 2 年生 生活科**
2	石川県	1	ふるさとのきれいな海を守ろう！ ：環境ボランティアサークル亀の子隊	**つながりに気付く、つながりを築く～ふるさと伏見川を守り続けるためには～ ：金沢市立三馬小学校 5 年生 総合的な学習**
3	福井県	12	川は自然の宝箱 ：多摩市立連光寺小学校	**ふるさと敦賀塾「100 年後の敦賀で世界遺産候補は何か」 ：敦賀気比高等学校付属中学校 1～3 年生 総合的な学習**
4	長野県	17 24 26	環境ウォッチングで提案づくり ：公益財団法人公害地域再生センター 里山たんけん隊 ： 特定非営利活動法人きんたろう倶楽部 さまざまな視点から水について考えよう ： 教育開発研究会	**地域の自然を見つめよう ：松本市立会田中学校 2 年生 総合的な学習**
5	岐阜県	34	くらしマイレージ講座 ：NPO 法人環境ネットワークくまもと	**人にやさしく 自然にやさしく～環境といのち～ ：羽島市立正木小学校 5 年生 総合的な学習**
6	愛知県	1 6	ふるさとのきれいな海を守ろう！ :環境ボランティアサークル亀の子隊 生き物たちとの持続可能な社会を考えよう （自然調和型社会学習プログラム）	**季節と堀川の生物 ：名古屋市立八熊小学校 4 年生 総合的な学習**
7	三重県	22	「5 つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！」 ：一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会	**水辺の環境調査 ：津田学園小学校 4 年生 総合的な学習**

コーディネート	富山県	石川県	福井県	長野県	岐阜県	愛知県	三重県
形成推進委員	松本謙一氏	池端弘久氏	前園泰徳氏	中澤朋代氏	巽徹氏	千頭聡氏	松岡守氏
コーディネーター	鈴木克徳氏（中部ESD環境教育プログラム形成推進委員／金沢大学教授）			新海洋子(EPO中部)			
実施校	富山市立堀川小学校	金沢市立三馬小学校	学校法人嶺南学園敦賀気比高等学校付属中学校	松本市立会田中学校	羽島市立正木小学校	名古屋市立八熊小学校	学校法人津田学園津田学園小学校
事務局	高橋美穂(VNS)	高橋美穂(VNS)	高橋美穂(VNS)	高橋美穂(VNS)	高橋美穂(VNS)	高橋美穂(VNS)	高橋美穂(VNS)
	㈱TREE	㈱TREE	㈱TREE	㈱TREE	㈱TREE	㈱TREE	㈱TREE
初回打合せ	8月29日(金)	8月25日(月)	9月29日(月)	7月9日(水)	6/17(火)	9月1日(月)	8月29日(金)
ワーキンググループメンバー(敬称略)	松本謙一(富山大学人間発達科学部教授) 高木要志男(堀川小学校校長) 山口浩二(堀川小学校教務主任) 高多利明(堀川小学校教諭) 福田有児(神通碧小学校教頭) 本田恭子(環境教育ネットワークとやまエコひろば) 山崎昌昭(富山市生活環境文化部環境政策課) 鈴木克徳(中部ESD環境教育プログラム形成推進委員) 新海洋子(EPO中部)	鈴木克徳(中部ESD環境教育プログラム形成推進委員/金沢大学教授) 池端弘久(金沢市教育委員会生涯学習部キゴ山少年自然の家館長) 橋本有可(三馬小学校校長) 田中哲也(三馬小学校教諭) 松本亮(十一屋小学校校長) 新広昭(石川県環境部) 青海万里子(金沢エコライフくらぶ) 新海洋子(EPO中部)	前園泰徳(福井大学教育地域科学部特命准教授) 今井尚子(敦賀気比高校付属中学校中学部主任) 土橋佳久(福井県安全環境部環境政策課環境政策課) 吉川守秋(NPO法人エコプランふくい) 小竹三恵子(ふくいユネスコ協会) 鈴木克徳(中部ESD環境教育プログラム形成推進委員) 新海洋子(EPO中部)	中澤朋代(松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科准教授) 丸山勝久(会田中学校校長) 吉田正人(会田中学校2学年主任) 渡辺隆一(信州大学特任教授) 中林直子(中信地区環境教育ネットワーク) 丸山一博(長野県環境部環境政策課) 宮島和雄((一社)長野県環境保全協会) 石塚聡実(NPO法人やまたみ) 東山睦子(松本市市民環境部環境政策課) 新海洋子(EPO中部)	巽徹(岐阜大学教育学部教授) 鈴木清人(正木小学校校長) 大野由里子(正木小学校5学年主任) 小林由紀子(NPO法人e-plus生涯学習研究所) 小川美鈴(岐阜県環境生活部環境生活政策課) 小島京子(羽島市教育委員会) 新海洋子(EPO中部)	千頭聡(日本福祉大学国際福祉開発学部教授) 太田敬一郎(八熊小学校校長) 服部易弘(八熊小学校教務主任) 大村邦仁(八熊小学校努力点推進委員長) 戸苅辰弥(NPO法人藤前干潟を守る会) 川原田真弓(名古屋市環境局環境企画部) 寺西慶徳(名古屋市環境局環境企画部施策推進課) 新海洋子(EPO中部)	松岡守(三重大学教育学部教授) 寺本豊(津田学園小学校校長) 窪田裕志(津田学園小学校教諭) 矢口芳枝(四日市大学エネルギー環境教育研究会) 寺田卓二(環境教育ネクスト・ステップ研究会) 内田郁夫(三重県環境生活部地球温暖化対策課) 水谷芳春(桑名市教育委員会文化課) 新海洋子(EPO中部)
第1回形成推進委員会	2014年7月4日　15:00～17:30　EPO中部						
39のプログラム	10:公園、探検・発見・ほっとけん！・・・誰が？	1:ふるさとのきれいな海を守ろう！	12:川は自然の宝箱	17:環境ウォッチングで提案づくり 24:里山たんけん隊 26:さまざまな視点から水について考えよう	9:地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト	12:川は自然の宝箱	22:「5つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！
第1回WG	8月29日(金)13:00～15:00	8月25日(月)16:00～18:00	9月29日(月)16:30～18:30	7月9日(水)9:50～12:00	7月22日(火)16:00～17:30	10月1日(水)16:00～17:30	10月6日(月)17:30～19:30
公開実証事業　時期	45分:10月22日(水) 9:45～10:30 45分:11月27日(木) 13:35～14:20	90分:1月23日(金) 13:30～15:10	100分:1月22日(木) 13:20～15:10	100分:12月5日(金) 13:40～15:30	90分:10月1日(水) 10:50～12:25	90分:11月5日(水) 9:35～11:25	80分:12月8日(月) 9:30～11:00
内容	小学2年2組(29名) 校区の「市電どおり」を探検し、「たから」を見つける。気になるたからを追究することにより、地域の良さを考え、伝える。	小学5年生1組(30名) 学校周辺を流れる伏見川の上・中・下流での体験や学習、地域の方からの話を通して地域の自然を考える。	1年生～3年生(80名) 「100年後の敦賀で世界遺産候補は何か」を敦賀にある自然、歴史、工業、文化遺産についての学習を通して考える。	中学2年生2クラス(48名) 登山体験、水、木の学習を通して、地域の自然を理解し、地域未来を考える。	小学5年生2クラス(70名) 地球温暖化、省エネ活動を通して、「できることを考え、実践しよう」	小学4年生2クラス(43名) 堀川・藤前干潟を季節を通した生き物や環境を学習し、生き物の棲息環境について考える。	小学4年2組(26名) 学校周辺を流れる嘉例川を「5つのものさし」を用いて調査し、生き物の生息環境から地域の環境を考える。
周知啓発事業　時期	1月24日(土)13:00～16:30	2月10日(火)13:30～14:15	2月22日(日)13:00～17:00	2月16日(月)13:40～14:30	2月6日(金)14:00～15:15	1月29日(木)15:30～18:00	2月21日(土)13:00～14:15
内容	富山から発信するESD	金沢市立三馬小学校ESD発表会	福井県合同課題研究発表会	学習発表会	学習発表会	MSHダイアログ	平成26年度学習発表会[第4学年]
第2回WG	11月27日(木)17:00～17:30	1月23日(金)15:25～16:30	1月22日(木)15:20～16:30	9月19日(金)16:30～18:30	10月1日(水)13:10～13:50	2月12日(木)16:00～17:00	10月22日(水)18:00～19:30
第2回形成推進委員会	2014年12月17日(水)16:00～18:30						
メディア掲載	北日本新聞 11月28日(金)	北國新聞・北陸中日新聞 1月24日(土)	福井新聞 1月23日(金)	信濃毎日新聞 12月10日(水)	岐阜新聞 10月7日(火)	中日新聞 11月7日(金)	中日新聞北勢版 12月10日(水)

２．地域性を踏まえた ESD プログラムの実証

地域化した ESD プログラムを「実証授業」として実施していただくとともに２単位（45 分２コマ又は 90 分１コマ）程度の時間を「公開実証授業」として実施し、ワーキンググループメンバーなどにも見学していただいた。実施する授業においては、各県ごとに 1～3 分程度の映像教材を複数本導入した。また、実証授業を受講した小中学生を対象にアンケートをとり、授業実施前後の変容について把握した。

（1）実証授業プログラム

①富山県

１．実証授業校：富山県富山市立堀川小学校　小学２年生

２．プログラム名：生活科　市電通りのたからを見つけよう　　※市電（富山市内を走る路面電車）

３．概　要：小学校の近くにある市電通りは、児童にとても馴染みのある場所である。市電通りの「たから」を見つけ、たからを大切にしている人に出会い、インタビューをし、「市電通りのたから」についてだれかに伝えたくなる気持ちを育む。その過程で、「たから」について深く探究する時間を設ける。

　本単元では映像教材を使用し、地域について調べている他の小学校の児童の活動を紹介する。映像では、町のたからをたくさん探す授業から、児童が気になるたからを「ひとつ」決めて、そのたからについて、深く調べ、たからを大切にしている人に出会うことで、児童が喜びを得ていく姿を捉えている。他の映像では「ひとつ」のたからに対する思いや見え方が変わってきたことを児童が実感し、そのことを誰かに伝えたい、伝えようとしている児童の姿を捉えている。これらの映像を見ることで、児童は、映像に映る児童の行動や様子を自分に重ね、自分たちにできること、したいことを見つけだし、地域や地域の人たちへの愛着が深まる授業を実施する。

４．対　象：Ⅳ．小学校低学年

５．目　標：

①市電通りのさまざまな場所や人々に関心をもち、ルールやマナーを守り、安全に気を付けて、見たり、調べたりしようとしている。

②行きたい場所や会ってみたい人を決め、挨拶やインタビューの仕方を考えるとともに、地域で生活したり、働いたりしている人々と自分との関わりについて考え、多くの人に伝えることができる。

③自分たちが生活している地域のよさや、地域の人々が抱いている思いに気付くことができる。

６．主な ESD の視点　（主として関連するものに○を記入）

持続可能な社会づくりの構成概念		ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
相互性	○	批判的に考える力（批判）	
多様性		未来像を予測して計画を立てる力（未来）	
有限性		多面的、総合的に考える力（多面）	
公平性		コミュニケーションを行う力（伝達）	○
責任性		他者と協力する態度（協力）	
連携性	○	つながりを尊重する態度（関連）	○

その他（　　）		進んで参加する態度（参加）	○
		その他（　　）	

7．持続可能な社会づくりの構成概念について、○がつく理由を記入

構成概念	○がつく理由
相互性	町を探検する中で、インタビューや体験活動によって社会の相互性を学び、地域の人々が抱いている思いに気付くことができる。
連携性	挨拶やインタビューの仕方を考えることで、地域で生活したり、働いたりしている人々と自分との関わりについて考えることができる。

8．学習指導要領との関連　（関連させられる可能性のあるものを記入）

学年	教科/領域	学習内容
小学校 第２学年	生活科	（３）（８） 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所と関わっていることが分かり、それらに親しみ愛着をもち、進んで交流することができる。

9．プログラム（単元･題材）の展開の流れ（総時 12 時間扱い）※濃い黒字網かけが公開実証授業

時	学習課題	活動･学習内容	指導･支援の方法、ポイント等 〔教材･必要物〕 【育まれる「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力･態度」】
1 時 間	自分のたからについて考えよう	自分の「たから」は何かについて考え、「たから」だと思うものについて話し合いをする。	･自分たちが探検をする場所について、地図を見せながら説明する。 ･児童の「たから」の見方について、それぞれの考え方が分かるように板書に位置づけていく。 〔町の地図〕【参加】
2 ･ 3 時 間	市電通りのたからをたくさん見つけよう	市電通りに行き、自分が宝だと思うものをたくさん見つけてくる。	･事故を起こさないように、安全指導をする。 ･「たから」だと思うものを写真で撮れるようにデジタルカメラを用意しておく。 〔デジタルカメラ、町の地図〕【参加】
4 時 間	映像を見て、これからの自分の探検について考えよう。	【映像①】【映像②】【映像③】を見て、これからの自分の探検を考える。	･【映像①】【映像②】【映像③】に出てくる児童の体験活動や思いが理解できるように、キーワードが書かれたカードや図を使って説明する。 ･すべての児童に、新たな課題が明確になるように、個に返すときに具体的に話すようにする。 〔映像教材〕【関連】

5～8時間	１つのたからについて調べていこう。	自分が１番気になっている「たから」について、インタビューや体験活動をする。	・事故を起こさないように、安全指導をする。 ・探検に行ってきて、分かったことを学級のみんなが共有できる掲示物を作る。 ・探検に行くだけでなく、ノートをまとめる。時間を大切にし、自分の考えを整理させるようにする。　〔デジタルカメラ、ノート〕【関連】【参加】
9時間	映像を見て、これまでの自分の探検について考えよう。	【映像⑤】【映像⑥】を見て、これからの探検について考えよう。	・【映像⑤】【映像⑥】に出てくる児童の思いが理解できるように、キーワードが書かれたカードを使う。 ・映像に出てくる児童と重ねながら、自分の探検を振り返り、新しい課題がもてるようにする。 〔映像教材〕【関連】
10～12時間	探検で分かったことや感謝の気持ちを伝えよう。	探検を行い、分かったことを多くの人に伝えたり、お世話になった人に感謝の気持ちを伝えたりする。	・児童の願いが実現できるように、教材の準備をする。 ・お礼の気持ちを伝える際に、手紙を出す時は、手紙の書き方や出し方の手本を示すようにする。　【伝達】

10.「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」について、その理由を記入（各 50 字程度）

※プログラム全体として、どのように能力・態度が育まれるのか理由を記載し下さい。

能力・態度	理　由
伝　達	探検をする中で、地域の人にインタビューをすることで、コミュニケーション力が育まれる。
関　連	地域の人々と交流することで、自分たちが生活をしている地域に愛着をもつようになる。
参　加	自分の宝を調べることで、進んで地域の人々に関わっていこうとする態度が育まれる。

11. 該当する４つの環境分野とサブテーマ（主として関連するものに○を記入。複数可）

４つの分野	ともに生きる	社会参画	○
		国際理解（異文化理解）	○
		健康	
	自然・生命	生命	
		自然への愛着	
		生態系・生物多様性	
		水	
		大気	
		土	
	ごみ・資源	3R	
		公害	

	エネルギー・地球温暖化	地球温暖化の起こる仕組みと影響	
		資源・エネルギー	
		産業	○
		消費生活・衣食住	

12. 基となったモデルプログラム名

10：公園、探検・発見・ほっとけん！・・・誰が？（幕張ベイタウンにエコパークをつくる会）

13. 地域化するにあたって配慮したこと、モデルプログラムから変更、追記したポイント、地域の協力者・場所・資源など

映像を作る際に、校区の場所にこだわったのではなく、学習をしている児童に焦点を合わせた映像を作ったことで、その映像に出てくる児童の姿から学べるようにした。

14. プログラムの実証の概要

日　時：【第 1 回】平成 26 年 10 月 22 日(水）9:45～10:30
　　【第 2 回】平成 26 年 11 月 27 日(木）13:35～14:20
場　所：富山市立堀川小学校　小学 2 年生
参加者：児童　29 名
概　要：これまで行ってきた町探検を振り返る中で映像教材を活用し、本学級の児童は映像教材に登場する同学年の協力校の児童の町探検の姿を理解していくことで、自分の町探検を重ね合わせていく。児童は、映像に出てくる児童のように、「自分たちの探検も充実させたい」と願い、新しい課題を児童自ら設定していく。

【第 1 回】

分	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕
30	これまでの町探検振り返り 【映像①】(他校児童の町探検の歩み、たくさんのたからから一つに絞る)を視聴 【映像②】(他校の児童が実際に現地に行って体験、地域の人に話を聞く) 【映像③】(他校児童の「たから」についての思いを聞く)	自分の町探検を振り返り、これまで「町のたから」をたくさん見つけてきたことを意識づける 映像視聴後に、他校児童の歩みを板書に位置づけるなどしながら、追い、児童が理解しやすいように整理し、自分と重ねあわせて見られる効果的をねらい映像を活用する 映像を視聴し、児童が感じ取った思いの背景が明確になるように問いかけるなど、個に返していく 「たくさん見つける」ことから「一つに絞る」という次の展開に入る課題を明確に示していく　〔映像教材〕
15	〈学習課題〉どれが自分のたからのタネ（一番気になり、追究していきたいたから）かについて考える ・どれが自分のタネだと思いますか。 ・自分のタネを考え、ノートに書く	これまでの町探検で見つけたたからを振り返るため、たからを書いた掲示物などを示しながらふりかえる 数人に発表してもらい、映像や仲間の話を聞いて、自分が何を対象に追究していきたいかを考えさせる　〔掲示物、ノート〕

【第２回】

分	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕
5	【映像⑤】(他校児童の追究後のタネの変化)	他校児童が、一つのたからを追究することにより、タネがどう変わっていったのか、その歩みを追っていく 板書に他校児童の追究の歩みや児童の考えを位置づけ、児童が分かりやすいように整理する
25	【映像⑥】(他校児童の追究が深まり、自分の追究を伝える、発表する様子)を視聴 〈学習課題〉これからの探検について考える	映像視聴後に、他校児童の歩みや視聴した児童の思いや考えを板書に位置づけるなどしながら、追い、児童が理解しやすいように整理する 映像で他校児童と自分の追究を重ねあわせ、自分の歩みを振り返りながら、追究が深まったことを感じさせ、自分も伝えたい、発表したいという意欲を育む たからにかける思いや追究を通して、自分のたからがどう変わっていったのかを発表させる　〔映像教材〕
8	学習課題に対する、自分の考えを書く	映像や仲間の話を聞いて、これからの探検を自分がどうしていきたいのかノートに書く時間を十分に設け個に返って考えさせる
7	思ったことや考えたことを発表	自分の考えを発表することで、主体的に取り組む意欲を持たせる。多様な考えがあることを知り、その方法なども考えさせる

15．当日の様子

②石川県

1．実証授業校：石川県金沢市立三馬小学校　小学５年生

2．プログラム名：つながりに気付く、つながりを築く～ふるさと伏見川を守り続けるためには～

3．概　要：三馬小学校の周りには伏見川が流れている。毎年秋には、この川でサケの遡上も数匹みることができる。しかし、市街地に位置しており、児童が自然に触れる機会は多くない。私達の生活は自然に支えられている。また、様々な関わりによって生活が成り立っている。身近にある伏見川での取組を通して、自分自身が自然に支えられていることについて考える機会にしたい。ふるさとの伏見川を守り続ける思いを持ち、伏見川を守り続けるためにはどうしたらよいのか問題意識を持ち、実際に自然を調べたり、専門家に聞いたり、したことを友達と交流しながら、私たちにできることを考え、身近な人や地域の人に働きかけることができる。

4．対　象：Ⅱ.小学校高学年

5．目　標：

①伏見川を守り続けるために、森林、水生生物、防災などとのつながりについて自分なりの問題意識を持っている。

②自然の様子を調べたり、自然を守り続ける人の話を聞いたりしながら、友達と協力し収集した情報を分析、活用している。

6．主な ESD の視点　（特に関連するものに○を記入。それぞれ３つ以下とする）

持続可能な社会づくりの構成概念		ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
相互性	○	批判的に考える力（批判）	
多様性		未来像を予測して計画を立てる力（未来）	○
有限性		多面的、総合的に考える力（多面）	○
公平性		コミュニケーションを行う力（伝達）	○
責任性	○	他者と協力する態度（協力）	
連携性	○	つながりを尊重する態度（関連）	
その他（　　）		進んで参加する態度（参加）	○
		その他（　　）	

7．持続可能な社会づくりの構成概念について、○がつく理由を記入

構成概念	○がつく理由
相互性	自分達が住む中流、上流の森林、下流の海とはつながっており、また人の暮らしが自然に支えられて成り立っていることに気づき、自然を大切にする態度を培う。
責任性	地域の環境について学び、自分にできることを考え、より良い環境を生み出すための行動意欲、態度を育む。
連携性	伏見川での学習を通して、地域の環境団体で活動する人や行政職員等多くの主体に伏見川についての考えや思いを聞き、また体験を通して、地域とともに伏見川を守り続けるための行動を見いだす。

８．学習指導要領との関連　（関連させられる可能性のあるものを記入）

学　年	教科/領域	学習内容
小学校５年	社会	内容（１）我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。 エ　国土の保全などのために森林資源の働き及び自然災害防止
小学校５年	理科	Ｂ（３）流水の働き 　地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係について考えをもつことができるようにする。 ウ　雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。

９．プログラム（単元・題材）の展開の流れ（総時数 12 間扱い）　※濃い黒字網かけが公開実証授業

時	学習課題	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕 【育まれる「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」】
３時間	伏見川は「サケの放流」ができるくらいきれいな川なのか	「サケの放流」について知る。 「伏見川はサケが住めるくらいきれいな川なのか」考える。 伏見川の観察	三馬小５年生が長年取り組む「サケの放流」に、興味を持たせる。 伏見川がきれいかどうかをこれまでの経験・体験を基に考える。 自分の立場をはっきりさせ、クラスで意見を共有する。 川がきれいなのか疑問を持ち、行って、調べる意欲を育む。 水質を調べる方法を考えさせる。 〔付箋・模造紙〕【参加】【批判】
	川の水質調査・川の上流・下流のつながりを知る	川の水質を調べるため、水生生物調査、パックテストを行う。 ・川の上流・下流のつながりを知る。 調査結果から、「本当にサケを放流しても良いか」話合う	川にいる水生生物は上流・下流へとつながりながら生きていることに気づかせる。川周辺の環境にも着目させ、ゴミがたくさん落ちていることに気づかせ、川と人との関わりについても考えさせる。 ゴミが川に与える影響を調べるため、お菓子を水に入れ、パックテストで数値を調べ、把握し時間させる。 調査結果を友達と協力しながら整理し、水質を分析する。課題に対して自分の考えを持ち、クラスで共有する。 「本当にサケを放流しても良いか」疑問を持たせる。 〔パックテスト、水生生物指標〕【多面】【協力】【参加】
	「サケを放流しても良いか」を明らかにする。	・市役所の方に、質問する ・伏見川の昔の様子や地域の人が川を守り続けてきたことについ	●ゲストティーチャー：金沢市役所職員、校長先生 疑問を明らかにするために、サケ放流事業を行う金沢市役所の方に質問する。 市役所の方に何を質問したら良いかを考えさせる。 水質だけではなく、サケについて、サケ放流事業を通じて児童に

		て知る。	伝えたい思いを話してもらう。 人と川のつながり、地域の人が川を守り続けてきたことを話し、「ふるさとの伏見川を守ろう」という思いを持つ。 〔ワークシート〕【参加】【伝達】【関連】
6時間	ふりかえり 「ふるさと伏見川を守り続けるために何ができるか」考える	伏見川をどのような川にしていきいか、守り続けるためにできることを話し合う。	学習をふりかえることにより、上流・下流とのつながりに気づかせ、伏見川がどんな川であってほしいかイメージを持つ。 地域の人がどのように伏見川を守ってきたのか、知りたいという意欲を持つ。 伏見川を守り続けるために、何をしたら良いかを考え、調べたい課題を設定する。〔ワークシート〕【関連】【未来】
	森林見学 上流、森林と伏見川のつながりを調べる	森林の状況調査。 森と川のつながりを考える。	●ゲストティーチャー：森林組合 観察する観点を明確にするために、事前に調べること、知りたいことをワークシートに記入する。 森には川をきれいにする働きがあるなど、森の機能について教えてもらう。 身の回りの紙などの製品が木でつくられていることに気づかせ、森林と生活のつながりを身近に引き寄せて考えられるようにする。森と川のつながりについて、自分の考えを持たせる。 〔ワークシート〕【参加】【伝達】【関連】
	伏見川と地域の人のつながりを調べる	地域の人がこれまで、伏見川をどのように守ってきたのかを調べる。 三馬公民館の人に聞く。	●ゲストティーチャー：三馬公民館職員 昔の伏見川の水質や見られた生き物、様子について聞く。 また、洪水などの災害や、人々を守るための護岸工事が行われたことについてもお話いただき、自然の変化について気づかせる。 地域の人の思いを聞き、自分達は伏見川がどんな川であってほしいのかを考える。〔ワークシート〕【参加】【伝達】【未来】
	「伏見川を守り続けるために何ができるのか」を考える	伏見川を守り続けるために何ができるのかを考える。 「伏見川宣言」をつくる	これまでの学習をふりかえり、伏見川を大切にしたいという思いを高め、守り続けるために自分達ができることを考えることで、行動につなげる。 「伏見川宣言」を作り、地域の人に伝えたいという思いを育む。 〔ワークシート、模造紙〕【参加】【協力】【未来】
	地域の人の伏見川に対する思いを知る	「伏見川宣言」を発表する 地域の人の思いを知る。	児童が考え、作成した「伏見川宣言」を読み、意識させる 地域の人に宣言が受け止めてもらえるかを、上流・中流・下流で活動に取り組む人の映像で思いを聞き、上・中・下流がどんな場所であったかをふりかえりつつ、考える。 〔伏見川宣言、映像〕【多面】【関連】

	話合い「伏見川を石川 No.1 の川にするには」	「伏見川を石川 No.1 の川にするには、『自然を守る』、『防災を進める』のどちらが大切か」について話合う	前時を踏まえ、自分の考えを持ち、発表する。 他の児童の考えを聞き、様々な意見があることに気づき、いろいろな視点で再考する。 視野を広げるため、校区の洪水マップを提示する。 「伏見川宣言」をふりかえる場面をつくる 〔洪水マップ〕【多面】【未来】
2時間	発表会準備	学習をふりかえり、まとめる。 発表方法を考える	どのように地域の人に伝えるのか、考える 伝え方を工夫する。　〔模造紙〕【参加】【協力】【伝達】
1時間	学習発表会	学習の成果を、保護者、地域の方に伝える。	学んだことを発表する。地域の人と一緒に伏見川宣言について意見交換をする。 一緒に取り組んでいきたい思いを伝える。 〔模造紙〕【参加】【協力】【伝達】

10.「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」について、その理由を記入

※プログラム全体として、どのように能力・態度が育まれるのか理由を記載し下さい。

能力・態度	理由
関連	伏見川を守り続けるために、森林、水生生物、防災などのつながりについて自分なりの問題意識を持っている。
多面	自然の様子を調べたり、自然を守り続ける人の話を来たりしながら、友達と協力し、収集した情報を分析・活用して、多様な考えを尊重しながら伏見川を守り続けるためにはどうしたらよいのか自分なりの考えを持っている。
未来	伏見川と自然、防災とのつながりを理解し、自分達がふるさと伏見川を守り続けるために身近な人や地域の人々の思いを良く理解して取り組みを考え、提案しようとする。

11.該当する 4 つの環境分野とサブテーマ（主として関連するものに○を記入。複数可）

4つの分野	ともに生きる	社会参画	○
		国際理解（異文化理解）	
		健康	
	自然・生命	生命	○
		自然への愛着	○
		生態系・生物多様性	○
		水	○
		大気	
		土	
	ごみ・資源	3R	
		公害	
	エネルギー・地球温暖化	地球温暖化の起こる仕組みと影響	

		資源・エネルギー	
		産業	
		消費生活・衣食住	

12.基となったモデルプログラム名

1：ふるさとのきれいな海を守ろう！（環境ボランティアサークル亀の子隊）

13. 地域化するにあたって配慮したこと、モデルプログラムから変更、追記したポイント、地域の協力者・場所・資源など

海を題材にしたモデルプログラムを、学校近くを流れる伏見川を題材にし、上流・中流・下流の川の環境、自分達の住む中流域の自然環境とのつながりを体験学習や地域で活動する方にインタビューなど、主体的に関わることで、地域とつながり、地域対する愛着を深めた。

伏見川について学ぶため、以下の地域の協力者を得た

・金沢市役所職員

・三馬公民館職員

・森林組合職員

・漁業組合職員

14. プログラムの公開実証授業の概要

日　時：平成 27 年 1 月 23 日（金）13:30～15:10

場　所：金沢市立三馬小学校 5 年 1 組教室

実施者：田中哲也先生（金沢市立三馬小学校 5 年 1 組担任）

参加者：5 年 1 組　児童 32 名

概　要：地域の方、森林組合の方、漁業組合の方の自然に対する思いを知り、伏見川に対する自分の思いや願いを深めたり、広げたりしながら自分の考えを持つ。石川　No.1　の伏見川にするために、「自然を守るか」、「防災を進める」かについてさまざまな考えや意見を理解し、自分が目指す未来の伏見川像を描く。

分	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕
5	前時のふりかえり 学習問題「伏見川の近くに住む人が伏見川をどのように思っているのか」を知る	前時で作成した「伏見川宣言」を読み、意識させる 〔伏見川宣言〕
15	地域の人の思いを知るため、【映像教材①②③】（①上流：森林組合の人、②中流：地域の人、③下流：漁業組合の人）を視聴する	上流・中流・下流で活動に取り組む人の映像で思いを聞き、上・中・下流がどんな場所であったかをふりかえり、黒板にまとめながら伏見川について考える。 〔映像教材〕
5	地域の人の話を聞いて自分が考えたことを書く	映像を視聴し、地域の人は伏見川がどんな川であってほしいのか、自分の考えをワークシートにまとめる　〔ワークシート〕
15	考えたことを発表する	自分の考えをまとめ、クラスで発表する。 地域の人や友達の思いや考えも受け止め、自分なりの考えを

		持つことができる　〔ワークシート〕
5	次時の学習問題をつかむ	
休憩 10 分		
5	学習問題「石川 No.1 の伏見川を目指すには、自然を守る」か「防災を進めるか」を話合う	
5	自分の考えを持つ	立場をはっきりさせるために自然派か防災派か黒板にネームをはらせる　〔ネーム〕
30	「伏見川を石川 No.1 の川にするには、『自然を守る』、『防災を進める』のどちらが大切か」について自分の考えを発表し、話合う	自分の考えをまずはペアで、次はクラスで発表する。 他の児童の考えを聞き、様々な意見があることに気づき、いろいろな視点で再考する。 今後の災害の可能性を示すために、校区の洪水マップを見せて、考える視点を増やす　〔洪水マップ〕
5	学習をふりかえる 伏見川宣言を地域の人に納得してもらえるかどうか見直す	さまざまな考えを聞き、石川 No.1 の伏見川にするためにこれからどうしていけばよいのか、自分の考えを持ち、できることを考える　〔伏見川宣言〕

15. 当日の様子

③福井県

1. 実証授業校：学校法人嶺南学園敦賀気比高等学校付属中学校　中学 1 年生～3 年生

2. プログラム名：総合的な学習の時間

ふるさと敦賀塾スペシャルセミナー「100 年後の敦賀で世界遺産候補は何か」

3. 概　要：地元に原子力発電所を抱える敦賀は、東日本大震災以降の福島原発事故は他人事とは思えず、生徒の中にはいくらかの不安を抱えている者も多い。特に、原子力発電所などで保護者が働いている生徒も多く、彼らは原子力発電所並びにその関連企業が与えていた経済効果についても否が応でも感じずにはいられない。このような現状は敦賀に対する否定的なものの見方に繋がるように感じられる。一方

で、敦賀や海や山が近く、自然に恵まれた環境でもあり、毎年春の遠足で訪れる中池見湿地では、自然を謳歌する様子もみられる。また、学年の縦割り班で、自らテーマを設定し調査、研究を行う、総合的な学習の時間では中池見湿地、敦賀の海、自転車観光マップなど敦賀の自然をテーマに活動する生徒が 8 割を占める。楽天的にふるさとは未来永劫そのままの姿をとどめると考えているようだ。そこで中池見湿地の自然が多くの人の手によって守られていることや保全に対する地道な活動の意義について考え、ふるさと敦賀を感じられるようにしていきたい。

中池見湿地の古くて新しい魅力を紹介することで、中池見湿地に対する思いを新たなものとすることを通して、中池見湿地ひいては敦賀について思いをはせるきかっけとしたい。敦賀の原子力発電所も 100 年後には世界遺産になる可能性もあると考える視点を持たせるきっかけとする。

4．対 象：Ⅰ．中学校

5．目 標：

①人、もの、自然との繋がり、広がりを理解し、それらを総合的に考える。

②人、もの、自然などと自分との繋がりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとしている。

③見通しや目的意識を持って未来像を予測、期待し計画している。

6．主な ESD の視点　（特に関連するものに○を記入。それぞれ 3 つ以下とする）

持続可能な社会づくりの構成概念		ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
相互性		批判的に考える力（批判）	
多様性	○	未来像を予測して計画を立てる力（未来）	○
有限性		多面的、総合的に考える力（多面）	○
公平性		コミュニケーションを行う力（伝達）	
責任性	○	他者と協力する態度（協力）	
連携性		つながりを尊重する態度（関連）	○
その他（　　）		進んで参加する態度（参加）	
		その他（　　）	

7．持続可能な社会づくりの構成概念について、○がつく理由を記入

構成概念	○がつく理由
多様性	1 年生から 3 年生の縦割り授業を実施することで多様な考えを認識し、受容する。中池見湿地での活動や体験、原子力発電所に関する学習から、生物の多様性、エネルギーや資源の多様性を学ぶ。
責任性	ふるさと敦賀のフィールドや地域課題から、未来のために自分達に今できること、将来できることを考える。

8．学習指導要領との関連　（関連させられる可能性のあるものを記入）

学年	教科/領域	学習内容
2 年	国語	中静透「絶滅の意味」は、生物の絶滅の現状と問題点を説明することによって生物多様性の意義について考える。

2 年	国語	松尾芭蕉「おくの細道」の最終目的地は敦賀の名月ではないかという点においての考察。また気比神宮での俳句【月清し遊行の持てる砂の上】
3 年	特別活動	修学旅行で訪れた北九州市立尾倉中学校の環境教育や長崎市軍艦島などの現状
3 年	理科	エネルギー教育の中で、原子力発電について触れる。

9．プログラム（単元・題材）の展開の流れ（総時数９時間扱い）※濃い黒字網かけが公開実証授業

時	学習課題	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕 【育まれる「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」】
1・2時間	敦賀の魅力	・話し合いや発表のルールを学ぶ。 ・敦賀に対する班員の思いを知り、共有する。	各班に分け、生徒が主体的に班活動を行えるようにする。 〔模造紙・マジック〕【伝達】【参加】
3・4時間	敦賀の世界遺産候補は？ (気比神宮、気比の松原、中池見湿地、敦賀原発 1 号機の建物、金崎宮)	・世界遺産の歴史的背景や種類や認定に至る経緯とその後について知る。 ・班ごとに、敦賀ならば一押しの場所はどこかを考え、班ごとに一つ選び発表する。 ・各自どこがいいかを考え、自分の好きな場所に付箋を貼り、場所を決める。	・世界遺産には大きく分けて文化遺産と自然遺産があることなどなるための条件を提示する。 ・日本三大木造鳥居の一つ気比神宮の大鳥居（厳島神社を例を提示） ・日本三大松原の一つ気比の松原（三保の松原を例に提示） ・世界遺産認定後の観光客の推移を提示する。 ・気になる点等を考える。 〔模造紙・マジック〕【多面】【伝達】【協力】【参加】
5・6時間	敦賀発電所 1 号機のここがすごい	・1 号機の価値を知る ・軍艦島と比較する ・核のゴミの片づけ ・世界遺産にするために自分たちのできることと呼びかけてやること	・大阪万博の開催に合わせて発電を開始し、日本の高度経済成長を支えてきたことを知らせる。 ・世界でも 7 番目に古い建物、現在日本では最古か？ 〔模造紙・マジック・付箋紙〕【関連】
7時間	中池見湿地のここがすごい	・トンボ王国との違いから中池見湿地のすごさを知る。 ・中池見湿地を守っ	・トンボ王国は 1985 年、世界自然保護基金日本委員会の支援で整備、世界初のトンボ保護区、トンボの全種類 76 種。 ・中池見湿地はトンボ保護区ではないのに 72 種いる。 ・本校のタンポポ調査や水質調査の意義について語る。

		ている人の思いから知る。 ・世界遺産にするために自分たちのできることと呼びかけてやること	〔模造紙・マジック・付箋紙〕【参加】
8・9時間	究極の選択 世界遺産にするなら中池見湿地か敦賀発電所 1 号機か？	・班ごとに中池見湿地か 1 号機を選択し、なぜそちらにしたのか、世界遺産にするために自分たちは今、何ができるか。それによって敦賀はどのような街になるのか、展望を語る。	・二つは別々の問題であるが、どちらも私たちの住むこの街の問題であり、100 年後にはどのような街になっているかを意識させる。 〔映像教材・模造紙・マジック・付箋紙〕 【批判】【未来】【多面】【伝達】【参加】

10.「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」について、その理由を記入

能力・態度	理由
未来	100 年後の世界遺産認定について考えることで、未来の故郷のあり方について考えさせる。
多面	人、もの、自然などのつながり、広がりを理解し、それらを総合的に考えることができる。
関連	人、もの、自然などと自分のつながりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度を育む。

11.該当する 4 つの環境分野とサブテーマ（主として関連するものに○を記入。複数可）

4つの分野	ともに生きる	社会参画	○
		国際理解（異文化理解）	
		健康	
	自然・生命	生命	
		自然への愛着	○
		生態系・生物多様性	○
		水	
		大気	
		土	
	ごみ・資源	3R	○
		公害	
	エネルギー・地球温暖化	地球温暖化の起こる仕組みと影響	
		資源・エネルギー	○
		産業	
		消費生活・衣食住	

12. 基となったモデルプログラム名

12：川は自然の宝箱（多摩市立連光寺小学校）

13. 地域化するにあたって配慮したこと、モデルプログラムから変更、追記したポイント、地域の協力者・場所・資源など

●地域の協力者の考えや思いを知る。

NPO 法人中池見ねっと―中池見湿地を守る活動をしている

中池見会-活動やいろいろな技術、昔話を蓄えている。

14.プログラムの公開実証授業の概要

日　時：平成 27 年 1 月 22 日（木）13:20～15:10（100 分）

場　所：敦賀気比高等学校付属中学校　AV 教室

実施者：今井　尚子氏　　敦賀気比付属中学校中学部主任

天野　京子氏　　敦賀気比付属中学校 1 学年担任

古谷　真一氏　　敦賀気比付属中学校 2 学年担任

形部　茂樹氏　　敦賀気比付属中学校 3 学年担任

参加者：1 年生から 3 年生　　生徒 80 名

概　要：「中池見湿地のここがすごい」 中池見湿地の魅力は里地里山として、つまり人々の手が入ることによって守られていることを理解する。貴重な自然を守り受け継ぐことの意義について理解する。究極の選択「世界遺産にするなら、中池見湿地か敦賀発電所 1 号機か？」 中池見湿地と敦賀発電所 1 号機のどちらが世界遺産に相応しいかを考えることを通してふるさと敦賀が持続発展していくために自分達に何ができるかを考える。

分	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材・必要物）
3	学習の目当てを理解する ・中池見湿地の魅力について	・これまでの学習を振り返る。
15	【映像教材①】を視聴し、中池見湿地のよいところをメモする。 メモを基に班で意見を共有する	・映像教材を視聴し、中池見湿地での学習を思い返すとともに、客観的に見ることにより新たな気づきを促す。 ・話合いの時間を設け、それぞれが聞き取った中池見湿地の良いところを共有し、様々な視点があることに気付く。 〔映像教材・ワークシート・A3 用紙・付箋紙〕
5	トンボ王国の違いから知る中池見湿地のすごさを理解する。 2 班の水質調査で今までにどのようなことがわかっているのかを説明し、中池見湿地の価値を再認識する。	世界初のトンボ保護区 生息するトンボの種類：76 種類、中池見湿地には 72 種類が生息するというデータを示し、すごさを実感させる。 水質調査の実績とその変化。守るべきであるという気持ちを強くさせる。
17	【映像教材②】を視聴し、中池見湿地を守っている人たちの思いを知り、気がついたことをメモする。	【映像②】を視聴し、登場する 2 人のインタビュー内容の共通点や、異なる点に注目させる ・中池見湿地を守っている人の思いから気になったことをメモす

	班ごとに話合い、班の考えを用紙にまとめる。 中池見湿地を守るために自分達に何ができるのかを話し合う。	る。 ・中池見湿地の自然は人々が生きるために使うことで、守られてきたことに気づかせる。 ・中池見湿地を守るために何ができるのかを一人一人の意見を共有することで、多様な意見を聞く。 ・自分達の力だけでは無理だと思う意見が出てきた場合は、それをどうすれば解決できるのかも考える 〔映像教材・ワークシート・A3 用紙・付箋紙〕
5	班ごとに発表する。	発表を通して各班の考えを共有し、様々な意見があることを知り、視点を広げる。
5	まとめ	
休憩 10 分		
5	学習の目当てを理解する。 究極の選択「世界遺産にするなら、中池見湿地か敦賀発電所 1 号機か？」	考える視点を広げるために、3 E のトリレンマ（経済発展、エネルギーの確保、環境の保全）について提示する。
5	【映像教材③】(ユネスコ世界遺産について)を視聴する。	・世界未来遺産に中池見湿地が登録されていることを紹介し、なぜ登録すべきかを考える。 ・中池見湿地が未来遺産に指定されていることを理解させる。 〔映像教材〕
25	班ごとに中池見湿地か敦賀発電所 1 号機かを選択し、なぜそちらにしたのか、そのために自分達に今、何ができるのか。それによって敦賀がどのような街になるのか、展望を語る。	・中池見湿地、敦賀発電所 1 号機は別々の問題であるが、どちらも私達の住む街の問題である。100 年後にはどのような街になっているかを意識させる。 ・意見が深まるようにいろいろな角度から考える。 ・それぞれの意見をよく聞き、自分の考えを持つ。 ・班ごとに模造紙にまとめる。〔模造紙・付箋紙〕
10	班ごとに発表する。	班ごとの考えを共有することで、考えを深める。
5	まとめ	

15. 当日の様子

④長野県

１．実証授業校：長野県松本市立会田中学校　２年生

２．プログラム名：地域の自然を見つめよう

３．概　要：学校の敷地内に学有林があるなど身近に豊かな自然があるが、生徒は地域の自然に目を向けたり、活動したりする機会が少ない。このプログラムでは、学校登山で乗鞍岳・上高地に行き、普段見慣れた風景と違う環境に触れることで、自然に興味や疑問を持ち、その疑問に沿って外部講師の方々から話を聞いたり、実験や体験活動を行ったりしながら、地域の自然とどう関わっていくかを話し合う。

4．対　象：Ⅰ．中学校

5．目　標：学校登山の経験、水の学習、身近な里山の木材を使ってのエネルギー学習、バウムクーヘンづくり等木の体験学習を通して、地域（四賀）の自然、里山への理解を促し、自主的、自発的に関わる思考を育む。

６．主な ESD の視点　（主として関連するものに○を記入）

持続可能な社会づくりの構成概念		ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
相互性	○	批判的に考える力（批判）	
多様性		未来像を予測して計画を立てる力（未来）	○
有限性	○	多面的、総合的に考える力（多面）	
公平性		コミュニケーションを行う力（伝達）	
責任性		他者と協力する態度（協力）	○
連携性		つながりを尊重する態度（関連）	
その他（　　）		進んで参加する態度（参加）	○
		その他（　　）	

７．持続可能な社会づくりの構成概念について、○がつく理由を記入

構成概念	○がつく理由
相互性	水から森への学習に展開し、自然の循環を理解する。地域の自然と自分達の生活が相互に関わり合っていることに気付く。
有限性	水や森林資源の活用、自然エネルギーに関わる学習や体験を通して、地域の自然資源の豊かさと、世界の資源の現状を学び、資源の有限性を理解する。

8．学習指導要領との関連　（関連させられる可能性のあるものを記入）

学　年	教　科	学習内容
中学校 １～３年	社会 地理分野	目標（４） 　地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。 内容（２）　ウー（ア）　自然環境を中核とした考察 　地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それ

		を人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。 内容（２）　ウ－（エ）　環境問題や環境保全を中核とした考察 　地域の環境問題や環境保全の取り組みを中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取り組みが大切であることなどについて考える。
中学校 １～３年	理科	第一分野（７）ウ－ア 　自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。 第二分野（７）イ－（ア） 　自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間の関わり方について考察すること。 ウ－（ア） 　自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

9．プログラム（単元･題材）の展開の流れ（総時 11 時間扱い）※濃い黒字網かけが公開実証授業

時	学習課題	活動･学習内容	指導･支援の方法、ポイント等〔教材･必要物〕【育まれる「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力･態度」】
	7 月 14～15 日 学校登山	乗鞍･上高地への登山	
1・2時間	9 月 4 日 登山ふり返り学習	乗鞍･上高地の自然についての感想、気付いたことをワークショップで抽出する。	●ゲストティーチャー：信州大学、NPO 地域づくり工房、NPO 法人信州まつもと山岳ガイド協会、やまたみ、松本大学 ①登山の体験や思い出を思い出す。 ②乗鞍･上高地の自然についての感想や疑問を班ごと模造紙に書き出す。 ③ゲストティーチャーから生徒の感想を環境学習の視点としての価値づけをしてもらう。 〔スライド〕【伝達】【協力】【多面】【参加】
3・4時間	10 月 15 日 環境教育 「水ってなんだろう」	水をテーマに、森林と私たちの暮らしのつながりについて学習する。湧水の場所や、日々飲んでいる水の特質、味の違い、水の特性や味の違い、普段使っている水道や地域の水源について学習する	●ゲストティーチャー：環境技術センター ①生徒が自分達で集めてきた水(水質等)を調べる。②“水道水”“湧水”“うちのじいちゃんのお勧めの水”などを集め、調べることで、地域の水に関心を向ける。 ③森が水を育むことを知って山の学習につなげる。 ④四賀の水道水がどこから採取されているか、市役所に聞くなどして調べる。 ※あらかじめ水質調査データを示す ※パックテストを実施

			〔水質調査データ、いろいろな水、パックテスト〕 【批判】【参加】【関連】
5・6時間	10月27日 森林資源の活用、自然エネルギーに関する学習	自然エネルギー、木質バイオマスエネルギーとしての木材の活用方法を学ぶ。	●ゲストティーチャー：四賀林研 ①自然エネルギーの利用についての講師によるレクチャーや学有林での体験学習を実施。 ②森林資源の活用を学習し、エネルギー活用だけでなく自分たちにもできる活用方法を考える。 〔マツボックリ、木質バイオマス、マキストーブ、ロケットストーブ〕【参加】【協力】【関連】
7・8時間	11月6日 木に関する授業とバウムクーヘンづくり体験学習	森林資源の活用方法や木の特徴、特質を学ぶ。	●ゲストティーチャー：寿さと山クラブ ①学校登山振り返りで出された生徒の関心事である、木を使っての遊びやバウムクーヘンづくりなど食べることなどから、木を身近に感じられるようにする。 ②生徒が振り返り学習で考えたことに繋がるような学習が学有林ででき、生徒の自発性を促すような仕掛け、生徒が自分達にもやれる、やってみたいと思うような仕掛けをつくる。 ③木と自分の暮らしのつながりを実感できる体験を実施する。 ④今後の暮らしの中で、木材を活用できる方法を考え、意見交換をする。 ⑤事前に用意した木材やマキではなく、学有林などで実際に生徒が集めた木材を使う。 〔竹筒、炭、バウムクーヘンの材料、アルミホイル〕 【関連】【参加】【協力】【未来】
9・10時間	12月5日 学習のふりかえり （公開実証授業/本事業実証授業90分2コマ）	前半45分 １．「何を学んだか」を生徒同士でふりかえる。 ①学校登山 ②四賀の水 ③四賀の森の役割 ④木の利用とバウムクーヘン作り 【映像教材①】 湧水の場所、下水処理場 【映像教材②】 森の機能 酸素供給、水の供給 洪水防ぐダム機能 落ち葉と栄養 いきもの 資源としての木材・バイオマスエネルギーなど 後半45分 ２．「四賀の地域資源である森と共生するために何ができるか」を考える。	①生徒同士が学んだことを共有する時間をもつ。 ②ふりかえる際に映像を活用する。 【映像①】水に関する映像 ：水源の映像(地域)と下流域（都市部）の水道水の取水・下水処理の様子を対比させて、森の恵みを感じさせる。 【映像②】森林に関する映像 森林の機能や、木材を活用した事例等の映像を見せて、地域資源の活用方法を考えるための素材とする。 ③水、木質バイオマス、里山学習を経て、改めて四賀の地域資源を活用して何をしたいか等を考え、生徒が意見を出し合う。 ④発表会のための作業を行う。 〔パワーポイント、写真、映像教材、ワークシート、模造紙、付箋、ペン〕【関連】【参加】【協力】【多面】【伝達】

1 1 時 間	2 月 16 日 学習発表会	本カリキュラムで学習したことを自分の言葉で自分事にして発表する。	〔発表資料〕 【参加】【協力】【伝達】

10.「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」について、その理由を記入

能力・態度	理　由
未　来	地域の森林、水資源の現状に触れることで、地域の未来の在りようを考える。
協　力	バウムクーヘンづくりや竹伐り等の体験学習を実施することによって、地域で森林活動をしている方や生徒間での協力する態度を育む。
参　加	生徒同士の学び合いの場としてワークショップを行い、参加する態度を育む。

11. 該当する４つの環境分野とサブテーマ（主として関連するものに○を記入。複数可）

4 つ の 分 野	ともに生きる	社会参画	○
		国際理解（異文化理解）	○
		健康	
	自然・生命	生命	
		自然への愛着	○
		生態系・生物多様性	
		水	○
		大気	
		土	
	ごみ・資源	3R	
		公害	
	エネルギー・地球温暖化	地球温暖化の起こる仕組みと影響	
		資源・エネルギー	○
		産業	○
		消費生活・衣食住	○

12. 元となったモデルプログラム名

17. 環境ウォッチングで提案づくり(公益財団法人　公害地域再生センター)
24. 里山たんけん隊(特別非営利活動法人きんたろう倶楽部)
26. さまざまな視点から水について考えよう～水の総合学習プログラム～（教育開発研究会）

13. 地域化するにあたって配慮したこと、モデルプログラムから変更、追記したポイント

上記のプログラムより、

①地域の状況を把握するためのヒアリング、地域課題の発見、解決の為の提案づくり

②現状把握、現場を担う人々の話を聞く、発表の方法
③水についての学習内容
を参考に、カリキュラムを作成した。
バウムクーヘンづくりやバイオマスエネルギーに触れるなど、身近に感じられるように生活における森林利用に関する学習を実施した。

14. プログラムの公開実証授業の概要

日　時：平成 26 年 12 月 5 日(金)　13:40～15:30
場　所：松本市立会田中学校
実施者：松島　裕氏　　松本市立会田中学校 2 年 1 組担任
　　藤原賢志氏　　松本市立会田中学校 2 年 2 組担任
参加者：中学 2 年生 2 クラス 48 名
概　要：1．「何を学んだか」を映像を活用して生徒同士でふりかえる。50 分
①学校登山
②四賀の水
③四賀の森の役割
④木の利用とバームクーヘン作り
2．「四賀の地域資源である森と共生するために何ができるか」を考える。50 分

分	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材・必要物）
10	導入 授業の進め方・学習のふりかえり	これまでの学習、体験をふりかえり、思い出させる 〔パワーポイント、写真〕
10	水の学習のふりかえり 【映像教材①】（地域の水源へいってみよう）	映像を視聴し、学習や体験を思い返し、思ったことや考えたことをワークシートに記入する 地域の豊かな水資源と、それを育んでいる地域の豊かな自然に気づかせる　〔映像教材、ワークシート〕
10	森の学習のふりかえり 【映像教材②】（森の機能を知ろう）	映像を視聴し、学習や体験を思い返し、思ったことや考えたことをワークシートに記入する 森がどのような機能を持っているかに気づき、普段当たり前に見ている森について新たな視点を持つ　〔映像教材〕
10	木やバウムクーヘンづくりの学習や体験をふりかえる	水、森、木質資源とつなげてふりかえりを行い、地域の自然資源の豊かさ、その地域資源を活用できることを理解し、地域の自然に対する関心を高める
10	まとめ	授業全体の感想、映像を見て感じたことなどを全体で共有する
休憩 10 分		
5	導入 ワークショップの説明	
20	「地域の豊かな森と水を守るためにできることを考える	各班で主体的に進めるため、話合いの方法などは生徒が決めて実施する。

	①四賀地区の森や水源地をどうしたいか ②今の自然豊かな環境を守るためにできることは ③授業を通して周りの人にどんなことを伝えたいか の 3 点でグループごとにワークショップを行う。	全員が意見を表明できるように、付箋紙などを活用する。 発表に向けて、まとめる。　　〔模造紙・付箋紙・マジック〕
15	各班の発表	班以外の生徒にも、どのように話し合ったかが分かるように工夫する。 他の班でどのような意見が出たのかを共有することにより、多様な考え方があることを知り、視野を広げ、また自分に返して考え、考えを深める。
10	まとめ	授業全体の感想を数人に発表してもらう

15. 当日の様子

⑤岐阜県

1. 実証授業校：岐阜県羽島市立正木小学校　5 年生

2. プログラム名：人にやさしく　自然にやさしく～環境といのち～

3. 概　要：地球温暖化という言葉は聞いたことがあるが、理解し、自分の問題として受け止めている児童は少ない。地球温暖化が何か、原因や現状、進行するとどうなるのかを理解し、調べることで地球温暖化が Co2 の排出が原因であり、自分達の生活に深く結びついていることに気づき、当事者意識を育む。進行を防ぐには、当たり前に使用している電気などのエネルギーの使用を減らすことが大切だと理解し、自分達の生活をふりかえり、生活の中にある温暖化の原因を探る。学んだ知識に加え、実践的な省エネルギーの方法の体験や「自らできる省エネ」について自らが課題を設定し、夏休みに取り組むことで、自ら実践する力を育む。取組をまとめ、仲間に発表し、意見交換することで、防止対策には様々な方法

があることに気付く。新たに課題を設定し、調べ、省エネ活動に取り組むことで、継続して実践していく意欲を育む。また、自分達の取組をクラスの仲間や他の学年、保護者や地域の人に発信することで、省エネ活動をみんなで取り組んでいくことを提案する。

4. 対 象： Ⅱ.小学校高学年

5. 目 標：

①地球温暖化は身近にも影響を及ぼしていること、自分達の生活にも深くつながっていることを理解し、自分達の問題であると受け止め、当事者意識を育む。

②地球温暖化を防止するために自分に何ができるかを知り、考え、実践し、発表するという学びを積み重ねることで、「継続して取り組む」という意欲を育む。

③発信することで、他者に伝えるコミュニケーション力、参加する態度を育み、みんなで共に行うことで、多面的に課題解決を導く力を育む。

6. 主な ESD の視点 （特に関連するものに○を記入。それぞれ 3 つ以下とする）

持続可能な社会づくりの構成概念		ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
相互性		批判的に考える力（批判）	
多様性		未来像を予測して計画を立てる力（未来）	○
有限性	○	多面的、総合的に考える力（多面）	○
公平性		コミュニケーションを行う力（伝達）	
責任性	○	他者と協力する態度（協力）	
連携性	○	つながりを尊重する態度（関連）	
その他（　　）		進んで参加する態度（参加）	○
		その他（　　）	

7. 持続可能な社会づくりの構成概念について、○がつく理由を記入

構成概念	○がつく理由
有限性	地球温暖化の現状や原因を学習すると並行して、その原因となっている化石燃料の有限性について学習する。
責任性	化石燃料を日々使用している自分の生活を振り返り、未来への責任について考え、自分には何ができるかを考える。
連携性	地球の資源を使用している自分の生活や社会を捉え、多様な人々の連携によって、環境問題を解決し、持続可能な社会を実現できることに気付く。

8. 学習指導要領との関連 （関連させられる可能性のあるものを記入）

学年	教科/領域	学習内容
5 年生	国語	「生き物は円柱形」生き物の多様性を知り、地球を守らなければならないことに気付く
5 年生	国語	「豊かな言葉の使い手になるためには」収集した知識や情報を関連づけ、互いの立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合うことができる

5 年生	社会	「自動車工場とわたしたちの生活」人や環境にやさしい車作りをめざし、人々の生活をよりよくしたいという会社の願いに気付く
5 年生	社会	「わたしたちの生活と環境」森林と生活とのかかわりや環境保全への関心を高める
5 年生	家庭科	「ご飯と味噌汁作り」地産地消で朝食をつくる

9．プログラム（単元･題材）の展開の流れ（総時数 12 時間扱い）※濃い黒字網かけが公開実証授業

時	学習課題	活動･学習内容	指導･支援の方法、ポイント等〔教材･必要物〕 【育まれる「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力･態度」】
1 時 間	地球温暖化はなぜ起こるのだろう	地球温暖化のメカニズムを知る	地球温暖化の状況、現状や原因を伝える 原因が人間の排出する二酸化炭素であることを理解し、自分達の生活に結びついていることに気づかせる。 地球温暖化が進行するとどうなるのかを考える。 【関連】【未来】
2 時 間	地球温暖化を防ぐにはどうしたらいいのだろう	外部講師 ・電気のしくみを知る。	電気をつくる実験を通して、発電のしくみを知る。 発電における Co2 の排出量を意識し、説明し、電気をできるだけ使わないことが地球温暖化防止になると気づかせる。
3 時 間	家の中でどれくらいの電気を使っているのだろう	・家の中の電化製品を調べる ・ワットチェッカーを使って電気量を測定する。	家庭にある家電製品を把握することで、生活の中で自分がたくさんの電気を使用していることに気づかせる。 ワットチェッカーを使用し、電化製品を使用する際にどれだけの電力が使われているのか実感させる。 〔ワットチェッカー、ドライヤーなど電化製品〕【参加】【関連】
4 時 間	自分のできる省エネを考えよう。	・夏休みに家でできる省エネを調べる	生活をふりかえり、生活の中にある温暖化の原因を探る。 省エネ対策には様々な方法があるというヒントを与える ・ワットチェッカー、フードマイレージ、エコマークなど 自ら課題を持って取り組むことで主体性を持ち、取り組む意欲を育む。【関連】
夏 休 み	家で省エネに取り組む （夏の省エネ活動）		家でできる省エネを考え、実践しまとめる
5 時 間	発表会準備	グループで夏休みの取組を共有する 発表方法を考える	まとめた意見をどのように他のグループに伝えるのかを考える。 他の児童と協力し、説明に使う図や、伝え方を工夫する。 〔画用紙、付箋、ペンなど〕【伝達】【協力】【参加】
6 ・ 7 時	中間発表	夏休みに取り組んだ省エネ活動を発表する	児童にも身近な活動を映像で見せることで、省エネをより身近に引き寄せ、自分の活動に活かす 他の児童にわかりやすく伝えるように工夫をする 他の児童の発表を聞き、温暖化防止には様々な方法がある

間			ことに気づき、「自分にもできる、やってみたい、続けたい」という意欲を育む 家庭での取組だけでなく、学校への取組へと視野を広げる 以後の学習、学校の省エネ対策につなげる 〔映像教材〕【伝達】【参加】
8時間	学校でできる省エネを考えよう。	学校の中で省エネでないところを探す	学校ではどんなところで電気を使っているのか、電気やエネルギーを無駄遣いしていないかどうかを調べる 〔映像教材〕【多面】
9時間	次世代エネルギーについて知ろう。	外部講師 ・電気自動車について知り、試乗する。 ・LED 電球のよさを考える ・自転車発電に挑戦する。 ・太陽光発電や次世代の電池等について知る	Co2 排出量の少ない発電方法もある、地域、社会も地球温暖化防止のために取り組んでいることを知る 電気自動車・ハイブリットカー試乗 自転車発電の体験 〔電気自動車、自転車発電機〕【参加】
冬休み	家で省エネに取り組む。 （冬の省エネ活動）		家でできる省エネを考え、実践しまとめる
10時間	発表会準備	学習のまとめを、発表会でどのように表現するかを考える。	発表会を参観する保護者、4 年生にも分かりやすく伝える方法を考え、工夫する。 〔画用紙、付箋、ペンなど〕【伝達】【協力】【参加】
11・12時間	学習発表会	・4 年生児童や保護者にこれまでの学習、取組を発表する。 ・エコ宣言をし、今後も取り組むことを決意する。	自分の取組を発表することで、省エネの取組ができたことを実感させ、自信をもつ 下級生、保護者に分かり易く伝えるように工夫をする 学校で、保護者に伝えることで、地球温暖化について、地球温暖化防止対策について広める 【伝達】【協力】【参加】

10. 「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」について、その理由を記入

能力・態度	理由
未来	資源の有限性を学び、未来社会を予測し、行動するための態度を育む。
多面	児童一人一人が省エネ活動に取り組み、それぞれの取組の発表を知ることによって、自分の活動をより多面的に捉え、実践行動を喚起することができる。
参加	知識と体験学習、発表などを積み重ねることにより、学びを深め、主体的に考え、行動する意欲

	を育む。

11. 該当する４つの環境分野とサブテーマ（主として関連するものに○を記入。複数可）

４つの分野	ともに生きる	社会参画	○
		国際理解（異文化理解）	
		健康	
	自然・生命	生命	○
		自然への愛着	
		生態系・生物多様性	
		水	
		大気	○
		土	
	ごみ・資源	3R	
		公害	
	エネルギー・地球温暖化	地球温暖化の起こる仕組みと影響	○
		資源・エネルギー	○
		産業	
		消費生活・衣食住	○

12.基となったモデルプログラム名

34：くらしマイレージ講座（NPO 法人環境ネットワークくまもと）

13.地域化するにあたって配慮したこと、モデルプログラムから変更、追記したポイント、地域の協力者・場所・資源など

児童が地球温暖化について、自分の生活に引き寄せて考えられるように工夫した。学校と家庭の電気使用量の比較や、教員のお弁当や学校の地産地消給食を例に挙げてのフードマイレージについての学習などを行った。学校給食においては、給食センターの方に地元の特産品を紹介していただく映像を作成した。

知識を習得するだけではなく、体験や実践、発表を積み重ねるプロセスを設け、自ら実践する力を養い、継続して取り組む意欲を育むこととした。

14. プログラムの実証の概要

日　時：平成 26 年 10 月 1 日（水）10：50～12：25
場　所：羽島市立正木小学校 5 年 1 組、5 年 2 組教室
実施者：大野由里子氏（羽島市立正木小学校 5 年 2 組担任）
　　大上香子氏（羽島市立正木小学校 5 年 1 組担任）
　　石井　遥氏（羽島市立正木小学校 5 年 2 組副担任）
参加者：5 年 1 組（児童 33 名）、5 年 2 組（児童 34 名）
　　合計 67 名が半分に分かれ、2 クラスが交流する形式で実施した。

概　要：児童が夏休みに各自取り組んだ活動を振り返り、クラス全員の取組を聞き合うことを通して、仲間の良さに気づきながら、自分の取組の発展を考える。また、学校と家庭の電気量や地産地消の給食、教員のお弁当を題材に、日常生活で取り組める活動を学び合い、活動したくなる意欲を育む。

分	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等　（教材・必要物）
5	①夏休みに取り組んだ内容をふりかえる ②本時の課題 仲間の発表を聞き、これから自分が取り組む省エネを考えよう	夏休みに各自が取り組んだ省エネ活動をふりかえり、本時の課題を確認させる。
40	仲間の「夏休みの省エネ活動」についての発表を聞く	各クラスが半分に分かれ、2 クラスが交流する形式で発表を行う。 仲間の発表について、自分の意見を持ち、交流する。 仲間の発表の良さを見つけながら、聞く。 自分が次に実践したい取組は何かを考えながら聞く。
5	感想を交流する	仲間の発表の良さと、自分が分かったことを感想交流で話をするように促す。
5	身近な省エネについて考える。 ①学校で使う電気 【映像教材①】学校での省エネ活動 「学校ではどれくらいの電気を使っているの？」 ・家庭と学校ではどうして電気量が違うのか考える ・学校の電気量を減らすことはできないか考える	【映像教材①】を視聴し、学校で使用している電気について気づかせる。 学校と家庭で使用している電気量を具体的なデータを示し、学校の電気量が多いことを実感させる。 〔映像教材〕
休憩 5 分		
30	②食 【映像教材②】地産地消給食 「毎日地産地消の給食が出ないのはどうしてだろう？」 ・地産地消について知る ・地産地消と省エネの関わりを考える ・毎日地産地消の給食が出ない理由を考える ・家で地産地消の食事をしているか考える	【映像教材②】を視聴し、学校でしている省エネに気づかせる フードマイレージについて、ふりかえる。 給食に出されている食材がどこから来ているのか、提示する。 地産地消を良いところだけでなく、様々な側面から考える。 地産地消給食について知り、地産地消の食材が家庭やスーパーではどうなのか関心をもつ。 〔映像教材〕
5	今日の学習から、自分がこれから実践したい省エネを考える。 ・自分がやってみたい省エネを考え、ワーク	ワークシートにまとめることで、学習のふりかえりを行い、理解を深める。 今後の学習へとつながる意欲を持つ。

	シートにまとめる。	〔ワークシート〕

15．授業の様子

⑥愛知県

1．実証校：愛知県名古屋市立八熊小学校　4 年生

2．プログラム名：季節と堀川の生物

3．概要：八熊小学校は全学年を通じて、堀川について学習している。4 年生のテーマは、生物と季節の関係。そこで、児童たちにとって身近な、藤前干潟と堀川を題材にした。堀川に生息しているチチュウカイミドリガニを中心にして、生物が季節に適応してどう生息するかを考えさせることで、身近な環境を大切にしようとする態度を育てていく。

4.　Ⅲ．小学校中学年

5．目標：児童たちにとって身近な、藤前干潟と堀川を題材にし、堀川に生息しているチチュウカイミドリガニを中心にして、生物が季節に適応してどう生息するかを考えさせることで、身近な環境を大切にしようとする態度を育てる。

6．主な ESD の視点　（特に関連するものに○を記入。それぞれ 3 つ以下とする）

持続可能な社会づくりの構成概念		ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
相互性		批判的に考える力（批判）	
多様性	○	未来像を予測して計画を立てる力（未来）	○
有限性		多面的、総合的に考える力（多面）	○
公平性		コミュニケーションを行う力（伝達）	
責任性		他者と協力する態度（協力）	
連携性		つながりを尊重する態度（関連）	○
その他（　　）		進んで参加する態度（参加）	
		その他（　　）	

7.持続可能な社会づくりの構成概念について、○がつく理由を記入

構成概念	○がつく理由
多様性	自然観察や生物の採集、体験活動によって生命の多様性を学び、身近な環境を大切にする態度を育てる。

8．学習指導要領との関連　（関連させられる可能性のあるものを記入）

学年	教科/領域	学習内容
小学校４年	理科 （生物）	２（１）３（３）生物の観察 あたたかくなると、暑くなると、すずしくなると、寒くなると（生き物のようす年間を通して）

9．プログラム（単元・題材）の展開の流れ（総時数 10 時間扱い）※濃い黒字網かけが公開実証授業

時	学習課題	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕 【育まれる「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」】
8時間	秋の藤前干潟や堀川の観察	藤前干潟や堀川の秋の生物の様子を観察する。	・季節と生物の関係を考えさせるため，生物の観察とともに気温・水温を測定させる。　〔温度計〕【未来】【多面】【関連】
2時間	藤前干潟と堀川の生物	①ビデオをみて課題をもつ 【映像①】生物と季節の変化 -藤前干潟- 【映像②】掘川で生物を観察しよう	季節と生物たちの暮らしには関係がある 生物にはすみか（岩場・隙間）が必要である ・生物にはすみか（岩・隙間）が必要であることを理解させるために、藤前干潟の映像を見せる。 〔藤前干潟の映像〕【未来】【多面】関連】 都心を流れる堀川にも、生物はいる 季節が変わると、生物にはどんな変化があるかな・・・・ ・気温・水温との関係に目を向けさせるため、昨年度の堀川の水温と捕れたカニの数のグラフを見せる。 〔昨年度のカニグラフ〕【未来】【多面】【関連】
	堀川の生物とその環境（季節）	①フィールドワーク ②観察結果の共有 ・藤前干潟の経験を生かして、生物のすみかについて考える。	・気温・水温との関係に目を向けさせるため、堀川の水温を測定する。〔温度計、昨年度のカニグラフ〕【未来】【多面】【関連】 ・生物のすみかに目を向けさせるため、堀川の護岸に着目させる。昨年度までの堀川の護岸と現在の護岸の違いから，生物にとって棲みやすい環境を考えさせる。 〔昨年度の堀川の護岸の写真〕【未来】【多面】【関連】

※なお、プログラムのモデル化に当たっては、「ミヤマアカネ・リサーチプロジェクト」をチチュウカイミドリガニの調査に、「見つめよう　わたしたちの自然」を地域に流れる川の未来をどうしていきたいのか考えるに修正するなどの工夫を行った。

10.「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」について、その理由を記入

能力・態度	理由
未来	身近な藤前干潟と堀川を題材にした観察、生物の生息環境を考えさせる学習を通して、身近な環境を大切にしようとする態度を育てる。
多面	季節と生物の関係を観察だけではなく、気温、水温などの科学的データ、昨年度の調査データを調べるなど、多様な視点で見ることを通して、多面的・総合的に考える力を養う。
関連	季節と生物たちの暮らしの関係、堀川の護岸工事による川の生物の生息環境の変化を捉えることにより、人と自然の関係を理解する。

11. 該当する 4 つの環境分野とサブテーマ（主として関連するものに○を記入。複数可）

4つの分野	ともに生きる	社会参画	
		国際理解（異文化理解）	
		健康	
	自然・生命	生命	
		自然への愛着	○
		生態系・生物多様性	○
		水	○
		大気	
		土	
	ごみ・資源	3R	
		公害	
	エネルギー・地球温暖化	地球温暖化の起こる仕組みと影響	
		資源・エネルギー	
		産業	
		消費生活・衣食住	

12. 基となったモデルプログラム名

１：ふるさとのきれいな海を守ろう！（環境ボランティアサークル亀の子）

６：「生物たちとの持続可能な社会を考えよう(自然調和型社会学習プログラム）」
（岡崎市立新香山中学校）

13. 地域化するにあたって配慮したこと、モデルプログラムから変更、追記したポイント、地域の協力者・場所・資源など

全学年を通じて堀川の学習に取り組み、堀川を大切にしたい、堀川を保全したいという気持ちを育むことをねらいとしている。4 年生では生物と季節をテーマに観察活動を行っている。生物多様性の高い名古屋市の藤前干潟、都会の中心部を流れる堀川、2 つの場所での観察を行い、生物の生息環境として比較し、考える事で堀川の環境を考えさせ、より良い自然とはどのような環境であるのか気づきを促し、地域の自然にいかに関わっていくかについて考えるきっかけにし、次の学年へ展開する学習とした。授業実施に当たり、映像の撮影には藤前干潟

で保全活動をする NPO 法人藤前干潟を守る会、環境省名古屋自然保護官事務所のアクティブレンジャーの協力を得た。

14.プログラムの公開実証授業の概要

日　時：平成 26 年 11 月 5 日（水）9:35～11:25

場　所：名古屋市立八熊小学校第２コンピュータ室

参加者：４年２組　22 名

概　要：児童たちにとって身近な、藤前干潟と堀川を題材にし、堀川に生息しているチチュウカイミドリガニを中心にして、生物が季節に適応してどう生息するかを考えさせることで、身近な環境を大切にしようとする態度を育てていく。

分	活動・学習	指導・支援の方法、ポイント等　（教材・必要物）
45	藤前干潟と堀川の生物	①ビデオをみて課題をもつ 【映像①】生物と季節の変化 -藤前干潟- 【映像②】掘川で生物を観察しよう 季節と生物たちの暮らしには関係がある 生物にはすみか(岩場・隙間）が必要である ・生物にはすみか(岩・隙間）が必要であることを理解させるために、藤前干潟の映像を見せる。 〔藤前干潟の映像〕【関連】 都心を流れる堀川にも、生物はいる 季節がかわると、生物にはどんな変化があるかな・・・・ ・気温・水温との関係に目を向けさせるため、昨年度の堀川の水温と捕れたカニの数のグラフを見せる。 〔昨年度のカニグラフ〕
休憩（20）		
45	堀川の生物とその環境（季節）	①フィールドワーク ②観察結果の共有 ・藤前干潟の経験を生かして、生物のすみかについて考える。 ・気温・水温との関係に目を向けさせるため、堀川の水温を測定する。　〔藤前干潟の映像〕【関連】 ・生物のすみかに目を向けさせるため、堀川の護岸に着目させる。昨年度までの堀川の護岸と現在の護岸の違いから，生物にとって棲みやすい環境を考えさせる。 〔昨年度の堀川の護岸の写真〕

15．授業の様子

⑦三重県

1．実証授業校：三重県学校法人津田学園津田学園小学校　4 年生

2．プログラム名：水辺の環境調査

3．概要：学校周辺に位置する嘉例川（身近にある自然）を中心に、上流・中流・下流の 3 か所で水質調査を行い、自然の変化をとらえ、将来の川や自然をどのように守っていくかを学習する。野外学習における川の様子（ゴミや川の流れ等）を観察することにより、子どもたちの環境意識、自然愛護意識を高める。班やクラスでまとめ、発表を行い、理化学への興味・関心を深める。

4．対象：Ⅲ.小学校中学年

5．目標：

①自然との関係性を考えるきっかけの一つとする。

②様々な調査を通して、まとめる力を付ける。

③自然を保護・再生する力を付ける。

④自分の生活と関連づけて今後の生活に活かす。

6．主な ESD の視点　（主として関連するものに○を記入）

持続可能な社会づくりの構成概念		ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
相互性	○	批判的に考える力（批判）	
多様性	○	未来像を予測して計画を立てる力（未来）	○
有限性		多面的、総合的に考える力（多面）	○
公平性		コミュニケーションを行う力（伝達）	
責任性	○	他者と協力する態度（協力）	
連携性		つながりを尊重する態度（関連）	○
その他（　　）		進んで参加する態度（参加）	
		その他（　　）	

7．持続可能な社会づくりの構成概念について、○がつく理由を記入

構成概念	○がつく理由
相互性	地域の人と関わり学習や体験活動を行い、人間が川の恵みを得て生活していることを理解し、川の環境と自分の生活のつながりを学習する。
多様性	上流・中流・下流の川の環境の違いを「5 つのものさし」を使って調べることにより、各場所の川の環境、生物の違いに気づき、環境の変化による生物への影響を知り、生物の多様性を学ぶ。
責任性	多様な生き物の棲息環境である川の保全の取り組む地域の人々の思いや考えに触れ、未来に向けて川の環境を守ることの重要性を各自が感じ取る。

8．学習指導要領との関連　（関連させられる可能性のあるものを記入）

学年	教科	学 習 内 容
４年生	理科	B 生命・地球（3） ア　生物は、水および空気を通して周辺の環境と関わりあっていること イ　生物の間には、食う・食われるという関係があること
４年生	道徳	３ （1）生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 （2）自然の素晴らしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。
４年生	国語	A　話すこと・聞くこと（2） ア　事物の説明や経験を報告したり、それを聞いて感想を述べたりする。 エ　知らないことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。 B　書くこと（2） イ　経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章を書くこと エ　紹介したいことをメモにまとめたり、文章などを書くこと。
４年生	家庭	D　身近な消費生活と環境（2） ア　自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫する。

9．プログラム（単元・題材）の展開の流れ（総時数 12 時間扱い）※濃い黒字網かけが公開実証授業

時	学習課題	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕【育まれる「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」】
1 時 間	「目標と５つのものさしについて」	水辺の環境調査の目標を理解する 「５つのものさし（①自然のすがた、②ゆたかな生き物、③水の様子、④快適な川辺、⑤地域とのつながり）」の内容による目的と方法について理解する	昨年の活動の様子を紹介しながら具体的なイメージをもつ。 自分の生活と関連づけ、自然との関係に関心を持たせる。 ・「５つのものさし」の意義・目的を十分共有していく ・道徳で「外来生物」について取り上げ、絡めていく。　〔パワーポイント、ワークシート〕【関連】
2 時 間	出前授業	生物間の食物連鎖「食う・食われる」の関係を理解する 夏・秋に生息する生物の生態や関係性について理解する	●ゲストティーチャー：東産業 ・夏・秋で生息する生物の生態や関係性を具体的に児童に教える 〔外部講師、記録用紙、カメラ〕【関連】

3 時 間	調査の準備	「５つのものさし」のふりかえり 調査の流域、班の役割分担を話し合って、きめる 危機管理を伝える	・現地調査を主体的な活動にするために、児童自らが調査する流域、各班での役割分担を決める ・どの担当も重要な役割であることを理解させる ・自然には危険が潜んでいることを理解させ、自然との関わり方についても気づかせる 【協力】【参加】【伝達】
4 ・ 5 ・ 6 時 間	現地調査 科学的調査	現地調査 （①川幅、②水深、③流れの速さ、④透明度、⑤住んでいる生き物、⑥周りの環境） ・pH と COD パックテスト ・調査結果について、「５つのものさし」の観点から話し合う。	●ゲストティーチャー：みどりネットワーク嘉例川、東産業 ・多様な生物の確認と記録を行った後、生物は元の場所に返すように指示する。 ・パックテスト用の水を採取する支援を行う。 ・pH と COD パックテストで、より正確な値が出るように支援する。科学的にも川について調査をする。 ・田んぼの学校で稲刈りをした経験も踏まえ、水の行方を考える。 ・他に気付いたことや児童のつぶやきなどもメモしておく。 ・生物は iPad で写真や動画を撮影する。 〔体操着・長靴・軍手・赤白帽子（児童）〕 〔たも、ペットボトル、透視時計、メジャー、記録用紙、カメラ、iPad、pH と COD パックテスト〕 【協力】【参加】【伝達】【多面】
7 時 間	水槽の様子について考える	現地調査で捕まえた生物を入れた水槽を観察する。 「なぜほとんどの生物は死んでしまったのか」その原因を考える 考えたことを発表する	水槽の様子から、生物の生息環境を考えさせる 水槽との環境の違いを考えさせるため、現地調査での川の様子や結果をふりかえる 生物の気持ちや、周りの環境など様々な視点から原因を考えさせる 自分の考えをワークシートに記入し、周りの人とも話し合い、様々な意見があることを知り、考えを深める 〔ワークシート〕【関連】【多面】【伝達】
8 時 間	川の生き物について考える	「５つのものさし」、現地調査のふりかえり 現地調査で生息していた生物を流域ごとでまとめ、地図をつくる。 水槽の環境を考える 川の環境を考える １０年後、川の環境が変わったら住んでいる生き物はどうなるのか、考える。	写真を用いて、思い出させる。 川の地図（上・中・下流の分かるもの）を用意し、視覚的にも把握できるようにする。 班ごとで思い返し、話し合い、付箋紙に生物の名前と絵を描き、地図に貼っていく。 水槽と川の環境を比較し、考えることで、生物がなぜそこに住んでいるのか、生息環境を考える。 〔川の地図(生息マップ)、付箋紙、ワークシート、写真、映像教材〕 【参加】【協力】【伝達】【多面】
9 時 間	川の環境について考える 「コンクリートで固めた川」について考える	生物が生きられる環境を考え、知り、「なぜ生物が生きにくい環境がつくられたのか」考える。 川に生物がいなくなってしまったら	前時で考えたことを思い出す。 班で意見を交換しながら考える。 コンクリートで固めた川が生物にとって、人間にとってどうなのかを気づかせる。

		どうなるのか考える。 地域で川の環境を守る人がいることを知り、生物が生息できる川にするために、どうしたらよいのか、できることを考える	川が地域の人に守られてきたことに気づかせ、自分たちにもできることを考えさせる。 〔川の地図(生息マップ)、付箋紙、ワークシート、写真、映像教材〕 【参加】【協力】【伝達】【未来】
10・11	まとめる	・発表に向け、調べたことや実体験での発見の様子などのまとめを行う。	・「クイズ形式」「独自キャラクター」「４コマ漫画」など、見ている人にインパクトを与えるために創意工夫で制作を行う支援をする。 〔模造紙など〕【参加】【協力】【伝達】
12時間	発表会	保護者も招き、調査し、考え、まとめたことを伝える	・ゆっくり大きな声で、元気よく発表するよう支援する。 ・メモを取りながら、友達の発表を聞けるようにする。〔スクリーン、投影機、演説代〕 【参加】【協力】【伝達】

10.「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」について、その理由を記入

能力・態度	理由
未来	自然環境と生活のつながりに気付くことで、将来の自然環境がどうであってほしいかを想像し、そのために自分達ができることを考えられる
多面	普段見慣れている川を、上流・中流・下流で調査を行い、クラス、地域の人、家庭でも話合うことにより、多様な意見があることに気づき、多面的に考えられる力を養う。
関連	自分の生活と関連づけて今後の生活に活かす。

11. 該当する４つの環境分野とサブテーマ（主として関連するものに○を記入。複数可）

４つの分野	ともに生きる	社会参画	○
		国際理解（異文化理解）	
		健康	
	自然・生命	生命	○
		自然への愛着	○
		生態系・生物多様性	○
		水	
		大気	
		土	
	ごみ・資源	3R	
		公害	
	エネルギー・地球温暖化	地球温暖化の起こる仕組みと影響	
		資源・エネルギー	
		産業	
		消費生活・衣食住	

12. 元となったモデルプログラム名

22 「５つのものさし」で地域の川や生き物を守っていく!～そして、自分の成果と関連づけて暮らしに生かす～

13. 地域化するにあたって配慮したこと、モデルプログラムから変更、追記したポイント

地域に対する理解を深めた学習にするため、ゲストティーチャーとして、地域で活動するみどりネットワーク嘉例川や東産業に協力を得た。また、上流・中流・下流の川の環境の違いを明確にし、話合いの時間を多く設けることで、児童の主体性をよりもたせるように授業を組み立てた。

14. プログラムの公開実証授業の概要

日　時：平成 26 年 12 月８日（月）9:30～11:00

場　所：津田学園小学校

実施者：窪田裕志　津田学園小学校４年２組担任

参加者：小学４年２組　児童 26 名

概　要：生き物と環境のつながりを考え、川の環境に関心を持つ。さらに、生き物が住める川の環境を守り続けるために自分に何ができるのかを考える。

分	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等 〔教材・必要物〕
2	目標、「5 つのものさし」の確認 現地調査活動を写真でふりかえる	現地調査活動から時間が経っているので、写真を用い、思い出させる 〔写真〕
15	生息マップをつくる 上流・中流・下流のグループごとに付箋を使い、生息していた生物をまとめ、川の地図に貼る。	グループごとで話合いながら、作業を行う 川の環境に焦点を当てるため、水中の生物のみにする 〔川の地図、付箋、ワークシート〕
10	水槽の環境を考える	班で意見交換しながら考えさせる。 状況を見ながら声掛けをし、発言を促す。 現地調査で捕まえた生物を水学校の水槽で飼育したが、時間が経過し、ほとんどの生物が死んでしまったことから、生物の生息環境を考えさせる。 〔写真〕
10	もともと生物が住んでいた川の環境を考える	班で意見交換しながら考える。 「5 つのものさし」の観点や現地調査活動を思い出して、考える。 水槽と川の環境の違いを探し、生物が生きるために必要な環境を考える。
3	【映像①】（嘉例川のいろいろな場所）を視聴	水槽の環境、川の環境で意見交換したことを踏まえて視聴する。 映像から、生きられる環境が嘉例川にはあることに気付く。 〔映像教材〕
休憩 10 分		
2	生物が生きられる環境を復習	前時で考えたことを思い出す

3	【映像②】（三面張や水路になっている場所）を視聴	映像を視聴し、生物が生きにくい場所を知る　〔映像教材〕
10	なぜ生物が生きにくい環境をつくったのか、「なぜ川をコンクリートで固めたのか」をテーマに考え、話合う	班で意見交換しながら考える。 三面張(コンクリートで固めた川)は生物にとっては住みにくいが、人間にとっては有益であることに気づかせる。〔ワークシート〕
10	「川に生物が何もいなくなってしまったらどう思うか？どうなるか？」を考え、話合う	班で意見交換しながら考える。 以前学習した食物連鎖を思い出し、川の生態系が崩れたら人間も影響をうけることに気づかせる
3	【映像③】（嘉例川を守っている人たちのインタビュー）を視聴	人間も生物も共に生きていけるよう嘉例川の環境を守っている地域の人たちがいることに気づかせる。　〔映像教材〕
10	「嘉例川を生物が住む川、環境のままにしておくためにはどうすればよいか、何をしてはいけないのか」考え、話合う	班で意見交換しながら考える。 映像を視聴し、川が地域の人に守られてきたことから、自分たちにできることを考えさせる。 川の環境を守らないと、生物がいけないことを、作成した生息マップから生物の名前を書いた付箋を外しながら説明する。 嘉例川で考えたことを、自分の家の近くの川にも当てはめていく 〔生息マップ〕
2	お家の人とも【映像①②③】を一緒に視聴し、嘉例川の様子を伝えること、家の近くの川を一緒に見に行って、比べてみることを提案	保護者と共に映像教材を視聴し、身近な川に行き、話合いをすることにより、児童の視野や学びを深める。身近な川への関心、環境を考えていくきっかけとする。

15. 授業の様子

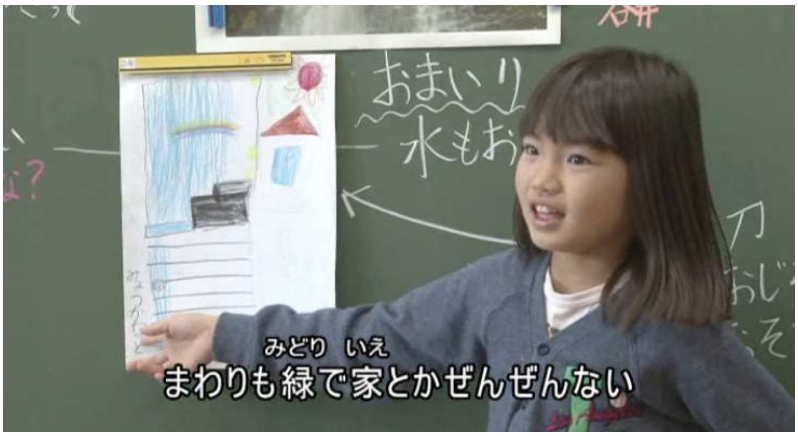
（2）映像教材を活用した授業展開例

本事業で作成した映像教材は、次年度以降も持続可能な地域作りや人材育成のため、地域での活用が望まれる。本項では、今後教育現場での活用を目的として、今年度制作した映像教材を組み込んだ授業展開例をまとめている。

制作した映像の内容、ナレーション原稿等を参考に学校で自由に活用して頂き、今年度実施校での継続的な活用、同一地区の他校での活用等、本内容を参考に本取組みが拡がることを期待している。

①富山県

【授業の狙い】	
自分たちの暮らすまちにある宝（自分がとても大切だと感じるもの）を見つける。 たくさんみつける（量的発見）から、もっと好きになる（質的発見）へと関心が深化し、さらに他の人たちにも発表したり、感謝の気持ちが伝えたくなる。 他の学校の児童が取り組む様子を紹介する映像教材をみて、ヒントや刺激を得る。	
【映像教材】 授業の進行プランにあわせて、以下 4 本より選択 （1 時限あたり 1-2 本ほどを選んで深めるとよい）	
映像教材①：このまちの宝物に触れてみよう 映像教材②：出かけてみたよ！話を聞いてみたよ！ 映像教材③：町の魅力の花を咲かそう 映像教材④：このまちには素敵な宝がいっぱい！ 映像教材⑤：知りたい気持ちが育っていったよ！ 映像教材⑥：大切な宝を、どうしたい？	
【授業の進め方】 45 分 x 2 （授業 1 と 2 の間には学習期間として 3-4 週間設ける）	
授業（1）では、他校の児童たちがまちの宝をみつける学習をし、そのうちのひとりの女の子が大切にしている滝を実際に訪れ、滝を大切に守る人の話を聞くことで、滝のことがもっと好きになったという様子を伝える映像教材を視聴することにより、自分の大切な宝について、もっと知りたいという気持ちを高める。 授業（2）では、他校の児童が、見つけた宝について、もっと探求を続けたくなったり、人に発表したり、感謝の気持ちを伝えたくなっている映像をみて、自分たちも、せっかくみつけた宝をどうしていきたいかということについて考える（伝えたり、探求を続けたくなるなど、発展する）。	
【授業内容（例）】 授業（1）	
内 容	授業ポイント

映像教材①：このまちの宝物に触れてみよう（3'05"） （これまでの探求の振り返り） ・みんな、まちの宝を見つけてきたね ・たくさん見つかったね（これまでの記録を振り返る） ・どんなものがあった？（発表させるなど） **実は、みんなと同じように、まちの宝を探している子どもたちがいます。その様子を、映像で見てみましょう。**  （映像ナレーション） ここは、富山市楡原（にれはら）。 富山駅から、車でおよそ 30 分ほどの山間（やまあい）にあります。 テロップ）富山市楡原（にれはら）神通碧（じんずうみどり）小学校 自然が豊かなこの地域にある、この小学校では、2 年生、15 人の子どもたちが、このまちの宝物について、学習しています。 宝物は、一人一人が自分で考えて、自分で決めることに。 そうしたら、たくさんの宝物をみつけることができたので、 こんな紙を貼ることにしました。 なかには天井に届きそうになるくらい、みつける子もでてきました。 今日は、クラスのわかちゃんが、自分でみつけたものを発表することに。 （わかちゃん） 「今日は、『不動尊の滝』のことです・・・」 （ナレーション） わかちゃんの宝物は、不動尊の滝です。 わかちゃん） 「自然がひろがっとって、静かで、気持ちがいい。 空気がおいしい」 「ここは周りが緑で、家とかも全然ないから」 （ナレーション） わかちゃんは、不動尊の滝がどんなに素敵かを、写真や絵を使って、みんなに伝えようとしています。みんなからも、意見がでました。 （児童） 「水と風とあわさって、気持ちいい」、「水もおいしいし、飲	映像教材①の活用 自分がまちの宝だと思うものについて、実際に触れてみる子どもたちの映像をみて、知りたい気持ちを刺激する

んだことあるんだけど、水道水よりもおいしいから」 （ナレーション） みんな、わかちゃんの話を聞いて、 もっと滝について知りたくなりました。 （わかちゃん） 「もっと滝にくわしくなれるかもかもしれんし、 そのことをどんどん広げていって、いろんな人が、 滝ってこんなにすごいんだなってことを、知ってもらいたい」 （先生） 「ちょっと、歩いてくとめっちゃ遠いから、バス来てもらえるか、電話してみるね」 （児童） 「やったー」 （ナレーション） みんなでもっと知るために、実際に滝まで出かけてみることにしました。 みんな、大喜びです。 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・ 映像にでてきたのは、どんなまちだった？どんなことがでてきた？ ・ どんな宝が紹介されていたかな？ ・ どんなところが素敵だっていっていた？ ・ みんなの調べたものにも、似ているものはあったかな？ ・ わかちゃんたちは、実際に滝を見にいくみたいだね。 ・ これから、どうなると思う？ 次の映像を見てみましょう。	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める
映像教材②：出かけてみたよ！話を聞いてみたよ！（2'46"） （映像ナレーション） さっそくみんなは、不動尊の滝へ出かけることにしました。不動尊の滝は、山の中。長い石段を登っていきます。わかちゃんの言う通り、この滝には、素敵なものがいっぱい。 （児童） 「おいしい」「おいしい」 （映像ナレーション）	映像教材②の活用 まちの宝に触れている様子をみて、感じ取る

やっぱりここは町の宝なんだ！みんなそのことがよく分かりました。 そこでみんなは、滝について良く知っている地元の人に話を聞くことにしました。 昔から、この滝の水は、目にいいと言われています。 （地元のおじいさん）「目をなおしてもらえる、目の病気にならないように、ちゃわんに水くんできて、ここにそなえて、おまいりして、その水で目をちょっとぬらして・・」 （児童）「滝の水はどこからきたんですか」 （地元のおじいさん）「滝の水はね、雨降ったりなんかして、しみこむでしょう。地面のなかにしみこんだ水が、少しずつ流れてきて・・・」 （児童）「人は何人くらい来られるのですか？」「自然のものだから、枯れたりはしないんですか、、」 （映像ナレーション） みんなからも、いろいろな質問が。 （児童）「不動尊の滝のことが詳しくなれたから、よかったです」「不動尊のことも気になっていることもきけたのでよかったです」 （映像ナレーション） その場所に行ったり、地域の人に会って話を聞いたりしてみると、 いろいろなことがわかってくるね・・・ （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・ わかちゃんたちは、滝に行ってどんなことをしていた？ ・ 滝にいったみんなは、どんなことを感じたと思う？ ・ おじいさんの話を聞いたら、どんなことがわかった？ ・ 滝にいって、おじいさんの話をきいたら、みんなの滝への気持ちはどんな風に変わったかな？	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める
映像教材③：まちの魅力の花を咲かそう（2'26"） （映像ナレーション） 滝から帰ってきたら、見てきたもの、聞いてきたことを、まとめてみること	映像教材③の活用 まちの宝に触れて、素敵のタネが育っていくと感じる様子をみて、自分たちの探求と照らし合わせる

にしました。 （児童）「楽しかったです」「滝の水を飲んだら、おいしかったです」「わかちゃんのいったとおり、すずしかった」 （映像ナレーション） わかちゃんは、調べたことで、素敵のタネがどんどん大きくなったと考えています。 （先生）「わかさんもっと、大きくなったって」 （わかちゃん）「でも、不動尊の滝のこともっとしらべてわかったら、もっと大きくなる」「一つの植物があって、その植物から、タンポポのタネみたいな感じで、どんどん成長して、綿毛になって、また、素敵なことが増えていって、で、素敵なことがありすぎて、おわらんていうか・・・」 （先生）「最初素敵のタネがあって、で、調べたら、素敵が、だんだんだんだん、 大きくなっていって、また調べたらもっともっと大きくなって、どうなったの」 （わかちゃん）「ずっと、終わらんと思う」 （先生）「終わりが」 （わかちゃん）「ない」 （先生）「じゃあ、どんどんどんどん大きくなるかもしれないね。でも、タネをもっているのって、わかさんだけだっけ？」 （児童）「みんなもっとると思う」「みんなちがう」「みんなちがって・・・」 （映像ナレーション） この後、みんなはそれぞれ自分のタネを育てていこうと思いました。調べると、もっともっと知りたくなる。知ることは楽しいこと。みんなも、たくさん見つけた後は、一つの宝をくわしく調べてみると、きっと、もっと楽しくなりますよ・・・。	
（映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・ 滝から帰ってきたわかちゃんたちは、どんなことを話してた？ ・ わかちゃんの滝への気持ちは、どうなった？ ・ わかちゃんは、素敵のタネがどうなるって言っていた？ ・ 素敵のタネをもっているのは、わかちゃんだけ？ ・ わかちゃんたちみたいに、もっと調べてみると、みんなのタネは、どうなると思う？ ・ どうしてそう思ったの？ ・ みんなはこれから、自分のタネについて、どんなことをしていきたい？ まわりの人たちと、話しあってみよう・・・。	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める

映像教材④：このまちには素敵な宝がいっぱい！（1'57"） （映像ナレーション） ２年生のみんなが見つけ始めている素敵な宝は、他にもいっぱいあります。ここは、むかし昔からこの町にあった古いお寺さんの上行寺（じょうぎょうじ）。 そして２つめは鎌倉時代の有名な武士、畠山重忠（はたけやましげただ）のお墓。この町には古い歴史があることが分かりますね！ ３つめは、とっても景色が奇麗な常虹（とこにじ）の滝！ そして４つめ！自然がいっぱいの天湖森（てんこもり）。 （天湖森の人）「自然豊かな森、この後ろに見える湖、天体観測ができる天体専門のドームもあります、その３つから名前をとって、てんこもりという名前になっています。」 （映像ナレーション） そして、小学校のすぐ近くにある中崎商店さん！ここには、おいしいおいしいおもちがあるんです。つくっているのは、この人。 （中崎商店おかみさん）「ほんとうに昔からのやりかたでやっているものですから」 （映像ナレーション） なるほど・・・。まちの人の話を聞いてみると、なんだかこっちまで、わくわくしてきますね。 みんなが住む町の宝は何かな？みんなもまちに出て、発見してみよう！	映像教材④の活用 まちの宝を紹介する映像をみて、あらためて自分たちのまちの宝について思いをめぐらす
（映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・ 映像の中では、どんな場所がでてきた？ ・ まちの人はどんなことを言っていた？ ・ みんなのまちだったら、どうかな？どんな場所がある？どんな人に話を聞いてみたいと思う？	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める

（授業まとめ） 授業全体の感想、映像教材を見て感じたこと等の共有～担任まとめ	
【授業内容（例）】 **授業（2）**	
内　容	授業ポイント
（これまでの探求の振り返り） みんな、まちに行っていろいろなものを見てきたね。どんなものを見てきた？話を聞いた人もいるね。どんなだったかな？この前映像でみた、別の小学校の子どもたちはどうしたと思う？映像を見てみよう **映像教材⑤：知りたい気持ちが育っていったよ！（3'26"）** (映像ナレーション) 　自然豊かな、富山市楡原（にれはら）。神通碧小学校（テロップ）の２年生のみんなが、まちの宝物を探す活動をしています。 （わかちゃん）「自然がひろがっとって、静かで、気持ちがいい。空気がおいしい」 (映像ナレーション) クラスのみんなで、実際に滝を訪れて、その滝を大切に守っているおじいさんの話を聞いたり、滝の水を飲んだり、いろいろ、発見があったみたいです。 あの後、２年生のみんなは、それぞれ、素敵探しを続けてきました （先生）「みんな自分のタネを大事に育ててきたんだけれど、ずっとタネのままで　すか？」 （児童）「自分の中で探してずっとやっていけばいい」 （映像ナレーション） 　今日はひとりひとりの種がどう変わっていったのか紹介する時間です。 （児童）「私は最初は大福だったけど、どんどん中崎さんが素敵って思って」 （映像ナレーション）	映像教材⑤の活用 そのあと、宝がどう変化したのか、子どもたちの探求の様子を映像から知る。実際にあってみたことで、宝が育ったり変わっていることに気付く

前回の授業が終わってから、みんなは、学校の近くにある、中崎商店にいって、お店をひとりで切り盛りしているおばあさんに話を聞いてきたんだって。調べてみたら、おばあさんがひとりで、お店をまもっていることがわかりました。こんなに早い機械をつかって、毎日100個もの大福をつくっているんだって。 機械で怪我をしたこともあるけれど、喜ぶひとのために、朝早くからがんばってつくっているそうです。 （児童）「中崎っていろんなものをつくっているんだなって思って。もちとかつくっている場所にいったら、どんどんタネが増えていって」 （映像ナレーション） 調べるうちに、大福もちから、大福もちを作っているおばあさんも素敵だと思うようになってきたみたいですね。 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・ 最初の授業で、わかちゃんたちはどんなことをしたんだっけ？ ・ 素敵なものは、どうなったって言ってたっけ？ ・ そのあと、神通碧小学校のみんなは何をしたのかな？ ・ どんなことをしたって言っていた？ ・ そしたら、どんな発見があった？、みんなの宝は、どうなるだろう？	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める
映像教材⑥：大切な宝をどうしたい？（1'13"） (映像ナレーション) 1つのタネが大きくなった子どもたちは次にどうなったのかな。 （伝えることについて発表している、子どもの発言）「グループの人に発表したい」「２年生全員に素敵のタネを教えたい」 「どんなに素敵なタネかみんなにいいたい」（テロップ） (映像ナレーション) みんなは調べたことを、もっと多くの人に知ってもらいたいと思っています。 （児童）「お世話になった人にお礼をつたえたい」（テロップ）	映像教材⑥の活用 自分たちの宝について、人に伝えたくなったり、お礼をいいたくなったりという、気持ちの変化に気付く

（映像ナレーション） お世話になった人に「お礼をいいたい」と言ってお手紙を書くことにした子もいます。どうやら、伝えたい気持ちがでてきたみたいです。 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・ 宝のタネについて、どうしたいっていう気持ちになったのかな？ ・ 伝えたいとか、お礼が言いたいとかいっていたね。 ・ みんなは、どう思うかな、、、？	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める
（授業まとめ） 授業全体の感想、映像教材を見て感じたこと等の共有、今後について～担任まとめ	授業まとめ

②石川県

業の狙い】	
地域の人、森林組合の人、漁業組合の人の自然への思いを聞き、これから伏見川に対する思いや願いを深めたり、広げたりしながら自分の考えを持つことができる。	
【映像教材】	
映像教材①：伏見川と森のつながり 映像教材②：伏見川の魚と金沢の人たちの暮らし 映像教材③：伏見川の昔と今	
【授業の進め方】	
前半は、これまでの学習を振り返り、映像教材を視聴することを通じて、森林組合の人、地域の人、漁業組合の人たちはそれぞれ伏見川のことをどんな思いで見ているかについて触れ、共通点や違う考えがあることに触れる。 後半は、自然を守ることと、防災と、どちらが大切か、どちらも大切にするにはどうすればいいかなど、対話して考えを深める	
【授業内容（例）】 45分 x 2 **授業（１）**	
内 容	**授業ポイント**
（オリエンテーション1） 担任より、授業内容や授業の進め方の紹介	授業導入
（地域自然に対する認識の確認、これまでの学習内容のふりかえり等） ・これまで学んできたことについて、過去の記録などをみて振り返る ・みんなで伏見川を大切にするための宣言をつくったけれど、地域の人たちはどう思っているか、複数の人にインタビューした映像をみせることで、考えるきっかけを与える	・これまでの授業内容の振り返り ・地域の人たちは伏見川をどう思っているか、考えて見る

（森林組合の人の話し） **映像教材①：伏見川と森のつながり（2'20"）** （映像ナレーション） 金沢市東部を流れる伏見川。サケの遡上もみられるこの豊かな川の水は、どこからくるのでしょう？川の上流、山科地区を訪れてみました。川のすぐ脇には、森林があります。 （森林組合の加藤さん）（児童）「この木にある木、なんの木かわかるかな」 「カキ、クリ、、、」「そういう木の実がなっているのは、地元の人は残したいんですよ。そういう木を残して、大きくするように考えています」 （映像ナレーション） 森には、木がたくさん。 （森林組合の加藤さん）「土は何でできているかといったら、葉っぱを落としてできて いるんです。葉っぱを落ちて、だんだん腐ってふかふかな地面になるんだけれど、そうすると、腐葉土になるんです。 こういう山の中に雨が降るから、飲み水になったり、田んぼの水とか、かんがい用水とかになって、、、」 （映像ナレーション） 木があることで、水が土の中に蓄えられ、ゆっくり川に流れていくのです。森林があることで、水の質にも、影響があるのかもしれませんね。けれども、今、伏見川の水源であるこの森も、問題を抱えているそうです。 （森林組合の加藤さん）（整備された竹林と荒れた竹林の比較映像など） 「森は荒れ放題。手入れがはいらないので、荒れた森が増えてきた。森に降った雨は田畑を潤すし、私たちの飲み水にもなるし、いろいろな利用ができるのだけれど、その山自体が荒れてしまったり、山崩れが起きてしまえば、そう	映像教材①の活用 伏見川上流で活動する、森林組合の人の話を聞くことで、伏見川と森林のつながりを再認識する

いった水源自体もダメに なるということなんですね」 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・ 森林組合の人はどんなことを言っていましたか？ ・ 森林を守ることは伏見川にとってどうして大切なのですか？ ・ 森林組合の人は、どんな気持ちを持っていると思いますか？	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める
（伏見川と暮らしや文化のつながりを考える） **映像教材②：伏見川の魚と金沢の人たちの暮らし（3'00"）** （映像ナレーション） 犀川と合流し、海へとつながる伏見川。犀川で魚をとり、金沢の人たちの暮らしと川のつながりをみつめてきた、金沢漁業組合の八田さんにお話を伺いました （金沢漁業組合の八田さん）「犀川のところに、（サケの）卵のランを並べて、そういう、ふ化場があったんです。２月半ばごろに孵化するかな。それに餌をずっとやって、３月の終わりごろに、4-5センチになったのかな。そういうのを放流しとったんです。だから、伏見川にも犀川にも10年ぐらい前にやったてんですけど、それが今でもあがってくる。やっぱり川がきれいでなかったら遡上してこない」 （映像ナレーション） きれいな川があるから、魚たちがもどってくる。 （金沢漁業組合の八田さん）「広葉樹のブナとか、そういう、大きい葉っぱの材木を育てないと、海が豊かにならない。栄養分を含むんでよね」 （映像ナレーション） 海に栄養豊かな水が流れてくるのは、上流に豊かな森林があるからなんですね。 （金沢漁業組合の八田さん）	映像教材②の活用 漁業組合の人から、川の水と森、金沢の人たちの暮らしのつながりについて聞く

「今日本全国の中で、金沢の、こういう都市のど真ん中でアユを釣れるような所はどこにもないんです。金沢ぐらいしかない」「アユの毛針釣り教室も、今年からやり始めました。金沢の伝統技術である加賀毛針という、そういうのを継承するためにも大切なことだと思ってやっているんです」「金沢で、伝統というか、昔からの釣り材っていたら、カジカゴリなんです。ゴリっていったら、石がこう、積み重なった、そういうところにしかすめないんですけれど、あの石で無理やりおしていくんです。で、あの下にいたゴリが、その中に入ると」 （映像ナレーション） 「ゴリ押し」という言葉は、ゴリをとる様子から、金沢で生まれた言葉なのだそうです （金沢漁業組合の八田さん）「川（が整備され）確かに便利になったが、便利と魚がすむことはまた違うし。今の子どもたちにとっては、じいちゃんらが、魚でアユ釣りしたとか、川で魚をとったとか、そういうことなんですよね。魚がいっぱいいる川にしたい。 ヤマメつったりとか、サクラマスをつったり、夏はアユですよね。ゴリがたくさんおるとか、 そういう、魚がたくさんいる川にしたい。そして、子どもたちがいつもたくさんきているような、そういう風景にしたいなと思いますね」 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・ 漁業組合の人はどんなことを言っていましたか？ ・ アユのことは？文化については？ ・ 森とのつながりについては？ ・ どんな川にしたいと言っていましたか？ ・	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める
（防災と自然を考える） **映像教材③：伏見川の昔と今（2'04"）**	映像教材③の活用 公民館で活動する地域の人から、伏見川の昔と今の違い、防災や生き物について話を聞き、伏見川を見るあらたな視座を得る

・公民館で活動する地域の人に、防災の観点から伏見川についての話を聞き、防災と自然を守ることについて考えるきっかけを得る

（映像ナレーション）

伏見川流域にある、三馬小学校。この地域で活動し伏見川を大切に思っている、

公民館の野村さんに、伏見川の昔と今について、お話を伺いました。

（公民館の野村さん）「昔の伏見川は今みたいにしっかりした護岸がなくて、大雨がふるとしょっちゅう氾濫していた。地元の人は、暴れ川だと。昭和49年に大きな洪水があって、500戸以上の家屋が床上床下浸水になって。このまま放っておいたら大変な事になったと。10年以上の長きに渡って、改修工事を行って現在の姿になったわけなんです」「昭和63年ですか。今の姿にきちっとなった。くねくねした水路じゃなくて、だいたい一直線にね。水の流れもスムーズになった。あれは川ではない、水路だっていう人がいます」

昔と今では、川の形も違うようですね

（公民館の野村さん）「サケがあがってくる。結構大きな、50センチくらいのサケが遡上してきています。それから、鳥も多いですね。やっぱり伏見川も、結構自然の状態が変わってきたかなと、私なりに思っています」「中洲も、洪水対策のためになくしました。野鳥には迷惑、カモの数も減ったかもしれないが洪水対策の一つですから、仕方のないことかなと」

（映像視聴後の問いかけや授業内容の整理）

- 昔の伏見川はどんなだったと言っていましたか？
- 防災のために、どんなことをしたのでしょう？それによって、伏見川はどんな風に変化しましたか？
- 今の伏見川は安全になりましたか？
- （防災マップなどの情報や、中洲工事の画像などを補足的に活用したりしながら）
- 自然や生き物への影響はどうでしょう？

【授業内容（例）】 45 分 x 2 授業（2）	
内容	**授業ポイント**
担任より、後半の授業内容の説明 （防災と自然を守ること、どちらが大切か考えてみよう） 前半の授業で見た映像から、防災と自然を守ることとどちらが大切か、その理由や、どちらも大切にするにはどうすれば良いか等を考え話し合い、考えを深める。みんながつくった「伏見川宣言」をあらためて見つめ直し、書き加えたいことや変えたいことはあるか、もっと知りたいことがあるかなど考え、次にどんなことができるかなどを話し合う。	授業導入～自らが話し考え、意見を共有するためのグループ分けを行う。また、全体共有による理解をより深め、気付きを与える
（授業まとめ） 授業内容の個人感想の発表、担任の先生による授業内容のまとめ	授業まとめ

③福井県

【授業の狙い】	
地域の里地里山と言われる地域の人々にとって馴染み深い中池見湿地は、世界でも有数の動植物の多様性が保たれている場所である。 ラムサール条約の登録地であり、生物多様性豊かな地域の魅力を改めて振り返ることにより、生徒自らが地域の自然を守るために出来ることを考える。	
【映像教材】	
映像教材①：生物多様性豊かな生物多様性 映像教材②：中池見湿地を守るために	
【授業の進め方】45 分 x 2コマ	
前半は、映像教材を活用して、中池見湿地は多様な生きものや植物が生息し、生物多様性豊かな世界でも貴重な湿地帯であることを知る。また、中池見湿地の環境を守るために保全活用を行う方々からのメッセージを通して、地域で行われている活動内容を知り、豊かな自然を未来へ残していく事の重要性を学ぶ授業とする。後半は、中池見湿地での具体的な活動内容を知ることにより、豊かな自然環境を守るために出来ること等をグループワークを通して話し合う場を設け、グループでの意見交換やクラス全体での意見の共有を行う。	
【授業内容（例）】	
内 容	**授業ポイント**
（オリエンテーション 1） 担任より、授業内容や授業の進め方の紹介	授業導入
（地域自然に対する認識の確認、これまでの学習内容のふりかえり等） ・地域の身近な川、海、山等、自然環境への知識や認識を確認する ・これら地域の自然環境とのふれ合いや自然体験、関わり等に関して確認する	・これまでの授業内容の振り返り ・地域の自然環境への生徒への現状認識の確認

（自然環境豊かな中池見湿地を知ろう） **映像教材①：中池見湿地の豊かな生物多様性（3'22"）** ・中池見湿地は、国定公園やラムサール条約登録地であり、多様な生きものの生息地であり、生物多様性の宝庫であることを映像を通して紹介する。 （映像ナレーション） 中池見湿地は、JR 敦賀駅から約 2ｋｍの市街地に隣接する広さ 25ha 程の湿地帯。60 種以上の絶滅危惧種を含め、およそ 3000 種が生きものが棲む貴重な場所です。2012 年に越前加賀海岸国定公園に編入され、同じ年の 7 月にはラムサール条約にも登録されました。 （テロップ）ラムサール条約登録地とは？ 湿地保存に関する国際条約。様々な国が協力し、湿地の生態系を守る目的で、条約締結国が 1971 年に制定。2014 年 12 月現在、締約国数 168 か国にのぼり、世界中で 2,186 ヶ所、日本国内でも 46 ヶ所が登録されている。 （NPO 法人　中池見ねっと　増田　茂さん） 中池見は標高が低く江戸時代から水田として開発されました。 色んな生き物がたくさんいる低層湿地という特徴があります。 水田耕作をすることによって、たくさんの生物がここで育ったということもあって、ラムサール条約にも登録されました。 水の関係している生き物、例えば、メダカやホトケドジョウ、幼虫時代を水の中で過ごすトンボがたくさんの種類がいて、72 種類は日本でも３本の指に入るぐらいトンボがいる特徴のある場所です。 （映像ナレーション） 春には、様々なカエルの鳴き声が響き、サワオグルマが一面に咲きほこります。夏にはミズトラノオやミズアオイなどが可憐な花を咲かせ、秋には、ノジコなど様々な渡り鳥が集まる中継地となり、四季折々の様々な表	映像教材①の活用 身近な中池見湿地が世界的にも価値ある生物多様性の宝庫であることを理解する。

情を見ることが出来ます。 中池見湿地は、もともと江戸時代に水田開発が行われ、ほぼ全域が水田だった場所。敦賀市内に現存した築およそ 100 年の伝統的な茅葺き農家を移築し、大切に残しています。 そして、中池見湿地は、世界屈指の厚さ40メートルにも及ぶ泥炭層堆積していることが確認され、約 10 万年の環境の変化が記録されています。このような泥炭層は世界的にもほとんど例がなく、学術的にもとても価値の高いものなのです。 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・・中池見湿地にはどんな生き物や植物が確認できたか？ ・・中池見湿地の魅力や素晴らしいところは何？ ・・どうして国定公園やラムサール条約登録地に指定されたか？ ・・水田にはどうして多くの生き物や植物が集まるのか？ ・・中池見湿地の魅力をもっといろいろな人に知ってもらうためには？	生物多様性が豊富な中池見湿地の場の理解、生息する様々な生きものへの関心を高め、自然豊かな湿地への理解や郷土愛を深める。
（中池見湿地を守る活動を知る） **映像教材②：中池見湿地を守るために（3'45"）** ・中池見湿地は、地域の様々な人の手が加わることにより、生物多様性豊かな場所が保たれていることを知る。 （映像ナレーション） 中池見湿地では、豊かな自然環境を守るため、様々な人たちが活動をしています。中池見ねっとの方々に話しを聞いてみましょう。 （中池見ねっと　高木　光夫さん） 江の掃除をすることで草木をとって、ナマズとかフナとかメダカとか動ける範囲が広くなって、江を浄化して、その繰り返しですね。荒らしておくと水生植物は邪魔になって活動できないから、繁殖もできないから段々と衰え	映像教材②の活用 中池見湿地での具体的な保全活動の内容、保全活動を行うことにより、生きものや植物、湿地帯にどんな影響をもたらすのかを理解する。

ていく。そして、川がきれいになっていくというのは、江の掃除が大事。それは昔から伝統的な農民の水を大事にする習慣。中池見ねっとでは一般公募して一斉に、市のボランティア、企業、銀行、一般市民等を交えて、年に２回程、場所を区切って４ヶ所ある江の掃除をしている。ボランティア活動で皆に手伝ってもらい湿地を守っていきたい。 （NPO 法人　中池見ねっと　上野山　雅子さん） 一面昔は水田だったんですけど、そこが放置されたことで、ヨシ原になってしまった。そこを一部田んぼに戻す試みをした。30 年位ヨシ原だった場所を昔のやり方であぜをつくり田んぼをおこし、もちろん農薬も使わない昔のやり方で復元した。すると昔は普通にいたが今はすっかり消えてしまった、絶滅したのかなって思っていたミズオオバコという花やヤナギスブタという可愛い花が出てきた。埋土種子という土の中に植物のタネがあることを聞いていたが、田んぼに戻したことで根付いてくれたという喜びがあった。人間の営み、草取りとかそういうのも含め、それによって出て来られる植物がいるということがわかった。稲を育てるためにやっている行為ではあるが、稲だけでなく今は希少になってしまった絶滅危惧種も稲と一緒に育っている生き物たちも一杯いることがわかった。 （テロップ） 中池見湿地の環境を守るためにできることを考えてみよう。 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・保全活動を行う方々を見て感じたことは？ ・・ボランティア活動は環境保全にどの様な影響をもたらすか？ ・・保全活動を行う方々がいなかったら湿地はどうなっていたか？ ・・昔ながらの自然環境を守るためにはどの様なことをすれば良いか？ ・・以前から生息する動植物と人が共存するために重要なことは？	保全活動を通して、中池見湿地にもたらす具体的な効果や生きものや植物への影響を理解し、人と生きものとの共存やその重要性について考える。
内　容	**授業内容ポイント**
担任より、後半の授業内容の説明	授業導入

（世界的にも貴重な中池見湿地を守るために考えよう） 前半の授業で学び、意見を共有した中池見湿地の魅力や、保全活動の重要性への理解をより深め共有し、具体的なアクションを考えるためのグループワークを行う。 4～6 名程度のグループ分けを行い、グループ内での出た意見は、グループ内外での共有を目的として、グリープ内に書記係を選出し、付箋や模造紙等への記録を行う。 グループディスカッションのテーマ例 Q1：中池見湿地のここがスゴイ！その価値を再認識しよう。 Q2：再認識した魅力を県外の人に伝えるために、キャチコピーを考えよう。 Q3：中池見湿地を守るために自分はこんな事をしたい！します！を宣言しよう。 等 グループディスカッションを通して、上記例のテーマ等をグループ内で話しあった内容は、グループ別にまとめの発表を行い、クラス全体での共有を行う	自らが話し考え、意見を共有するためのグループ分けを行う グループ内での議論やアイディアを深め、ディスカッション内容は、全体共有を行う。 中池見湿地が地域の誇りであり、地域に対する愛着や郷土愛を育む。
（授業まとめ） 授業内容の個人感想の発表、担任の先生による授業内容のまとめ	授業全体まとめ

④長野

【授業の狙い】	
自分が住む地域の水源地や川を映像を通して振り返ることにより、自然環境の価値や再認識する。また、森林の機能を理解することにより、人が暮らすためには欠かせないものであり、自然環境保全の重要性や人間も自然や生態系の一部であることへの理解を深める。	
【映像教材】	
映像教材①：地域の水源地へ行ってみよう 映像教材②：森の機能を知ろう	
【授業の進め方】45 分×1 コマ	
前半は、水源や森等の地域の自然環境にフォーカスした映像教材を視聴しその価値や理解を深める。 後半は、こうした自然環境や森を守りるためにできること、自らが考え話し合うことを目的としてグループワークを実施し様々な意見の共有を行う。	
【授業内容（例）】	
内 容	**授業内容ポイント**
（オリエンテーション 1） 担任より、授業内容や授業の進め方の紹介	授業導入

（地域自然に対する認識の確認、これまでの学習内容のふりかえり等） ・地域の身近な川、海、山等、自然環境への知識や認識を確認する ・これら地域の自然環境とのふれ合いや自然体験、関わり等に関して確認する	・これまでの授業内容の振り返り ・地域の自然環境への生徒への現状認識の確認
（地域の水源地を知る） **映像教材①：水源地をたずねる（2'08"）** ・四賀地区の水源地（金山水源地）や金山沢、保福寺川、会田川等の紹介 （映像ナレーション） 長野県の中央部にある松本市、その北東部に位置する四賀地区は、山々に囲まれ、春先には数十万株もの福寿草が咲く自然の恵み溢れる地域です。さて、この地域で私たちが普段利用し、生きていくために欠かせない水はどこから来るのでしょう？今日は、その水源地を訪ねてみましょう。 松本駅から車で約 30 分の金山町。山道を登っていくと・・・岩肌からは水が流れて、小さな沢が出来ています。この岩の奥の水を利用しているのがここ金山第一・第二水源地。今日は特別に水源施設の中を見せてもらいました。この 2 つの水源地から 1 日約 1,300t の水が浄水場に流れていきます。こうした自然の恵みによって生まれた水を私たちが利用しているのです。 そして、この水源地を起点として、四賀地区内に流れる、保福寺川と会田川。ずっと昔から、2 つの川は、私たちが暮らしていくための治水機能として、また生きものや植物の生息地としての環境を提供しています。	映像教材①の活用 普段は訪れることが出来ない地域の水源地を映像教材を通して視聴し、地域の川が地域にもたらす様々な恵みを理解する。
（映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・普段飲んでいる水道水はどこから来るか？ ・降った雨が私たちが飲料水として利用できるまでの経路の整理	自然豊かな水源地や地域を流れる川の価値を理解し、それら自然環境が人の暮らしとの結

・地域の川とはどんな関わり方をしているか？ ・川にはどんな機能があるのか理解できたか？ ・地域の川が汚染されていたらどうなるか？	びつきや川の機能への理解を深める。
（森の機能を知る） **映像教材②：森の機能を学ぶ（1'26"）** ・森や土が水を蓄え災害から私たちを守り、動植物も棲息し美味しい水が飲めること等を学ぶ （映像ナレーション） 森の木々は酸素をつくったり、二酸化炭素を吸収して酸素を作り出したり、空気をきれいする機能も持っています。また、雨を、森の中の土がたくわえることによって、洪水などが起こることを防いでいます。 もちろん、森はたくさんの生きもののすみかになっています。森の落ち葉などが腐って積み重なり、小さな虫や微生物が、それを耕したり掘ったりすることで、やわらかい土になって、土に染み込んだ水は、ミネラル豊富な美味しい水になるのです。 私たち人間やたくさんの生きものや植物が生きていくために必要な水があるのは、豊かな森があるからなのです。	映像教材②の活用 地域周辺を取り囲む森の機能を知り、様々な機能を保有していることを知る。
（映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・森の機能の確認 ・山に森がなかったり荒れていたらどうなるか？ ・降った雨が飲み水として利用できるまでの経路を改めて整理する ・人間にとって森はどんな存在か？	森の機能への理解を深め、こうした地域の森や山の自然の恵み、人との暮らしとの関係性について考える。
（授業まとめ） 授業全体の感想、映像教材を見て感じたこと等の共有～担任まとめ	授業まとめ
内　容	**授業内容ポイント**
担任より、後半の授業内容の説明	授業導入

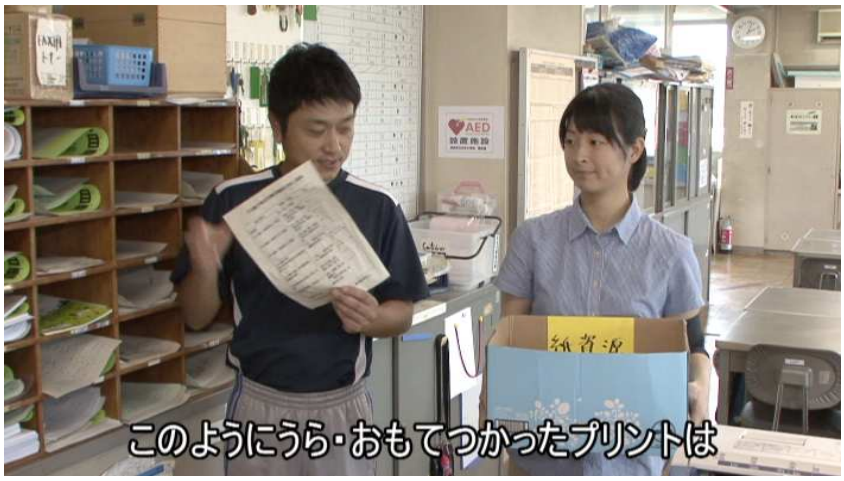
（地域の豊かな森と水を守るために出来ることを考え共有しよう） 映像教材を見て、豊かな森やきれいな水を守るために、出来ること等をグループで話し合い、全員で共有する 4～6 名程度のグループ分けを行い、グループ内での出た意見は、グループ内外での共有を目的として、グリープ内に書記係を選出し、付箋や模造紙等への記録を行う。 グループディスカッションのテーマ例 Q1：地域の森や水源地をどうしたいか？ Q2：今の自然豊かな環境を守るために出来ることは？ Q3：授業を通して周りの人にどんなことを伝えたいか？ 等 グループディスカッションを通して、上記例のテーマ等をグループ内で話しあった内容は、グループ別にまとめの発表を行い、クラス全体での共有を行う	自らが話し考え、意見を共有するためのグループ分けを行う 全体共有による理解をより深め、地域の川や森を将来どうしたいか？自らが出来ることを考え共有する。
（授業まとめ） 授業内容の個人感想の発表、担任の先生による授業内容のまとめ	授業全体まとめ

⑤岐阜県

【授業の狙い】 小学校 5 年生・総合学習	
これまで（授業、夏休みなど）に取り組んだ、児童ひとり一人の省エネ活動を振り返り、多様な省エネ活動を共有し、自分、家族、学校、地域で「ずっと取り組む」意欲を育む	
【映像教材】 授業の進行プランにあわせて、以下 4 本より選択 （1 時限あたり 1-2 本ほどを選んで深めるとよい）	
映像教材①：学校で使う電気 映像教材②：太陽光パネル 映像教材③：紙のリサイクル 映像教材④：食	
【授業の進め方】 45 分 x 2	
前半は、これまでに自分たちが取り組んできた省エネ活動（例：夏休みの課題として取り組んできた、家庭での省エネ活動）を振り返り、クラスのみんなと共有して、多様な省エネの取り組みがあることを知る。 後半は、学校を舞台とした映像をみながら、なぜすべてのことが必ずしも省エネ・エコ中心に決められているわけではないのか、など、省エネ・エコについてさらに考えを深めていく。	
【授業内容（例）】	
内 容	**授業内容ポイント**
（前半：これまでの活動成果の発表と共有） みんながこれまで取り組んできた省エネ活動について、報告。（夏休みの研究課題の発表、などなど。グループ、あるいはクラス全体で）→省エネについて取り	・これまでの授業内容の振り返り ・省エネ活動に取り組んできたことを実感すると同時に、取り組み

組んだこと、発見、学んだことについてクラスのみんなと発表し、多様な取り組みがあることに気付く。自分たちがたくさん学び、実践してきたことに改めて気づき、取り組む動機を高める。	の多様性について知り、動機を高める。
（後半：映像をみながら、省エネ・エコについてさらに考える） では、学校ではどんな省エネ・エコができるだろう？ 映像をみながら、みんなで考えてみましょう。 **映像教材①：学校で使う電気（1'46"）** ・小学校の教室で、先生が行っている省エネを紹介 （映像とセリフ） 先生１）「みなさん、こんにちは。みんな、省エネ、ちゃんとやっているかな。先生たちも毎日、省エネをちゃんとやっているんだよ。気づいた？ そう。こんな風に、みんなが家庭科室や理科室に行っている間には、こんな風に、省エネをして工夫しているんだよ。でも、学校には他にも、電気を使うところはたくさんあるよね」（エアコン、照明など、学校で電気をつかっているものについての映像の紹介） 先生２）「先生、質問！学校では、どれくらいのエネルギーを使っているのですか？」 先生１）「どれくらいのエネルギーを使っているのだろうねえ？」	映像教材①の活用 学校では電気が使われているところがたくさんあり、普段行われている省エネ活動を改めて知り、電気が限りあるエネルギーであることを気付かせる。
（映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・映像の中で、先生はどんなことをしていた？ ・学校の中では、どれくらいエネルギーを使っていると思う？（一般家庭の電気使用量のデータなどを見せて、予想させる） ・実際の使用量をみて、多いと思う？仕方ないと思う？ ・学校で使うエネルギーにはどんなのがあるかな？ ・どんなことをしたら、学校で、省エネができると思う？ （昨年と今年の実際の使用量の比較データ（季節の変化など）を見せ考えるヒントを与える。学校で省エネ活動をしている場合、それがどんな風に	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りや、実際のデータを提示しながら、対話を通じて、考えを深めていく

影響があったかな、もっとできることはあるのかな等の問いかけ等）	
（太陽光パネルについて考える） **映像教材②：太陽光パネル（0'52"）** 学校でも、地球のことを考えたエネルギーの活用をしているんだよ。知っているかな・・・。この映像をみてみましょう。 （映像とセリフ） 先生１）「みんな、学校にも太陽光パネルがあるって、知ってるかな？ 実は最近は学校でも、積極的に、再生可能エネルギーを使うようになっているんだ。考えてごらん。みんながクラス地域にも、太陽光ｐ萎えるがふえてきているんじゃないかな」（まちの中の太陽光パネルの映像） 先生２－３）「ねえ、先生、どうして？？」「教えて？」 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・学校に太陽光パネルがあることに気づいていた？ ・まちの中では見たことある？ ・どうして、太陽光パネルが増えているのだろう？ ・太陽光パネルがエコなのはどうして？ ・再生可能エネルギーには、他に、どんなものがある？ ・再生可能エネルギーを増やしたい？もっと増やせそう？ そのためには、どうすればいいと思う？	映像教材②の活用 学校や地域にも太陽光パネルが設置されているということに気づき、その理由について考えるきっかけを与える。 映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める

（学校で使う紙について） **映像教材③：紙のリサイクル（0'53"）**  （映像とセリフ）職員室などの風景 先生１、２）「学校では、たくさんの紙を使っているよ」 「紙を無駄遣いしないために、先生たちの会議では、裏紙を使うこともあるよ」 「このように、裏・表使ったプリントは、紙資源ボックスにいれるよ。そして、新しい紙ができるんだ。ほらこの教科書も再生しでできているよ」 「あれ、でも学校で使う紙って、全部がエコなのかな？」	映像教材③の活用 学校では紙のリサイクルを進めているけれど、学校で使う紙は、すべてエコに配慮している言えるのか、考えるきっかけを提供する
（食とエコについて） **映像教材④：食（2'52"）** （映像とセリフ） 先生１、２）「よおし、今日も美味しくお弁当を食べようっと」 「あ、もしかしてそのお弁当は」「そう」「地産地消弁当～」 「そう、これは、羽島でとれたお米、こっちはグラタンとサラダ。このお野菜は大野先生のお家でとれたお野菜をつくっているよ。それからこれは、郡上市産のハムを使ったハムカツ」	映像教材④の活用 学校給食でも出されている「地産地消」の献立をきっかけに、食からエコを考えるきっかけを提供する

「ああ、もしかしてこのたまご焼きは羽島でとれたたまごを使ったの？」「その通り。買い物にいくときも、表示をしっかりみて買っているよ」 「そういえば、学校でも、地産地消の献立があったっけなあ」 羽島給食センター：栄養士さん）「羽島市の学校では、地産地消の献立を給食に出しています。実際に出している地産地消の献立には、岐阜産の食材は、主食の麦ご飯に使われているお米をはじめ、本巣市根尾川のニジマス、岐阜市のエダマメ、羽島市のトウガン、白川町のお茶、岐阜県産の牛の乳からつくられた牛乳があります。また、羽島市ではジュウロクササゲ、玉ねぎ、アスパラガス、大根、レンコン、ブロッコリーなど、地元でつくられている食材を給食に使っています。作っている人の顔がわかり、想いを直接聞くことができるため、安心して使うことができています。地産地消の食材は、畑でしゅうかくしたものをすぐに使えるため、鮮度が良く、美味しく食べることができています。地元の食材は、旬の食べものなので、栄養価が高く、皆さんの健康なからだづくりにとてもよいものばかりです。 給食に羽島市の食材をとりいれることで、皆さんに羽島市がわかり、羽島市がとても素晴らしいところなのだと気付いて欲しいと思っています」 先生１－２）「とっても勉強になったね」 「うーん。でもだったらなんで、毎日地産地消のメニューがでないの？」 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・地産地消の献立にはどんなものがある？ ・地産地消の食材をつかうと、どうしていい？ ・地産地消の給食が毎日でない理由は？ ・食をエコに楽しむために、地産地消のほかに、どんなことができるかな？	
（授業まとめ） 授業全体の感想、映像教材を見て感じたこと等の共有～担任まとめ	授業全体まとめ

⑥愛知県

【授業の狙い】
生き物と季節の関係について、児童たちにとって身近な節前干潟と堀川を題材に、生き物が季節に適応してどう生息するかを、観察結果と映像教材を活用しながら考えていく。
【映像教材】
映像教材①：生き物と季節の変化 －藤前干潟- 映像教材②：堀川で生き物を観察しよう

【授業の進め方】	
前半は、これまで行ってきた、藤前干潟や堀川での生き物の観察について振り返り、それぞれの環境でどんな生き物が見えるか、環境や季節の違いによって、みつかる生き物に違いがあるかなどを、映像教材を参考に話し合う。後半は、フィールド（堀川）に出かけ、実際に生き物を観察したのち、教室に戻り、生き物がみれたのはなぜか、みれなかったのはなぜかなどを話し合い、また、生き物がいる堀川にするためにどうしたいかなどを話し合う。	
【授業内容（例）】 45 分 x 2 **授業（1）**	
内 容	**授業内容ポイント**
（オリエンテーション 1） 担任より、授業内容や授業の進め方の紹介	授業導入
（これまでの学習内容のふりかえり等） ・ これまで藤前干潟や堀川で生き物を観察してきたことを振り返り、場所や季節が違うと、生き物にはどんな違いがあるか考えてみる	・これまでの授業内容の振り返り ・ 藤前干潟と堀川を題材に検討
（藤前干潟） **映像教材①：生き物と季節の変化 –藤前干潟-（1'57"）** ・藤前干潟という場所や、そこでみつかる生き物について紹介 （映像ナレーション） ここは、愛知県名古屋市にある、藤前干潟。 ここにも、たくさんの生き物たちが暮らしています。季節や干潟の環境が変わると、見られる生き物たちも変わってきます。 藤前干潟は、どんな場所でしたか？みんながを訪れたのは、いつ、どんな季節だったでしょう？そこでは、どんな生き物が見つかりましたか？	映像教材①の活用 藤前干潟の様子やそこでみられる生き物について映像をみて振り返る
（映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・季節や干潟の変化とともに、生き物たちの暮らしも変化することを学びましたね ・例えば、どんな生き物が紹介されていましたか？ ・藤前干潟の観察会で、どんな生き物が見つかったでしょう？	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める

・みんなが観察してきたカニは？ ・季節によって、見られる生き物は変わりますか？それはなぜでしょう？ ・堀川と藤前干潟とで見られるいきものはどう違うでしょうか？	
（堀川） **映像教材②：堀川で生き物を観察しよう（1'57"）** （映像ナレーション） ここは、名古屋市を流れる、堀川。この堀川は、今からおよそ 400 年も昔、名古屋城を作る時に、その材料を運ぶためにつくられた人工の川です。 都会の真ん中を流れるこの堀川には、生き物たちは棲んでいるのでしょうか？実際に、水の中をのぞいてみましょう。 ちょっと水が汚れていて何も居ないようだけど…でもそんなことはないんだよ。実はこんな生きものたちが川のまわりに棲んでいます。 川面には魚が飛びはねましたね。あ、カニがこんなとこに！、川沿いに元気よく暮らしていますね。 季節や周りの環境が変わると、堀川に暮らす生き物たちも変わるのでしょうか・・・。 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・堀川はどんな川ですか？ ・藤前干潟と比べてみると、違いは？ ・堀川にはどんな生き物がいましたか？ ・藤前干潟と、みられる生き物が違うのはどうしてでしょう？ ・季節によって、堀川でみられる生き物には違いがあると思いますか？	映像教材②の活用 堀川とそこでみられる生き物について紹介し、藤前干潟との比較につなげる 映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより理解を深める
（授業まとめ） 授業全体の感想、映像教材を見て感じたこと等の共有～担任まとめ	授業まとめ
【授業内容（例）】 45 分 x 2 **授業（2）**	
内　容	**授業内容ポイント**

実際に堀川に行ってみて、生き物を観察する。 また、これまでの調査結果や映像でみたことを比較して、季節や環境によって生き物がどう変わるかについて話し合う （フィールドワーク） ・これまで観察してきた生き物（カニなど）を探ってみる （教室に戻っての振り返り） ・みつかった／みつからなかったのはなぜでしょう？ ・将来、堀川をどんな川にしたいと思いますか？	フィールドワークと教室に戻っての振り返り、話し合い
（授業まとめ） 授業内容の個人感想の発表、担任の先生による授業内容のまとめ	従業全体まとめ

⑧三重県

【授業の狙い】	
地域を流れる身近な川を題材に、上流から下流までの川や周辺の環境、それぞれの場所に生息する生きものを改めて自らが確認することや、川が持つ機能や人間の暮らしとの関わりを再認識する。 また、川の環境や景観、川の周りに生息する生きものたちを守るため、地域で活動する方のコメントを聞き、気付いたころ、自分自身で出来ることを自らが考える。	
【映像教材】	
映像教材①：上流・中流・下流の川の環境や生息する生きものを知る 映像教材②：人の暮らしと関わる川の機能を学ぶ 映像橋座③：地域で行われている川の保全活動を知る	
【授業の進め方】45 分×1 コマ	
これまでの生きもの観察等を通して、川の上流・中流・下流に生息する生きものや川周辺の環境、整備状況等を共有し、映像教材の視聴により、その理解を深める。さらに、映像教材により、川が人の暮らしにもたらす機能や価値を知り、川が整備されることを人や生きものの視点から考える。 また、地域で川の保全活動を行う人のメッセージ映像を視聴し、人の手が加わり美しい景観や生きものが棲みやすい環境が維持されていることを知り、自ら出来ることを考える。	
【授業内容（例）】	
内　容	**授業内容ポイント**
（オリエンテーション 1） 担任より、授業内容や授業の進め方の紹介	授業導入
（これまでの自然観察、生きもの観察を通して学んだことのふりかえり等） ・観察を通して、地域の川にはどんな生きものが生息していたか、上流・中流・下流で生息する生きものや川の環境の違いを確認する。 ・普段見慣れた川が、人に対して、どの様な機能や安全な暮らしを提供しているかを考える。	これまでの授業内容の振り返り 地域の自然環境への生徒への現状認識の確認

（上流～下流までの川の環境や生息する生きもの） **映像教材①：上流・中流・下流の川の環境や生息する生きものを知る（1'53"）** ・嘉例川の自然豊かな環境が残る上流から、大型スーパーや建ち、車の往来が多い下流まで、川の環境や生息している生きものの違いを知る。 （映像ナレーション） 三重県桑名市の西側を南北に流れる嘉例川。上流はたくさんの木に囲まれた静かで自然豊かな場所です。 上流の水の中を覗いてみると・・（カワムツの水中映像） 近くの沢に網を入れてみると、希少生物のホトケドジョウもこんなにたくさん見つかりました。 上流から少し中流に下ってみると、川の周りに建物が増えてきて、川の様子も変わってきました。川の中を覗いてみると・・（濁った水中映像） 嘉例川の下流です。大型スーパーがあります。電車も走っています。 あっ、カニが一匹います。でも川の様子が上流と少し違っています。 嘉例川の上流・中流・下流を取り巻く環境や、生息している生きものたち。それぞれに特徴がありますね。	映像教材①の活用 既に見慣れた景観や川の環境を映像を通して再確認し、新たな発見やこれまでの地域への認識や理解を深める。
（映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・自然観察と映像教材で確認出来た、川に生息する生きものは何か？ ・上流～下流まで、川の環境にどんな違いがあったか？ ・上流～下流まで、生息する生きものにはどんな違いがあったか？ ・家の近所の他の川と比べて感じたことは？	映像教材内容の理解内容の確認、振り返りにより上流・中流・下流の川の環境や生息する生きものの違い等への理解を深める

（森の機能） **映像教材②：人の暮らしと関わる川の機能を学ぶ（0'47"）** ・川は、人の暮らしにとって防災面等での貢献やたくさんの生きものの生息場所を提供していることを知る。 （映像ナレーション） 嘉例川の中流や下流には、川の両岸や川の底や両側がコンクリートやブロックで整備され、三面張りや水路の様になっている場所があります。 人間は日々の暮らしや産業に川の水を利用するために、また、雨水を安全に海まで流すために川の環境に手を加えています。 人間が手を加えた川や川の周りで、生きものはどの様に暮らしているのでしょうか。	映像教材②の活用 映像教材を通して、身近な川が人の暮らしのどんな機能をもたらすのかを理解する。
（映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・森にはどの様な機能があったか？ ・上流～下流までの川の環境の違いは？ ・川の水が汚れていたりゴミがたくさん落ちていたらどうなるか？ （人や生きものの立場から考えてみる） ・生きものが全ていなくなってしまったらどうなるか？ ・人間にとって川はどんな存在か？	映像教材内容の理解や、内容の確認、振り返りにより理解を深める
（地域での保全活動） **映像教材③：地域で行われている川の保全活動を知る（1'53"）** ・地域の川は、人の手によって美しい景観が維持され、たくさんの生きものの生息する環境が保たれていることを知る。	映像教材③の活用 普段はあまり接する機会がない地域で川の保全活動を進める方のメッセージを視聴し、保全の重要性等を考える。

 （映像ナレーション） 豊かな自然が残り多くの生きものが生息する嘉例川は、地域の人の想いと活動によって、その美しさや生きものが生息する環境が守られています。地域で嘉例川の保全活動を進める方のお話を聞いてみましょう。 （嘉例川土地改良区 理事長 伊藤 直枝さん） Q：嘉例川を守るきっかけや保全活動の内容を教えて下さい。 平成 12 年 土地改良の事業が始まる前の環境調査で色々な生きものを調べましたが、桑名市の指定天然記念物であるヒメタイコウチや、希少生物のホトケドジョウが生息していることがわかり、地域全体で守ろうと保存会をつくり活動を継続しています。 Q：嘉例川をどの様な川にしてしていきたいですか？ ここの道を車で通った人たちが、川を眺めて自然にひかれて訪れたり、この奥には何かがあるかなって思ってもらえるような景観をつくりました。この自然の環境を末代までつなげていきたいと考えています。 子どもたちに学んで欲しいのは、ここに生息する生きものが、これからも生きつづけるために、私たちに何ができるんろうということです。 （映像視聴後の問いかけや授業内容の整理） ・地域の川をこれからどうしていきたいか？、どうなって欲しいか？ ・自分でも出来ることは何か？ ・保全活動を行う人がいなかったらどうなるか？ ・明日から出来ることをみんなで話し合う	映像教材のメッセージ内容を理解し、自分たちでできること、保全の重要性、感じた事などの共有を行い、具体的なアクションを考える。
（授業まとめ） 授業内容の個人感想の発表、担任の先生による授業内容のまとめ	全体共有による理解をより深め、気付きを与える

3．評価検証に関して

本年度の取組みとして、形成推進委員会においても評価についての議論を行い、実証授業終了後の評価を明確に行うために、KPI（重要業績評価指標）法を参考に用いて指標の設定を試みた。形成推進委員会では、評価についてはそれぞれの地域で議論することが必要とされ、各 WG にてそれらを深めた議論を行うことはできなかったが、「児童・生徒の探求心」や昨年度実施校などでの「ESD 授業の継続」、「活動の継続」と言った指標を見ることによって評価を行っていく事ができるのではといった意見を頂くことができた。

これらより指標のカテゴリとして、教育プログラム制作のプロセス・授業の実施状況・来年度以降の継続、展開の大きく 3 分野を設定した。また、それぞれのカテゴリにおける指標項目として、以下の通り、KPI 項目を設定してみた。

カテゴリーⅠ：プログラム制作プロセス	KPI 1：授業目的や内容の共有 KPI 2：ステークホルダーの関わり KPI 3：これまでの授業との関連性
カテゴリーⅡ：授業の実施	KPI 4：児童・生徒の授業実施後の意識の変化 KPI 5：実施校教師の変化 KPI 6：学校教育と家庭教育との連携 KPI 7：実施地域での浸透 KPI 8：映像教材の活用度合い
カテゴリーⅢ：今後の展開	KPI 9：次年度以降の継続性 KPI 10：プログラムの発展性

今回は、上記 KPI 項目を適用した数値設定を以下の通り、4 段階で設定し、石川県における実証を通して、評価検証を行なった。

定量評価設定

KPI 1：授業目的や内容の共有（目的が全員に共有され、それに基づく教育プログラムが作成されたか）

3：WG メンバーや学校関係者等の関係者に、全てのプロセスにおいて適宜共有が行われ、合意のもとでプログラムを作成した

2：作成プロセスや内容によっては限定的となったが、結果的に共有を行い概ねの合意のもとでプログラムを作成した

1：関係者への共有は一部にとどまりプログラムを作成した

0：関係者への共有は全く行われずプログラムを作成した

KPI 2：ステークホルダーの関わり（作成において、各ステークホルダーの積極的な参画がつくれたか）

3：プログラム作成において WG メンバーや学校関係者等ステークホルダーは、全てのプロセスで積極的な関与があった

2：プログラム作成における一部のプロセスで、関与できないこともあった

1：プログラム作成において、関与は一部に留まった
0：プログラム作成において、関与が全くなかった

KPI 3：これまでの授業との関連性（学校の授業内容や地域での取組みとの関連性がもたせられたか）

3：前年度や今年度等、これまでの学習内容や地域での取組みとの関連性が十分に配慮され、発展性についても配慮されたプログラム内容であった
2：これまでの学習内容や地域での取組みと概ね関連するプログラム内容であった
1：これまでの学習内容や地域での取組みとの関連性は一部に留まった
0：これまでの学習内容や地域での取組みとほとんど関連する内容ではなく工夫調整を要した

KPI 4：児童・生徒の授業実施後の意識の変化（授業を実施により意識の変化があったか）

3：授業実施後、児童や生徒に意識の変化が明確にあった
2：意識の変化も見られたが、明確に変化があったとは言い切れない
1：意識の変化は一部に留まった
0：意識の変化が全く見られなかった

KPI 5：実施校教師の変化（授業を実施により、教師の意識変化やスキル向上等があったか）

3：教師に明確な意識の変化があった
2：意識の変化も見られたが、明確に変化があったとは言い切れない
1：意識の変化はあまり見られなかった
0：意識の変化が全く見られなかった

KPI 6：学校教育と家庭教育との連携（父兄や地域を巻き込んだ教育が実施できたか）

3：プログラム作成、授業実施、学習発表会等において、学校教育と家庭教育とが充分に連携できた
2：連携すること前提に進められたが、事情により実施されなかった、または、実施において改善や工夫の余地があった
1：連携は一部のプロセスに留まった
0：全く連携することができなかった

KPI 7：実施地域での浸透（ESD や各取組み内容の認知度や理解が深まったか）

3：本取組みが地域における教育現場以外で浸透し認知度も高まった
2：学校現場以外にも浸透できたが、より改善し認知度を固める必要が求められる
1：学校現場以外では、父兄の一部等、浸透は限定的であった
0：学校現場以外での浸透は全くなかった

KPI 8：映像教材の活用度合い（教育プログラムの中で映像が有効に活用されたか）

3：学校現場において映像教材が効果的に活用された
2：概ね効果的に活用されたが、より効果的な活用方法も工夫の余地があった

1：効果的な活用があまりされず、その効果も限定的であった
0：効果的に活用されず、その効果も活かされなかった

KPI 9：次年度以降の継続性（作成したプログラムを来年度以降も活用し継続することが出来るか？）
3：次年度以降も継続して活用することが可能であり、工夫することでより進化される事が可能である
2：活用することが可能である
1：活用することが出来るが、実施に際してはかなりの工夫を要する
0：プログラム内容等や実施方法等、来年度以降の活用が難しい

KPI 10：プログラムの発展性（他校でプログラムが活用されたり、他地域で活用できるものであったか）
3：次年度以降、他校でも活用することが可能で、カスタマイズすることでより発展した活用が可能である
2：他学校でも活用が可能である
1：活用することは出来るが、他校での活用には工夫を要する
0：実施校以外での活用は難しい

［今年度の石川県での事業に対する KPI 評価検証～4 段階の定量評価と定性コメント］

カテゴリーⅠ：プログラム制作プロセス
KPI 1：3 **授業目的や内容の共有** 伏見川を題材としたプログラムということで、実施授業でフォーカスしたいことを絞り込むための検討に時間を要したが、指導教員が関係各者と相談し、映像教材の活用とその先に目指したい成果を明らかにしていった。そのプロセスは、メールや電話などを通じて、ワーキンググループのメンバーにも共有され、授業の質の向上に結びつく意見が交換された。
KPI 2：3 **ステークホルダーの関わり** 児童が日常的に接している「三馬っ子見守り隊」のメンバーである、地域の方（公民館の方）や、フィールド学習の指導にあたった森林組合の方、漁業組合の方など、伏見川に関心を寄せるステークホルダーの方々の協力のもと映像教材が作成された。実施授業のあと、児童がさらに学習を深めたいとき、これらの人たちのもとを実際に訪れて尋ねてみるなど、さらなる学習の発展につながる可能性が広がった。映像に出演くださった方々も、小学校の授業づくりに協力することに積極的な対応をしめしてくださった。
KPI 3：2 **これまでの授業との関連性** 小学校の近くを流れる伏見川は、この学校の児童にとって馴染みの深いものであり、本プログラムの実施にあたっては、これまで学習してきたことが伏見川を大切にすることにつながっていると実感を得られるように工夫された。これにあたっては、学校側や、これまでの授業づくりに携わってきたワーキンググループメンバーの専門家の意見が役立った。
カテゴリーⅡ：授業の実施

KPI 4：3 **児童・生徒の授業実施後の意識の変化** 伏見川について、これまで知らなかったこと（洪水があったことなど）を学び、防災と自然を守ることには相反するようなこともあるけれど、どちらにも大切な意味があるということを深く考え、話し合いを通じて、悩みがさらに深まった（いろいろな情報や意見に触れることで、考えが変わってくるということを体験した）。伏見川への関心が深化した。
KPI 5：3 **実施校教師の変化** 授業の実施にあたり、他校の実践を見学したり、校長先生や他クラスの教師の協力を得て事前のリハーサルを入念に行うなど、熱意を持って取り組み、よりよい授業づくりに熱心に取り組んだ。結果、意識的にも技術的にも大きな向上がみられた。
KPI 6：2 **学校教育と家庭教育との連携（父兄や地域を巻き込んだ教育が実施できたか？）** 実施授業にあたっては、家庭内学習との連携等は行わなかったが、もともと、この小学校では、地域の人たちの協力を得ながら授業を行っていることもあり、このプログラムがあることで、さらに地域とのつながりが深まることが期待される。アンケート結果では、全ての保護者回答者が本授業の取組みを家族で話したと回答しており、取組み自体の目的は達成されたと考えられる。 また、反転学習や映像を家庭で視聴し、家の人たちの意見を聞くことも考えられる。
KPI 7：2 **実施地域での浸透** 実施校はユネスコスクールであることもあり、学校として ESD についての理解はあったが、若い担任教師が、今回の実施事業を通じて、ESD について体感的に習得し、ESD の推進に関心を持つことにつながった。若い先生方には大きな可能性があり、子どもたちと共に成長する様子が伺えたとのアンケート結果も頂くことができた。
KPI 8：3 **映像教材の活用度合い** 伏見川について自分たちの思いをまとめた「伏見川宣言」をつくったが、地域の人たちはどう思うだろうかと、ほかの人たちの視点に意識を向けるにあたり、効果的に活用された。 上流、中流、下流から、森林保全、防災と地域、漁業といった観点から伏見川に関わる人たちの間に、共通や異なる意見があることを知ったことは、児童が伏見川に対する見方をさらに広げるにあたって効果的であった。映像では、昔の伏見川（自然豊か、洪水など）の様子も紹介され、現在の様子と比較して紹介されるなど、伏見川について印象的な情報提示がなされた。
カテゴリーⅢ：今後の展開
KPI 9：3 **次年度以降の継続性** 実施校では、伏見川について継続的に学習を続けており、今後も学内での活用が期待される。
KPI 10：3 **プログラムの発展性**

実際に他のクラスでも活用するなど、応用については確認されている。今後は、授業の中での用い方を変えるなど、カスタマイズした活用も予想される。

今回、石川県における実証例を基に KPI 法を参考とした評価検証を試みた。しかし、関係者の理解度などについてはアンケートなどでの正確な把握を行うことができず、4 段階での評価を行ったのみとなった。来年度は、WG におけるプログラムの地域化を進めるうえで、上記評価項目についてもさらに検討を進め、数値的な設定方法や戦略目標の立て方などの改善を行った上で、こうした KPI を意識し、実証を検証しながら進めることが必要である。

4. 周知啓発事業の実施

本事業と ESD の周知、ESD プログラムを授業実施した報告・評価のための報告会(発表会)を以下の通り行った。

(1)各県周知啓発事業概要

	地 域	名 称	参加者/対象
1	富山県	富山から発信する ESD～ユネスコスクールの子どもたちから他	400 名 （保護者・児童他）
2	石川県	金沢市立三馬小学校 ESD 発表会 5 年 1 組の伏見川への思いを伝える会	30 名 （保護者・児童他）
3	福井県	福井県合同課題研究発表会	413 名 （教育関係者・生徒）
4	長野県	ESD 発表会【総合的な学習の時間「地域の自然をみつめよう」】	75 名 （保護者・児童）
5	岐阜県	学習発表会	486 名 （保護者・児童他）
6	愛知県	MSH（マルチステークホルダー）ダイアログ・関係者による対話 「本気」でつくるサステナブルな社会 ダイアログ 3「ESD を地域で実践するために…仕組みづくりと評価」	70 名 （分科会 24 名） （一般）
7	三重県	4 年生学習発表会	130 名 （保護者・児童他）
合 計			1,604 名

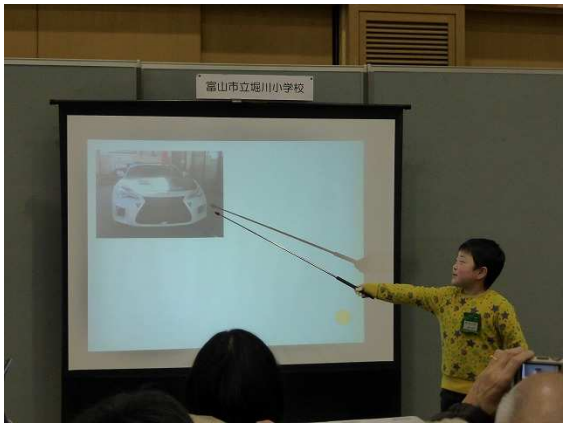
（2）各県周知啓発事業の発表内容

①富山県

事業名	富山から発信する ESD～ユネスコスクールの子どもたち～
日 時	平成 27 年 1 月 24 日（土） 13：00~15:30 (150)
場 所	富山市ファミリーパーク 自然体験センター1 階ホール
参加者	約 400 名
プログラム	●開会 あいさつ ●激励のことば ●基調講演 鈴木 克徳氏（金沢大学環境保全センター長） 「北陸における ESD の新たな展開に向けて～ESD 世界大会の成果と今後の展望～」 ●各学校による ESD 取り組みについて 【参加校】 富山市立中央小学校、富山市立寒江小学校、富山市立五福小学校 富山市立堀川小学校、富山市立光陽小学校、富山市立古沢小学校 富山市立神通碧小学校、富山市立成美小学校、氷見市立朝日丘小学校 ●屋台形式による取り組み紹介 【参加校】 富山市立中央小学校、 富山市立寒江小学校、富山市立五福小学校 富山市立堀川小学校、 富山市立光陽小学校、富山市立古沢小学校 富山市立神通碧小学校、富山市立成美小学校、氷見市立朝日丘小学校

	●閉会
発表内容	●各学校による ESD 取り組みについて 「町探検～自分たちの歩み～」 2 年 2 組 児童 6 名 生活科、町探検「市電通りのたからを見つけよう」の学習で、「町のたから」を見つけた「私達のたから」や町探検について、また「ありがとうの手紙」を書いたことなどを紹介した。 ●屋台形式による取り組み紹介(対象者を変えて 5 分を 4 回実施)2 年 2 組 児童 11 名 「屋上にある踏切」「市電」「交番」「お花屋さん」「お味噌屋さん」「クルマ屋さん」「商店街のがちゃがちゃ」「にこにこポスト」など児童が見つけた「市電通りのたから」とそのたからに関わる地域の人との出会いや会話を紹介した。また、お礼に書いた「手紙」や、今後児童自身が取り組みたいことについての発表をした。

[当日の様子]



②石川県

事業名	金沢市立三馬小学校 5 年 1 組の伏見川への思いを伝える会
日 時	平成 27 年 2 月 10 日（火）13:50～14:35(45 分)
場 所	金沢市立三馬小学校
参加者	約 30 名
プログラム	●あいさつ ●三馬小学校 5 年生 総合的な学習の時間 「つながりに気付く、つながりを築く～ふるさと伏見川を守り続けるためには～」 ●発表者：5 年 1 組児童 32 名 ●質疑応答・意見交換 ［ゲスト］中里 茂氏（環境カウンセラー） ●閉会
発表内容	総合的な学習の時間で、伏見川の環境について調べ、調べるにつれて、伏見川について地域の方に伝えたくなったことや、伏見川を守り続けたい、という児童の思いを紹介した。また、市役所からサケの放流を依頼されたことから伏見川の水質調査を始めたこと、児童自身が伏見川をどんな川にしたいかを話しあったこと、石川 NO. 1 の伏見川にしようという考え方を出したこと、川の上流の森林の状況や下流の状況を地域の森に詳しい方や漁業組合の方の話を聞いたこと、そして、地域の人たちにアンケートやインタビューをしたこと、川の開発と保全について意見を交わしたこと、そして、「伏見川を輝かせるための 7 つの宣言文」を作成したこと、などを発表した。 意見交換では、参加した地域の人から、

	「川には、素晴らしい役割がある。森の栄養分を海に運び、そこで生きている魚の栄養素になっている。その川をきれいにする取組は素晴らしいと思った。皆さんが取り組んでいる中流だけではなく、上流、下流にも様々な取組があるので、そういった人たちと力を合わせて、伏見川をきれいにしてほしい。」 「伏見川には毎年５月の連休明け頃に、鮎が上ってくる。小さい魚が大きくなって帰ってくることは水がきれいな証拠です。ゴミを拾うことも大切ですが、捨てないことが大切です。魚が上ってくることも楽しんでほしい。鮎が帰ってくることは水がきれいな基準になります。宣言がとっても良かったです。」 「私達人間もいろいろな生き物と支え合って生きています。きれいなところにいる生き物だけではなく、汚れたところに住む生き物も大切にしてください。金沢の自然は毛針や加賀友禅などの文化にもつながっています。伏見川を守ることは、金沢の文化を守ることや私達のくらしにつながってきます。川を守ることは、くらしを守ることにつながることを感じてください。」といったメッセージが贈られた。

[当日の様子]

③福井県

事業名	福井県合同課題研究発表会
日　時	平成 27 年 2 月 22 日（日）14:50～15:50（60 分）
場　所	AOSSA　8F リハーサル室
参加者	413 名（教育関係者・生徒他）
プログラム	敦賀気比高校付属中学校「100 年後の敦賀で世界遺産に認定されるもの」発表会 発表者：敦賀気比高校付属中学校　生徒４名 ●はじめに ●発表「100 年後の敦賀で選ぶ世界遺産」 ●質疑応答
発表内容	はじめに、参加者に「地元に将来住み続けたいか、住み続けたくないか？」と質問し、住み続けたい人は青い付箋紙、住み続けたくない人はピンクの付箋紙に理由を書いて、ボードに貼ってもらい、スタートした。 　ESD の授業で、敦賀の人口が徐々に減っていることを知り、調べ、2005 年の人口を 100 とすると、2035 年には 80%程まで減少すると分かった。学内で「敦賀に住み続けたいか」をアンケートしたところ、不便、田舎だからなどを理由に住み続けたくないという回答が多くを占め、学内の

	理由が同様に、市の人口減少の理由ではないか、敦賀市は持続発展可能な街とは言い難い、と考えた。 「100 年後、敦賀が市として存在できるか」という疑問を持ち、「敦賀の魅力をいかに発信するか、いかに自分達が魅力を感じて好きになるかについて」を研究していくこととした。既存の場所が世界遺産として登録されれば、その場所が保護され、観光資源として経済効果が上がり、敦賀市を活性化できるのではないか。また、地元に世界遺産があるとことで、地元に誇りを持てるのではないかと考えた。100 年後の敦賀で世界遺産候補は何か、とアンケート調査を全校生徒にしたところ、半数以上が「気比神宮」と回答した。そこで、気比神宮が世界遺産に相応しいかどうかを調べると、気比神宮が戦時中に一度焼失してしまい、ほとんど建てかえていることが分かった。他の場所として、長年学習に取り組んできた「中池見湿地」と現在話題になっている「原子力発電所」の 2 つを候補として魅力を考え、研究をしてきた。 ●中池見湿地を 「中池見湿地のすごさを知ってほしい。守り続けていきたいですが、そのためには自分達、行政、自然保護団体に協力を要請して、PR していくことが大切である。また、里山は適度に利用されることで状態が守られるため、中池見湿地を使っていくことも重要である。」 ●敦賀原発 1 号機 「課題になると考えられるのは、原発の高レベル廃棄物の利用による安全面である。処理方法は現在、処理にかかる時間を短くする研究や、地層の研究などがなされている。研究により、敦賀をより安全な街にでき、若い研究者を育てることにもつながると考えている。また、つながっていかないと遺産を登録するのが難しいと考えるため、緩やかなネットワークを形成していくことが重要だと考える。負の遺産ではあるが、貴重なものとして残していくことも大事である。遺産として残し、科学の発展と安全について話し合うことが重要である。」 世界遺産候補は一回に一つの候補しか出せないため、話し合いでは、中池見湿地と原発で分かれた。話し合いの中で、 ＊美しい場所はより美しくすることで、魅力ある場所にする ＊問題がある場合も、いろいろな知恵をもっともっと出し、よりよい場所に変化させる ＊自ら積極的に行動し、自分達の住んでいる場所の価値を知り、誇りを持つ という点が大切であることに気づいた。 みんなで考えてきたことにより、敦賀は発展していく可能性がある。今後も考えていきたい。

[当日の様子]

④長野県

事業名	ESD 発表会【総合的な学習の時間「地域の自然をみつめよう」】
日　時	平成 27 年 2 月 16 日（月）14：40~15：20(40 分)
場　所	松本市立会田中学校　2 年 1 組、2 年 2 組教室
参加者	保護者 20 名　生徒 48 名　地域他 7 名　75 名
プログラム	●はじめのことば・発表会について ●発表　総合的な学習の時間「地域の自然をみつめよう」 　　2 年 1 組　6 グループ、2 月 2 組 7 グループに分かれて学習内容を紹介 ●まとめ　グループでの意見交換・代表者の発表 　　担任からのメッセージ
発表内容	●2 年 1 組報告 　乗鞍・上高地の登山や自然学習での体験、気づいたこと、バームクーヘンづくりからの学び、水やバイオマス燃料など人間は自然からの恩恵で生活していること、などについて発表をした。まとめとして、生徒代表者から、 「今までの学習を通して、私達が生きていくには自然が必要だと分かりました。自然と人間が一緒に生きていくためには人間が限られている資源を大切に使っていくことが必要だと思いました。」 「水は大切だと分かりました。化石燃料を使わず、電気が作れることがすごいと思いました。自然は大切です。」 「一番気になったのは、水についての発表です。毎日かならず使っている水だからこそ無駄遣いしてはいけないと思いました。世界ではたくさんの人が水について苦しんでいるので、きれいな水で苦しむ人が救えると良いと思います。自然は私達になくてはならないものです。四賀にいるから当たり前と思っていますが、きれいな空気が吸えるのも森林があるからです。授業で改めて自然の大切さが分かったので大切にしていきたいです。」 等が話された。 　最後に担任教員が、「どの発表も自然を大切にしていきたい、エコ、きれいな空気、森林、水を大切にしていきたいと感じたことが分かりました。大切にしたいと思ったことを、これからも大切にしてください。」とメッセージがあった。 ●2 年 2 組報告 　バウムクーヘンづくりを通して四賀の自然の大切さに気づいたこと、上高地での自然保護活動の意義を学んだこと、地域の人によって四賀の風景が守られていることや四賀とは違う自然に触れさらに自然の大切さに気づいたこと、バイオマスエネルギーへの代替の重要性を学んだこと、水の飲み比べを通して「四賀の水」のおいしさに気づき、水の循環を学んだことで水の大切さに使うためにすべきことを考えたこと、などが紹介された。まとめとして、代表者からの、「これから四賀はどうなってほしいと考えますか」と言う問いかけに、 「都会とは違い、人は少ないけれど、四賀には自然が豊かで動物もたくさん住んでいるという長所があります。四賀の豊かな自然を活かしていきたいです。」 「四賀の水や自然などを活かして、観光ができるようにしたい。」 「もっとお店を増やすなどして、にぎやかな場所にしたい。」といった意見が出された。

[当日の様子]

⑤岐阜県

事業名	学習発表会
日　時	平成 27 年 2 月 6 日（金）14:00～15:15(75 分)
場　所	羽島市立正木小学校
参加者	4 年生児童 151 名　 5 年生児童 171 名　保護者 160 名　他 4 名　地域　計 486 名
プログラム	[第 1 部] 総合的な学習の時間「環境」の取組発表 　・地球温暖化について　・温暖化による影響・一人一人の取組・4 年生への感想、質問 [第 2 部]　・エコ宣言と 1 年間の成長　・合唱〈ぼくらの地球〉　・4 年生感想発表
発表内容	第 1 部の取組発表では、5 年生児童 171 名、4 年生児童 151 名が 7 つの教室に分かれ、1 教室につき 5 年生と 4 年生が 5 グループずつに分かれ、交流する形式にて発表を行なった。5 年生は 4 年生に良く分かるように発表する、4 年生は 5 年生の発表を聞いて自分にできることを考えてほしい旨を最初に伝え、交流がスタートした。 　各グループで初めに「地球温暖化について」学習したことを発表した。4 年生に分かり易いように工夫して地球温暖化や、その影響について説明し、「地球温暖化を防止するために取り組んでほしい。今、世界では温暖化の影響で様々なことが起こっている。地球に役立つことをしよう。」と訴えかけていた。 　次に、一人一人が夏休み、冬休みに取り組んだ省エネ活動について発表を行い、エコマークや地産地消食材の大切さ、エコクッキング、家庭のソーラーパネルの電気量調査などの取組を地球温暖化につなげて説明していた。最後に一人一人の省エネ宣言を発表し、「なるべく外で過ごす」、「えんぴつは最後まで使う」、「マイバックを持って買い物に行く」、「不要なものは買わない」、「国産の食材を消費する」、「エコクッキングをする」、「水を大切にする」、「おさがりの服を着る」など、知識だけでなく総合的な学習の時間での実践を重ねた児童からは様々な宣言が発表された。これまで取り組んできた省エネ活動への自信、これからもずっと取り組みたいという意欲にあふれていた。5 年生の発表を聞いた 4 年生児童は「発表が分かりやすかったので、真似したい」、「自分たちの発表を頑張りたい」などの感想が出された。 　第 2 部は、1 年間学んできたことを踏まえ、「一人の力はとても小さいですが、一人一人の力を合わせれば大きな力になり、未来の地球を守ることができます。「無理なく、無駄なく、むらなく」を合言葉に私たちは省エネを実践していきます。この宣言だけで終わるのではなく、大人になっても続けていきたいです。」と、一人一人が地球のためにできることを考え、取り組んでいくことを宣言した。最後に、4 年生の感想、講師代表の小林由紀子氏のコメントを得た。

[当日の様子]

⑥愛知県

事業名	MSH（マルチステークホルダー）ダイアログ・関係者による対話 「本気」でつくるサステナブルな社会　ダイアログ 3「ESD を地域で実践するために…仕組みづくりと評価」
日　時	平成 27 年 1 月 29 日（木）14:15～16:45(150)
場　所	ウインクあいち 1105
参加者	約 70 名
プログラム	●趣旨説明 ESD ユネスコ世界会議の成果 環境省持続可能な地域づくりを担う人材育成事業の成果と課題 ●各県の取組紹介 ●成果の共有・課題の整理 ●[平成 26 年度環境省持続可能な地域づくりを担う人材育成事業報告] 愛知県 ESD 授業実証報告 名古屋市立八熊小学校　大村邦仁教諭 AR 教材紹介　株式会社 TREE　萩谷衛厚 ●トークセッション ●まとめ
発表内容	最初に ESD ユネスコ世界会議、持続可能な地域づくりを担う人材育成事業の成果等を報告し、各県での取組を共有しながら、愛知県での取り組み報告を行った。 授業内容としては、これまで通年で実施してきた「『季節と堀川の生物」堀川を柱とした環境学習をベースに、実証授業については、映像教材を活用した話し合いの時間を中心とした授業とし、「名古屋市の中でも「藤前干潟」に一番多く出かけている小学校だと思う、などフィールドでの体験学習も充実しており、「生物のすみか」や「季節の変化に対する生物の変化」について疑問を持ったり、思考を深める授業であった」といった報告された。最後に、「実践を通し、児童は堀川について様々な思いを持った。もっときれいな川に、もっと生物がたくさんの川にしたい、中にはカニを食べることができるような川にしたいという子どもの意見があった。実現が困難かもしれませんが、これからも『身近な堀川から未来へつながる』よう実践を継続していきたい」と話された。 AR については、藤前干潟の広報冊子にひも付けをし、藤前干潟のアナウンスが動画で映し出されるようにした。小学校の授業や、授業で学んだことを家族や地域で話し合う際に活用するなど、

	有効な使い方についての説明をされた。

[当日の様子]

⑦三重県

事業名	4 年生学習発表会
日　時	平成 27 年 2 月 21 日(土）13:00～14:15(75)
場　所	学校法人津田学園津田学園小学校
参加者	130 名（保護者・児童他）
プログラム	学校長挨拶 ●はじめの言葉～児童代表挨拶 ●校歌斉唱 ●名文の暗証 「論語 3 篇」「なにかをひとつ」「枕草子」「徒然草」冒頭 「平家物語」冒頭 「奥の細道」冒頭 「雨ニモマケズ」 ●英語の暗唱（早口言葉）　Fox in Socks ●クラス発表 雪の学校（ 1 組） **水辺の環境調査（２組）** **（平成 26 年度環境省持続可能な地域づくりを担う人材育成事業）** ●合奏「ラ クンパルシータ」 ●合唱「やさしい風」 ●おわりの言葉～児童代表挨拶 ●担任挨拶
発表内容	校長先生より、本事業の実証校として、4 年 2 組が年間を通して「水辺の環境調査」を行ったことが報告され、児童の発表となった。 まず、上流、中流、下流の川と生き物の様子を児童が劇で表現をした。上流の川の様子の写真をスライドとして写しながら、タモを持った児童が、「自然がいっぱいだね」「ヘビが出そうだね」「クリの木があるよ」など話しをしながら、川に入り、魚を捕まえる動きをした。「オタマジャクシだ」「カワニナだ」「サワガニだ」「あっシラサギだ」と見つけたものを写真と合わせながら紹介した。そして、3 択で、「サワガニは生で食べられるか？」「ウシガエルのもっとも大きいものは何センチ？」といった生き物に興味が湧くようなクイズが出され、保護者をはじめ観客との双方向の学び合いの場となった。 中流では、タモを持った児童が、草原になっていて川にどこから入っていいのかわからない様子の

	劇から始まり、ハシゴを見つけ、こわごわと川に入り、「深いから気をつけよう」など話しながら、生き物調査をする様子が表現された。「カワムツだ。体調 15 cmくらいになるよ」「ドジョウだ。体調 7～15 cmになるよ」「タイコウチだ。3 cmくらいだよ」とスライドの写真を使いながら紹介。最後に「身近な川に、いつもは見ることができない生き物がたくさん棲んでいて、小さな世界を知った」「サカナの秘密や食物連鎖を知ることができて、調査って楽しい」と言った児童のコメントがあった。ここでも、「タイコウチの寿命は？」「カワムツは卵をどれくらい産むか？」といった生き物三択クイズが出された。 　下流では、タモをもった児童が、水路に入り、ごみがたくさん落ちていたり、自然の環境はほとんどない状況の場所にもタニシやアメリカザリガニ、ヨシノボリ、ニホンメダカが棲息していることを見つけ、その生き物の紹介をした。紹介後、生き物に扮した児童と、工事作業員に扮した児童の会話による劇に移った。水路の様子が映し出され、「エサが少なくなってしまった。流れもない。こんな場所では生きられない。死活問題だ」と生き物が話し、人間は「安全のために川を整備する。土砂が流れないようにする。川がまっすぐの方が土地を利用しやすい」と話し、なぜ人間が水路をつくることになったのか、そのことで生き物にどのような影響が起きているのかを表現した。そして、生き物三択クイズ、「ザリガニはどこからおしっこをするか？」「ヨシノボリの名前の由来は？」を出題した。 　児童は最後に、川に生き物がいなくなってしまったら、「川遊びがさみしくなる」「川の恵みを食べることが出来なくなる」「生き物のことが考えられなくなる」、「生き物が生まれた場所で生きられるように、川の小さな世界にやさしい気持ちをもって、川の環境に関心をもって、環境を考えた工事をしよう。」とまとめた。 劇もクイズも児童が考え、1 年間調査したこと、意見を交わしたことなど児童の学びが十分に表現され、川の生き物や環境に関心を持ってほしいという児童の願いが込められた発表会であった。

[当日の様子]

5. ESD に対する理解に関する調査

（1）教員（授業実施者等）を対象にしたアンケート

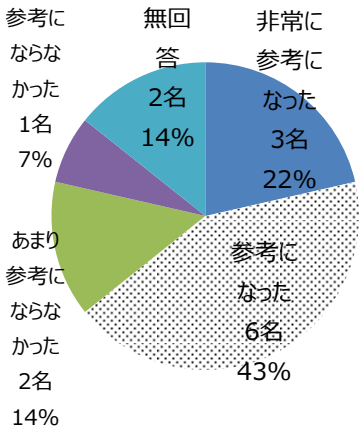
①回答者：14 名

	地 域	学 校 名	人 数
1	富山県	富山市立堀川小学校	1 名
2	石川県	金沢市立三馬小学校	5 名（4 年生担任･校長）
3	福井県	学校法人嶺南学園 敦賀気比高等学校付属中学校	3 名（1～3 年担任）
4	長野県	松本市立会田中学校	1 名
5	岐阜県	羽島市立正木小学校	1 名
6	愛知県	名古屋市立八熊小学校	1 名
7	三重県	学校法人津田学園　津田学園小学校	2 名（4 年生担任）
合　計			14 名

②結果

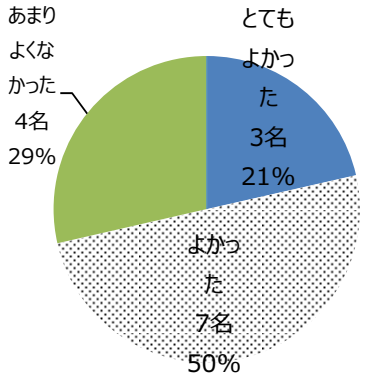
質問 1．本事業についての印象及びご感想についてお聞かせください。

（1）環境省 39 モデルカリキュラムについて



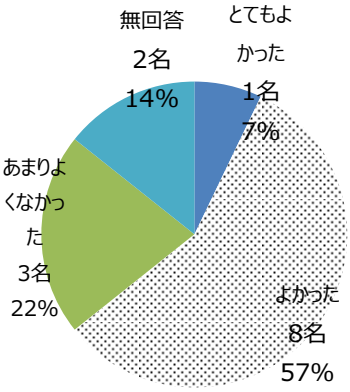
評価項目	人数	理　　由
非常に参考になった	3	･指導案作りの参考として**大変重宝**しました。 ･**多くのモデル授業**があり、参考になった。 ･**ESD の授業実践**について知れ、参考になった。
参考になった	6	･映像は子どもたちの目にも分かりやすく、また身近な場所を映すことで、考え方も**自分のことと重ねて思考することができた**と思います。 ･いろいろな**授業の手法**があり、普段は**やったことのない授業などもあった**ので参考になった。 ･ESD の**授業実践の具体的な内容が理解**できた ･映像を見て、児童の興味が高まった。 ･**いろんな分野の実践**があり、参考になった
あまり参考にならなかった	2	･もっとくわしいものがほしかった。 ･外部講師との打ち合わせを優先して，特にモデルカリキュラムを参考にする場面はなかった。
参考にならなかった	1	･39 モデルカリキュラムを知らない。
無回答	2	
	14	

（2）事前の打合せ及びワーキンググループについて



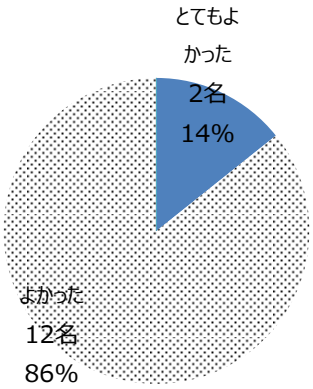
評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	1	・子どもたちに分かりやすい映像になっていた。とてもきれいな映像だった。**どんな映像があるとよいのか**詳しく教えてもらい、ありがたかった。
よかった	8	・実際にNPOの方に思いを語っていただいたので、編集は大変だったかも知れないが、**興味深い内容**になっていた。 ・児童も**身近な風景**を映像で見ることができて喜んでいました。 ・時間的な制約があり、**映像を練り上げて作り上げる時間が少なくなってしまった**のが残念である。 ・年間、藤前干潟や堀川に関わってきたので、**児童の思考が深まり、多様な考え**が引き出せた。 ・児童に**ゆさぶりをかける教材**として使うことができる。(課題は変えた方がよいが) ・日程に少しむりがあったと思う。
あまりよくなかった	3	・時間もなかったのでしょうがないですが、もう少しこちらが**希望する映像**があると良かったです。 **・映像づくりを授業でどう活かせばよいか**迷った。
よくなかった	0	
無回答	2	
	14	

（3）映像に関する打合せ及び撮影した映像について



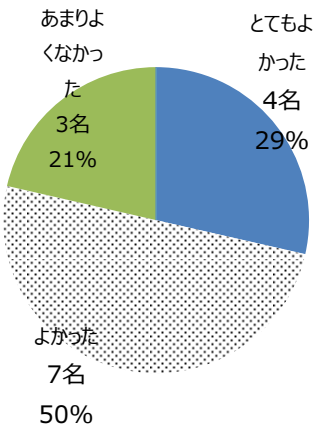
評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	3	**・専門家の方々の意見を存分に聞け、視野が大きく広がり**ました。 ・いろいろな意見を出していただきとても参考になった。**一番重要なことは授業者が何を伝えたいのかを明確にすること**だということがよくわかった。 ・教職３年目の担任をささえ、単元設計についてよく相談にのって下さった。
よかった	7	・よかったが、もっといろいろ意見がかわせるとよかった。 ・色々なアドバイスをいただくことがあり、**授業の展開の参考**になりました。 ・もう少し長い映像で**イメージをさらに膨らませること**ができたら良いと思います。 ・こちらが ESD 教育に無知という面があり申し訳なかったが、**見通しがあまり定かではなかった。** ・映像を使うことで、**時間・空間を越えて思考する**のに役に立った。 ・授業づくりで **ESD の視点をどうとり入れていくか**参考になった。
あまりよくなかった	4	・打合せまでにあまり時間が無かったので、理解できていない部分があり、**先生方のアドバイスをいかしきれなかった。** ・ご助言、アドバイスのお言葉に**きつさを感じる方**がいました。
	14	

（4）映像を活用した授業実践について



評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	2	・映像での授業は**子どもたちがいきいき**する。
よかった	12	・子どもたちの興味が高まった。 ・映像を活用することは**生徒の興味を向けることができる**ので、良いと思います。 **・視覚に訴えることは、興味関心の高まりに繋がり、授業にリズムを作ることもできた**と感じられるから。 ・今回は上手く活用できていたとは言えませんが、今後映像を活用した授業を行う上でとても勉強になりました。 ・作成していただいた映像をそのまま使うだけでなく、切り取ったり止めたりして使うことができ有効でした。また、授業と授業の間隔が開いてしまった時など、とても**役に立つツール**だと思いました。 ・堀川の水中映像が見ることがなかった。事前に計画して取り組む。 ・映像のどこにスポットを当てるのかが授業を左右する。**本時の発問まで考えてからの方がよかった**かもしれない。 ・本時を**十分ねり、映像を活用すること**が大切だと分かった。
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
無回答	0	
	14	

（5）本事業全体について



評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	4	・多くの方にご指導ご鞭撻いただき、大変感謝しております。本当に良い経験をありがとうございました。 ・担当した教員だけでなく**学校全体に刺激を与えて**くださり、とても感謝しています。 ・ESD 教育という手法を**学ぶ機会を得られたことは大変有意義**だった。 ・子ども達があたり前に見ている**地域を見直すよい機会**となった。
よかった	7	・今までの**環境学習の進め方に多少の道筋が見えた**のは良かったです。 ・このような経験をすることで、**総合の授業のあり方について新たに考えること**ができたから。 ・藤前干潟や堀川の四季を映像にすることができなかった。年間を通して映像にする。 **・21 世紀型学力の育成に向けて大きな学びと**なった。
あまりよくなかった	3	**・やらされている感**がとても強かったです。
よくなかった	0	

無回答	0	
	14	

【その他のご意見】

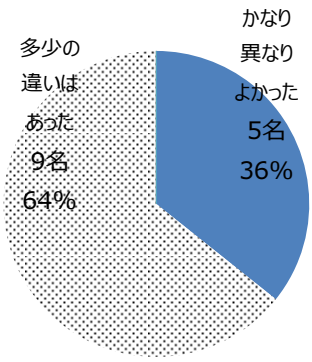
●全く分からない状況で引き受け、「教えていただいて勉強をしたい」という思いでいたのに、いきなり「どういう思いで？」「ねらいは？」と**おいつめられると、やる気がなくなり**ます。

●授業者への**負担が大きすぎる**と思います。授業改善とは言いながら、ダメだしばかりだと悲しいです。**ともに作りあげたという感じはしなかった**です。

●授業者はとても大変そうでした。現場で授業のようすなどを見ている限り、**実践の内容を一緒に創り上げた感じはあまり受けなかった**です。

●授業者への負担が大きい。様々なサポート体制をひいて下さっているのは分かるのですが、**「共に」つくり上げたという感じはない。**

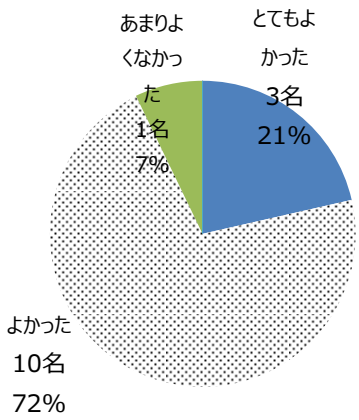
質問 2. これまでの授業づくり及び実践との「違い」はありましたでしょうか。



評価項目	人数	理　　由
かなり異なりよかった	5	・**今までにない展開の仕方**で、いろいろと学ぶことができました。 ・初めから考える道筋ができており、**自分から発見・研究するという姿勢が見られません**でした。 ・興味のないこと（ストーブなどのエネルギー活用など）には、**ほとんど興味を持たず、積極的でない姿が見られ**ました。 ・普段は自分たちのやりたいこと（課題）について研究する形で総合学習を進めているため、他の班と同じことをする機会はないので、**どの班も同じことをやるのが新鮮だった**ようだ。普段はどうしても詰め込み型の学習が多く、ゆっくり話し合うことができない現実もある。 ・「**今後も考えさせ続ける**」という概念が、今までの授業とは大きく違うと感じました。児童の発言に対してどのように答えればよいかが、私の勉強不足な点であり今後の課題だと思います。 ・映像を授業の中で取り入れ、**児童の意識に変化をもたせられた**ことがよかった。 ・外部の方から意見をいただくことで、**様々な指導内容が提案され、学習に広がり**がでた。
多少の違いはあった	9	・**外部講師との連携や環境学習の進め方**などで今までと違う面が見れた。 ・**授業の構想が立てられなかった**。思いついたままに授業をした感じ。 ・川で採取した生き物を学校に持ち帰り水槽で飼育していたが、ほとんど死んでしまうという結果になった。生物を生かすことができなかったという点では失敗であったが、**授業づくりの面ではその失敗を生かすこと**ができた。失敗は成功の基である。 ・映像を使う、フィールドワークに行くなど制約された中での授業づくりだった。 ・季節との関わりの実践だったので、実践日に合

		わせて計画するのが、難しかった。 ・授業に映像教材を活かすため、**映像づくりの構想をもつことがむずかしい**と思った。 ・ESD で付けたい **7 つの能力を意識して授業にとりくんだ**。コミュニケーション力や多面的に考える力、批判的思考力など通常では意識できていないことも、**授業で意識できた**。 ・映像教材の作成からしたことはなかったので。 ・映像のある無し。 ・映像教材があるかないか。
あまり違いはなかった	0	
全く違わなかった	0	
無回答	0	
	14	

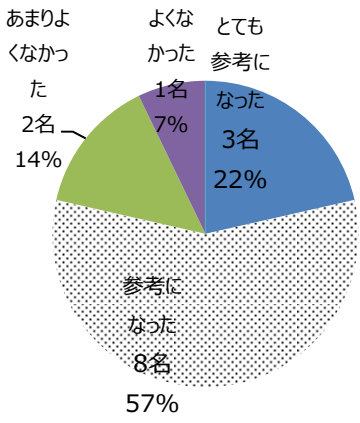
質問 3．児童・生徒の授業に対する反応はいかがでしたでしょうか。



評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	3	・仲間が実践したことを聞く発表会を開催したので、**興味や関心が高く、熱心に中間発表を聞いていた**。 ・映像にクイズを入れたことによって児童はそのクイズの答えを考えようとするので、**教師側のねらいがはっきりと伝わった**。 ・映像の内容はいつまでも覚えていて自分達のできる省エネ活動に積極的に生かしていた。 ・やはり映像が与えるインパクトは大きく、**興味をもって学習にとり組もう**とする姿勢が多数だった。 ・子どもたちはそれまでの積み重ねもあり、とても興味を持っていたし、意欲的に取り組んでいたと思う。また、楽しんで取組んでいる姿も多く見られた。5 年生として、また高学年としてのレベルがどうかは分からないが、少なくとも全員が課題に対して真剣に向きあい、考えを深めたり思いを強くしたりしていたのは**大きな成長**だったと思う。
よかった	10	・ESD の視点から考えると、**映像に出てくる子どもに関心がでて、より子どもの意欲が高まった**と思う。 ・四賀の自然に**興味を持ってくれる生徒が少しでも出てきたことは良かった**と思います。 ・質問が生徒にとって答えやすいものだった。 ・2 学期末の授業アンケートでは、小学校のように話し合いの時間をたくさんとってほしいと感じていた生徒たちも多くいて、このような機会は楽しく感じられる生徒もいた。一方で話し合いなどに参加するのが苦手な生徒たちは、テーマも難しく、考えることにつらくなってしまう部分もあったようだ。班の編制をもう少し工夫すれば、全体を活性化できたかも知れない。 ・多種多様な意見があがり、それぞれの児童が**川の環境に対して自分の考えを持ってくれた**と思います。私の力不足でそれらの意見を授業中に全体に

		拡散できなかったのですが、それができればさらに良いものにできたのだと反省しております。 ・直接体験よりも**映像などの間接体験や言語活動が中心**だったので、新しい発見は少なかったが、児童はこれまでの学習や生活経験を振り返って考えることができた。 ・地域について、見直すきっかけとなり、伏見川に愛着をもっている姿が見られたから。 ・子どもたちはとても真剣に課題と向き合い、たくさんのことを吸収し、表現しようとしていた。**学級経営の賜物**だと思う。 ・子どもたちは４月からの担任の先生の積み重ね、関係作り、学級経営への努力が大変あり、とても育っている。**授業への意欲はよかった。**
あまりよくなかった	1	・生徒自身の**体験からかけ離れた内容には意欲を持てず、積極的に取り組むことができなかった。** ・２でも書いたように，はじめに「目的」が明確でなかったせいか、登山からなぜ学校の学有林なのかという思考がなく、**やらされている学習**という反応でした。バームクーヘンなど楽しいことには興味を持っていました。
よくなかった	0	
無回答	0	
	14	

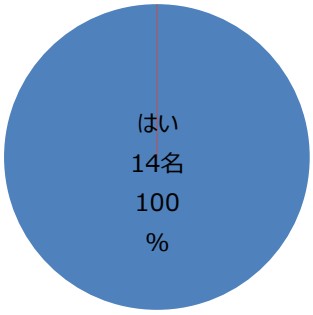
質問４. ESDの授業づくりの参考になりましたか。ESDの視点や手法をどのように授業に取り入れられましたか。



評価項目	人数	理　　由
とても参考になった	3	・ESD というものがどこかにあってそれにたどり着くのではなく、今**自分たちの暮らす地域が持続発展するためには、どのようなことが必要なのかを意識**して授業するよう努めた。 ・普段の授業でも、子どもたちへ**ゆさぶりをかけたり、常に疑問をもつような資料を提示**したりして、児童の**事象への意識の連続が図られる**ようにした。 ・ESD の授業としてとり組んだ本時であった。 ・環境の視点で取組んだ。
参考になった	8	・子どもたちが地域に目を向けていく姿勢（視点のもたせ方） ・ESD の視点や手法はまだよく分かっていません。 ・**何でだろうと疑問**を持たせる、今後も**考えさせ続けさせるような発問**を授業に取り入れました。また、宿題として保護者の方も巻き込んで考えさせる課題を出しました。 ・映像を取り入れることにより、授業と授業の間隔が空いてもスムーズに授業の導入に入り込むことができていたと思う。**映像の力は大きいと再認識**した。 ・外部講師による出前授業も今回の実践に取り入れた。児童は教師の話よりも、**外部講師の話のほうがより真剣に聞くという傾向**がある。今後もうまく生かしていきたい。

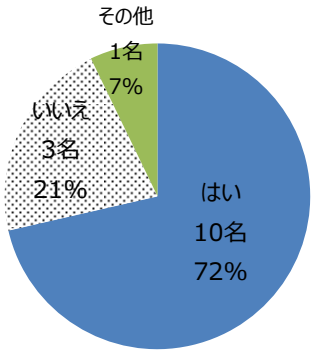
		・川のきれいさを調べる時に、「本当にきれいなのか」と問うことで水質調査だけでなく、文献調査、インタビューなど**多面的に水質を調べ分析する**ように取り入れた。
あまりよくなかった	2	・まだ授業に取り入れられていないと思います。 ・今までの取り組みと大きく変わらなかった。
よくなかった	1	・まだ授業に取り入れることができないが、何かしら参考にできるといいです。
無回答	0	
	14	

質問５．今後今回のような地域課題をテーマにした授業づくりを進められますか。



評価項目	人数
はい	14
いいえ	0
	14

質問６．今後今回の授業を継続的に実施されますか。



評価項目	人数
はい	10
いいえ	3
その他	1
	14

質問７．今回の事業に参加されて、「気づかれたこと」「変化」などお聞かせください。

●もっと**打合せを密にしていけばよかった**と感じています。

●単発で行われていた環境学習や体験学習が、**つながりを持って進められたことは学校としても必要**としたことなので今後の参考にしていきたい。

●学有林の活用についての興味は高まったと思いますが、外へ発信していくという観点・意志はないと思います。

●現在本校での中池見での活動は、学年縦割り班で８年間続けているので、先輩から後輩へ、たとえ教師が変わっても活動が続き、活動は持続的に行えるようにしている。しかし、それぞれ個人の本気度や卒業後も活動を続ける意識などという観点から見ると、まだまだ十分でないと痛感した。**生徒を本気にさせる仕掛けのようなものを仕組んでいきたい**と考えている。

●教員はファシリテーターであるべきだと助言をいただき、教員のあり方を深く考えました。総合の時間だけではなく普**段の**授業も含めて、今後**どのような立ち位置が良いのか考える一つの道しるべ**となりました。

●担当教員は一年目の若手であったが、皆さんの強力な指導にもへこたれることもなく、**立派に成長してくれたこと**が嬉しかった。その後の授業でも**教え込む授業と、考えさせる授業のバランスをとりながら教壇に立って**くれている。

●**ESD という手法は今後の教育に大切である**と感じる。この方法を広めていくことが**学習することが楽しいと言える児童を育てていく**のではないだろうか。

●映像を使う、フィールドワークに行くなど**制約された中での授業づくり**だったので、大変だった。

●**現場のニーズに合った事業**になるとよい。

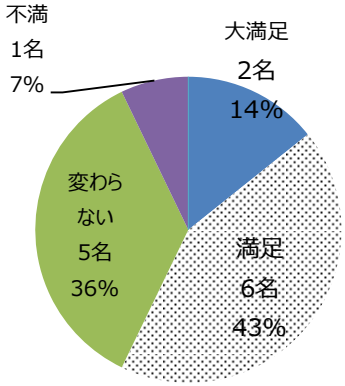
●５年生の総合では河川の環境について学習を継年実施するが、なかなか児童の思いがふくらまず、将来性のある学習となることはなかった。今回**単元を見直し、構成したことで児童の思いを大切にした学習**が展開できた。

●今後の**継続が何よりも持続発展につながる**と考える。

●ESD の考え方については少しは分かりました。全く意味がないとは思いませんが、学校現場で子どもたちを指導する難しさを分かっていたら、あれほど強い言い方をできないのではないでしょうか。「授業を見て、作って、知っていること」と、それを「できること」は違うと思いますし、アドバイスではなく**批判にしか聞こえない言い方**をされるのであれば、私はやる自信はありません。

●最初の打合せの時のお話しから受けるイメージと、実際の授業の間にはとてもギャップを感じた。授業者のつくった案や行った実践に対して**批判的な姿勢が強いな**と感じました。

質問８．本事業に参加される前とされた後の満足感はいかがでしたでしょうか。その理由をお聞かせください。



評価項目	人数	理　　由
大満足	2	・何時間も指導案を検討した結果、**児童の学びの多い授業**ができあがった。 ・児童が**地域への発信を考え、クラス毎に違った形でも確実にできた**こと。
満足	6	・子どもたちの**やる気がより高まってよかった**です。 ・単発で行われていた環境学習や体験学習が、**つながりを持って進められたことは学校としても必要とした**ことなので今後の参考にしていきたい。 ・生徒が、いろいろな方に授業を見てもらう機会を得て、それぞれの意見を発表させて頂けたのでよかったと思う。また授業終了後に「どうでしたか、僕の班。」などと話しかけてくる様子を見ていると、今回の学習が

		子どもたちの心にも響くものであったと思われるので、そういう点では大満足している。しかし、授業の持って行き方などはいろいろと反省すべき所も多い。 ・普段の授業とは違いなかなか明確な答えのないこのような活動の１つの指針として、大変勉強になりました。まだまだ ESD のほんの一部をかじった程度ですが、**ESD の視点を積極的に取り入れていきたい**と思います。 ・始める前は担当教員も私自身もどのような授業をすればよいのか不安でいっぱいであったが、ミーティングや授業を進めていく中で、今まで培ってきたものを、狙いを絞り、丁寧に実践していくことが ESD の授業づくりに繋がっていくことが解った。また、今回様々な面でかかわりを持っていただいた皆さんと授業を作り上げていく喜びを感じることができたことは大きな収穫でした。一年目の教員に担当させることは大きな冒険でしたが、本人にとってはとても良い勉強になりました。他の教員にも挑戦する気概の重要性を知らしめることができ、**学校全体の前進力が向上**したと思います。 ・ESD の視点をとり入れた授業づくりの大切さを実感できた。しかし、映像づくりでは、大きな労力と時間を使った。その割に、本時で確実に効果的に使える教材となるかというと難しい面がある。**映像教材のめざす扱いをより明確にしていく必要**があると思った
変わらない	5	・新しい試みであったため，まだ分からない部分もありますが、何が目的であるかを確かめる必要があると思いました。 ・今までの取り組みと**大きく変わらない**から。 ・自分が授業者として同じように実践を中心となってやっていく自信はないです。これから受けもつ子どもたちにも**ぜひ実践していきたいともあまり思わなかった**。
不満	1	・やっぱりできれば違うことに時間を使いたい。
無回答	0	
	14	

（2）協力者（各県ワーキンググループメンバー）を対象にしたアンケート

①回答者：32 名（※実証授業校関係者含まず）

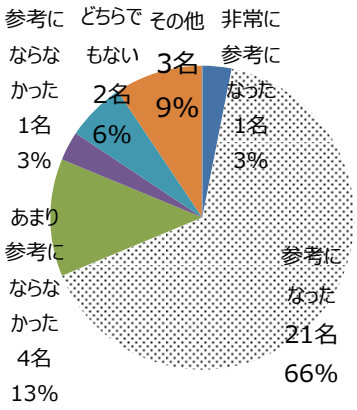
	地　域	対　象	人　数
1	富山県	ワーキンググループメンバー	4 名
2	石川県	ワーキンググループメンバー	5 名
3	福井県	ワーキンググループメンバー	4 名
4	長野県	ワーキンググループメンバー	7 名
5	岐阜県	ワーキンググループメンバー	3 名
6	愛知県	ワーキンググループメンバー	4 名
7	三重県	ワーキンググループメンバー	5 名
合　計			32 名

②結果

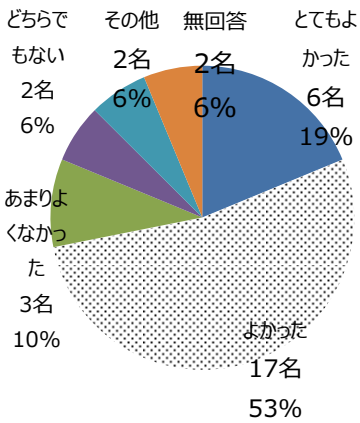
質問１．本事業についてのご意見・ご提案・ご感想についてお聞かせください。

（1）環境省 39 モデルカリキュラムについて

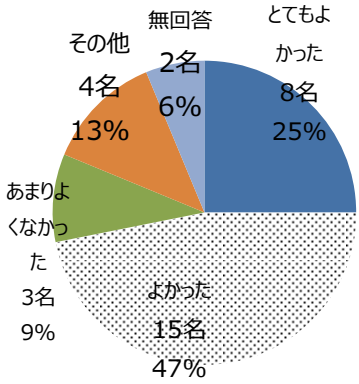
(1)環境省 39 モデルカリキュラムについて



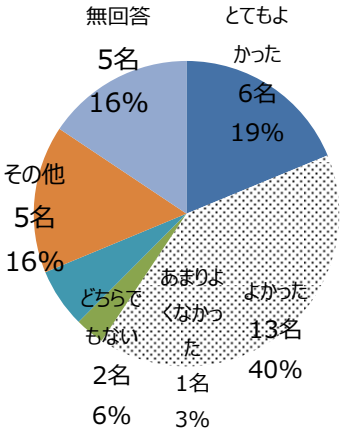
(2)事前の打合せ及びワーキンググループについて



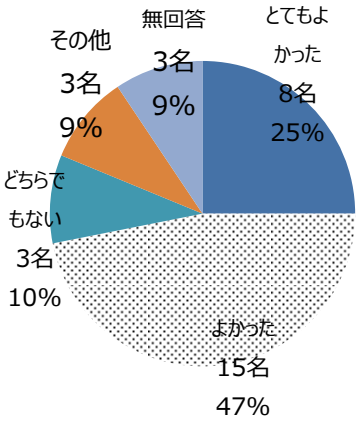
(3)映像に関する打合せ及び撮影した映像について



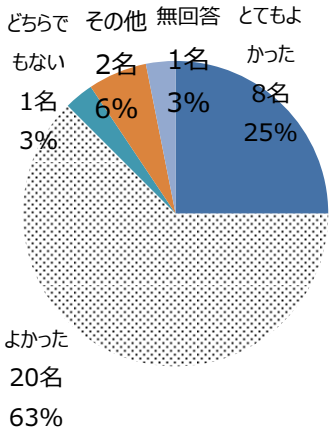
(4)映像を活用した授業実践について



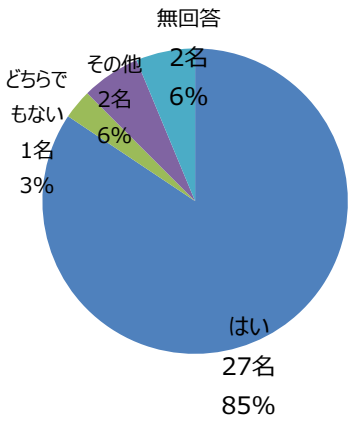
(5)児童・生徒の授業に対する反応はいかがでしたでしょうか。



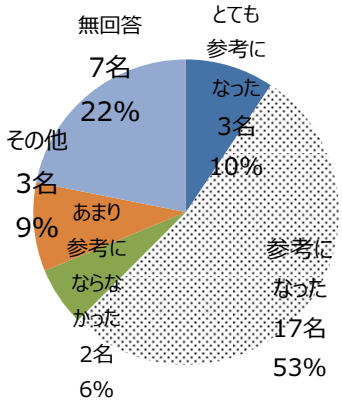
(6)本事業全体について



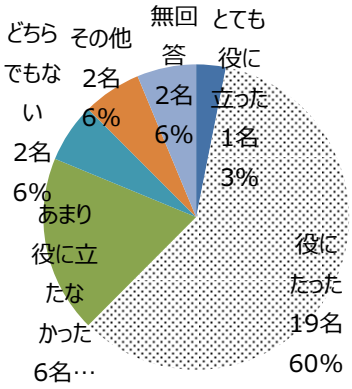
質問２．ESD の価値観、視点、方法、アプローチは取り入れられていたでしょうか。



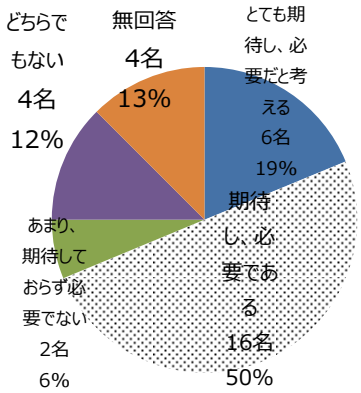
質問３．ESD の授業づくり、ESD 人材育成の参考になりましたか。



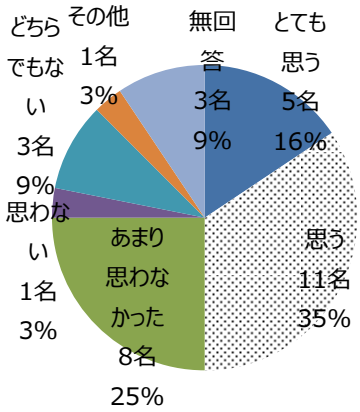
質問４．ESD を実践するにあたり、課題と感じている点は何でしょうか。今回の事業及びプログラムはその課題を解決する上で役立ちましたか。



質問５．映像や ICT を活用した授業への期待や必要性についてお考えをお聞かせください。映像や ICT を活用した学校教育と家庭学習をつなぐ仕組みについてのお考えをお聞かせください。



質問６．ESD 実践を拡大するための地域主体の形成に本事業は寄与していると思われますか。また、地域で活動されている団体や市民等との協働での教材づくりについてのお考えをお聞かせください。



質問１．本事業についてのご意見･ご提案･ご感想についてお聞かせください。

（1）環境省 39 モデルカリキュラムについて

評価項目	人数	理　　由
とても参考になった	1	・多様な実践があり、**意欲ある教員には現場でもできる**かと思われて大いに参考になる。
参考になった	21	・各学校が地域の特性やこれまでの経緯の中で、工夫していることがわかる資料です。**子ども達のやり甲斐を高めるためにも評価**について留意することが必要です。 ・現場では現場の事情に合った単元計画を 創るのでそのままでは役に立たない。特に、中部では映像を加味するので、そのままでは使えない。しかし、単元計画を考察する際の参考事例としては有用。 ・私自身は、直接モデルカリキュラムを活用して環境教育を実践する立場にはないが、先生等の実践者の方にとっては、事例を俯瞰できることから、環境教育の類型を把握するのに役に立ったのではないかと思う。 ・実際の授業の流れを考える際の、ESD の考え方を活かした学習の進め方を確認し、**ヒントとする教材**となった。 ・総合学習の枠のなかで、環境問題や文化遺産について共通項の問題点をうまく提示していた。 ・各地での実践が掲載されていて、ESD を進めようとする学校現場ではとても参考になると思う。さらに積極的に ESD 人財育成事業を進めるためには、このカリキュラムが**全教職員の手元にいきわたるようにすること**だと思う。 ・長野県は全国でも特徴のある山岳地域で、当初から学校のニーズとして集団登山と学習カリキュラムの関連性づくりがあげられており、今回に関して言えば参考になった程度でした。そうした土台がない場合に、ESD の視点を広げたり、具体化するサポートとしては**良い手引書**だと思っています。 ・どんな取り組み事例があったかを知る事は、大変参考になります。しかし、地域特有の背景があるので、実際の展開では、地域に合わせての応用が重要になると思います。 ・このような仕組みがあることを、まず知ることが出来たので収穫であった。 ・ESD とは何かを現場の教員が考える際の**よりどこ**ろとなっている。 ・ESD のモデルとしては、**とても分かりやすいもの**だと思いました。 ・授業のアウトラインがパッケージ化されているので、「ESD」という言葉になじみがない教員の方でも、授業の概要から**「ESD 的な」授業の進め方がわかる**のではないかと感じた。 ・地方の多くの学校で、総合学習の時間等を使って、田植えなどの地域と連携した活動を行っていると思います。その活動をモデルカリキュラムに当てはめることにより、新しい学習展開が考えられ、ESD に発展させていくことが容易になると思います。 ・多様なプログラムの内容が ESD 教育のこれからの参考になると思う。各地域において取組みが違うがその中でも様々なヒントが見つけられそうであり、**有効利用**させていただきたい。
あまり参考にならなかった	4	・モデルカリキュラムのほとんどが従来の環境教育の範疇のものであり、環境教育の実例集としては参考になるが、ESD 実践の参考とするには不十分であるように感じた。 ・やったことを通しての主張を明確にした書き方の工夫が必要。 ・イベント的、もしくは、地域特異的なものが多く、汎用性があり、持続可能なプログラムがまだ少ない。 ・先生方のご要望を受け、地元と学校の関係づくりに重点をおいて支援を組み立てたため、結局モデルカリキュラムはあまり参考にしなかった。
参考にならなかった	1	・実践校の決定が遅く、取り組みを考える時間がなかった。これまで取り組んでいるものをもとに、ESD の視点を取り入れることに注力した。
どちらでもない	2	・ワーキンググループ参加した時点でおおまかなカリキュラムが既に決定していたため、どちらともいえない。 ・申し訳ありません。タイトルを拾い読みした程度で、内容についてはほとんど見ていません。
その他	3	・（ワーキンググループに出席できませんでしたので、回答を控えさせていただきま

		す） ・地域によって事情が違うので、アレンジがしにくい。 ・カリキュラムとして、学校へ提案するにはプログラムの立て方に改善が必要である。プログラムの活用方法の検討を要する。
無回答	0	
	32	

（2）事前の打合せ及びワーキンググループについて

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	6	・具体的な討論ができ、改善の糸口を多くつかめた ・学校で作成する単元計画の改善のために非常に**有益である**。本プロジェクトの**最大のメリット**と考えている。 ・事前の打合せ及びワーキンググループにおける、現場の先生方とアドバイザーによる**モデル授業の組み立てプロセスは成果があった**と思う。ただ、担当の先生の負担感はやはり大きいのかなと感じる面はあった。 ・地域の状況と各々の**立場の相互理解が深まった**。 ・現場の先生方が実践をする際に、**様々な角度からアイデアや支援を得る場**となっていた。 ・それぞれが、まじめに積極的に意見を発言した。概論にとどまることなく、**かなり具体的な指摘や提案があった**ことがよかった。
よかった	17	・WG では活発な意見交換が行われていた。ただ、教育現場における ESD の推進を目的とするのならば、**県や市町村の教育委員会をメンバー**に加えた方が良い。 ・石川県の場合、2 校の応募があり、各学校とも担当学年、担当教員の積極的な取り組みが進んでいることはよかった。一方で、ワーキンググループとして共通理解が不十分なスタートであった。 ・ESD への目を向ける良いきっかけになった。 ・方向性の確認ができたことと、おおまかな授業の流れが確認できたこと。 ・授業内容の検討にまで踏み込んだ話し合いがなされるとより効果的ではないか。そのためには、指導案をもとにした打合せの機会が持てるとよいと思う。 ・方向確認は出来ましたが、細かいことをフォローする会議回数が確保できないので、実際のプログラムを実証事業で見ないと分からない部分があり、どうしても一定の限界があると感じました。 ・会議を重ねることで、今回のカリキュラムに対するグループ**参加者の意思統一ができ、方向をしっかりと定めることができた**ように思う。 ・仕事の事情で十分には参加できなかったが、学校に事業の内容を知っていただくために打合せが設置されたことはよかったと思う。 **・学校側と無理なく授業構成をつくることが ESD の普及のための重要な要因**であるから。 ・先生たちと、なかなかじっくり話をする機会がないので、そうした時間が持てたのは良かったです。ただ、もう少し早い段階で打ち合わせができると良かったです。ちょっと時間が足らなかったです。 ・小学校での ESD プログラムということで、生涯学習を対象とした ESD メニューしか経験して来なかった自分には新鮮だったが、その場でプログラムを拝見し意見を述べるのは困難。事前に内容を知れているともう少し違ったかも。 ・先生から、今までの活動の取り組み経過を聞くことにより、新たな授業の展開を考えることができました。（もし、水槽事案について、先生から情報提供がなかったら、また違う授業になっていたと思います。）時間がなくて、最終の指導案の検討ができませんでしたが、地元の方を招待していることが分かっていれば、その方から話を聞くといった提案ができたかもしれません。（あるいは、地元の方を呼んで、話をしてもらったらという提案があったかもしれません。） ・一方向の専門性を強く強調されて進む傾向（検討時間が長く）が見受けられた点が気になった。また、逆に座長の意見、特に ESD の面でお話をもっと伺うことが出来れば良かったように思う。 ・最初は不安があったが、議論するうちに、うまく整理をして行けた。先生が良く頑

		張っていた。 ・今年度実施校だけでなく次年度実施予定校も参加したことで、**刺激もあり思考の幅が広がった**のではないかと思う。
あまりよくなかった	3	・2 回のワーキングの枠だったため、回数としては不足していたように思えます。1 回目のワーキングの後にワーキングメンバーの整理が必要だったことは、関係者に少々混乱を招き、事業推進の難しさを感じました。推進の実際は地元の中信環境教育ネットワークやゲストティーチャーが各自別の事業等も利用してモデル校に支援に入り、結果的にバトンリレーをしていました。このリレーが思いのほか機能したのは結果的に良いことでした。 ・最初の一回参加しただけなので、ワーキングというほどには至らなかったと思います。 ・時間的にゆとりがなく、じっくりと協議することができなかった。
どちらでもない	2	・当方の都合ですが、十分に関与できる状態になかったので、是非についての評価は困難です。 ・参加できなかったので評価できません。
その他	2	・（ワーキンググループに出席できませんでしたので、回答を控えさせていただきます） ・テーマについていろいろな切り口がある。今回の活動で新しい提案がたくさん出て、毎年同じテーマに取り組む**学校に活気が出た**。
無回答	2	
	32	

（3）映像に関する打合せ及び撮影した映像について

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	8	・ナレーションを挿入したことで、子どもたちが映像の内容をスムーズに理解できていた。 ・実物に触れられないことが多い学校の授業では、**映像教材はとても効果的**である。特に、実践されている方のインタビューなどには**説得力**があった。 ・授業を実践される側に立った、また**授業を受ける子どものニーズに合った優れた教材**となっていた。授業校の教員が出演するなど、子どもたちの興味関心を高め、学ぶ意欲を掻き立てる内容であった。 ・動く記録映像による授業に使用するということで、容易に当日を回想できる必要があったと思うが、「カニ」という素材を用いて**藤前干潟と堀川をうまくつなげられた**のは良かった。AR を組み合わせることで授業時間以外での学習の深まりも望める良い教材だと思った。 ・今回のモデルカリキュラムづくりの、さらにモデル授業を実施した映像が、子どもたちの関心を捉えて効果的だった。**映像のねらいとそれを使用する教師のねらいが合致するよう、授業を効果的に運びたい**。 ・地元の方のアドバイスなどを取り入れていた。**ワーキングメンバーに保存会や地元の関係者を入れたほうがよい**のではないかと思った ・現場を再確認すること、現場で活動している人の思いを聞くことで活動の内容を整理することが出来たと思う。
よかった	15	・オンライン会議では各位の思いがタイミングを外して出てくるので、難しいところもある。(もちろん TREE の方は大変努力しておられるのです。)現行がギリギリの線とも思っている。 ・もう少し時間的ゆとりがあれば◎ ・映像有りきではなく、授業に使う教材とする為、ぎりぎりまで調整、改善の努力がされる点が、大きな良さです。しかし、授業者や作り手の立場で考えると、現地取材が一回という予算は不十分に思う。 ・一般論としては、うまく作成されれば非常に有益。本年度の効果についてはまだ判断できない。 ・もう少し詳しい現場の映像があったら、議論もそれに関して盛り上がる可能性もあるかも ・いつも簡潔にまとめられており、生徒には映像による時空を超えた想像力が広がる可能性を感じます。「とてもよい」でないのは、今回はモデル校でしか使えない教材が 1 つあり、恐縮を含めての選択です。 ・事前に全体のイメージをつかむのは難しいが、結果として短い時間内でも教材として

		十分機能する内容となって良かった。**専門家に任せる利点**だと思います。 ・参考となる映像教材を事前に見せてもらえたらイメージが掴みやすいと思います。映像はとてもよかった。時間は決められているかもしれないが、もう少し長くても良いように感じた。 ・地域の美しい映像があったことは良かった。 ・今回は撮影の打ち合わせには関わっていない。映像に関しては腑に落ちた。 ・もう少し内容を練る時間があると良かったです。 ・打ち合わせについては、参加できていませんのでわかりませんが、授業には効果のある映像ができていた。 ・映像を通して、基本となる学習と地域連携の大切さや地域と共に自然を守る ESD 教育に結びついたと思う。しかしながら、スケジュールの都合や季節などあり難しいとは思うが、生き物などの映像はインパクトに欠けたのではと思えた。（食物連鎖など具体的に見て理解できるのが今後の学習に役立つ）
あまりよくなかった	3	・映像については、汎用性のあるものにするのがいいのかモデル授業個別のものにするのがいいのか最後まで判断がつかなかった。今後の先生方の反応を見るしかないかなと思う。 ・まだ完成していないから。 ・今回、映像については、授業の構成とよくマッチしており、先生と充分打ち合わせをされたものと思います。
よくなかった	0	
どちらでもない	0	
その他	4	・昨年度は比較的高い評価ができた。本年度についてはまだ未知数。 ・（ワーキンググループに出席できませんでしたので、回答を控えさせていただきます） ・伝えている内容はほかの地域でも学校でも使えるとても良い内容だと思う。特にこの学校にとって身近な先生が出ていたからベストだと思う。 ・プログラムのコンセプトに対して、どのような映像を撮るのかは、ワーキンググループで情報を共有し、十分議論すべきである。**ESD の知見、及び学校における授業づくりを理解した人が映像のディレクションをすることが必要**である。
無回答	2	・見ていないので、なんとも・・・
	32	

（4）映像を活用した授業実践について

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	6	・先生がこうした教材を利用するのが上手で、効果的な使い方となっていること。特に長野県では課題を見つけながら授業カリキュラムを作っていく展開を取ったため、旬な映像が結果功を奏しました。 ・ふりかえりの授業に効果的に使用されていた。 ・授業を**実践される側に立った、また授業を受ける子どものニーズに合った優れた教材**となっていた。授業校の教員が出演するなど、子どもたちの興味関心を高め、学ぶ意欲を掻き立てる内容であった。 ・非常に**子どもたちが受け入れやすい構成**になっていたため。
よかった	13	・**時間のもち方等、新たな授業改善、ESD 展開の糸口**を多くつかめた ・映像はカリキュラムに沿った授業の進行に有効だが、映像の内容を子どもたち一人一人の取組みに還元してあげられるかどうかは**先生の力量次第**なところがある。 ・各校の**創意で授業を構成できる点**が最もすぐれていると思います。(H.25、H.26 とも)今後もこの方針でお願いしたい。 ・今井先生のねらい（中池見の素晴らしさを実感させる）を達成するという観点では、とてもよかったと思う。本時の展開内容だと「中池見」と「敦賀 1 号機」とが対等になるような仕立てがあるとよかった。 ・その地域だけの部分映像では、着眼点が小さすぎると思ったのですが、全体と部分というとらえ方が配慮されていて、うまく活用できたと思います。 ・地域の、多くの生徒が写真でしか見たことの無い映像があってよかったと思うが、**映像と学習の方向がもっと合っていると、さらに効果的に使えた**と思う。 ・イメージを先行して示すことは有効な手段であると思う。 ・教科書のみから映像、そして実際の社会や野外への導入になるから。

		・生で見ることができなかったので、何とも言えないところはあるのですが、授**業での映像の活用**はいいと思います。 ・映像のまとまりがよく、それをうまく活用した授業を見ることができた。**子どもたちの意見の引き出し**も上手に進めており、映像と現地という組み合わせも良かったと思う。しかし、授業時間の制約もあるとは思うが、子どもたちの回答が模範的すぎて、さまざまな視点から思考を深めるという視点が薄かったのは少々残念だった。 ・映像をただ単に流して見せるだけではなく、映像を止めて、児童にじっくり考えさせるための資料映像に活用していたことは良かったと思います。授業を参観していた伊藤さんが、最後の映像に出演し、お話をされた時、それを見た児童の何人かは後ろを振り返っていました。おそらく、映像を見て、児童は伊藤さんの思いを初めて具体的に知ったと思います。その思いを直接本人から聞く機会があればもっと良かったと思います。 ・嘉例川は、多様な環境があって様々な生き物がすみやすい環境と児童たちは思い始めていたが、コンクリートの三面張りの部分がでてきて、そうでもないと考えさせるきっかけになった。 ・映像を効果的に活用することは、とてもいいと思う。ただ見せるのではなく、子どもへの気づきや考えるきっかけづくりなど、授業進行に沿った映像づくりと使用する教師の明確な意識が必要だ。
あまりよくなかった	1	・あまり映像を活用しているようには見えなかったです。映像より実体験に基づく授業だと思いました。
よくなかった	0	
どちらでもない	2	・まだ実践していないから。それにしても、昨年に続き、開始時期が遅すぎる。自然関係のものの場合、いつも季節的に厳しくなってしまうことを改善できないものか。映像の魅力が半減してしまう。
その他	5	・昨年度は比較的高い評価ができた。「とてもよかった」と「よかった」の間と評価。本年度についてはまだ未知数。 ・大人でも子供でも、映像を組み入れるのは、研究会や研修会では、時間の流れが速く感じられるので組み入れるべきだと考えます。特に低年齢層には必須。 ・（ワーキンググループに出席できませんでしたので、回答を控えさせていただきます） ・わかりやすく内容がされていたから。 ・児童にどのように心や学びに反映できたのか、**学びの深化**ができたのかなどが気になります。アンケート結果など教えて下さい。
無回答	5	・見ていないので、なんとも・・・
	32	

(5)児童・生徒の授業に対する反応はいかがでしたでしょうか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	8	・**授業者、協力者の努力**のたまもの ・発言の機会には多くの子どもが手を挙げていた。授業に対する先生の熱意が子どもたちにも伝わっていたと思う。 ・身近な自然に目を向け、自分達なりに調査や発表を行い、その中に新しい気づきが見られたようで、意欲的な学習が展開された。また、よくありがちな、行き当たりばったりの総合ではなく、計画的見通しの持てる学習ができた。 ・生徒の反応はとてもよかったと思う。今井先生のねらい通りの展開となったと思う。 ・生徒からはあまり意見がでないかもしれない、を前提に先生方も工夫されたようですが、蓋を空ければワークショップでの意見交換は多くの意見が出て良い雰囲気でした。 ・これまでの学校の取組、先輩からの伝統となった活動・行事が学習の支えとなり、意欲的な学習を可能にしていた。 ・クイズやアンケートを活用した参加型の授業なので、生徒が楽しく興味を持って学べていた様子がわかりました。
よかった	15	・シンポジウムでは一人一人の歩みがよく分かったので。 ・1 年～3 年という学年差があるから議論もばらつきがあるのはしかたないことで、先輩のリーディングを目の当たりにみて、 それも継承していけるのであろう。 ・振返りの時間では、活発な意見が出ていないように感じましたが、グループディスカッションの中では活発になってきて、自発的、積極的な発言が出ていたと思います。

		・自分で行う体験的なものは反応が良かったが、グループワークになると個人差があった。 ・生徒たちの感想の中に、地域のことについてお互いの意見を聞く機会があったことがよかったという感想があったことが印象的だった。 ・今回は、立ち上がり以前から先生方が意識して動いていたところが大きく、反応は多くあったように感じる。 ・生で見ることができなかったので、何とも言えないところはあるのですが、子どもたちの反応は良かったと思います。 ・映像教材に全員が注目しており、**回想の道具**として上手に機能し、多くの意見が出ていた。時間制約が緩ければもう少しさまざまな意見が出たかもしれないという点が少々残念だったが、各グループから意見を引き出せており、双方向性を感じることはできた。 ・児童が**積極的に意見を発表**しており、児童が取り組みやすい授業だと思いました。 ・グループでの話し合いでも**自分の意見をしっかり伝えようとする姿勢**が見られました。水槽の写真を見た時の反応には、生き物の命を大切に思う気持ちが良く表れていたと思います。環境が変わると、生き物が住めなくなってしまうことがあるということを理解し、そこから、河川環境の保全が大切であることまで、発展的に考えることができたと思います。 ・やや知識が先行しがちであったが、みんな**積極的に参加**していた。 ・子どもたちが地域の自然や河川を通して、生き生きとした学習意欲の姿が垣間見えて良かった。生き物は、水槽で生きていけないことを知り、悲しむ声が伝わって来た。より、自然の大切さを醸成が「リアルなねらい」なのでしょうか。（この意図は、他に理解のしようがなかったのか？） ・子どもたちは、表情豊かに映像を見ていたが、教師の発問が活発な意見や反応を引き出せていなかった。自由に意見を広げる時間と、収束へ持っていく流れの予測が必要だ。子どもは戸惑いながら発言していた。 ・自分たちの学校の周辺の風景であったためイメージしやすかったのでは ・1～3 年の合同授業で良かったと感じた。
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
どちらでもない	3	・まだ実践していないから
その他	3	・昨年度は比較的高い評価ができた。「とてもよかった」と「よかった」の間と評価。本年度についてはまだ未知数。 ・（ワーキンググループに出席できませんでしたので、回答を控えさせていただきます） ・必要であれば、使う。使い方である。
無回答	3	・見ていないので、なんとも・・・
	32	

(6)本事業全体について

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	8	・具体的なとりくみで子どもの成長につなげられる。**ずっと続け、県全域で広げたい**ものである。 ・ワーキンググループによる議論と単元計画の改善が**学校にとってのとても良い刺激**になる。 ・先生があっという間にワークショップの手法を自分のものにされていた姿は大変に印象的でした。展開された授業は生徒からの要望の吸い上げができていました。地域課題の解決は実践に至るまでにこの先まだ距離がありますが、先生が連続する授業のある時点で生徒のスイッチが入ったのが分かった、とコメントされており、これはまさに生徒のやる気やエンパワメントが授業でなされたということであり、今年の「生徒とともにつくるカリキュラム」のゴールは達成したと評価しています。 ・**生徒の関心事を引き出して、それをテーマに一定期間にわたり追跡調査、議論していくという手法**は、大変優れている教育手法だと思いました。それを支えている先生方の熱意が伝わってきて、教育をする方にとっても良い経験になったのではないかと思います。 ・学校の取組を様々な角度から組織的にサポートできていた。各教科の支援に比べ、**学校外からのアシストが充実**している。 ・クイズやアンケートを活用した参加型の授業なので、生徒が楽しく興味を持って学べていた

		様子がわかりました。 ・映像準備は大変かもしれないが、映像を道具としてうまく活用することで、**児童の意見を多く引き出すことができていた**と思う。身近にある堀川を良くしていこうという気持ちと「カニ」がなぜいなくなってしまったのかを**調べる探究心の向上が得られるプログラム**だったと思う。他への応用も容易にできると思われる。**AR も児童の関心を上手に得る使い方**だと思った。映像素材の準備を日常的に意識すれば、映像作成の労力も軽減すると思われる。 ・実施校が着実に増えていく中で、**校長や担任が外部の多様な人と出会い評価され、自信をつけていっている様子**がうかがえる。
よかった	20	・今回は ESD の普及啓発を兼ねて授業の最後に活動報告を行うが、本授業をモデルとして他校で授業を行う場合は、最後に**大々的な発表会を開く必要はないのではない**か。調べ学習を通じて、子どもたち一人一人が地域の良さや人とのつながりの大切さに気づくことができれば、それだけで十分に授業の意義はある。発表会の準備に時間をかける代わりに、**調べ学習の時間をもっと増やした方**が良い。 ・本事業をとおしてゆるやかに ESD が広がっていくところが良い。 ・石川県に於いては授業実証校における取り組みは、**質が高くモデルとなる取り組みを作り上げている**。しかし、**市町村、県など広域にそのモデルとなる実践を広める機会、手立てが不十分**です。また、学校のよき理解者として、支援者としての校区（公民館、子供会）、PTA などが、**ESD の主体となる戦略**が重要です。 ・モデル授業担当校の校長先生や担当教諭の皆さんは、まじめに真摯に取り組んでいただき、環境教育を入り口にしたＥＳＤの推進という考え方の理解の促進に役立ったかなと思う。ただ、先生方はまじめで真摯であるがゆえに、ついがんばってしまって、負担感をにじませるシーンもあったように思う。（モデル授業を）働きかける側があまり過度の期待を寄せないよう（欲張りすぎないよう）配慮する必要もあるかと思う。 ・2 年計画であり、初年度としての取り組みを行うことができ、見通しを持ちながら、来年度へつなげることができた。 ・総合学習の枠のなかで、国語担当の先生がプログラムを構築し、公開実証事業を、実施するという試み自身に、敬意を表したい。見学者からの改善点を議論提案するより、まずこのような公開授業を実施し、担当の先生ご自身の**今後のやる気につながるコメント**だけで充分だと考える。 ・モデルプログラムを実証していくという手法はとてもよいと思う。この事業を広めていくためには、関係者だけでなく、他の学校に対しても公開し、その取組みを紹介していくとよい。活動の発表会だけではわからない現場の雰囲気や、児童・生徒の様子、指導者の苦労などがわかり、それぞれの学校へ戻って実践をする際のヒントとなる。 ・ESD 環境教育プログラムを取入れたことにより、様々な体験や、地区の自然や、またその活用方法について学ぶことができ、取り入れたことについては意義があったように思います。ただ、**自らが考える力になったかどうかは、少し不足**していたように感じています。 ・年間を通じて、生徒、先生、地域の大人が、地域のこれからを考え、それぞれの思いを出し合う貴重な機会となった。このような機会でもないと、学校の先生方の思いや生徒たちの生の声は、地域の大人に届きにくい。 ・事業そのものは継続して行っていただきたい。但し、**地域が継続していける働きかけ**もお願いします。 ・学校側にも**無理のない形で授業や行事に取り組むことができることを示せた**こと。 ・採用 1 年目の先生ということで、児童の予想しない反応に対して戸惑いも多かったと思いますし、また、最後の方には時間が足らなくなってきてどうなるかと思いましたが、最後には、どうにか上手くまとめられたと思います。先生のがんばりで 1 つの指導案ができたの、学校全体で共有し、同じ指導案を違う先生が取り組むことによって、少しずつでも改善していくのも 1 つの方法だと思います。あるいは、今回の授業では、生き物と環境のつながりを考えることがテーマになりましたが、違った先生が取り組めば、同じ環境調査から別の視点、テーマが見えてくるかもしれませんので、これからも、継続して嘉例川の調査及びそれを活用した授業を行っていってほしいと思います。 ・取り組んだ学校、先生には **ESD について考えるとてもいい機会**になったと思う。しかし、すでに実施されている取り組みに ESD の視点を持ち込んだものであり、他校ですぐに実践できるか、同様の効果があるかは疑問である。 ・身近な自然環境のあり方、指導方法、自然と地域との共生、水は私たちの大切な資源などで、津田学園小学校の教員の方々にワーキングメンバーが関わること事態が画期的なことであったと思われる。毎年継続されるこの授業が更に ESD 教育に進化させたものに成り得たことで、次の担任へ引きついてもらうことをメンバーの一員として切に願うことであります。 ・価値のある事業だと思います。それだけに、もう少し打ち合わせの時間が欲しかったです。

		「生物と環境の関わり」というアプローチは悪くなかったと思いますが、そこにもう少し「自分たちの生活」をいう視点が入と、もっと良かったのかなと思います。 **・児童に気付きを促し、考えさせ、意見を引き出す良い事業**だと思いました。 ・映像について企画のねらい、内容共に分かりやすく、映像の中の子どもたちも自然にと捉えられていてよかった。ただ、これを使用する授業の運び方に未熟さが見られ、十分に生かしきれていなかったのが、少し残念であった。 ・授業の進め方は非常に勉強になった。地図に生き物などの名前を書いた付箋張っていくなど、記憶に残りやすかったのでは
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
どちらでもない	1	・まだ終わっていないので。
その他	2	・（ワーキンググループに出席できませんでしたので、回答を控えさせていただきます） ・良い事業ではある。しかし、継続するには 3 年の事業が終わった後に、何等かの展開が必要である。**他の学校での展開には、最初の段階で、この事業をいかに活用するか、仕組みづくりを念頭におく議論を行い、検討を重ねる**ことが必要である。
無回答	1	
	32	

質問２．ESD の価値観、視点、方法、アプローチは取り入れられていたでしょうか。

評価項目	人数	理　　由
はい	27	**【どういった点】** ・具体的活動中心、仲間や対象の向き方からの学び ・コミュニケーションを行う力、つながりを尊重する態度 **・個の問題**として位置づけられている(児童) ・学校の評価観点に加えて ESD の育む力について想定し評価しようとしている。 ・3 県について個別には書きにくいが、単元計画の改善に際し、ESD の視点をどう取り込むかが議論されている。 ・泉中学校のカリキュラム作りのプロセスで地域の資源(食、工芸、行事等)を掘り起し、並べてそれぞれの由来や意味や機能を探求してみると、一見関係がないように見えたそれらの資源が関連し、支えあって全体として地域の文化を形成している事が理解されるようになり、それらの大切さとそれらを継承していく為の行動を子ども達に気づいてもらうカリキュラムにしようという方向に収れんしていった事 ・運動場の、8 本の木を素材として学習を行ったこと。 ・生徒間同志の議論、発表ができている、従来の先生からの**受け身的な授業ではない**。 ・理科・社会の領域と絡めながら、総合的な学習の時間として有効に活用していた点。「中池見」という自分たちの地域にある財産について考えるという目的意識を持って学習に取り組んでいた点。 ・登山体験をもとに、生徒が出した「水環境・森林環境」の身近な課題を、裏の学校林に絡めて学習が進められたことです。自身の体験をもとに地域に帰って課題発見につながる課程がありました。 ・地域の課題を的確にとらえていたこと、**生徒の自発性を引き出し**ていたこと。 ・地域資源を活用する学習など。 ・過疎化が進む地域を自分はどうしたいか意見を出し、相手の意見を聞くと言う作業に**ESD の全ての要素が入っていた**と思います。生徒の興味関心に合わせて外部講師が呼ばれ、それぞれの道に専念してきた方たちの話を聞き、一緒に作業をすることで、多様な意見や考え方があることや、世代を越えた活動や葛藤があることを知ってもらえたと思う。 ・私の立場ではスポーツ的要素(登山)から環境への意識に変換できる所が良い ・地域の現状との関連で教材が組み立てられていた。 ・単なる道徳的な価値判断を学ぶ、押しつけるということではなく、**学習者自らの判断を求めた取り組みであった**点。 ・異なるクラスの児童の発表を聞いたり、話し合う機会を設けることが、**さまざまな意見（価値観）や視点に触れる機会**になっていたと感じました。これにより、さまざまな角度から考える機会の醸成ができていたのではないかと思います。

		・身近なことから地球環境についての知識へ広がり身近に戻していた。 ・ESD においては、立場の違う人たちが集まって、1 つのプログラムを作っていくプロセスそのものも重要だと思います。 ・堀川という身近な自然環境を良くして、生き物が棲みやすい環境をつくるという意識を多くの児童が持つきっかけとなった点。 ・児童に**気付きを促し、考えさせ、意見を引き出し**ているところ。 ・学校の近くを流れる嘉例川の観察を通じて、河川の環境保全について考えるプログラムになっていました。 **・話し合う。考えを発表する。体験を通して気づく**など。 ・地域の自然環境を地域の活動団体を含めて保存・保護している他者との協力で、**持続可能性を含む責任性や自然の有限性を多面的に捉え、未来をしっかり掴んでいた。** ・地域のよさを再発見する。 ・地域を愛する気もちやこつこつと続けてきた仕事のすばらしさを知り、地元の人への尊敬や感謝の念が生まれてくる。 ・単に環境ではなく、人と「もの」と自然の関わり、良いところを見つけそれをどう守っていくかの視点で取り組まれたところ。 **【どのように】** ・地域に直接的に働きかける活動が単元の中心にある。取り組み方に視点を当てた VTR から自分のとりくみを高める手法 ・市電通りの宝物を探す中で、地域の人と関わりを持ち、**「人」こそが本当の宝なのだと気づかせるようなカリキュラム**になっている。 **・一人一人の課題が明確**であった(児童) ・国立青少年教育振興機構で試行されている評価観点を導入予定です。 ・全体の構成に反映、また子どもたちとの接し方に関し ESD 的な手法を導入。 ・身近な素材へ目をむけ、その価値を見直すことができた。**命をつなぐ大切さ**を考えるきっかけとなった。 ・理科・社会の領域と絡めながら、総合的な学習の時間として有効に活用していた点。「中池見」という自分たちの地域にある財産について考えるという目的意識を持って学習に取り組んでいた点。 ・モデル校は外部講師が多く連続性がないのが課題でしたが、そのメリットを生かして連続性のある、かつ、生徒のニーズを拾う形でカリキュラム化ができてきたことがあげられます。 ・生徒の意見を取り上げて研究課題として、その調査の過程で地域関係の人々と関わりながら知見を広げていったこと。 ・身近な自然に気付き、活用する方法を学び、将来の地域について考えることが出来た事。 ・普段の生活の中(衣・食・住）に身近な環境を考える要素がたくさんあることに気づかせることができる手法である。 ・学校登山と地域の裏山の資源活用とが関連して授業にされていた。 ・藤前干潟という名古屋市民にとって歴史的な場所の知識とともに、毎日通学で通る身近な堀川の環境に関心を持つ事で人の生活と生き物の関わりが環境保全の鍵となる事に気付き、そこから**更なる学習の発展が窺える感じ**がしたから ・映像を含めて**正しい答えを出す授業ではなく**、色々な感じ方、考え方を導きだしていた。 ・児童は、グループでの話し合いを通じて、自分の意見を活発に表現していました。また、水槽の生き物が死んだことを通じて、環境の変化が生き物に大きな影響を与えるということを学び、自分たちがこれからどのように行動していったらよいか考えるきっかけになったと思います。ただ、グループでの話し合い結果について、グループ代表が発表しただけであったため、グループ内ででた他の良い意見が拾いきれず、クラス全体に共有されなかったことが残念です。 ・自分たちの矛盾に気づいた（なぜ、川が、生き物がすみやすくなさそうなコンクリート張りになっているのか。） ・実際に河川での調査（川の幅、流れ、汚れ具合・きれいさ：透視度計および COD 科学的酸素要求量：目で見て数値で確認して汚濁状況をみる）近くに住宅地があり生活排水は流れ込んでいる。生物の数、ごみの種類（今回ごみはなかった）、地域の環境、地域の人々も同じように、地域の河川の生き物を大切にしていること、教室でのグループ討議でも周辺地域の自然環境を守っている点を話し合うなど。 ・自然と生物の関係性や必要なことが広く捉えることができた。 ・人間生活と自然とのあらゆる関わりを尊重することができた。 ・川や川に住む生き物のために、**自分たちができることについて考え**、より良い環境を生み

		出すために実際に行動(本人と家族そして学校と地域)しようとする。 ・地元の街を歩いたり、インタビューするフィールドワーク。 ・最も関心を持った事柄について、さらに調べたり話し合ったりして理解を深め、クラス全体で共有。
いいえ	0	
どちらでもない	1	・まだ未実践なのでわからない。
その他	2	・(ワーキンググループに出席できませんでしたので回答を控えさせていただきます) ・授業を見ることができなくて残念。授業は**教員と児童が創りあげるライブ**、授業の動画記録があると参観できなくても追体験できるのだが・・・
無回答	2	
	32	

質問３． ESD の授業づくり、ESD 人材育成の参考になりましたか。

評価項目	人数	理　　由
とても参考になった	3	・主張が明確。ESD に直結した取組 ・単元計画の改善プロセスが非常に参考になる。それらの情報が十分に公開・周知されないでは非常に残念。 ・ESD の授業づくりには、**指導する教員の力量が必要**であると思う。その点、今井先生は自分の伝えたいこと、本時のねらいを十分に伝え、生徒はそれを受け止めることができていたと思う。 ・先生方が校長・教頭・学年主任・担任と比較的一枚岩で取り組んでいただけたことは**素晴らしいチームワーク**だと思います。担任の先生の**教育手法の吸収力**にも驚き、こうした方法が広まれば ESD が各地で実践されることにつながると感じます。 ・子どもたちの体験を通した実践が行われ、それを**可能にする授業づくりを、教員と外部の人間が協働してつくりあげることができた**点。 ・担当教師は、何方かと言えば反面教師であった。 ・教師自身が、ねらいを明確に持って授業を進めることが肝要。 ・子どもたちの**疑問や意欲を積極的に引き出す声かけ、発問の仕方、状況判断力**。 ・子どもの関心や意欲を高めながら、**いっしょに授業をつくっていく柔軟性**が求められる。
参考になった	17	・参考にはなるが、担当した先生方や校長、学校組織、地域連携のその後を**フォローアップすることが重要**です。そのためにも、授業者や校長のネットワークの構築が重要で、**授業者同士が遠隔地であっても協力、助言し合えるような関係構築が重要**です。 ・先生方がモデル授業を通じて ESD 体験ができたこと。 ・時間をかける、手間をかけるきっかけとして有効であった。これからも前向きに取り組めれば、学習を充実させていくことができると思います。そして、その総合学習に関わる学年の先生が、ESD について学ぶ良い機会となります。 ・私個人は、これまで DVD などで、ユネスコスクールの授業を観たことがあるだけだったので、自分の地域にこういった先進的な教育がおこなわれているということに誇りと敬意をもち、このような授業をとりいれていくことで、間違いなく、生徒や先生は変化がみられ、**学校や教育という土壌がこれまでとは違った形で存続していける**と考える。 ・地域に関わる課題を取り上げると、一見小さなことでも地域の人たちとの交流を通じて**多様な課題解決の方法がある**ことを予見してくれた。 ・ESD 自体を理解していなかったので、大変勉強になりました。 ・担当される先生方の**意識が変わっていく**のは感じ取られた。 ・学校の困難な中でも**工夫により様々な ESD が実践**されていたこと。 ・学校の先生と**「協働」して授業づくりにあたる**という点において参考になりました。 ・映像素材の活用は参考になった。授業は時間配分やおいてきぼりを作らない取り回しは非常に参考になったが、子どもたちの模範解答を引き出す感が強かったので、もう少し雑多な意見からの議論応酬のようなものが見られると面白かったと思う。

		・映像を含めて**正しい答えを出す授業ではなく、色々な感じ方、考え方**を導きだしていた。 ・今回の実践のように、事前に**外部の各方面の方のアイデアをもらえば、ESD の視点を取り入れた授業を作ることができる。** ・生徒が経験したことを様々な**ツールを利用してまとめていく**、発展していくことが参考になりました ・教員が孤立せず校長の理解の下で外部の専門家や達人と出会い、子どもたちと一緒に地域の宝を見つけることを通して地域課題の解決策を探っていく、そのプロセスを体験しながら**教員と子どもたちも ESD の担い手になっていく**のだと思う。この事業は大変恵まれた環境を用意してその可能性を試しているように思うのだが、**どういった支援さえあれば他の場でも再現可能かの精査が必要。**
あまり参考にならなかった	2	・当課は環境教育の分野で ESD に関わっているが、今回の実証授業は環境問題を扱ったものではなく、今後の参考にするのは難しい。 ・今後もその学校で続けられるような仕組みが確立されておらず、今回限りで終わってしまうような実践も多そうだから。**継続的なサポート体制を創り、ESD モデル校として成長を促す**方が良い。
参考にならなかった	0	
どちらでもない	0	
その他	3	・今回は、生徒の思いを汲みあげるところから始め、生徒の関心に合わせて学習を組み立てる方法だった。関心が多岐に渡った分、全体的にまとまりに欠ける感じになったが、**意見が混沌とするところから出発**し、いろいろ学びながらゆっくり方向性を作り出していくという難しい作業を生徒たち自身が体験したことは、将来、**多様な人たちと何かに取り組む時の役に立つ**と思う。 ・（ワーキンググループに出席できませんでしたので、回答を控えさせていただきます） ・環境に詳しい多くの専門家が加わり、様々な視点から議論ができたから。映像の見せ方など専門家に教えられることが多かった。先生方からも子どもタッチの感想が多く聞かれた。
無回答	7	
	32	

質問４．ESD を実践するにあたり、課題と感じている点は何でしょうか。今回の事業及びプログラムはその課題を解決する上で役立ちましたか。

評価項目	人数	理　　由
とても役に立った	1	・ESD とは何かという理解が広がり、広く社会に認知されるようになってきた。
役に立った	19	・どんな視点で授業を考えるか**教師自身の構え**が重要。そのことについて 2 回ずつ授業を行い、解明できたことが役立った。 ・アレンジ幅が大きくてもよいので、**創意がはたらきやすい。** ・採用後の教員に関する人材育成資質向上の面では、多くの知見を得、多くの教員を育てていると思う。**育てた人材のネットワーク構築、更なる充実に向けた研修機会の提供といったフォローアップ**が必要です。また、**大学の教員養成段階での改善に向けた取り組みが手つかず**で大きな課題です。 ・ESD 実践に際してのポイントは 2 つ。内容と手法。北陸では手法の改善はワーキンググループを通じて進んだ。他方、内容については、ケースバイケースになるが、全体的にはまずまず取り込まれるものと期待している。 ・ESD は、指導者（先生など）にとってあまりに概念が広すぎてとらえどころがないように見えることから、口で説明してもなかなか理解されず、モデル授業等で体験してはじめて「ああこれが ESD というものか」と理解できるものであり、なかなか普及に時間と手間がかかる。 ・学校現場が忙しく、なかなか教材研究の時間を取れないのが実情である。その中で、学習を児童と作り上げようとする前向きな姿勢を生み出すきっかけとして有効であろう。そのために、**児童の変容や力のついた点を子どもも教師も実感することが大切**であり、それがないと忙しさだけが残り、後が続かない。 ・これまでの減点方式の教育から**生徒のいいところ発見の授業形態を取り入れる**

		教育を実践していく先生方の教育が必要である。 ・学校により進めやすい環境が異なるという点で、まだ課題を残しています。公**的コーディネーターが入るか、または、民間で担うか。先生への教育手法の広がりも研修など機会を提供する仕組みが必要です**。今回はそうしたことについて行政と話し合う機会を持つことはあまりできませんでした。 ・環境問題、特に地域をどうするかという問題については、地域でもいろいろな考え方があって、どの部分を取り上げるかが学校にとっては難しい課題だと思う。一つ間違えば、生徒が地域に振り回されることになってしまう。今回は、**生徒の思いを汲みあげるところから始め、生徒の関心に合わせて学習を組み立てる方法**だった。学校が地域と向き合う方法としては、**有効なやり方を試すことができた**ように思う。 ・問題は**継続性**。 ・一歩でも社会や地域自然の現状にふれる必要があるが、**教科書や学校行事との関連の中から ESD 素材を見出すことも効果的**だなと。 ・子どもたちが、様々な課題に対峙した時に、その問題点に気づき解決策を考える能力を養うのが ESD ですが、それには**反復継続が必要**だと思います。現在の学校教育カリキュラムの中に反復継続して実践する**時間の確保が課題**だと思います。 ・「自然環境や野生の生きもの」と「自分たちの生活」をどう結び付けて伝えるか？これを伝えるための演出は、永久的な課題だと思っています。 ・身近な環境保全視点での ESD はうまくいっていたと思うが、その題材を要注意外来種に求めた点は気になった。中学年向けのプログラムだとこういうものかと納得はしたが、高学年以降になった場合「チチュウカイミドリガニ」の棲める環境を守ろう！ととらえてしまった子どもたちはどう感じるだろうか？しかし、それを恐れていては、身近な堀川に子どもたちの目を向かせることは困難だったと思う。 ・ESD 教育という新しい概念と共に、どのように教育施設（学校）へ踏み込んで、**現状の学年の教科内で横断的に捉えて更に深化させて行うこと**が、現状の学校の教員が本当にできるのか？で、文科省と環境省で話し合ってほしい。ESD 教育で各県単位でも２つのモデル授業が確立できたので他の学校へ拡充すべき段階に入ったと思う。基本的に**地域単位で ESD を完結する方法も必要**。 ・生徒、先生は今回の授業で**成長したと思いますが、継続性**がどうなるか **・つなぐ力、つなげられる人、学校の扉を開ける鍵を持つ人、の育成と配置**。特に地方では今回のように**ある種の公的なお墨付きと人縁がないと難しい**。
あまり役に立たなかった	6	・環境教育の担当課として、環境教育の枠組みを超えた ESD の実践にどのように関わっていくかが課題と感じている。 ・ESD そのものが持続可能ではない点。**プログラムや支援体制そのものの持続可能性。教員の意識改革。サポート側の知見やサポート頻度**。 ・ESD 実践上の課題の１つ目は、**評価の仕方**であろう。授業として実践する以上、評価が必要である。オープンエンド形式の展開であるにしても、どんな評価がなされるかを検証していかなければならないと思う。指導案にも評価の項目を入れていくべきだと考える。２つ目は、**「ESD」と呼ばれる授業と、日頃行われている「地域の教材」での授業の違いの明確化**だと思う。各学校で当たり前のように「地域の教材」を活用した授業展開が数多く展開されている中で、改めて「ESD」の観点を入れてと言われて戸惑いを感じるのが実感である。 ・より多くの人に ESD、担い手づくりを進めていくにはどうしたらいいか。 ・ESD の視点を取り入れて授業実践をしてみようとする動機づけが大切だが、その動機づけには役に立たないように思う。 ・教師の資質と経験 ・子どもたち同士で話し合いを深められるような場づくり、進め方。 ・限られた短い時間内での区切り方、まとめ方、次へのつなぎ方。
役に立たなかった	0	
どちらでもない	2	・一つの点の中では、十分に立派な ESD が実践できた。問題はこれを、**面に広げていくにはという事に関しては、まだ具体的に先が見えてきたとは言いがたい**。本件の成否と**違う次元での検討を同時にやる必要がある**と思います。 ・普段の業務の中で、ESD を取入れていないので、「どちらでもない」を選択しました。
その他	2	・ESD の言葉で難しいと感じる関係者が多い。「持続可能な社会」ということば自

		体が「身近なこと」と周知されていないように思う。一気に進まないのが現状であり、根気強く「ふりかえれば ESD」教育をしていると伝えることが大事だと思う。 ・学校、教員は ESD 授業のマニュアルを求めることもあるが、ESD はマニュアル通りの授業ではないので、いかに導くかが課題である。
無回答	2	
	32	

質問５．映像や ICT を活用した授業への期待や必要性についてお考えをお聞かせください。映像や ICT を活用した学校教育と家庭学習をつなぐ仕組みについてのお考えをお聞かせください。

評価項目	人数	理　　由
とても期待し、必要だと考える	6	・世の流れから言えば、これからの児童の生活に ITC は欠かすことができないものである。しかし、学校教育現場で行うには、費用の面や手間がかかること、進歩についていけないなどの課題が見えている。過度の期待は危険であり、情報モラル等の心の教育とセットにして行う必要がある。 **・デジタルスキル**を身につけることは、**今後の生きる力を育てるうえで重要**なことだと思う。しかし、生徒が主体的に映像や ICT の活用をする機会は極めて少ないので、今後はそういった点でもサポートをしたい。もう少し事業そのものを行う学校にインセンティブをつけるか、継続性を考えなければ、**一過性で終わる可能性が高い。** ・映像の必要性、効果は前述のとおりである。指導するうえで教師のねらいにぴったりはまった映像は、何物にも代えがたい効果がある。しかし、その映像を探し出したり、作成したりするのは極めて困難である。今回のように、**専門家が指導者と相談しながら映像を作成する仕組みはとても貴重**なものであると考える。家庭学習とつなぐ仕組みとしては、ICT を活用し学習の様子や内容を家庭に配信することが考えられる。今回の気比附属中の展開であれば、二者択一を保護者にも求め、生徒たちの考えと比較させるのも思考を深めるのに一役買えるのではないかと思う。また、そうすることにより家庭での会話につながっていくことも期待できる。 ・視覚に訴える情報伝達は、非常にインパクトの強いものであると感じます。とくに ESD では、身近な課題をとらえ、他との比較によって理解を深めるという事が良いと思いますが、点から面への展開を考える時に、映像のプロに頼るには限界があります。映像教材の制作もそれぞれの地域が担当していく仕組みが必要ではないでしょうか。 ・五感で感じ取らせることが効果的なので、映像や ICT の利用は有効だと思います。身近な自然環境などについては自ら現地に行くことが必要ですが、他の地域（または国、世界など）と比較検討する場合には、映像や ICT の活用が必須になると思います。 **・家庭での取組により、親の関わりが可能**になる。親の意識改革が無ければ、単発の活動として終わってしまい、継続的な学びが難しくなる。 ・授業で映像などは非常に効果的だったと思いました。
期待し、必要である	16	・限られた時間の中で、うまく活用することで子どもの意識を高めたり、体験的な活動を行う時間の確保ができた。 ・石川県金沢市立泉中で行われたように、ESD の学習対象を家庭が共有し、家庭での学習の広まりや深まりを学校の授業に生かすことはおもしろい。子ども達の学習を表現する手段としての映像化、ICT 化は重要で、中学生などは学習結果としての映像づくり、プレゼンづくりなどは、**家庭や地域と学校を繋ぐ可能性**を広げてくれそうです。 ・昨年度の学校と家庭を繋ぐ石川の取組は画期的であったと評価。映像や ICT は、使い方によっては大変大きな効果を生むと思われる。ただし、すべての学校の教員がそれらに精通しているわけではないので、**映像作成の費用ねん出、教員の能力向上をどうするかが課題。** ・とても、と少々迷った項目ですが、映像の持つ力は教育に有用だと常に感じています。一方で**コストパフォーマンスや実現性**（常に進化する映像内容）という点で課題を残すため、“とても”を避けた選択です。学校の先生が映像教材を作るのはまだ現実では皆というわけにはいかないですが、**生徒とともにつくる、家庭を巻き込む媒体としての期待**はしています。 ・学習のテーマに沿って上手く画像を使えれば、知識の整理や、体験の振り返りに

		は有効な手段だと思う。 ・**手法**としては期待する。継続性を持つことが必要かと思う。地域の連携が次年度にもつながるように。 ・教科書主体から、社会や野外での実態から学ぶ授業への変換期には、映像などの**現状を感じることのできる教材**が必要だし、効果的である。 ・映像やインターネットなどの情報端末は、短時間で多くのものを伝えてくれること、その場にいながらにしてさまざまな体験ができることから有効ではあると思います。ただ、「わかったような気分になる」だけではなく、実際に見て、触れて、考えるという「体験」とセットで考えるべきであり、**活用の仕方には常に気を付ける必要**があると思います。 ・映像や ICT の活用は時代の要請で必要なことだと思いますし、**コミュニケーション・ツールとしては、とても重要なもの**だと思います。ただ、それだけに偏ってしまうのは問題だと思います。ESD においては、**「実体験」や「直接的なふれあい」も重要だと思いますので、バランスよく活用していくことが重要**ではないかと思います。 ・今回、授業で使った映像をインターネット（ユーチューブ）により家庭で見られるように工夫していただくとともに、**その映像を家庭で見て、児童が住んでいる近くの川の様子を家族で話し合うという宿題**を先生が出されました。これを機会に、授業で習ったことを家族で共有するとともに、自分たちが住む地域の川についてより深く観察し、何か新しい発見や行動につながると思います。それを元に、学校で改めて自分の考えを発表する機会があれば、児童の視野、思考がもっと広がると思います。この映像を使って、別の学校が学習することもできると思うし、それぞれの地域で河川の環境保全を考えるきっかけになると思います。 ・気候変動において刻々と現状が変化する、映像を記録していくことの重要性を感じる。視覚に訴えるだけでなく、**五感をもって体験を取り入れることも重要**である。ワークショップで、**他者の意見を取り入れてまとめる力**も必要である。教員が児童に、**問いかけながら児童より答えを引き出しながら確認していく方法**も必要である。児童から家庭での話合いを行う姿も、持続的に捉えて行く上で重要で必要と考える。それには、**発表会などで学校教育とつながることやアンケートを行い、分析していくことも必要**である。 ・**国内外の映像や情報**から、子どもたちの体験や発想を超えた刺激を受けることができ、多様な視点から考えを深めていくことが可能となる。 ・記録性、再現性に優れた映像や IT を ICT として活かすも殺すも使い方次第。
あまり、期待しておらず必要ででない	2	・今の福井県の子育て状況、家庭環境の状況を考慮するに、保護者の負担と能力は十分でないと考える、又、これ以上の現場の先生方の仕事量を増やすのはよくない、ユネスコスクールはかなり大変だと思う材料のひとつになってしまう可能性は大である。 ・映像や ICT は、**必要なら活用**すればよい。また、その基礎はすでに学校にある。映像や ICT はあくまでも手段であり、それ自体が**目的化してはいけない**。
どちらでもない	4	・**学校教育と家庭での取組みをつなぐことは授業後のフォローアップとしても重要**だと思うが、その仕組みに映像や ICT を活用するイメージが湧かない。実例があればぜひ教えていただきたい。 ・判断が出来ないので「どちらでもない」を選択してあります。映像で見るよりも、実際に体感した方がよいとは思いますが、今回の ESD 環境教育プログラムの授業のように映像を見せながら学習することは効果的であると思いました。ICT については、判断できません。 ・今回のような**テーマに基づく誘導や深化に対しては有用**だと思う。一方、映像や ICT は**受動的になりがちで、能動的な学習の機会を失ってしまうような気**がする。（表現が難しいのですが、インターネットで何も考えずに検索する人はいないと思いますが、紙の辞書だと適当に開いたページに目がとまることもあり、そこから違った発見があるようなイメージです。）故に、使いどころによっては有効だが、そうでない場面もあるという気がするのでどちらとも言えない。 ・全ての小学生が例えば干潟体験をできる体制ではないという点において映像は必要であるが、**実体験に勝るものはなく、今回の授業も児童へのインパクトはあまりなかった**ように思います。
その他	0	
無回答	4	
	32	

質問６．ESD 実践を拡大するための地域主体の形成に本事業は寄与していると思われますか。また、地域で活動されている団体や市民等との協働での教材づくりについてのお考えをお聞かせください。

評価項目	人数	理　　由
とても思う	5	・学校における ESD の実践を**地域ぐるみの活動に拡大**する一つのきっかけとして、**地域と協働での教材づくりは有効**であったと思う。 ・地域住民が教材を作る課程で参加し、学校カリキュラムを理解することと同時に、学校が地域課題を理解しカリキュラムに反映するという**双方向の情報交換ができること**は、これからの**地域社会形成においてとても重要な仕組みになる**と考えます。先生の移動を考えると、地域にそのテーマを継続する教育機関なり団体があることは非常に重要なことと考えます。 ・ほとんどの学校で環境保護活動などの活動を学校行事または生徒会主催行事などで実施しており、**ESD を導入できる素材を持っています**。しかしながら、教育現場では教員による ESD 手法導入には、時間的な余裕がないこともあり困難な状況に置かれているため、**団体や市民がその担い手になることは大変重要**です。 ・地域における活動を行っている方とのコンタクトをどのようにとったら良いのか、**窓口やリンクを可能にする仕組みがわかりやすく提示**されると良い。 ・今回関わっていただいた専門家や地域の達人、（校長も）を人材バンクに登録して、次の活動に関わり続けてもらう場を用意していくことが大切。関わり続ける中で ESD センスを身に付けてもらい、その中から **ESD コーディネーターになる人を育成**していく取り組みが多分一番の早道。地域の団体、市民が今までにやってきた活動をどう広げ。深めたら ESD 実践になるのか、そこをコーディネートするのが一番の難関であり、地域で ESD を進める要点。
思う	11	・いろいろな立場の委員により多様な視点からの意見交換、及び共通理解は役立った。あとは、どうやって**裾野を広げるかが問題** ・本事業は、地域や市民と学校を結び質の高い ESD の授業、総合的な学習の時間の授業づくりや人材育成に**量的質的に大きく寄与**している。しかし、一方で既存の社会教育機関・施設、関係団体こそが **ESD の主体となるべく転換する戦略が今後重要**です。大きな税金が投じられている**既存の生涯学習に影響力を行使**することが重要です。 ・北陸では全体としては地域との連携は取れていると評価。各県での 2 年間の取組の中では、大変高く評価できるものと改善の余地があるものがあると考えている。 ・寄与していると思います。教育の場に地域の人たちが関与していることを**もっと一般市民に周知させる必要**があると思います。また、地域の外部講師を適材適地で見つけるには、予め**市民側に関連情報がつかめるネットワークのあることが有効**だと思います。そういったネットワークづくりに**行政の支援が欠かせない**と思います。 ・環境問題、特に地域を将来的にどうするかという問題については、地域でもいろいろな考え方があって、どのように取り上げるかが学校にとっては難しい課題だと思う。**地域で活躍している団体との距離の取り方も難しい**。地域団体の思いが熱すぎると一方的な意見の押し付けになってしまう。今回は、**生徒の思いを汲みあげるところから始め、生徒の関心に合わせて学習を組み立てる方法**だった。環**境省事業の名の下、**学校が主体となって地域に協力を求める方法を探ることができた。 ・松本市には協議体があり、機能していたと思う。地域が持続、発展していくためには**地域のモチベーションが途切れないようにコーディネートする仕組みや人材が必要**。それに対するフォローを期待する。 ・**関心ある教員の核を形成してゆくことが必要**かと、長野でも少しずつ進んではいるかなと・・ ・名張市立薦原小学校では、2 年生ころから地域の方とつながりを持ち始め、3 年生でギフチョウの事前学習、4 年生でギフチョウの観察と地域の自然観察、5 年生で稲作体験と田んぼの生き物調査、6 年生でこれからの地域を考える授業といったように、小学校の在学期間を通じて地域とのつながりを保ちつつ、地域を教材にした授業を行っています。津田学園小学校でも、2 年生でホタル観察を行い、3 年生、4 年生で田んぼの学校と、嘉例川に関わった活動を行っています。ぜひ、今回の授業を 5 年生、6 年生と発展させて、嘉例川及び地域の人たちとつながる授業・活動を継続していってほしいと思います。そして、津田学園小学校では、嘉例川と地域の人々のつながりをテーマにして、2 （１）年生から６年生まで何らかの学習を行っていくとい

		う**小学校全学年を通じたカリキュラムを作っていただくといい**のではないかと思います。（プログラムの見直しで、今回の授業で行った内容のうち、生き物が住みやすい環境がどういうものかを考えるのを４年生までにして、後半部分の河川環境の変化に係る部分は５年生にもっていってもいいかもしれません。） ・寄与していること→**ESD の学びとはこのようなものかと実感してもらうことができるところ。**実践後、取り組みに前向きな態度になってもらえること（昨年、今年とも）。**学校と地域の活動団体をより強く結びつけることが出来ること。協働での教材作り**→具体的な授業実践を通すこと。 ・経験の少ない先生が多い中で、このように進めていただけることはありがたいと思う。 ・実践を積み重ねることで、**ESD の認知度が上がること、そしてノウハウが広がる。**
あまり思わなかった	8	・発信場面など、十分に地位との関わりを活かした学習ができなかった。**地域素材が開発できれば協働の体制も整っていく**と思う。 ・**環境省自らが地元メディアなどに情報発信**すべき。地域に任せている印象が強い。協働を狙うなら、**予算をしっかりつけなければ質は向上しない。**ボランティアでは**質を選べない。しっかりとインセンティブをつけなければ、優秀な人材は参加しない。** ・今回の WG が、どの程度地域の団体等と関わりを持っていたのかが不明だが、学校側の負担は計り知れないものがあったのではないかと推測される。協働での教材づくりを進めるためには、少しでも学校の負担を減らせるような取組み法を構築する必要があるのではないかと考える。 ・学校の授業の一環で藤前干潟を訪れたりはしているが、地域主体の形成につながっている気はしなかった。あくまでも**学校教育の一部**だと感じた。 ・地域での協働による教材づくりについては、**活動団体や市民と学校を近付ける媒介者の存在が不可欠**だと思う。 ・今回は既存の市民団体との協働はあったが、**地域主体の形成という点はなかった**ように思います。 ・学校の授業、ESD の取り組みに一緒に関わることで、**地域の市民グループ等がともに成長していくことが理想**であるが、今回の事例ではインタビューや聞き取りの対象でしかなく、協働までの関わりは生まれなかった。もっとテーマを絞り込み、時間をかけて取り組まないと、**地域との協働作業は難しい。**（今回のような地域の宝探し・自慢探しは序奏。次の絞り込みから協働での探求が始まると思う）
思わない	1	・そういった事を期待するのであれば、こういった公**開実証事業の見学者に、ESD を実践していると考える任意団体や個人をくみいれなければならない。**マスコミだけでは、広がりはペンでしかない。授業の中に、地域の ESD 団体がでてくるのであれば、それを期待するのであれば、その方たちの実際の弁を授業に取り入れれば、一層 ESD 教育につながり、授業も白熱するだろう
どちらでもない	3	・本事業は、先生方と生徒そして保護者の方に **ESD 体験をしていただいたことが最大の成果**だと思う。本事業の受託者として、あれもこれも成果としたい気持ちはよくわかるが、１回のモデル授業でそこまで成果を期待するのは無理があると思う。 ・1 県 1 プログラムの実践の中で、地域「団体の事業」に寄与し、環境教育授業を行う手法の一つとして活用できていると思うが、**「地域主体の形成」というと難しい。**また本事業は**「学校現場」に「地域団体」を繋げるきっかけ**となっているが、**ESD 実践を拡大するためには、時間がかかる**ように思います。 ・この点は、まだ判断がつかないです。「協働での教材づくり」は必要だと思いますし、これからも進めてほしいです。**「地域主体の形成に寄与」というところまでいくかどうか**は、今回の単発だけではどうでしょうか？
その他	1	・ワーキングメンバーとしては、寄与していると思いたい！ので、具体的にあらゆる機会を捉えて ESD 教育の内容および実践方法や四日市行政にも発信して来た。これからの予定では５月に大学生と一般社会人の方向けの環境特殊講座でも、実践した２つの学校教員に登壇のお願いをしている。学校全体が取組めるもっとも有効な「仕組み」づくりが必要であると考えている。東京の NPO 団体（過去、10 年間四日市市のリーダー養成講座に携わった団体）より、依頼を受け、四日市市の人を集めて、代表もお願いして確立し、環境教育ネクストステップ研究会の団体を立ち上げた。具体的には、中学校、小学校の教材を環境につながること内容を抽出して、横断的につなげることができるのかを模索している段階である。
無回答	3	
	32	

質問７．今回の事業に参加されて、「気づかれたこと」「変化」などお聞かせください。

【富山県】

・初めての教材づくりなので、入門的な事例が多かったのではないか。多くの学校ではじめの一歩を踏み出してもらうためには、**価値のある教材づくりにはなった**と思う。

・次回は、継続的に取り組んでいる学校をモデルに、**少し深みのある密度の濃い授業づくりにも取り組ん**でみてはどうだろうか。なるほど **ESD の真価とはこういうこと**かと、**教師がワクワクするような授業が組み立てられれば**いいですね

【石川県】

・若い先生方には**大きな可能性**があります。**子ども達や同僚と共に学びながら成長している様子**が見えます。本事業が提供する ESD について本気で取り組む機会は、**教師や教師集団を育てている**と思います。今後も、先生方が E**SD に挑戦できるよう、先生方を勇気づけ、やり甲斐、学びがいを実感出来るよう工夫**していきましょう。（自治体や教委、企業等が出資したファンドで中部発の ESD 学会設立、実証授業者の会、実証授業者の授業構想夏合宿、実証成果交流春合宿）

・NPO や NGO の活躍に期待すると共に、既存の社会教育施設、関係団体（公民館・子供会・PTA）野外教育施設が **ESD に取り組むようになるよう戦略的な取り組み**が必要です。**学校の ESD を支え、更に充実する**ことにもつながります。

・このような仕組みは、仮に**映像がないとしても大変有益**であると評価。

・3 年間の事業期間を越えて、**どう地域に定着させるかは大きな課題**。

・鈴木先生をはじめ多くの方々の努力により、**ESD という概念が学校に普及しつつあること、ESD に携わる人材が増えてきていることを実感**した。隔世の感があります。

・日程などが合わずに、調整が難しい。

・詳しく学習する研修機会が得られにくい。

・費用の使い方が複雑で、学習に活かしにくい。

・人や費用を十分に活用していくためには、手続きなどの見通しが必要。

【福井県】

・**地域との協働や連動を組み入れる授業**を実現して頂きたい。先生だけが専門家だという意識を生徒や保護者がもたずに、実際には現場で活動している方々がおられ、**社会が成り立っているという事を少しずつ理解**していくためにも、是非取り入れて、それがユネスコスクールだと位置づけてほしい。

・**お互いの実践を見合う機会が欲しい。また、できあがった教材も共有したい。**

・実践校から WG や SH への**要望を吸い上げる機能**があるとよい。県内の学校で、今回敦賀気比附属中でこの事業を進めていることを把握しているところはほとんどないのではないかと思う。せっかくの実践校がもったいない。**広く周知、公開**してあげるとよい。

【長野県】

・モデル校のある松本市では、信州型コミュニティスクールの実践が本年度から始まっており、地域との連携を図る上で、当初より学校から支援を求めるとの強い要望がありました。始まってから ESD という概念が学校教育に取り込まれるまでに時間がかかりましたが、やってみれば**手ごたえを感じる事ができた**、というのが教育現場の実際だと想像しています。コミュニティスクールも地域との体制づくりに留まらず、**この学びをカリキュラムにどのようにつなぐか**という点で、今後多くの学校が課題を抱えると思われます。その際に、モデル校の例が**地域の教育現場に紹介され、普及されることを期待**しています

・**個々に取り組むと立派な教育環境ができる事が実証**されました。教育はすべての子ども達に公平にいきわたらせなければいけないので、**市町村単位での官学産民協働で遂行すべき課題との共通認識を確立**しないと、日本隈なく普及というには壁が高すぎると感じます。しかし、**地道に足元から固めていけば、やがて道は開けるとの感じも同時に持てた**ような気がします。

・ワーキンググループで仕掛けていくことも大切ですが、**生徒が自ら課題に気づき、自らカリキュラムづくりに参加し、**

自らの力で問題解決していけるようなプログラムづくりが出来たら、「**持続可能は開発のための教育**」にずっと近づくのではないかと思います。

・外部講師による単発の環境学習支援はこれまでも行ってきたが、単発だとやりっ放しになってしまい、その学習が何の役に立つのかが見え難かった。今回は先生方と話し合いながら年間を通してテーマを追う事ができた為、生徒達に地域の事をもっと好きになってもらう為の**環境学習支援にしようという共通の目的ができてやりがい**があった。地域で活動する団体の横の繋がりも広がった。ただ ESD という概念は分かり難く、先生方も支援に入る講師も生徒も８割方は何かの記号のように「ESD」という言葉を使っていて具体的なイメージを持てなかったように思う。

・関わりの出来た企業・団体・人とのつながりは再確認が出来たのではないかと思う。但し、**持続していくかは疑問**。

・ESD の**必要性と有効性は感じる**のだが、**現状の教育のあり方を変えてゆくのはなお大変**だなと。ただ、世論は教育も変わらなくてはと思っているので**少しずつ変化を促す**しかないと思う。

・ワーキンググループに参加することができずに、大変申し訳なく思っております。ESD を学校教育の中に取り入れるかどうかは、**学校や教員の意識の持ち方に大きく左右**されます。**実証実験の結果などを学校・教員に広く伝えて、認知していただくことが大**事だと思います。

【岐阜県】

・私自身が **ESD そのものの理解を深めることができた**。ESD を教育活動の核として、学校教育の取組の中心に据えることで、**学校の活性化や改革に力を与えることができる可能性を持ったものであることを実感**した。

・この**学校独自の環境学習の積み重ねが、効果的な授業につながっていた**と思います。単発の授業ではなく、日頃から日常的に取り組んでいくことの大切さを感じました。

【愛知県】

・同じ教材を使って、他の学年などへも**応用がきくか**どうかを知りたい。今回の授業を拝見して、**先生方の熱心さと子どもたちの意識の高さ**を感じた。「自**分たちが未来を創る」という思考の仕方を身に付けた子どもたち**はこれからさまざまな分野で ESD を実践していけると思うので、ぜひとも**大人チームが「継続」して子どもたちを導いていけるような雰囲気を保ち続けたい**。

・個別での打ち合わせは数多くやられていたと思いますが、やはりもう少し**全体での打ち合わせの時間がほしかった**です。今後も、**学校の先生との「協働」を進めていってほしい**と思います。

【三重県】

・近年、一部の小学校で、保護者、地域の人を巻き込んで「二分の一成人式」と称して、４年生時に、子どもたちが今まで生きてきた１０年間を振り返るとともに、自らの将来を考える活動を行っているようです。昨年、今年と偶然にも、同じ４年生の実証授業となりましたが、４年生（10 歳）は、「私」という意識が芽生え、自他の分離を感じるようになる、「自立」の端緒に当たる時期だそうで、児童から出た意見も成長が感じられる意見が多かったように思います。**自分の将来がどうあるべきか考え始める時期に、自分と環境のつながり、自分と地域の人のつながり等を考えるきっかけを得て、児童はいい体験ができた**のではないかと思います。

・若い先生が、真正面から取り組んでくださると、先生が大きく成長されるとともに、その真剣さは、児童にもしっかりと伝わる（決して上手な授業でなくても）今回小４の授業実践であったが、次へつなげていくことで、さらに SD 作りへの高いレベルでの実践になると思う。**1 年生から 6 年生までを通した計画作り**がほしい。

・ESD 教育自体、残念ながら知らない人が多いのが現実。浸透させて行く上でも、最終的モデル事業が確立した後（27 年度後半あるいは 28 年度を予定）三重県内の教員向けに、当大学にて環境省・文科省そして EPO 中部と四日市大学と当研究会の共催で是非、ESD 環境教育のシンポジウムを開催する構想（予定）の考えを持っている。そのための準備を行いたい。是非ともご協力お願いしたい。

・この経験を 1 回で終わらず、**今後の授業の中でも取り入れていける**といいですね。

（3）周知啓発事業参加者対象アンケート

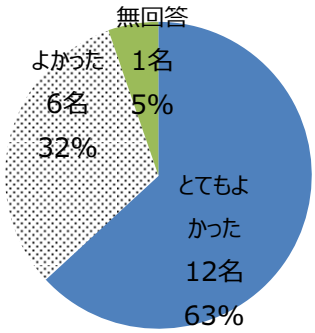
①回答者：189 名

	地　域	周知啓発事業名	回答者数/対象
1	富山県	富山から発信する ESD～ユネスコスクールの子どもたちから	19 名（保護者）
2	石川県	金沢市立三馬小学校 ESD 発表会 5 年 1 組の伏見川への思いを伝える会	8 名（保護者）
3	福井県	福井県合同課題研究発表会	21 名（教育関係者）
4	長野県	ESD 発表会【総合的な学習の時間「地域の自然をみつめよう」】	5 名（保護者）
5	岐阜県	学習発表会	57 名（保護者）
6	愛知県	MSH（マルチステークホルダー）ダイアログ・関係者による対話 「本気」でつくるサステナブルな社会　ダイアログ 3「ESD を地域で実践するために…仕組みづくりと評価」	15 名（主に一般）
7	三重県	4 年生学習発表会	64 名（保護者）
合　計			189 名

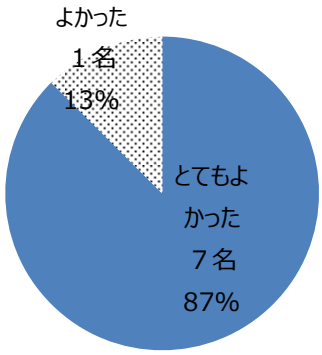
②結果～中部 7 県比較データ～　　**※実証授業校の希望やアンケート対象によって若干項目が異なる**

■取組発表はいかがでしたか。

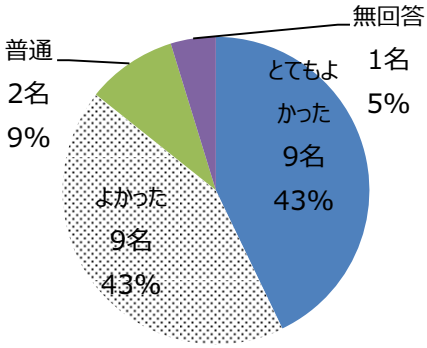
【富山県】



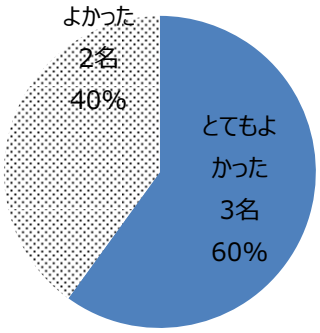
【石川県】



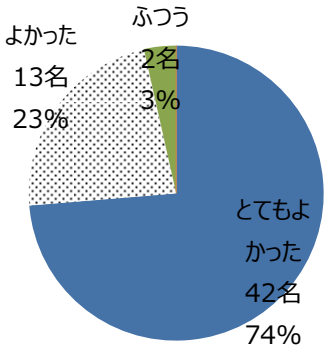
【福井県】



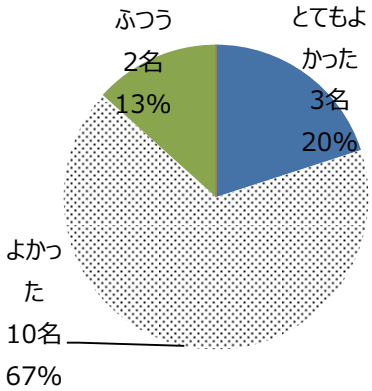
【長野県】



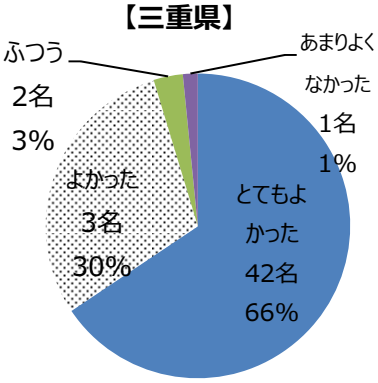
【岐阜県】



【愛知県】



【三重県】

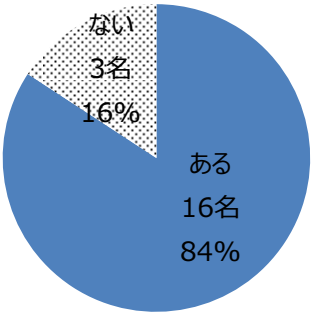


【考察】

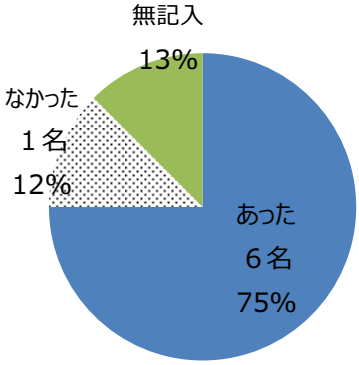
「とてもよかった」「よかった」の回答を合わせると、富山県 95%、石川県 100%、福井県 86%、長野県 100%、岐阜県 97%、愛知県 87%、三重県 96%となった。理由として、どの県においても、「児童・生徒の主体性」による学習、学び、調べ、まとめ、考え、「自分にできること」を発表していたことの評価が高く、児童・生徒の「地域への思いや関わりを知ることができた」ことが意見として多く出された。また、生活科や総合的な学習の時間の授業内容の発表であったことから、「扱っている地域密着型のテーマがよい」（富山「市電のたから」石川「伏見川」福井「中池見湿地と原子力発電所」長野「四賀の自然」愛知「藤前干潟と堀川」三重「嘉例川」）という意見もあった。児童が自信たっぷりに発表する姿を見て、参加者は地域から学ぶことの大切さを感じたようである。

■授業内容等について家族で話をすることがありますか

【富山県】

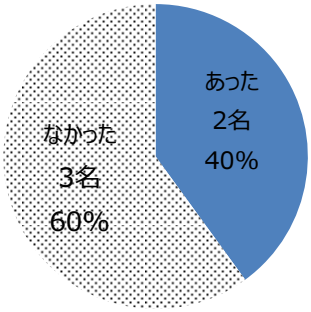


【石川県】

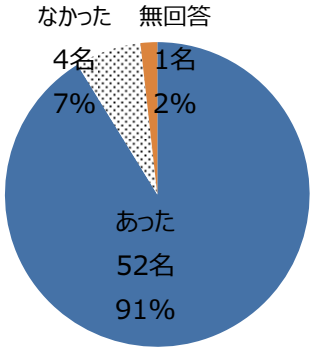


【福井県】—（データなし）

【長野県】

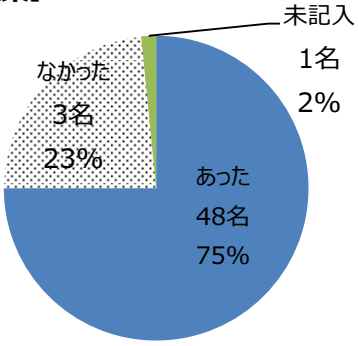


【岐阜県】



【愛知県】 —（データなし）

【三重県】

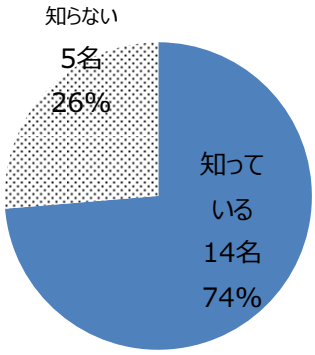


【考察】

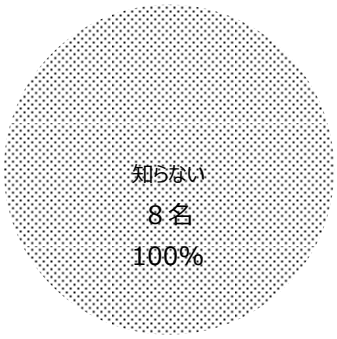
「あった」という回答が、富山県 84%、石川県 75%、長野県 40%、岐阜県 91%、三重県 75%であった。学校での学びや体験を家庭で家族に話したり、学習テーマについて「昔はどうだったのか？」などの質問をするなど、家庭で話し合う場が作られている、との意見があった。今回の ESD 授業で扱った学習テーマは、すべて日々の生活につながっており、家庭での暮らしの在り方の見直しなど家族で話しあいながら学習をふりかえり、学習から行動変容を生み出すことができる。家族で一緒に取り組むきっかけにもなったようである。

■「ESD」をご存知でしたでしょうか

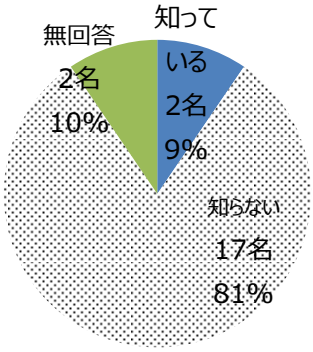
【富山県】



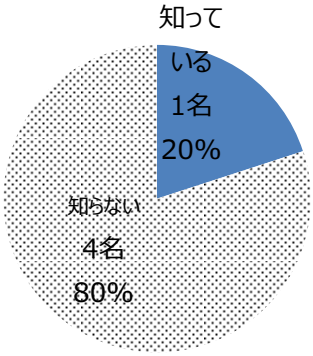
【石川県】



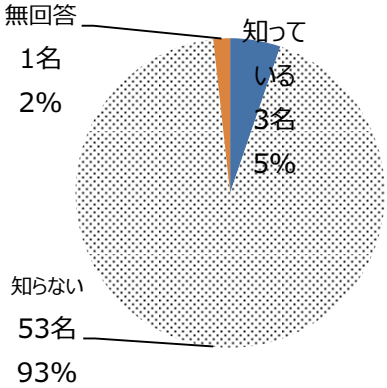
【福井県】



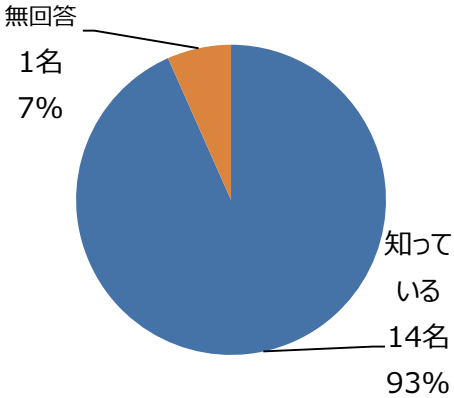
【長野県】



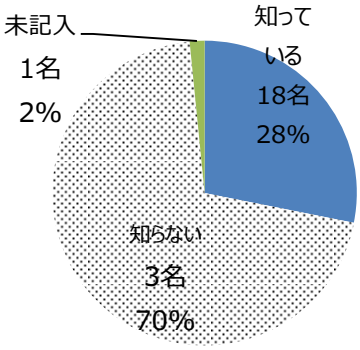
【岐阜県】



【愛知県】



【三重県】

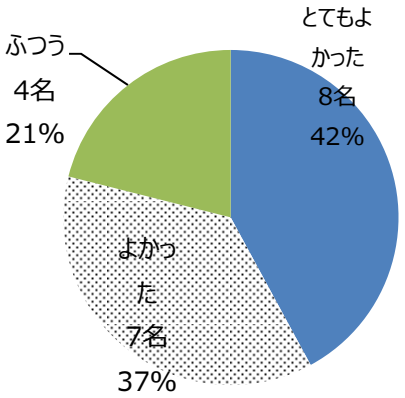


[考察]

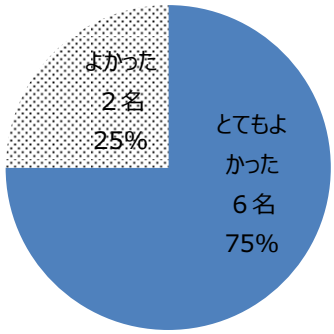
「ESD を知らない」という回答が、石川県 100%、福井県 81%、、長野県 80%、岐阜県 93%、三重県 70%とであった。一方で、長野県や岐阜県、三重県のユネスコスクールではない実証校において、「知っている」という回答が若干あったのは、実証校が意欲的に本事業に参加し、その価値や重要性を伝えたからだと捉えている。また、富山県の実証校はユネスコスクールであることから、「知っている」が 74%、愛知県で行った報告会では、一般を参加者としていたものの、ESD に取り組んでいる人が主な参加者であり、「知っている」が 93%であった。しかし、まだまだ認知度は低い。

■発表のあった授業を実施することについてどう思われますか

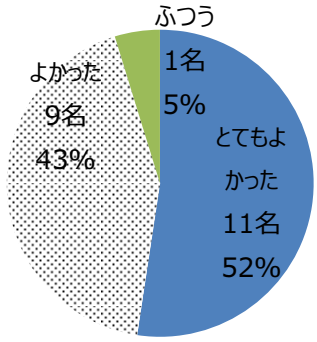
【富山県】



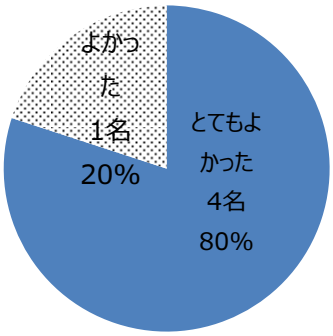
【石川県】



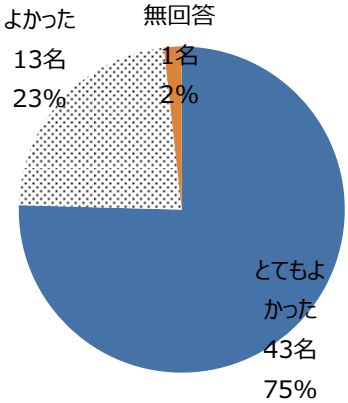
【福井県】



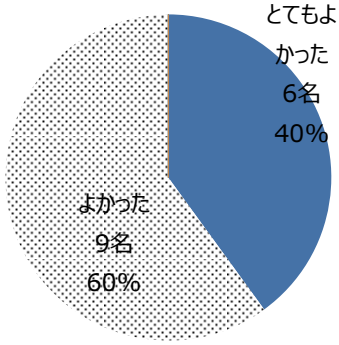
【長野県】



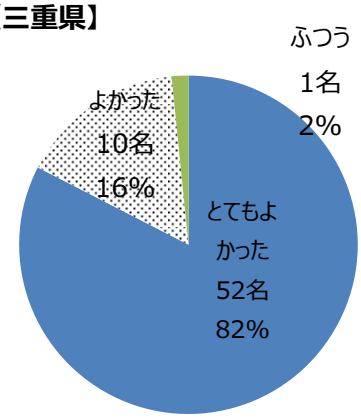
【岐阜県】



【愛知県】



【三重県】

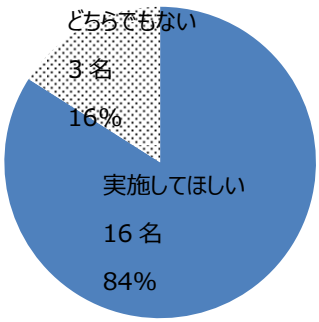


【考察】

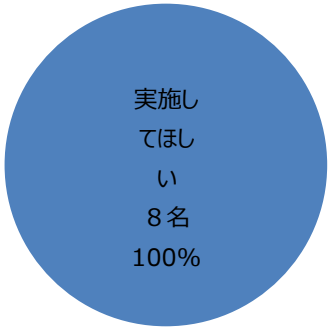
「とてもよかった」「よかった」を合わせると、富山県 79%、石川県 100%、福井県 95%、長野県 100%、岐阜県 98%、愛知県 100%、三重県 98%と高い評価を得た。「すべての授業及び発表内容が子どもの未来につながる」「地域の身近な学習テーマを教材に学習を行うことで、地域との交流が生まれ、地域への親しみにつながる」「子どもが主体的に取り組むことにより、知識を習得するだけではない『自分で考える力』が育まれる」「家庭での会話などを通して子どもの成長がわかる」、などの参加者の意見があり、学校と地域、そして家庭の連携による、子どもを主体とした学習の機会と学習内容の充実が評価された理由だと捉えている。

■今後もこのような授業を実施したほうがよいと思われますか

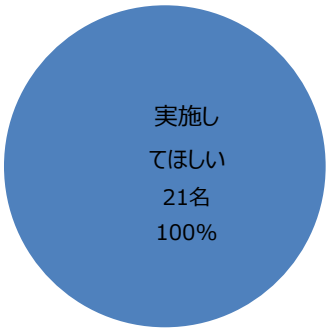
【富山県】



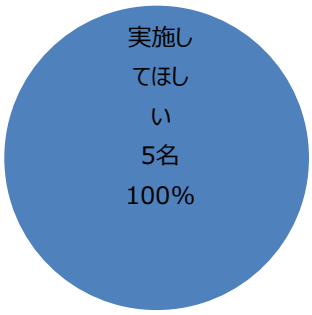
【石川県】



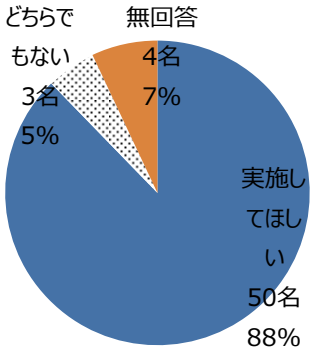
【福井県】



【長野県】

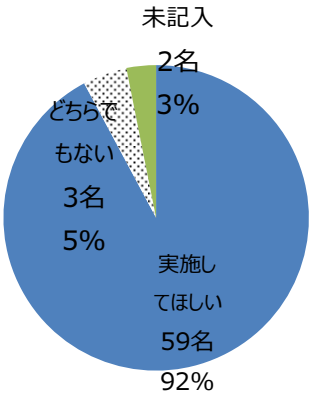


【岐阜県】



【愛知県】

【三重県】



【考察】

「実施してほしい」と回答した方が、富山県 84%、石川県 100%、福井県 100%、長野県 100%、岐阜県 88%、愛知県 100%、三重県 92%と、多くの参加者から希望があった。「一つの学習テーマを追求する児童の経験が大人になって生きてくる」「子どもが今後の社会の在り方を考えるきっかけになる」「実際の行動の変化を伴い、地域の未来や世界につながる学習である」「社会の課題に向けた一つの方法であるため必要と考える」「家族のつながりが深まる」などの参加者の意見があった。本事業で実施する ESD 授業の価値や意義が伝わり、このような結果となったと思われる。

②アンケート結果～各県アンケート内容～

【富山　アンケート回答者数　19 名】

質問 1．本日の子どもたちの発表内容はいかがでしたか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	12	・子どもたちは**自分の役割をしっかり果たそう**とがんばっていました。 ・子どもたちが、自分たちでそれぞれの**役割をしっかりこなして**いた。**全員が協力しようという気持ち**が伝わってきた。 ・**実体験**にもとづいているから、**ほんとうに生き生きとした内容**でした ・自分たちで**自主的にとりくむ**ことで、**よく考えたり工夫をしたり、友だちと協力したりと、様々な力を使わなくてはいけない**と思います。受け身ではいられずにおのずと、**一人一人の力が発揮されています**ネ。 ・声も大きくはっきりとわかりやすい発表でした。 ・子どもたちが自分の発表したこと、**自分の考えを堂々**と言っていたから。 ・一人一人が頑張って発表していた ・みんな事前に準備を頑張ってきたことがよくわかったから ・子どもたちで協力して作りあげている様子がみられてよかった ・みんなはっきりとした大きな声で発表できていた。 ・家では見られない姿が見れるから
よかった	6	・全員がしっかりと発表できていたので。 ・練習をしっかりしていたことが伝わった。
ふつう	0	
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
無回答	1	
合計	18	

質問 2．最近、お子さまと「市電通り」もしくは「市電通りのたから」について話をすることがありましたか。

評価項目	人数	「ある」場合どのようなことをお話されましたか。
ある	16	・市電通りを通るたび、**子どもの目がイキイキとします**。 ・奥野さんの話、たくさんの方の働きかけが周辺環境を整えるのに大切なこと ・親の知らない店等を教えてくれました ・新村こうじ（みそ屋） ・保育所に通園している生活圏の中ですから、よく話をしていました ・地域の商店さんとの交流、すばらしい点、大変な点などを、聞きました。子供の生きた体験として（商店さんとの交流から）聞くのは、楽しかったです。

		・知らなかった所、物をみつけ、そして又どう思ったかをいっしょうけんめいに話してくれました ・お店の方の話などを具体的に。 ・他のお友だちの宝やどんなことをしているかについて ・話をして電車に乗ってきました。 ・子どもが調べていたお店について ・駅やお店のこと ・車屋について ・色々な市内電車があるから
ない	3	
無回答	0	
合計	19	

質問 3．子どもたちの関心ある地域の事柄を題材に、子どもたちが自分で調べ考え、仲間と意見を交わし、発表する学習を「ESD」として行っています。ご存知でしたか。

評価項目	人数
知っている	14
知らない	5
無回答	0
合計	19

質問４．堀川小学校が、ESD 実践校としてユネスコスクールに登録をしています。ユネスコスクールをご存じでしょうか。

評価項目	人数
知っている	12
知らない	7
無回答	0
合計	19

質問５．①このような授業を実施することをどう思われますか。

評価項目	人数
とてもよかった	8
よかった	7
ふつう	4
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
無回答	0
合計	19

②今後もこのような授業を実施してほしいと思いますか。

評価項目	人数	理　　由
実施してほしい	16	・**教科書だけでは学べない大切なこと**を身につけられると思います。 ・**一人ひとりで身につける力を明確にして成長につなげて欲しい**です ・前もって親にも説明が欲しかったです。 ・地域と関わっていくのは良いことだと思います。 ・子ども達が机の上だけの勉強でなく**生きる力**みたいなものをやしなわれるのでは？

		・身近な所から掘り下げて、**みつめなおす事は良い事**だと思います ・今回の取り組みによって、子どもが地域のことに興味を示すようになった。 ・机上の勉強も大切だが、これから求められるのはむしろこちらの方だと思う ・子どもが**自主的に発表する場**があり楽しかった ・子どもにとってよい機会になると思うから ・**自分で考えて行動できるようになる**って事がとても良い事だと思う ・子ども達も学べるから。（←知らない事も） ・これらの授業も必要だが、教科書の勉強に力点は置いたほうが良い。
どちらでもよい	3	
実施しなくてよい	0	
無回答	0	
合計	19	

質問６．今日の子ども達の発表（1 月 24 日（土）に開催された「ESD 富山シンポジウム」）の感想等のご感想をお聞かせください。お聞かせください。

●子どもたちは自分たちが知りえたことを一生けん命伝えようとしていました。その姿にとても**子どもの成長を実感**しました。

●一年間の成長（わずかですが…）とてもうれしく思います。また、不足する力も感じられて親として反省します。

●**生き生きと発表している姿を見て感激**しました。

●自分達で進行していて、**2 年間の成長**を感じました。

●とてもよかったです。

●発表の中身はロジカルなところが多く、小学校 2 年生としてはしっかりしていると感じた

●いちばん小さな子どもたちでしたが、がんばって良い経験になったと思います。

●となりの発表の声が聞こえすぎて、残念だった。特に、マイクを使っている学校が一校のみあったことが気になったマイクを使うなら全部が使わなければダメだと思う。

●1/24 に参加しましたが、とてもよかったです。声も他校に比べてもよく出ていました。

●ファミリーのようにみんなで協力しあいながら立派に発表している姿を見られ感動しました！

●1 年前に比べて成長を感じました。

●大勢の中でしっかり発表できたって事がすごい事だと思います

【石川県　アンケート回答者数　８名】

質問１．本日の総合的な学習の時間「ふるさと伏見川を守り続けるためには」の取組発表はいかがでしたか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	7	・伏見川をきれいにする為に子ども達がいろいろな知恵を出し、サケを守ろうという**優しい心が育まれている**ように感じた。長期間かけて調査をしてまとめて発表もしっかりとしてよかった。 ・子ども達で考えて資料を集め発表までやれた事に感動しました。 ・長い時間をかけて、みんなで考え、話し合い、しっかりと発表していたので。 ・**ひとりひとりの伏見川への思い**が伝わってきました。 ・いろんな調査や聞きとりなど、自分達で実際に見て、聞いて感じる事が出来ていて良かったです。 ・自分達で調べた事を発表する事で、さらに深く理解する事ができるのではと思う。

		・サケを放流するという事から、多くの事を調べいろんな事を知るきっかけになったのがすごい！
よかった	1	
ふつう	0	
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
合計	8	

質問 2．総合的な学習の時間を通じて、お子さまが「伏見川」についてご家族と話をすることがありましたか。

評価項目	人数	「あった」場合どのようなことをお話されましたか。
あった	6	・伏見川の水がきれいだ!!と言いつつゴミがたくさんあると話していました。 ・いままで伏見川はきたない川だというイメージがあったけど、子どもが水を調べているのを見て**みんなできれいにしていきたい**と思いました。 ・森林の役割、パックテストの結果、防災と自然を守ることについてなど。 **・昔の伏見川はどうだったのか？父親に聞いていた。** ・鮭の話をよくしてくれた。飼育する事で見ているだけでは分からない所まで学べたと思う。
なかった	1	
無記入	1	
合計	8	

質問 3．子どもたちの関心ある地域の事柄を題材に、子どもたちが自分で調べ考え、仲間と意見を交わし、発表する学習を「ESD」として行っています。ご存知でしたか。

評価項目	人数
知っている	0
知らない	8
合計	8

質問 4 ①このような授業を実施することをどう思われますか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	6	・学校と子ども達、**地域の方が交流できてよい**と思った。 ・子どもたちだけで考えて人前で発表するという事は大きな力となりよい経験になると思いました。 ・子ども達が**お互いの意見を聞き合い、他の人の意見も参考にして、また新しい考えを発表していくことができ、とてもタメになる**と思うから。 **・自分で考え、好奇心を持ち、知識をふやしていく**ことが大事だから。 ・単発的ではなく、**年間通して学ぶ事に意味がある**と感じる。 ・調べる事で、地域、仲間、いろいろ知る良い機会となるのではないでしょうか。
よかった	2	**・自分で考える力がつ**く。みんなの前で発表する事はとても大事だと思う。 ・地域に**親しみ自覚が芽生える。**
ふつう	0	
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
合計	8	

②今後もこのような授業を実施してほしいと思いますか。

評価項目	人数	理　　由
実施してほしい	8	・**一つのものごとを深く追求する経験は貴重**だから。 ・**大人になって、この事が活きてくれる**と願うから。
どちらでもよい	0	
実施しなくてよい	0	
合計	8	

【福井県　アンケート回答者数　21 名】

■ESD をご存知ですか。

評価項目	人数
はい	2
いいえ	17
無回答	2
合計	21

■ESD を理解し、実践されていますか。

評価項目	人数
はい	1
いいえ	18
無回答	2
合計	21

質問１．本日、発表された敦賀気比高校付属中学校のプレゼン内容はいかがでしたか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	9	・とても詳しく調べてあり、よかったと思います。 ・世界遺産という、大きなテーマで話し合うのはすばらしい。 ・分かりやすかった。また、自分たちで活動していることがよかった。 ・**地元愛**が感じられた。 ・声が大きくて説明が分かりやすかった。 ・敦賀のことを大切にしてプレゼンをしていたから。 ・敦賀にある世界遺産の重要性が感じられた。 ・地域のことを自らが考える良いきっかけになっている。 ・自分も福井に住んでいるのですが、知らないところがあってためになりました。
よかった	9	・堂々としゃべれていたと思うので、**地元のある場所を世界遺産にしようという発想**がおもしろいと思った。最終的には**研究者自身が地元を考えるきっかけになってすごくいい**と思った。 ・敦賀についてよく調べられていて、まとまりのよい発表であった。 ・説明がわかりやすく、質問への対応も丁寧でよかったと思います。テーマも他と違っていて、興味をもちました。 ・テーマが身近 ・テーマとアンケート、調査、結論にもっと一貫性があればよいと思いました。 ・説明とポスターがよかった。 ・大きい声で人の目を見ながら堂々と発表していたから。 ・地元への愛情が感じられる。

		・**発想やアイデアを豊富に出していて良い**と思った。
ふつう	2	・目を見て話していただけると、よかったです。内容は分かりやすかったです。 ・もう少し簡単に説明してほしいです。最初に ESD について知っているかを聞いて説明の内容を変えるといいと思う。
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
無回答	1	・なぜ湿地が遺産の候補なのかが不十分。どれほどの新種がいるのか、過去にあった新種を書いてほしい。
合計	21	

質問 2．このような事柄が「ESD」であるとご存知でしたか。

評価項目	人数
知っている	2
知らない	18
無回答	1
合計	21

質問 3

①このような ESD を取り入れたプレゼンを実施することをどう思われますか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	11	・**地域活性化**のために必要であるのでよいと思う。 ・発表を通して、**自分たちが住む地域の大切さを学ぶ**ことができるから。 ・地元について考えるきっかけになる。 ・それによる悪影響は無さそうで、今後必要になるだろうと思うからです。 ・まず、**敦賀に住みたいかどうかという導入**から入り、わかりやすかった。 ・知名度が低いときいたので、広めるためにもした方がよいと思いました。 ・人口減少の歯止め。 ・子ども達が未来の環境、自然について勉強し考えるのはとても良いと思います。 ・地元を毛嫌いする人々を減らすことができる。 ・郷土愛を育むことができる。
よかった	9	・ESD を取り入れることでの利点も多いので大切だと思う。 ・生徒の身近に起こっていることで探究活動できる。 ・地域の魅力の再発見につながるのでは？ ・福島みたいな問題がおきたときに困るから。 ・若いうちに考えた方がよいことだから。 ・地元の良さを PR して欲しいから。 ・地元を守ろうとする活動を広めようとするのは良いことだと思う。 ・自分の住んでいる地域のことを考えるのは大切だから。 ・メディアに取り上げられていないことを少しでもこのように公にできるから。
ふつう	1	・町を安全な町にしたいことが伝わりました
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
合計	21	

②今後もこのような ESD を取り入れた発表を普及・実施した方がよいと思いますか。

評価項目	人数	理　　由
実施したほうがよい	21	・福井県**全域**に広げて欲しい。 ・今まで「ESD」を知らなかった人たちに、その内容を伝えることができるから。 ・**ESD の認知度**を上げ、その必要性を広く知ってもらう。 ・子ども達が、地域の環境を考えるのにとてもよいと思う。 ・他の学校ではやっていないから。 ・より多くの人々に知ってもらう必要がある。 ・電気は必要不可欠だから。 ・**若い柔らかい考え方ができる内に考え続けた方がよい**から。 ・地元だけでなく、日本全体にも広めて欲しいので。 ・世界遺産の大切さを伝えていることは分かりました。 ・様々なテーマに関して、考え、議論するきっかけになる。
どちらでもよい	0	
実施しなくてよい	0	
合計	21	

質問４．ESD の概念や手法を取り入れた教育を普及するためには何が必要だと思われますか。

- もっと色々な場所で研究の発表をすること。
- 地元の人たちの理解、サポート。
- ESD を多くのひとに知ってもらうこと。
- 環境問題は、とても大切な分野なので、メディア、ネットを使ったり、授業時間を増やすとよい。
- 一般の人もまじえた企画（例えば、中池見湿地の自然保護活動など）。
- 現状をよく知る。
- 様々な機会をもうけて、勉強、研究の成果を発表していくと良いと思う。
- 発表などを通して他の人たちにも知らせる。
- 自主的・強制的（？）など、とにかく**学校で教えられるようにする、しばらくは公民館でも教える。**
- ESD に対する興味をより多くの人々に持たせる努力をする。
- 発表までのプロセスを学ぶ**手法の開発**。
- 色々な授業で取り入れること。
- いろいろな開発方法を知ってもらう。広める。
- 教育関係者、一般の人への周知。
- 身近な所ですばらしいもの（金ヶ崎神社～天筒山の・・・）も PR してほしい。
- 学校教育で、地元の良さや具体的に何をすれば地元に良いのかを教えて、広めることもそのうちに含めれば、学校という場だけでなく広がると思う。
- ESD のことを多くの人に知ってもらうことだと思います。
- **ESD そのものの認知度を上げる**こと。

質問５．環境省 ESD 人材育成事業をご存知ですか。

評価項目	人数	理　　由
はい	1	
いいえ	19	・聞いたことがないから。 ・NEWS を見ていないため。 ・ESD のような話は聞いたことがなかったからです。 ・知らなかった。

		・きいたことございません。
無回答	1	
合計	21	

【長野県　アンケート回当者数　５名】

質問１．本日の総合的な学習の時間「地域の自然を見つめよう」の取組発表はいかがでしたか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	3	・テーマが良いと思いました。自然について子ども達同士で自然保護のアイデアや意見を出し合ってほしいです。 ・各班とも、それぞれに発表することがまとまっていて、短い時間でしっかり発表ができ、よかったと思います。 ・資源は無限ではないということや使用法によっては、環境や自分たちの身体に害を及ぼすことを常に考えるべきだと思うので、有意義な時間だった。
よかった	2	・普段の授業では、学習できないような内容だと思うので。 ・**机の勉強以外の学習もとても大切**ですね。四賀という自然豊かな地域で生まれ育ったことは大きな財産です。森、水、私達にとってはなくてはならないものです。学習したことを発表するのも勉強になったことでしょう。大きな声で発表できていた生徒さん、すばらしいですね
ふつう	0	
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
合計	5	

質問２．総合的な学習の時間を通じて、お子さまが「水や森、会田地区の自然」についてご家族と話をすることがありましたか。

評価項目	人数	「あった」場合どのようなことをお話されましたか。
あった	3	・子どもから「会田地区」の自然はとても綺麗だと聞いていました。 ・四賀地区の（特に中川地区の）水、山についてのこと。 ・小さい頃より山の中でのキャンプ、虫や魚捕りなど家族で行ってきました。上流に民家のない川では水が冷たく美しいので、飲み水としても利用しました。以前より山に入る機会も減りましたが、“水を大切にする”“川を汚さない”などの話をよくしています。
なかった	2	
合計	5	

質問３．子どもたちの関心ある地域の事柄を題材に、子どもたちが自分で調べ考え、仲間と意見を交わし、発表する学習を「ESD」として行っています。ご存知でしたか。

評価項目	人数
知っている	1
知らない	4
合計	5

質問４　①このような授業を実施することをどう思われますか。

評価項目	人数	理　　由

とてもよかった	4	**・子どもたちの自然に対するすばらしい考えを大切にしてほしいので、続けてほしい**と思います。 **・自分発信の意見のやりとりを互いに行い、新しい考え方を知り、自分が思いつかなかったものを知って、知識や考え方が増える**と良いです。 ・身近なところから、地域全体へつなげていくことが、未来への自分にも返ってくると思います。**後世に残すべき良いものを守るうえで大切な授業**だと思う。 ・中学生という**感性の豊かな時期でもあり、思春期という難しい年頃にあえて、自然に触れ、学習していってほしい**です。
よかった	1	・当然のように、自然の中でくらしているけれど、それでも学んで何かできることがある。
ふつう	0	
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
合計	5	

②今後もこのような授業を実施してほしいと思いますか。

評価項目	人数	理　　由
実施してほしい	5	・いろいろな体験をしてきたことを、しっかり**発表していく場を大切にしてほしい**と思います。 ・私達にはあたりまえにある**水、森が国によっては簡単に手に入らないという事を知る、それだけでもすばらしい**ですね。
どちらでもよい	0	
実施しなくてよい	0	
合計	5	

【岐阜県　アンケート回答者　57 名】

質問１．本日の総合的な学習の時間「環境」の取組発表はいかがでしたか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	42	・毎日の練習の成果がとても伝わってきて、感動しました。環境の事もよく調べて、改めて、考えさせられました。 ・4 年生の人にわかるようにと紙しばいやクイズなどを作り楽しめるようになっていた ・環境について十分に下調べをして分かりやすくまとめていた為。 ・とてもはきはきとしていたすばらしかった。 **・ひとつ、ひとつ、真剣に取り組んだことがよく分かる**発表でした。 ・グループごとで考えて発表していたので。 ・みんなよく勉強していました。 ・子ども達一人一人が環境と言う事について考え、今の生活の中に取り入れるということが小学校のうちからでき、すばらしい。 **・環境について自分が出来る事をきづいた。** ・テーマにそってしっかり調べていてよかったとおもいます。 ・実際に自宅でも環境に対しての取りくみをするようになった。 ・グループごとにきちんとわかりやすく発表されていてよかったです。 ・子どもたちが自分でできる事を考えていた。 ・それぞれ自分の興味ある事をくわしく調べ学べたので良かったと思います。 ・一生懸命だった。

		・子どもが楽しそうに分かりやすく説明していたから。 ・子どもたちが自分で考え、取り組み、相手にどのように伝えるか工夫する姿がとてもよかったです。 ・分かりやすく楽しく。 ・良く調べてあり、大人でも勉強になる事があり良かったです。 ・子どもたちが環境についていろんなことを調べていたから。 ・大切な地球それをとりまく環境。劇的変化をしている地球。今自分達が出来る事、しなければならない事がしっかりまとめられていて、よかったです。 ・環境について意識するので良いと思います。 ・子どもが自分で調べ、まとめ、考えていたこと。 ・今までやった成果が出ていた。 ・どの子もわかりやすく工夫して説明していて、感心しました。 ・みんなで調べた事をしっかり発表していて良かったです。 ・自分で調べるということで関心がもてるのではないでしょうか。 ・自分の言葉で他人に説明する言葉についてたずねられ、一緒に考える機会になった。 **・子どもたちの目線で環境について研究し、考えて自分たちにできることを懸命に考え、宣言**する。すばらしい取組みです。 ・子ども達がよく調べているなと感心しました。 ・調べた事柄を**責任をもって発表**する。とても身になることだと思います。
よかった	13	・子どもたちが調べた事をおしえている姿は大変よかったです。 ・グループごとで工夫しながら発表するのはよかったです。発表の仕方を覚えるともっと良いと思います。 ・夏休みからの長い間の取り組みが聞けて良かった。 ・一生懸命伝えようとがんばっていた。 ・それぞれのグループごとにくふうがあった。 ・どの子も工夫して発表していた。 ・子ども達が楽しんでいた。 ・私自身もよくわからないから、参考になった。 ・自分の意見をいったり興味が出てきたと思う。 ・子どもの目線(身近な所に注目していた)で工夫して発表していた。
ふつう	2	・話し方が小さくてよく聞こえなかった。 ・グループは良いが、あまり近くで見られなかった。
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
合計	57	

質問 2. 総合的な学習の時間を通じて、お子さまが「環境」もしくは「省エネ」についてご家族と話をすることがありましたか。

評価項目	人数	「あった」場合どのようなことをお話されましたか。
あった	52	・エコキャップを集めるとワクチンが打てるということ。 ・夏休み以降節電やリサイクル等もろもろを家族全員が気を付けるようになった。 ・エコの為にゴミを減らす努力をすると宣言していました。 ・興味があることについて自分で調べていた。 ・節電・節水について。 ・電気のこと、旬のたべものについて。

		・家の電気の使い方を話し合った。 ・今回の教材についてアドバイス。 ・調べ学習の後は特にエコを意識していたと思います。 ・節電。 ・地球温暖化。 ・エコカーについて。 ・家の電気や省エネについて。 ・太陽光発電のパネルで消費電力や発電量に興味を持った。「エコだね」と何かを見付けては言う機会が増えた。 ・こまめに電気を消すことなど。 ・エコマークなどを調べた時にありました。 **・我が家で行っている省エネ作戦について。まず電気のムダをなくすため 50A から 40A に変更。使用しない物はコンセントから抜く等の自宅で現在取り組んでいる事**を話しました。 ・電気のつけっぱなしはダメ。 ・○○を使うと、CO2 がどれだけ出るか。だから気を付けようの様な会話。 ・実際に**リサイクルセンターの見学**に行きました。 ・電気をこまめに消すなど。 ・太陽光発電のメリット、デメリットについて子どもからしつもんされました。 電気の節約の事など一緒に調べる事が出来て良かったです。 ・大人も聞き慣れない環境に関する言葉について尋ねられ、一緒に考える機会になった。 ・省エネについて関心が高まっていました。もったいないという言葉がよく聞かれました。 ・省エネは電気を消すなど考えてくれる様になりました。 ・うちの電化製品は古くて電気を使うと言われました(笑)CO2 の排出量のこと・地球が熱くなっているなど、私たちが子どものころには考えなかった。 ・電子レンジや電球、水など節約に関心がもてた。 ・電気自動車について。 ・家の電気代がどの位かかっているか。 ・エコクッキング。 ・自分のできることを探しはじめた。エコクッキングやむだな電気や水の節約。 ・エコクッキングに特にいろいろ質問されました。 ・リサイクルのしかた。 ・エコクッキングやエアコン使用について話し合った。
なかった	4	
無回答	1	
合計	57	

質問 3．子どもたちの関心ある地域の事柄を題材に、子どもたちが自分で調べ考え、仲間と意見を交わし、発表する学習を「ESD」として行っています。ご存知でしたか。

評価項目	人数
知っている	3
知らない	53
無回答	1
合計	57

質問４　①このような授業を実施することをどう思われますか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	43	・子どもたちの成長がわかる。 ・子どもがとても自主的に家で調べたり学んでいた為。 ・環境について知る事はとても大切だと思うから。 ・子どもたちが自分たちで考え、実行することは、すばらしいから。 ・自分で考えて意見を言う。**仲間の意見を聞く事はとてもよい事**だと思うので。 **・良識ある大人になってほしい。** ・エコに関心をもてるから。 ・子どもたちが**まず知ることが大事**だと思う。 ・この先自分達が守っていかなければならない環境について身近な問題としてとらえる良い機会だと思います。 ・なかなか自分で調べる事がないので。 ・自分たちの生活の中で環境の大切さを感じてほしいから。 ・自分達の出来る事を考える事が出来て、またそれぞれが考えた事を発表する事で皆がたくさんの思い、出来る事が**共感できる**点。 ・身近に感じられる。 ・なかなか家庭だけではむずかしい。 ・これこそが本当の学習の姿だと思います。(教科書で知識を増やすことだけが勉強ではないですよね) ・子どもの学校での様子がわかります。 ・自分で調べることは大事なことだと思います。 ・ひとつのテーマを**根気よく調べることができる。** ・学校の学習以外の事で学ぶ機会は重要な知識にもなるから。 ・今後の地球にとって良い事だから。 ・家庭であまり話す内容ではないので学校の授業内容で取り入れる事はとても良い。 ・子どものうちから環境を理解することで今後の地球環境がよくなるはず。
よかった	13	・子ども達から話を聞く事によって私達の勉強にもなる為。 ・授業まで行うことにより、**必ず学べる自主的に行うには難しいテーマなので良い**と思います。 ・普段なかなか考えないテーマであり、**家族としても有意義**でした。 **・意識することでできることが増える。家庭だけではできないことや知識がふえる。**
ふつう	0	
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
無回答	1	
合計	57	

②今後もこのような授業を実施してほしいと思いますか。

評価項目	人数	理　　由
実施してほしい	50	・学校での様子がわかる。 ・自宅、学校などでじっさいに取りくむことができる、身近にできることから始めるのはすばらしいことだと思う。 ・自分が具体的に何をどうするかを考え、実行する為に、とても良いと思います。

		・実施する事で、**家族とのきずなもさらに深まる**と思います。(共通の話題、共通の取り組み事項として)。P.S,エコクッキングはうまく出来なかったので、私(母親)としての課題です。 ・環境を大切にできるため実施してほしい。 ・ことがらに関心をもつことができる。 **・生きる知恵をもっとおしえてほしい。** ・今後の地球のために役立つ事なのでこれからも続けてほしい。 ・国語や算数という勉強よりも大切なことを学んだと思います。**目線を上げられる授業**だと思うので、今後も続けてほしいです。
どちらでもよい	3	
実施しなくてよい	0	
無回答	4	
合計	57	

【愛知県　アンケート回答者数　15 名】

■ESD(持続可能な開発のための教育)についてご存じですか。

評価項目	人数
はい	14
いいえ	0
無回答	1
合計	15

■ESD を理解し、実践されていますか

評価項目	人数
はい	13
いいえ	1
無回答	1
合計	15

質問１．本日発表された八熊小学校の授業内容はいかがでしたか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	3	・地域に密着していた。 ・学校が地域の素材やフィールドを活かしている点が素晴しいと思います。 ・地域と子どもがつながっていると感じた。
よかった	10	・子ども達が自分で興味を持った。そして活動した。 ・地域に根ざした発表でよかったと思ったが、もう少しくわしく聞きたかった。 ・身近な堀川を教材としているところ。 ・子ども達が多面的に考え、調べていた点がよくわかる報告をしていた。ご苦労様でした。 ・児童が問題意識をもって取り組んでいる点。先生もいっしょに学んでいる点。 ・学校外に子どもが出ている点。
ふつう	2	
あまりよくなかった	0	・子ども自身の関心の変容やそれに応じた取組が分からなかった。(十分でなかった？) **・どこかで人間活動とのかかわりを入れてジレンマをぶつけてほしかった。**

よくなかった	0	
合計	15	

質問２．①このような授業を実施することをどう思われますか。

評価項目	人数
とてもよかった	6
よかった	9
ふつう	0
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
合計	15

②今後もこのような ESD を取り入れた授業を普及・実施した方がよいと思いますか。

評価項目	人数	理　　由
実施したほうがよい	15	・体験は大切。さらにそれをまとめ広報するのが大事である。 ・もっと**継続し、分野(理科)を越えて取り組んでほしい**。 ・子どもたちの未来につながる。 **・今の教育のままでは人が育たない**と考えるから。 **・これからの社会のあり方を子どもたちがどう考えるか。そのきっかけとして重要**だと思います。 **・社会や自然、人に対する問題意識をしっかり持つことが自己肯定感や大人としての自立**につながる。 ・ESD は育成すべき能力、スキルであるから。 ・様々な**社会問題の解決に向けた一つの方法**として必要性を感じている。 ・教科書より**現場の方が生きた教材**になるので。 **・本気で行動する子どもが増える**から。 **・ESD は教育の中核に組み込まれるべき**と教えているため。
どちらでもよい	0	
実施しなくてよい	0	
合計	15	

質問３．①授業中に使用した映像教材についてはいかがでしたか。

評価項目	人数
とてもよかった	3
よかった	8
ふつう	1
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
無回答	3
合計	

②AR を活用した ESD 授業はいかがでしたでしょうか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	3	・子どもの興味をひき、**使い方でとても役に立ちそう。** **・授業で応用できそう**な気がした。 ・きれいな映像で藤前のプログラムでも使えると思いました。
よかった	5	・AR は ICT 教育を進める上で非常に興味深いツールだと思うから。

		・可能性を感じる。 ・映像はよいのが分かるが、そのときの児童の様子、授業の流れが不明で、何とも言えない。 ・興味をひきつける内容だった。
ふつう	3	・すみません。まだ、よくわかりません。 ・一般的なことと地域に密着することには限界がある。 ・現時点では**教員が手軽に活用できる学校環境が整っていない**。
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
無回答	4	・クラス全体の共通理解、子どもたちへの動機づけなど効果が見込める。 ・今回の発表からは映像の活用まではわからなかったです。
合計	15	

質問 4．ESD の概念や手法を取り入れた教育を普及するためには何が必要だと思われます。

- 先生の授業を支える仕組み、地域が ESD を学ぶ仕組み。
- 教員の意識と技術向上。
- トップのやる気とそれぞれの教員の理論を育てることが必要だと思った。また地域の協力が必要不可欠。
- **制度として取り組む先生方が自分の事**となる。
- カリキュラム例。
- お金と情熱。
- ESD につながる素材はいっぱいあると思います。**問題はそこにつなげる窓口**かなと思います。
- **教育実践理論としてもう少し明確にすること。ESD によってどう確信されるのか明らかにし示す**こと。
- それぞれの**立場をつなぐコーディネーターの必要性**。教員養成の改革。
- ESD 授業を行う人の**研修、手引書。**
- 話の中に何度も出てきたが、その**授業を支える仕組み**が必要。
- 広めるための教員。
- ESD の啓発普及。教員に対する **ESD 研修や教員養成、免状更新講習**等。

質問 5．環境省持続可能な地域作りを担う人材育成事業についてどのようにお考えでしょうか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよい	5	・いろんな視点が**学校にも自治体にも取り入れることができる**。 ・人材不足なので育成は急務。と同時にその人材の活かし方、・出口の整備(生活できるしくみ)も必要。 ・**授業改善のよい機会**になる。 ・ESD が少しずつ広まっていくきっかけになると思うから。
よい	6	・より多くの学校が体験できるよう継続してほしい。 ・会議の中でも出ていたが、**文科省との協力**も欠かせない。 ・**学校授業改善の課題に ESD が有効であることを明確にする評価**(子ども達の変容、教師の成長、地域の連携する点で)を重視する。若い先生方や子ども達の成長、輝く姿を ESD の実践例として描き出すこと。 ・人材育成は大変重要である。あとは継続的に行うこと。一部でなく、大部に広がる仕組みを作ること。 ・地道にがんばりましょう。 ・単元レベルでの**授業改善を学校教員以外の専門家を交えて議論している点**が良い。この**仕組みをどのように定着するか**が課題。
ふつう	2	・単一の学校のみではなく、**教育委員会との連携**が必要。

あまりよくない	0	
よくない	0	
無回答	2	
合計	15	

【三重県　アンケート回答者数　64 名】

質問１．本日の総合的な学習の時間「水辺の環境調査」の取組発表はいかがでしたか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	42	・魚の立場に立って考えることができ良かった。 ・難しい事も分かりやすく発表できていた。 ・自分たちの目線でよく調べていたと思う。 ・環境について理解できるから ・質問など電球やハテナマーク、わかりやすかった。 ・水辺の環境がどのようになっているか劇の中で紹介されていてとても分かりやすかった。また、クイズもあり、楽しく学ぶことができた。 ・自分の住んでいる所の川に何がいるかを体験して知ることができたこと。 ・私達が子どもの頃は川や田んぼで生き物などに触れ合い、自分たちでいろいろ学んだが、今の子ども達は環境により川などで遊べなくなったので。 ・川の生き物のことなど学べる機会があることが良いことだと思いました。 ・いろいろな視点が考えられていた。例えば、環境問題など。 ・初めて分かったことがいくつかあった。 ・自然をよく見ていること ・子ども達の頑張りが良かったです。 ・自然に目を向ける機会が減っています。この地域でもコンクリートの建物が増えているので、残っている自然に目を向けることすら出来なくなっています。目的をもって調べることはよいと思います。 ・クイズ形式になっており、分かりやすかったです。 ・今まで知らなかったことが分かったので勉強になりました。 ・模造紙に生物の絵が見やすく描いてあり、クイズが楽しかった。 ・子供達が環境について考える機会をもったこと。 ・劇仕立てでよく分かりました。 ・クイズ形式にしたのは面白かった。 ・クイズ形式が楽しく勉強になりました。 ・クイズが面白かった。 **・観客の心をつかむストーリー**が良かった。 **・自分たちが子どもの頃、普通に生息していた生物を、また取って育てた生物を子ども達と共有**できる。 ・普段調べないような生き物の事をクイズ形式で発表していた事がすごく良かった。 ・環境に興味を持つことはいい。 **・自分が体験することをもう一度学習することで新しい発見をしたり、考察する力になる**のではないでしょうか。 ・生き物の生態やたくさんの知識が学べました。 ・みんな上手に演技ができていて、クイズも面白かったから。 ・子供の頃を思い出した。この教育を通し、子供が自ら自然に対し学習をし今

		後に活かせると感じた。 ・ふだん正直あまり関心のないことでしたがクイズ形式の発表に楽しく学ぶことが出来ました。 **・子どものキラキラした目で楽しそうな活動をしている姿**が印象的でした。
よかった	19	・子ども達がとても学習の時を利用して環境に触れていた。 ・自分が子どものこと捕まえていた生物がいまだにいることが分かり、安心した。 ・なかなか身近にある川について知らないことが多いので環境調査を通じて、いろいろ知る事が出来て良かったと思います。 ・子ども達自身が分かりやすく劇をしていたので、興味が湧いているのが分かったから。 ・クイズなど聴く側も楽しめる工夫を考えてくれて良かった。発表の声をもう少し大きく出来るとなお素晴らしいと思う。 ・川に入ることが普段あまりないため。 ・子ども達が一生懸命に取組んでいたから。 ・身近な水辺に入れることにより、自身の問題として考えることができたのではないか。 ・クイズになっていて楽しかった。 ・楽しく理解させていただきました。 ・おもしろかったです。 ・子ども達の一生懸命さが伝わった。 ・視点が面白かった。クイズも面白かった。
ふつう	2	・とても良い内容だったが、声が小さい人が多く聞き取れない人もいた。 ・もう少し突っ込んだ内容を期待していたから。
あまりよくなかった	1	・生徒の声が聞き取りづらかったため。
よくなかった		
合計	64	

質問 2. 総合的な学習の時間を通じて、お子さまが「川や生物」についてご家族と話をすることがありましたか。

評価項目	人数	「あった」場合どのようなことをお話されましたか。
あった	48	・環境を意識して話をするようになった。 ・川にいた生き物について興味をもった内容でした。 ・川の生物にとても興味をもって話してくれた。 ・牛蛙の話をした。 ・忘れたけど、なんとかと言う魚が卵を 206 個産むと聞いてほんと！とかいうこと。 ・環境調査をしてどう思ったか、またどういう生物がいたか等。 ・川に何がすんでいたなど、様々なこと。 ・妹がいろいろ生物の話をしてきた ・川の生き物について ・とても喜んで話をしていた ・川の様子が分かったようです。 ・自分が体験したこと全て。 ・調査後の感想。 ・川の中の生き物の話。自分の生活している身近な川にはどんな生き物がいるか。 ・今まで知らなかった生き物について驚いていました。

		・川にいる生き物について話してくれました。 ・思ったよりも川に生物がいたことを家で話しました。 ・どんな魚がいるか？など話してくれました。 ・家のまわりにわる“湧き水”はとても大切だねということ、災害時、水は大切だけど、この湧き水を使えば安心だということ。 ・どんな生き物がいたか等 ・川に行ったことなどを話していました。 ・調べる場所によって生き物等とても違いがあるなど ・川の生物のことなど ・もともと生き物が好きでよく話す。 ・近所の小川にも魚がいるのかな？ ・“よしのぼり”について聞いてきた。 ・近所の農業用排水路へよく取りに行き、これは何かを話をします。 ・水辺の調査のときにたくさんの生き物がいて驚いたと話してくれました。自然の大切さや食物連鎖についても話してくれました。 ・生物のことを教えた。 ・家でも授業の内容を話してくれました。また、パソコンで動画を一緒に見たり、ほとけどじょうを書いて教えてくれました。 ・生物について、興味をもっていました。 ・上、中、下流のことについて。 ・庭の草花に集まる虫や生き物に関心を持つように思います。 ・護岸された中流には生き物が少ない。 ・日頃が触れ合う事のない物も出てきて、iPad で調べたりした。 ・生物にとても興味があり楽しんでいました。 ・調べたいと言ってきた。 ・どういった場所に何が生息しているか体験、エピソード ・聞いたことのなかった川の生き物の名前を聞き、子供に教えてもらった感じです。 ・水の中で転んで、知らないうちに靴下が片方脱げて、ヌルヌルしたと話してくれました。
なかった	15	・生物が苦手なため、ありませんでした。
無回答	1	
合計	64	

質問 3．子どもたちの関心ある地域の事柄を題材に、子どもたちが自分で調べ考え、仲間と意見を交わし、発表する学習を「ESD」として行っています。ご存知でしたか。

評価項目	人数
知っている	18
知らない	45
無回答	1
合計	64

質問 4　①このような授業を実施することをどう思われますか。

評価項目	人数	理　　由
とてもよかった	52	・自然を学ぶことができてよい。 ・授業を通じて子ども達が環境に興味をもつようになるから。

		・実際に体験することで机の上では学べないことがたくさんあるので。 ・実際見て学習ことも大事だと思う。 ・環境について考えるから。 **・僕もいっぱい調べたいから。** **・自分が調べ考えるとより多くのことが学べるから。** ・自然に接する機会があまりないので、このような授業はいいと思いました。 ・環境について考えることがとても良いと思うので。 ・これから入学してくる後輩に環境について知って欲しい。 ・学習ができたこと ・もっと自然の中で遊び学んでほしい。 ・普段、学校の様子があまり分からないので、見られて良かったです。 ・自分で調べるということで、ただ暗記するのではなく、また、自分の意見を人に伝えることもとても大事であるため。 ・実際に体験できることが良いと思う。 ・身近な環境を知る事ができるから。 **・これから共存していく意味で知っておくべきだから。** **・教科書だけでの知識はすぐに忘れてしまうので。** ・川に入る機会が出来る。 ・自然の中の生き物を多く学んでほしい。 **・普段気に留めない事も多くの人達と深く考えられる。** ・将来的に ・子どもが現実的に内容を把握できた ・自分達が関わるこれからの環境を考えることで、大きくは災害などにも関心を持てると思います。 ・生物に触れる機会があってよかった。 ・体験は本を読むより良いと思います。 ・川や生物とふれあいをさせると今後のことを深く考えると思ったから。 **・子どもの頃から自然に対しての思いが生まれ、大人になるときに自然の大切さが感じられると思う。** ・身近な環境を常に意識して生活することができるようになると思います。 ・体験的だから。 ・様々なことに興味を持ってほしいから。 ・家族の意見を聞いてくる、自宅での環境を調べるなど、広げてほしい。 **・机の上だけでのお勉強でないことも大事と思います。** ・普段見ている景色、川などに生息する生き物の事が勉強できていいと思います。
よかった	10	**・自分で体験し自分で疑問に思ったことを調べることはとても大切なことだと思うから。** **・社会で必須な内容だから。** ・他の勉強をしてほしいから ・地域を知るのはとても良いと思う。 ・楽しかったです。
ふつう	1	・このような学習発表会などは休みの時間が家の宿題にすればよいと思うから。
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
無回答	1	

合計	64	

②今後もこのような授業を実施してほしいと思いますか。

評価項目	人数	理　　由
実施してほしい	59	**・学びの話題**となる。 ・発表することによって、多くの人に調べたことが伝わるから。 ・良い経験になる。 ・なかなか家庭で教える事ができない事を学校が取組み学ばせて頂けるので今後も行ってほしい。 **・家での会話も増える。** ・いい体験になると思います。 ・環境学習のネタとして良い。 ・仲の良い友達以外との交流になるから。 ・環境破壊（生活排水等）による水辺の生物の実態から保護することを学んでほしい。 ・友達同士の協力の大切さが分かる。 ・今の事情を知る。 **・「教科書だけでは感じられないことがある」と理解できると思う。** **・受け身ではなく自分達で調べ、発表することで関心や理解が深まるから。** ・楽しかったです。
どちらでもよい	3	
実施しなくてよい	0	
無回答	2	
合計	64	

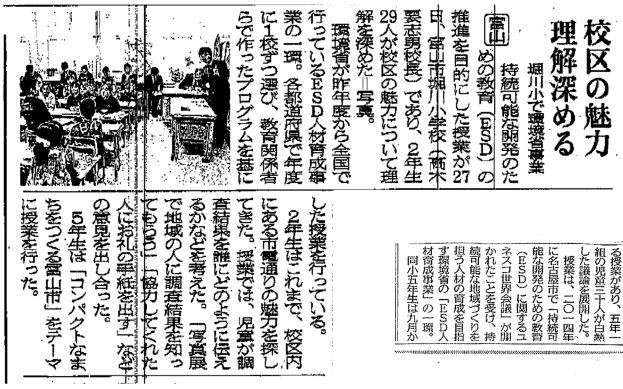
6. 業務の周知・広報等

下記のメディアに協力いただき、周知を図った。

	地　域	取材・掲載日
1	富山県	北日本新聞（平成 26 年 11 月 28 日）
2	石川県	北陸中日新聞・北國新聞（平成 27 年 1 月 24 日）
3	福井県	福井新聞・中日新聞・県民福井（平成 27 年 1 月 23 日）
4	長野県	信濃毎日新聞（平成 26 年 12 月 10 日） 市民タイムス（平成 26 年 12 月 6 日）
5	岐阜県	岐阜新聞（平成 26 年 10 月 7 日）
6	愛知県	中日新聞（平成 26 年 11 月 7 日）
7	三重県	中日新聞北勢版（平成 26 年 12 月 10 日）

■取材記事（一部抜粋）

【富山県：北日本新聞（平成 26 年 11 月 28 日付朝刊）】



校区の魅力理解深める

堀川小で環境教育事業

持続可能な開発のための教育（ESD）の推進を目的にした授業が27日、富山市堀川小学校（高木要志校長）であり、2年生29人が校区の魅力について理解を深めた＝写真。

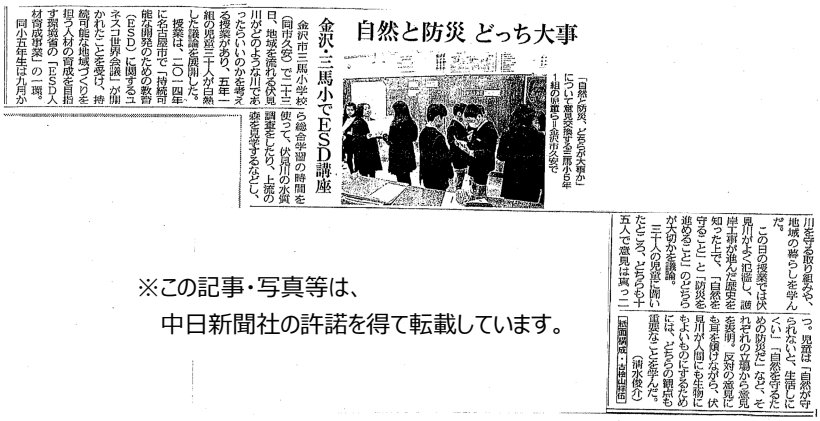
環境教育が昨年度から全国で行っているESD人材育成事業の一環。各都道府県で年度に1校ずつ選び、教育関係者らで作ったプログラムを基にした授業を行っている。

2年生はこれまで、校区内にある市電通りの魅力を探してきた。授業では、児童が調査結果を踏まえどのように伝えるかなどを考えた。「写真展で地域の人に調査結果を知ってもらう」「協力してくれた人にお礼の手紙を出す」などの意見を出し合った。

5年生は「コンパクトなまちをつくる富山市」をテーマに授業を行った。

【石川県：北陸中日新聞

（平成 27 年 1 月 24 日付朝刊）】



自然と防災 どっち大事

金沢・三馬小でESD講座

金沢市三馬小学校（同市久安）で二三、四の両日、地域を流れる伏見川がどのような川であるべきかを考える授業があり、五年一組の児童三十人が白熱した議論を展開した。

授業は、二〇一四年に名古屋市で「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関するユネスコ世界会議」が開かれたことを受け、持続可能な地域づくりを担う人材の育成を目指す提唱後の「ESD人材育成事業」の一環。同小五年生は九月から伏見川を流れる用水の水質調査をしたり、上流の地域の暮らしを学んだ。

この日の授業では伏見川がよく氾濫し、護岸工事が進んだ歴史を知った上で、「自然を守ること」と「防災を進めること」のどちらが大切かを議論。三十人の児童に聞いたところ、どちらも十五人で意見は真っ二つ。児童は「自然が守られないと、生活しにくい」「自然を守るための防災だ」などと、それぞれの立場から意見を出し合い、「自然を守るためにも住民に防災を進めるためには、どちらの観点もよいものにするため重要なことを学んだ」（市水俊介）

（福井新聞・加藤崇撮影）

※この記事・写真等は、
中日新聞社の許諾を得て転載しています。

【福井県　福井新聞

（平成 27 年 1 月 23 日付朝刊）】

※福井新聞社提供

100年後 敦賀の世界遺産は？

敦賀気比付中生グループ研究

中池見湿地「価値さらに高く」

環境教育が進める「ESD（持続可能な開発のための教育）人材育成事業」が27日、敦賀市の敦賀気比付中で行われた。「100年後の敦賀・世界遺産候補は何か」をテーマに、中池見湿地と敦賀港・号機はどちらが世界遺産にふさわしいかについて生徒がグループごとに考え、ふるさとについて理解を深めた。（内藤正人）

教賀の世界遺産候補について生徒がグループごとに考え環境教育授業

27日、敦賀市の敦賀気比付属中

同校は国連教育科学文化機関（ユネスコ）の趣旨を推進する「ユネスコ・スクール」に登録されており、毎年度、ESDを推進するため実践校に選ばれた。今年度は9月に参加した。

授業では、世界遺産候補として北陸新幹線の松原、敦賀駅、中池見湿地の三つを挙げ、中池見湿地の知らなかったことが分かり、知っていたことでもあらためてその価値を確認することができたと話していた。

敦賀の世界遺産候補について生徒がグループごとに考え環境教育授業

27日、敦賀市の敦賀気比付属中

【長野県　信濃毎日新聞

（平成 26 年 12 月 10 日付朝刊）】

松本

四賀の環境保全 会田中生が議論

植林など提案も

松本市会田中学校でこのほど、2年生15人が9月から取り組んだ環境学習を締めくくる授業があった。自分たちで作った炭でバウムクーヘンを焼いたことなどを映像で振り返り、地元の四賀地区の水や森林資源を守り、活用するために何ができるかを考えた。

生徒は5、6人の班に分かれ、自分の考えを付箋に書いてわら半紙に貼った。アイデアをまとめ、各班の代表が発表。「植林する」「（地区外に）人が出て行かないよう学習などの環境教育に力を入れている。今回は環境省が進めるESD（持続可能な開発のための教育）の指定を受け振り返り、「大人になったら森林整備など地域の自然と関わる活動をしたい」と語った。

会田中は水源地の調査や地元産木材を使った発電方法の

地区の課題を話し合った生徒ら

【愛知県　中日新聞

（平成 26 年 11 月 7 日付朝刊）】

ESD実践 児童学ぶ

中川・八熊小で特別授業

「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」に合わせ、ESDの理念を取り入れた特別授業が五日、中川区八熊一の八熊小学校であった。ESDの考えを教育現場でも広げようと、環境省が企画した「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」。堀川と藤前干潟で環境学習に取り組んでいる同小が県内で唯一、実施校に選ばれた。

四年二組の二十二人が藤前干潟と堀川にはどんな種類の生きものが、どんな場所にいたかを思い出しながら、生物が暮らしやすい環境について考えを巡らせた。また、近くの堀川に行き、カニを捕まえるために仕掛けた編みかごを引き上げたり、水温を測ったりした＝写真。（多園尚樹）

※この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

【岐阜県　岐阜新聞（平成 26 年 10 月 7 日付朝刊掲載）】

平成26年(2014年)10月7日 (火曜日) 岐阜新聞 朝刊 024ページ

児童、温暖化の調べ学習発表

正木小でESD授業

羽島市正木町の正木小学校で、持続可能な開発のための教育（ESD）の授業が行われ、児童たちが環境や地球温暖化防止に関する調べ学習の成果を発表した＝写真＝。

名古屋市で11月10～12日に開かれる「ESDに関するユネスコ世界会議」の一環で行われ、「人にやさしく、自然にやさしく」環境といのち」をテーマに、5年生約70人が夏休みに学習した。

掃除機などの電化製品の消費電力を調べて、そうじきんやほうきで代替する省エネや、軒先にゴーヤをつるして遮光する「グリーンカーテン」など、班ごとに調べたり実践したり学校での電気の使用量を考える映像の視聴もあり、児童らは環境に優しい暮らし方を考えた。（山田俊介）

温暖化防止に関する調べ学習の成果を発表した＝写真＝。名古屋市で11月10～12日に開かれる「ES

無断複製・転載を禁じます

【三重県　中日新聞北勢版(平成 26 年 12 月 10 日付朝刊）】

環境守るためには？

桑名 津田学園小で考える授業

桑名市野田の津田学園小学校で八日、学校近くの川の調査に取り組む四年生が、環境を守るためにできることを考える授業があった。

毎年、四年生は総合学習の時間に嘉例川で生き物やごみなどを調べている。児童たちはなぜ川がコンクリートで固められているかや、川から生き物がいなくなったらどうなるかを考え、発表した。

津田学園小は本年度、環境省の「持続可能な開発のための教育（ESD）」の授業プログラム作成事業に参加し、指導方法の充実を進めている。この日は関係者が授業を参観し改善点も話し合った。

プログラム作成事業は、全国の小中学校三十九校の授業をモデル化する取り組み。津田学園小の授業は、環境省が年度内に作成する報告書に掲載し、ESDの普及に活用される。（渡辺聖子）

川の環境について授業で学ぶ児童たち＝桑名市野田の津田学園小学校で

※この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

7．本事業の成果と課題

本事業の目的は、

①**地域で活用できる汎用性の高い ESD カリキュラム（プログラム）を学校と地域が連携し作成**すること（実証をしてその効果を図ること）、

②主に学校と地域の連携による ESD 取組を進めるために、**地域の多様なステークホルダーとの協働による推進体制を形成する**こと、

である。今年度その目的に対し、どういった成果を生み出し、課題を明確にしたかをまとめる。

（1）形成推進委員会による評価

今年度は、昨年度の委員から数名増やし、委員会を設置し、中部 7 県での学校と地域の連携による ESD 推進体制、基盤づくり等についての協議を行った。また、質の高い ESD カリキュラム・プログラムを作成するため、各県それぞれの実証授業実施校やワーキンググループの意向を最重要視しつつも、中部 7 県の共通の目標を掲げ、各形成推進委員が、ワーキンググループ会議で意図しながら、事業を進めた。今年度の共通の目標は、下記の４つとし、各県意識しながら事業展開した。

①地域の課題、良さを**子どもも大人も共有**する。

②**自分事、当事者**として、子どもがなんとかしたい、何とかしようと思うようになる。

③答えははっきりしなくても良い。子どもが、「**もっと知りたい、学びたくなる**」スイッチが入る。

④地域に**体を使って働きかけるような体験**を取り入れる。

中部 7 県の実証校全ての ESD カリキュラムに、**「体と心に響く体験学習」を組み入れ、その体験から「だれかに伝えたくなる」「なんとかしたくなる」「学びたくなる」、そんな児童・生徒の成長、育成**がアンケートからも垣間見られた。また、形成推進委員にアンケートを実施し、本年度までの事業成果を踏まえ、来年度の本事業の展開及び本事業終了後についての意見を頂いた。来年度の本事業については、下記の 4 点を課題としてどう改善していくかの検討を行うこととした。

①各県ワーキンググループが主体的・積極的に実践するための環境を整える。

②各県で ESD 授業の評価方法を、事業を実施しつつ評価方法を検討する。

③アンケート項目（プログラム前後の児童・生徒の変容を測る）を作成する際に協議して進める。

④2 年間の ESD プログラムと映像教材を広く活用できるように公開、ダウンロードを可能にする。

さらに下記 7 点の作業面においての課題についても、来年度に向けての改善・解決方策を検討する場づくりの提案があった。

①実証校の早期決定

②モデルプログラムの有効活用

③本事業のメリットの見える化

④他校の教員の参加

⑤学校間、教員間、学校地域間の情報共有と学びあう場づくり

⑥教員が実施しやすくなるサポートメニューの可視化

⑦制作した映像の活用

昨年度からの課題である、「教育委員会や行政、校長会の参加」については、十分な対応ができておらず、来年度事業が開始する前に、この 2 年間の成果をまとめ、各県ワーキンググループメンバーと説明に行く、本事業を紹介するプロセスを丁寧に作ることを確認した。また①の「実証校の早期決定」については、各委員やワーキンググループメンバーからの**推薦校に対して、年度内にアプローチする**よう指摘を受けた。

アンケートでの「本事業で良かったことは」という問いに、「ワーキンググループでの意見交換等である」という意見が多く、委員会においての協議の場では、「**地域の様々な方と多様な視点から、授業について意見交換をし、ブラッシュアップしていくことで、授業も教員も児童も地域も変わることが見えてきた**」「**ESD の取組を継続するためにも、地域が必要とする『ESD 推進の仕組み』づくりが重要となる**」と意見を交わした。また、下記のような課題を共有した。

①教員の好奇心とモチベーション維持（向上）
②評価手法の確立
③教育の本体への ESD の組み込み
④ESD を当たり前にするためのアプローチ
⑤資金調達先の確保
⑥コーディネーターの設置
⑦学校をサポートするしくみ
⑧EPO 中部の役割の確認
⑨ビジネス化

上記の課題については、**ESD 推進のための核となる基盤（ガバナンス）形成を構築することによって、課題解決・改善につながる。**いかに、トップダウンだけではなく、**地域の主体性によるガバナンス形成**をしていくかが、今後本事業の大きな目標となる。3 年間という事業期間としては掲げている目標が高いので、達成に向けての戦略や丁寧な地域とのコミュニケーション、成果の積み重ね等が必要となる。また、⑤「資金調達先の確保」については、**本事業の成果・効果を社会化し、その有効性を可視化**しなければ、安定的・継続的に確保することは難しい。

しかし、本事業が扱っている ESD は、**現社会において必要な教育であり、協働による地域づくりの肝を担う学習**である。

本事業終了後、**この事業で培った成果の活用やさらなる展開を可能とする施策づくり**をする必要がある。形成推進委員会には、**中部 7 県の ESD 取組をリーディングする役割**として**、次なる施策を検討し、地域に ESD 取組がしっかり根づく「しかけ」をつくる**ことが求められている。来年度は、その点も考慮し、本事業を通して、**地域の状況を鑑み、各地域が動きやすい環境を作るための広域で支え合う基盤づくりを手掛けていくことが重要**であることを再認識した。

※参照：添付資料 1　中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員対象アンケート結果まとめ

（2）各県ワーキングループの評価

今年度は、昨年度同様、各県の実証授業実施校の管理職と担当教員、環境学習・ESD に関する有識者、

行政職員、地域のNPO等の各県6～11名の参画を得て、ワーキンググループでの会議を実施した。

昨年からの課題であった県教育委員会や授業実施する市町村教育委員会の参加については、昨年度の報告書を持参し本事業の目的や成果について説明をしたが、**協力という形での参加**は可能であったが、積極的にメンバーとしての参加には至らなかった。三重県は、学校教育関係部局ではないが、文化振興課の職員の方にワーキンググループメンバー（以下メンバー）として参加をいただいた。

また、富山県、石川県に関しては、**来年度の実証授業実践校を予定している**学校の管理職及び担任に、メンバーとして参加いただき、本事業のスキームや授業カリキュラム作成の過程を理解いただくことができた。他、福井県、三重県においても、メンバーから来年度実践校の推薦をしていただくなど、メンバーの本事業への積極的参画、関与が得られるようになった。

本事業は、**地域にESD推進のための体制、基盤を作る**ことを目的としている。ワーキンググループは**各県、もしくは各市町村の基盤の核**となる。メンバーと十分にコミュニケーションを図り、思いや意向が実現するよう、また、今年度の成果を来年度活かしていくことが、事務局の重要な役割である。

下記にメンバーを対象に実施したアンケートから、ワーキンググループに対する評価、課題の一部抜粋を掲載する。多くのメンバーが、実際に会議や授業、発表会に参加し、教員や児童・生徒の変化を目の当たりにしたことで、本事業の価値や意義を理解していただいた。しかし、この成果を**今後どう活用**していくのか、さらなる**継続、発展、ひろがりのために何をどうしていくのか**、といった点を危惧している。**学校及び教員に負荷をかけすぎない、現状の学校環境のなかでどう浸透させていくか**、という点も挙げられている。ESD 授業の**質向上**（学習者主体や持続性へのつながり等）ももちろんだが、ESD 授業実践のための、学**校の理解や地域の参加・協働の促進、それを可能にするしくみや会議体のあり方の検討、つなぐ人の存在や予算確保など、可能性はあるものの地域主体としてどのような戦略で施策を展開していくか、十分に議論する場の必要性**が出されている。そのための、「**ESD取組における評価手法の投入**」もあげられた。またその前提になる、**他県のステークホルダーや教員、授業内容、ESDに対する考えを共有する機会(昨年度は教員間の情報共有、今年度は一部のメンバー間での共有等)の必要性**もあげられた。

課題は山積みであるが、本事業で見出した価値を**じわじわと浸透させる主体の存在**も明確になった。来年度は**本事業の目的に照らし合わせ**ながら、実践を通し、**「地域のしくみづくり」**や**「評価」**の検討が必須となる。

・・・

【ワーキングメンバーを対象に実施したアンケートより一部抜粋】

■事前の打ち合わせ及びワーキンググループについて

[成果]

・学校で作成する**単元計画の改善のために非常に有益**である。本プロジェクトの最大のメリットと考えている。

・事前の打合せ及びワーキンググループにおける、**現場の先生方とアドバイザーによるモデル授業の組み立てプロセスは成果があった**と思う。ただ、担当の先生の**負担感はやはり大きい**のかなと感じる面はあった。

・会議を重ねることで、今回のカリキュラムに対する**グループ参加者の意思統一ができ、方向をしっかりと定めることができた**ように思う。

[課題]

・ＷＧでは活発な意見交換が行われていた。ただ、教育現場における ESD の推進を目的とするのならば、**県や市**

町村の教育委員会をメンバーに加えた方が良い。

・**授業内容の検討にまで踏み込んだ話し合いがなされるとより効果的**ではないか。そのためには、**指導案をもとにした打合せの機会が持てるとよい**と思う。

・方向確認は出来ましたが、**細かいことをフォローする会議回数が確保できない**ので、実際のプログラムを実証事業で見ないと分からない部分があり、どうしても**一定の限界がある**と感じました。

■本事業について

[成果]

・具体的な取組で子どもの成長につなげられる。**ずっと続け、県全域で広げたい**ものである。

・先生が連続する授業のある時点で生徒のスイッチが入ったのが分かった、とコメントされており、これはまさに**生徒のやる気やエンパワメントが授業でなされた**ということであり、今年の「**生徒とともにつくるカリキュラム**」のゴールは達成したと評価しています。

・**モデルプログラムを実証していくという手法はとてもよい**と思う。この事業を広めていくためには、関係者だけでなく、**他の学校に対しても公開し、その取組みを紹介していく**とよい。

・年間を通じて、生徒、先生、地域の大人が、地域のこれからを考え、それぞれの思いを出し合う**貴重な機会**となった。このような機会でもないと、**学校の先生方の思いや生徒たちの生の声は、地域の大人に届きにくい。**

・事業そのものは**継続**して行っていただきたい。但し、**地域が継続していける働きかけ**もお願いします。

・学校側にも**無理のない形で授業や行事に取り組むことができる**ことを示せたこと。

[課題]

・良い事業ではある。しかし、継続するには **3 年の事業が終わった後に、何らかの展開が必要**である。他の学校での展開には、最初の段階で、**この事業をいかに活用するか、仕組みづくりを念頭におく議論を行い、検討**を重ねることが必要である。

・今回は ESD の普及啓発を兼ねて授業の最後に活動報告を行うが、本授業をモデルとして他校で授業を行う場合は、**最後に大々的な発表会を開く必要**はないのではないか。調べ学習を通じて、子どもたち一人一人が地域の良さや人とのつながりの大切さに気づくことができれば、それだけで十分に授業の意義はある。発表会の準備に時間をかける代わりに、**調べ学習の時間をもっと増やした方が良い。**

・授業実証校における取り組みは、質が高くモデルとなる取り組みを作り上げている。しかし、**市町村、県など広域にそのモデルとなる実践を広める機会、手立てが不十分**です。また、学校のよき理解者として、**支援者としての校区（公民館、子供会）、PTA などが、ESD の主体となる戦略**が重要です。

■ESD の価値観、視点、方法、アプローチは取り入れられていたか

・**個の問題**として位置づけられている(児童)

・地域の**課題を的確**にとらえていたこと、生徒の**自発性**を引き出していたこと。

・道徳的な価値判断を学ぶ、押しつけるということではなく、**学習者自らの判断を求めた取り組み**であった点。

・映像を含めて**正しい答えを出す授業ではなく**、色々な感じ方、考え方を導きだしていた。

・**自分たちの矛盾**に気づいた（なぜ、川が、生き物がすみやすくなさそうなコンクリート張りになっているのか。）

・人間生活と自然とのあらゆる関わりを**尊重**することができた。

・学校の評価観点に加えて **ESD の育む力について想定し、評価**しようとしている。

■ESD を実践するにあたり、課題と感じている点は何でしょうか。
今回の事業及びプログラムはその課題を解決する上で役立ちましたか。

・どんな視点で授業を考えるか**教師自身の構え**が重要。
・**育てた人材のネットワーク構築、更なる充実に向けた研修機会の提供**といったフォローアップが必要です。また、**大学の教員養成段階での改善に向けた取り組み**が手つかずであり、大きな課題です。
・ESD は、指導者（先生など）にとって**あまりに概念が広すぎてとらえどころがないように見える**ことから、口で説明してもなかなか理解されず、モデル授業等で体験してはじめて「ああこれが ESD というものか」と理解できるものであり、なかなか**普及に時間と手間がかかる**。
・学校、教員は ESD 授業のマニュアルを求めることもあるが、**ESD はマニュアル通りの授業ではないので、いかに導くか**が課題である。
・学校現場が忙しく、なかなか**教材研究の時間を取れないのが実情**である。その中で、学習を児童と作り上げようとする**前向きな姿勢を生み出すきっかけとして有効**であろう。そのために、**児童の変容や力のついた点を子どもも教師も実感すること**が大切であり、それがないと忙しさだけが残り、後が続かない。
・これまでの減点方式の教育から**生徒のいいところ発見の授業形態を取り入れる教育を実践**していく先生方の教育が必要である。
・**学校により進めやすい環境が異なる**という点で、まだ課題を残しています。公的コーディネーターが入るか、または、民間で担うか。**先生への教育手法の広がりも研修など機会を提供する仕組み**が必要です。
・子供たちが、様々な課題に対峙した時に、その問題点に気づき解決策を考える能力を養うのが ESD ですが、それには反復継続が必要だと思います。現在の学校教育カリキュラムの中に**反復継続して実践する時間の確保が課題**だと思います。
・ESD 教育という新しい概念と共に、どのように教育施設（学校）へ踏み込んで、現状の学年の教科内で横断的に捉えて更に深化させて行うことが、**現状の学校の教員が本当にできるのか**？で、文科省と環境省で話し合ってほしい。ESD 教育で各県単位でも２つのモデル授業が確立できたので**他の学校へ拡充すべき段階**に入ったと思う。基本的に**地域単位で ESD を完結する方法も必要**。
・**プログラムや支援体制そのものの持続可能性**。教員の**意識改革**。**サポート側の知見やサポート頻度**。
・ESD 実践上の課題の１つ目は、**評価の仕方**であろう。授業として実践する以上、評価が必要である。オープンエンド形式の展開であるにしても、どんな評価がなされるかを**検証**していかなければならないと思う。指導案にも**評価の項目を入れていくべき**だと考える。

■ESD 実践を拡大するための地域主体の形成に本事業は寄与していると思われますか。
また、地域で活動されている団体や市民等との協働での教材づくりについてのお考えをお聞かせください。

・地域住民が教材を作る課程で参加し、**学校カリキュラムを理解することと同時に、学校が地域課題を理解しカリキュラムに反映するという双方向の情報交換ができる**ことは、これからの**地域社会形成においてとても重要な仕組みになる**と考えます。先生の異動を考えると、**地域にそのテーマを継続する教育機関なり団体がある**ことは非常に重要なことと考えます。
・教育現場では教員による ESD 手法導入には、時間的な余裕がないこともあり困難な状況に置かれているため、**団体や市民がその担い手になることは大変重要**です。

・地域における活動を行っている方とのコンタクトをどのようにとったら良いのか、**窓口やリンクを可能にする仕組みがわかりやすく提示**されると良い。
・本事業は、**地域や市民と学校を結び質の高い ESD の授業、総合的な学習の時間の授業づくりや人材育成に量的質的に大きく寄与**している。しかし、一方で既存の**社会教育機関・施設、関係団体こそが ESD の主体となるべく転換する戦略**が今後重要です。大きな税金が投じられている**既存の生涯学習に影響力を行使**することが重要です。
・教育の場に地域の人たちが関与していることをもっと**一般市民に周知させる必要**があると思います。また、地域の外部講師を適材適地で見つけるには、予め市民側に関連情報がつかめるネットワークのあることが有効だと思います。そういった**ネットワークづくりに行政の支援**が欠かせないと思います。
・**ESD の学びとはこのようなものかと実感してもらうことができる**ところ。実践後、**取り組みに前向きな態度になってもらえる**こと（昨年、今年とも）。**学校と地域の活動団体をより強く結びつけることが出来**ること。**協働**での教材作り。
・もっと環境省自らが**地元メディアなどに情報発信すべき**。地域にまかせている印象が強い。**協働を狙うなら、さらに予算をしっかりつけなければ、質は向上しない**。ボランティアでは質を選べない。しっかりとインセンティブを付けなければ、優秀な人材は参加しない。
・地域での協働による教材づくりについては、活動団体や市民と学校を近付ける**媒介者の存在が不可欠**だと思う。
・学校の授業、ESD の取り組みにいっしょに関わることで、地域の市民グループ等がともに成長していくことが理想であるが、**もっとテーマを絞り込み、時間をかけて取り組まないと、地域との協働作業は難しい**。
・1 県 1 プログラムの実践の中で、地域「団体の事業」に寄与し、環境教育授業を行う手法の一つとして活用できていると思うが、**「地域主体の形成」というと難しい**。また本事業は**「学校現場」に「地域団体」を繋げるきっかけ**となっているが、**ESD 実践を拡大するためには、時間がかかる**ように思います。

■今回の事業に参加されて「気づかれたこと」「変化」
・**お互いの実践を見合う機会が欲しい。また、できあがった教材**も共有したい。
・若い先生方には**大きな可能性**があります。**子ども達や同僚と共に学びながら成長している様子**が見えます。本事業が提供する ESD について**本気で取り組む機会は、教師や教師集団を育てている**と思います。今後も、**先生方が ESD に挑戦できるよう、先生方を勇気づけ、やり甲斐、学びがいを実感出来るよう工夫**していきましょう。（自治体や教委、企業等が出資したファンドで中部発の ESD 学会設立、実証授業者の会、実証授業者の授業構想夏合宿、実証成果交流春合宿）
・**地域との協働や連動を組み入れる授業を実現**して頂きたい。先生だけが専門家だという意識を生徒や保護者がもたずに、実際には現場で活動している方々がおられ、社会がなりたっているという事を少しずつ理解していくためにも、是非取り入れて、それがユネスコスクールだと位置づけてほしい。
・**個々に取り組むと立派な教育環境ができる事が実証**されました。教育はすべての子ども達に公平にいきわたらせなければいけないので、**市町村単位での官学産民協働で遂行すべき課題との共通認識を確立**しないと、日本隈なく普及というには壁が高すぎると感じます。しかし、地道に足元から固めていけば、やがて道は開けるとの感じも同時に持てたような気がします。
・今回は先生方と話し合いながら年間を通してテーマを追うことができたため、生徒たちに地域のことをもっと好きになってもらうための**環境学習支援にしようという共通の目的ができてやりがい**があった。地域で活動する団体の横の

つながりも広がった。

・ESD の必要性と有効性は感じるのだが、**現状の教育のあり方を変えてゆくのはなお大変**だなと。ただ、世論は教育も変わらなくてはと思っているので少しずつ変化を促すしかないと思う。

・私自身が ESD そのものの理解を深めることができた。**ESD を教育活動の核として、学校教育の取組の中心に据えることで、学校の活性化や改革に力を与えることができる可能性を持ったもの**であることを実感した。

・「自分たちが未来を創る」という思考の仕方を身に付けた子どもたちはこれからさまざまな分野で ESD を実践していけると思うので、ぜひとも**大人チームが「継続」して子どもたちを導いていけるような雰囲気を保ち続けたい。**

（3）授業実施者の評価

今年度は小学校５校、中学校 2 校、その内公立校５校、私立校 2 校で実施した。ユネスコスクールに登録している学校は、7 校中 4 校であり、昨年度に比べ、比較的経験年数が短い若い教員の方の実施を得た。

授業実施者のアンケート結果からは、本事業に参加したことで、「**児童生徒に揺さぶりをかけたり、疑問をもたせる、考えさせる発問をするなどの授業改善につながった」「生徒を本気にさせる仕掛けを仕組んでいきたい」「教員である自身の立ち位置を考える機会になった」「ESD の視点を積極的に取り入れていきたい」「他の教員にも影響があり学校全体の前進力が高まった」**などのポジティブな意見があった。

一方で、授業実施者を**サポートした教員**からは、ワーキンググループ会議や本事業に対して、**「教員の負担が大きすぎる」「ともに作りあげた感がない」「おいつめられるとやる気をなくす」「批判的な意見、姿勢が多い」「担う自信がない」「やってみたいと思わなかった」**といった明らかな効果や負担感を感じられるといった意見もあった。

ただ、「今回実施した『地域課題』をテーマにした授業づくりを進める」「今回の授業を継続的に実施する」と答えた教員が多く、授業づくりや授業実施を担った教員からは一定の評価を頂くことができた。

しかし、**経験の少ない教員にとっては、このようなモデル実証は非常に難しい授業**づくりだったと思われた。

ESD に関しては、教員の理解度や認識度に差があり、各県それぞれに授業づくりや実施の場面で、各々の工夫が見られた。今回初めて「ESD」という概念や手法を知り、ESD を導入した授業づくりや実施を担った教員には、**過度な負担と不安**があったようである。ポジティブな意見を成果とし、ネガティブな意見を改善できるよう、得た意見を真摯に受け止め、来年度の会議運営や授業づくりに活かしていくことが必要である。

・・

■本事業についての印象及びご感想についてお聞かせください。

（1）環境省 39 モデルカリキュラムについて

・指導案作りの参考として**大変重宝**しました。

・ESD の授業実践について知れ、**参考**になった。

・いろいろな授業の手法があり、**普段はやったことのない授業などもあった**ので参考になった。

・ESD の授業実践の具体的な内容が理解できた

（**2）事前の打合せ及びワーキンググループについて**

・専門家の方々の**意見を存分に聞け、視野が大きく広がり**ました。

・一番重要なことは**授業者が何を伝えたいのかを明確にすること**だということがよくわかった。

・よかったが、もっといろいろ**意見がかわせるとよかった**。
・色々なアドバイスをいただくことがあり、授業の展開の参考になりました。
・こちらが **ESD 教育に無知**という面があり申し訳なかったが、見通しがあまり定かではなかった。
・授業づくりで **ESD の視点をどうとり入れていくか参考**になった。
・ご助言、アドバイスの**お言葉にきつさを感じる方**がいました。
・**おいつめられると、やる気がなくなり**ます。
・授業者への**負担が大きすぎる**と思います。
・**ともに作りあげたという感じはしなかった**です。

■これまでの授業づくり及び実践との「違い」はありましたでしょうか。
・今までにない展開の仕方で、**いろいろと学ぶ**ことができました。
・**「今後も考えさせ続ける」という概念**が、今までの授業とは大きく違うと感じました。
・ESD で付けたい 7 つの能力を意識して授業にとりくんだ。**コミュニケーション力や多面的に考える力、批判的思考力など通常では意識できていないことも、授業で意識**できた。

■ESD の授業づくりの参考になりましたか。ESD の視点や手法をどのように授業に取り入れられましたか。
・ESD というものがどこかにあってそれにたどり着くのではなく、**今自分たちの暮らす地域が持続発展するためには、どのようなことが必要なのかを意識して授業**するよう努めた。
・普段の授業でも、子どもたちへ**ゆさぶり**をかけたり、常に**疑問をもつ**ような資料を提示したりして、**児童の事象への意識の連続**が図られるようにした。
・**何でだろうと疑問を持たせる、今後も考えさせ続けさせるような発問**を授業に取り入れました。
・外部講師による出前授業も今回の実践に取り入れた。児童は教師の話よりも、外部講師の話のほうがより真剣に話を聞いていた。
・まだ授業に取り入れられていないと思います。
・ESD の視点や手法はまだよく分かっていません。

■今回の事業に参加されて「気づかれたこと」「変化」
・もっと**打合せを密にしていけばよかった**と感じています。
・**生徒を本気にさせる仕掛けのようなものを仕組んでいきたい**と考えている。
・**教員はファシリテーターである**べきだと助言をいただき、教員のあり方を深く考えました。総合の時間だけではなく普段の授業も含めて、今後**どのような立ち位置が良いのか考える一つの道しるべ**となりました。
・担当教員は一年目の若手であったが、皆さんの強力な指導にもへこたれることもなく、**立派に成長してくれたこと**が嬉しかった。その後の授業でも**教え込む授業と、考えさせる授業のバランスをとりながら教壇に立って**くれている。
・**ESD という手法は今後の教育に大切である**と感じる。この方法を広めていくことが**学習することが楽しいと言える児童**を育てていくのではないだろうか。
・映像を使う、フィールドワークに行くなど**制約された中での授業づくり**だったので、大変だった。
・今回**単元を見直し、構成したことで児童の思いを大切にした学習**が展開できた。
・ESD の考え方について少しは分かりました。全く意味がないとは思いませんが、**学校現場で子どもたちを指導する**

難しさを分かっていたら、あれほど強い言い方をできないのではないでしょうか。「授業を見て、作って、知っていること」と、それを「できること」は違うと思いますし、**アドバイスではなく批判にしか聞こえない言い方**をされるのであれば、**私はやる自信はありません。**

・最初の打合せの時のお話しから受けるイメージと、実際の授業の間にはとてもギャップを感じた。授業者のつくった案や行った実践に対して**批判的な姿勢が強い**なと感じました。

■本事業に参加される前とされた後の満足感はいかがでしたでしょうか。その理由をお聞かせください。

・子どもたちの**やる気がより高まって**よかったです。

・単発で行われていた環境学習や体験学習が、**つながりを持って進められた**ことは学校としても必要としたことなので今後の参考にしていきたい。

・今回の学習が**子どもたちの心にも響くものであった**と思われるので、そういう点では大満足している。しかし、授業の持って行き方などはいろいろと反省すべき所も多い。

・普段の授業とは違いなかなか**明確な答えのないこのような活動の１つの指針**として、大変勉強になりました。まだまだ ESD のほんの一部をかじった程度ですが、**ESD の視点を積極的に取り入れていきたい**と思います。

・ミーティングや授業を進めていく中で、**今まで培ってきたものを、狙いを絞り、丁寧に実践していくこと**が ESD の授業づくりに繋がっていくことが解った。

・他の教員にも**挑戦する気概の重要性を知らしめることができ、学校全体の前進力が向上**したと思います。

・新しい試みであったため、まだ分からない部分もありますが、何が目的であるかを確かめる必要があると思いました。

・自分が授業者として**同じように実践を中心となってやっていく自信はない**です。これから受けもつ子どもたちにもぜひ**実践していきたいともあまり思わなかった。**

（4）児童・生徒の変化

①授業実施者及びワーキンググループメンバーのアンケート結果

今年度の実証授業においては、児童・生徒の参加による学習（話しあいや体験など）を取り入れ、児童・生徒が積極的に自分の意見を表現・発信し、仲間に伝え、仲間の意見を聞き、自分の思考を深め広げることを重視した。授業実施者からは、「熱心に」「取り組もうとする姿勢」「意欲的」「真剣に向き合い」等、ワーキンググループメンバーからは、「意欲的な学習」「「お互いの意見を聞く機会があってよかった」「双方向性を感じることができた」「自分の意見を伝える」といったキーワードがアンケートから抽出された。一つの成果だと捉えている。

【授業実施者】

・仲間が実践したことを聞く発表会を開催したので、**興味や関心が高く、熱心に**中間発表を聞いていた。

・やはり映像が与えるインパクトは大きく、**興味をもって学習にとり組もうとする姿勢**が多数だった。

・子どもたちはそれまでの積み重ねもあり、とても**興味を持っていたし、意欲的に取り組んでいた**と思う。また、楽しんで取組んでいる姿も多く見られた。５年生として、また高学年としてのレベルがどうかは分からないが、少なくとも**全員が課題に対して真剣に向きあい、考えを深めたり思いを強くしたりしていた**のは大きな成長だったと思う。

・子どもたちはとても**真剣に課題と向き合い、たくさんのことを吸収し、表現**しようとしていた。

【ワーキンググループ】

・身近な自然に目を向け、**自分達なり**に調査や発表を行い、その中に**新しい気づき**が見られたようで、**意欲的な学習**が展開された。

・先生方も工夫されたようですが、ワークショップでの**意見交換は多くの意見が出て良い雰囲気**でした。

・これまでの学校の取組、先輩からの伝統となった活動・行事が学習の支えとなり、**意欲的な学習**を可能にしていた。

・**自分で行う体験的なものは反応が良か**ったが、**グループワークになると個人差**があった。

・生徒たちの感想の中に、地域のことについて**お互いの意見を聞く機会があったことがよかった**という感想があったことが印象的だった。

・時間制約が緩ければもう少しさまざまな意見が出たかもしれないという点が少々残念だったが、**各グループから意見を引き出せており、双方向性を感じる**ことはできた。

・児童が**積極的に意見を発表**しており、**児童が取り組みやすい授業**だと思いました。

・グループでの**話し合いでも自分の意見をしっかり伝えようとする姿勢**が見られました。環境が変わると、生き物が住めなくなってしまうことがあるということを理解し、そこから、河川環境の保全が大切であることまで、**発展的に考えることができた**と思います。

・子どもたちが地域の自然や河川を通して、**生き生きとした学習意欲の姿**が垣間見えて良かった。

・子どもたちは、表情豊かに映像を見ていたが、**教師の発問が活発な意見や反応を引き出せていなかった**。自由に意見を広げる時間と、収束へ持っていく流れの予測が必要だ。子どもは戸惑いながら発言していた。

②児童・生徒を対象に実施した授業前後のアンケート結果

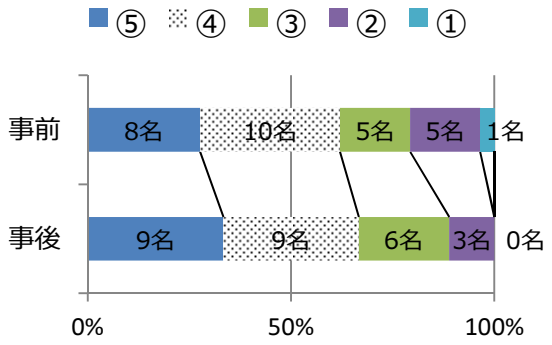
今年度第１回形成推進委員会において、児童・生徒のプログラム前後の変容を測るためのアンケートの実施が提案された。各県で実施したアンケート結果についてまとめた。

【富山県】

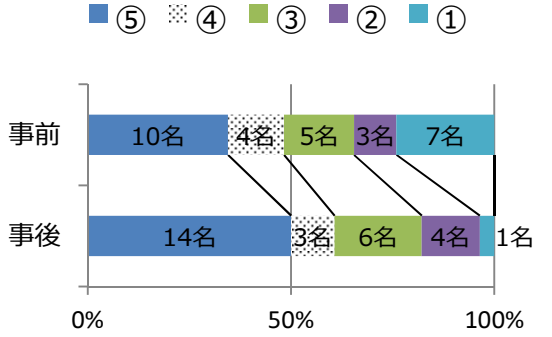
児童はこの学習から、普段当たり前の風景(市電通り)の「たから」を見つけ、その「たから」について調べたり、地元に人にインタビューすることで、「もっと知りたくなる」という探究心を育んだ。

●児童対象にしたアンケート結果（富山市立堀川小学校　実施前 29 名　実施後 28 名）

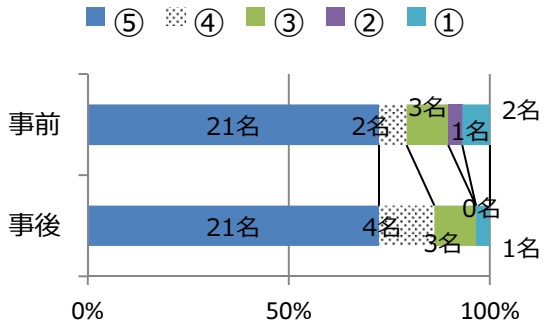
1．市電通りの「たから」はたくさんみつけましたか。



問２．市電通りで気になった「たから」はありましたか。



問３．市電通りで気になった「たから」を詳しく調べたいですか。



問１． 授業実施前に比べ実施後は、「⑤たくさんみつけた」「④みつけた」と回答した児童が授業実施前より後の方が増えている。また「①見つけられなかった」と回答した児童が減っている。

問２． 授業実施前に比べ実施後は、「⑤④気になったたからがあった」と回答した児童が増えている。また「①②気に入ったものがなかった」と答えた児童が減っている。

■児童のコメント

【①→⑤】なぜなら、いつも行っているからです。→めずらしいこんなもの見たことないから。

【①→⑤】わたしはそんなふしぎなものは見つけませんでした。→市電のこと。たくさんはしっているし、どんなのがあるかまえからふしぎに思っていたから。

【①→⑤】なんできにならないものがないかというと下校のときに通るところだからです。→お花やさんが水をやる時間がちがうのかわからなかったから。

問３． 授業実施前に比べ実施後は、「⑤くわしく調べたい」という児童が増えている。「①調べたくない」と答えた児童は減っている。

■児童のコメント

【①→⑤】どうしてかというと通るところだからいっぱいわかるからです→水をやる時間と水のりょうを調べたい。

【①→⑤】しらべるものがないから→いっぱいしらべることができた。

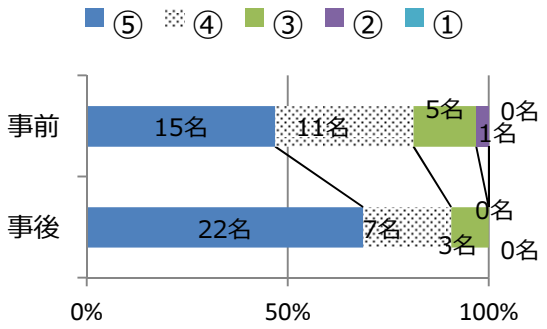
【②→⑤】むかしのまち→ぼくはいっぱいしらべたいです。

【石川県】

年間通して、児童は、地域の方の話や昔の伏見川の様子、人間と川と生き物が共に生きるためにどうしたらいいのかについて児童は学んできた。児童は、「自分たちにできないことはぜったいない」「伏見川はすごくきれいだということを伝えたい」「伏見川を輝かせる７つの宣言を石川県に広める」といった意見をもち、「伏見川」を「自分たちの川」として意識づけ、石川県№１の川にするためのアイデアを交わすようになった。

●児童を対象にしたアンケート結果(金沢市立三馬小学校　32 名)

問１．伏見川に興味がありますか。

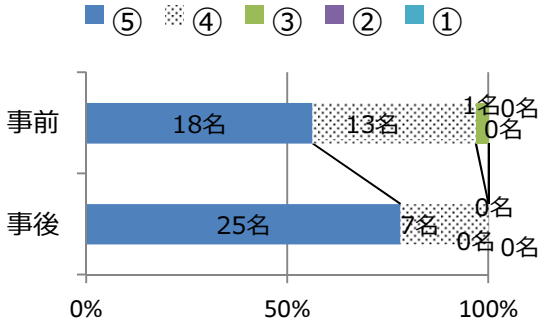


問１． 授業実施前に比べ実施後は、ほとんどの児童が「⑤興味がある」「④まあまあ興味がある」と回答した。「①ない」と答える児童がいなくなった。

■児童のコメント

【②～③】伏見川は小さい川だし、興味はなくはないから→伏見川の名前のゆらいが知りたいから。

問２．市役所や森林組合の方など専門家にお話を聞いてどうでしたか。

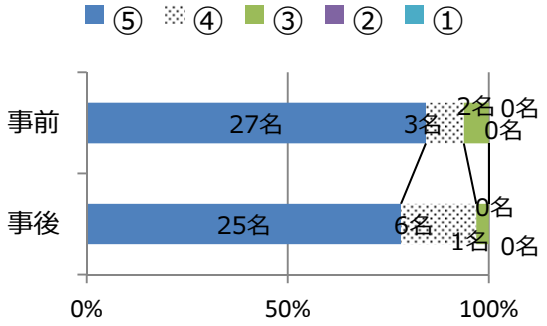


問２． 授業実施前と比べ実施後は、「⑤よかった」「④まあまあよかった」を指示した。「③よくもわるくもない」を回答している児童がいなくなった。

■児童のコメント

【③→⑤】森林はたくさんの働きをしていたから森林は大切だと思いました。→話を聞いたおかげで、伏見川についてたくさん知れたし、またサケについても分かり、放流してもよいと思ったから。

問３．伏見川を大切だと思いますか。



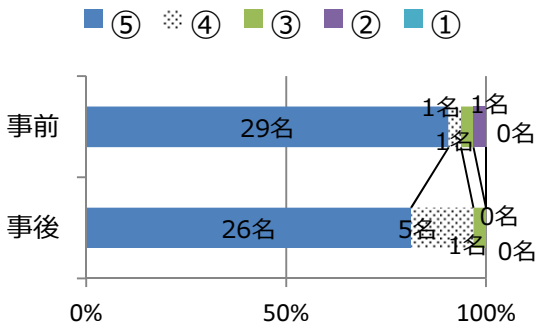
問３． 授業実施前に比べ実施後は、「⑤大切だと思う」と回答した児童と「①大切だと思わない」と回答した児童が少し減り、「まあまあ大切だ」と思う児童が増えている。

■児童のコメント

【③→④】大切にしても次の世代が大切だと思わないとがんばりが無駄になってしまうから→伏見川には生き物がいるし、きたなくすると、海が汚れてしまう。

【④→⑤】とてもほかの川とちがってとてもきれいな川だから。→伏見川がないとダメだから。

問４．伏見川を石川県№１の川にするために自分たちにできることはありますか。



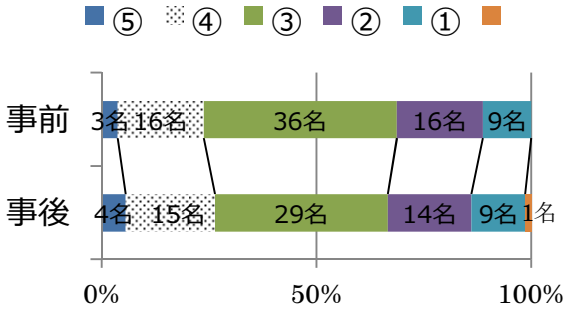
問４． 授業実施前に比べ実施後は、「⑤ある」と回答した児童が少し減り、「①ない」と回答した児童はいなくなり、「④まあまあある」程度に回答した児童が増えた。

【福井県】

生徒にとっての「敦賀」を考える貴重な学習機会であった。授業実施前、実施後の生徒の変容はほとんど見られなかったが、生徒は、自身が存在している環境の影響を受け、また「自己の価値観」に基づき、提供された情報や体験に対して、「自分なりの考え」を述べつつ、「学び」を習得していたように捉えている。生物や自然に関心のある生徒は積極的になり、また原子力発電所に関心を持った生徒、もっと知りたくなった生徒もいる。

●生徒を対象にしたアンケート結果(学校法人嶺南学園敦賀気比高等学校付属中学校 (1 年生実施前:32 名/実施後 26 名　2 年生　実施前後:18 名　3 年生実施前 30 名/実施後 28 名)

問１．敦賀に興味がありますか。

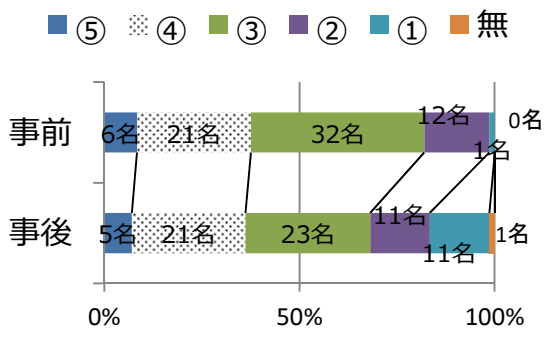


問１． 授業実施前と実施後と比べ、若干「⑤興味がある」「④まあまあ興味がある」生徒が増え、一方で、「①興味がない」生徒はいなくなったが、「②あまり興味がない」「③どちらでもない」の生徒が増えた。

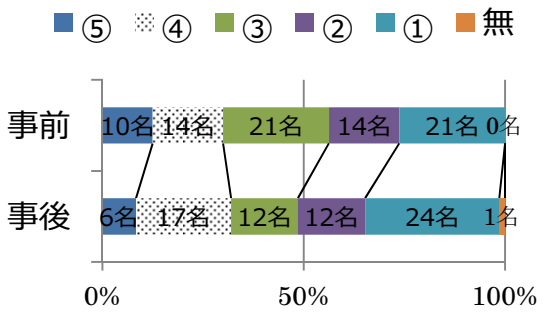
■生徒のコメント

「魅力がない」「なにもない」「観光に来ても楽しいところがない」と言う否定的な意見があるものの、「ふるさとだから」「知らないことが隠されていそうだから」「今後の敦賀がどうなっていくのか」「敦賀が好き」という意見もあった。

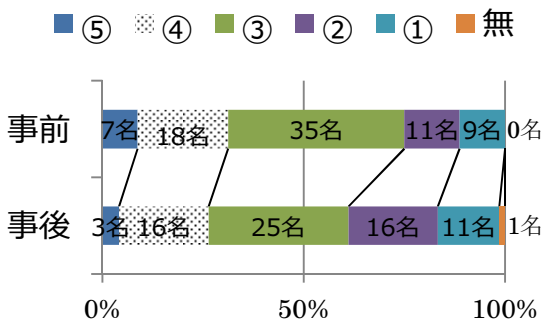
問２．中池見湿地に興味がありますか



問３．敦賀発電所１号機に興味がありますか



問４．敦賀についてもっと知りたくなりましたか



問２.授業実施前と実施後と比較し、若干「⑤興味ある」が減り、「④まあまあ興味ある」と答えた生徒数は変わらず、興味ある生徒が減る、という結果であった。「③どちらでもない」という生徒、「②あまり興味がない」が減り、「①興味のない」生徒が増えた。

■生徒のコメント

「めずらしい生き物や植物がいる（ある）」「地層に興味がある」「自然が豊かなのでどれくらいの生き物がいるのか知りたい」「なぜたくさんの生き物がいるか知りたい」「ラムサール条約に登録されてすごい」「これからどうなるのか守り切れるのか」といった意見、「自分の生活に利用できることがあまりないから」「中池見をあまり知らないから」「興味がない」「積極的に気にならない」「生態学に興味がない」といった意見があった。

問３．授業実施前と実施後を比較し、相対的に興味を持つ生徒が増え、興味のない生徒も増えた。「③どちらでもない」生徒の意志が明確になった。

■生徒のコメント

「あまり知らない」「聴いたことがない」「あまり考えた事がない」「よくわからない」「重要だと思うが興味がもてない」と言った意見、「もう一度動くのか」「仕組みを知りたい」「将来の敦賀に影響を与える」「廃炉はどうなるのか」「安全性が気になる」といった意見があった。

問４．授業実施前と実施後を比較し、相対的に「知りたくなった」「どちらでもない」生徒は減り、「知りたくない」と言う生徒が増えた。

■生徒のコメント

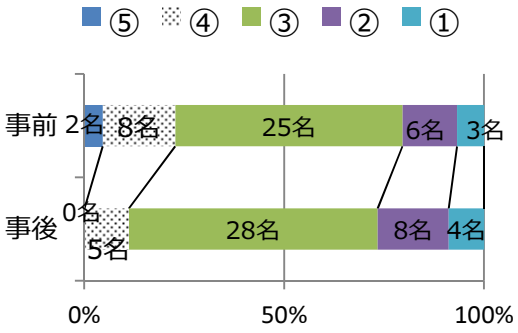
「知らない歴史を知りたい」「知らない敦賀を知りたい」「知らないところを深く知りたい」「この先どう発展するのか、そうすれば発展していくのか」「敦賀の未来・将来」「敦賀の知らないことを知ったからもっと知りたい」「敦賀が消滅可能都市になる可能性があることを知った」と言った意見と、「興味がわかない」「興味がない」「特に知りたいものがない」「知ったところでとくはないから」といった意見があった。

【長野県】

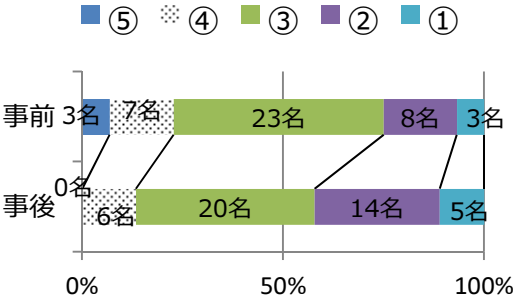
生徒にとっての、自分が暮らす地域「四賀」を考える貴重な学習機会であった。授業実施前、実施後の生徒の変容はほとんど見られなかったが、「もっと知りたい」という積極的なコメントを述べる生徒もいた。一方で、登山や自然体験、地元の方のとの学習を深めたが、この学習が「なんの役に立つのか」「今後に生かそうと思わない」といった意見もあった。

●生徒を対象にしたアンケート結果(松本市立会田中学校　中学２年生　実施前後 44 名)

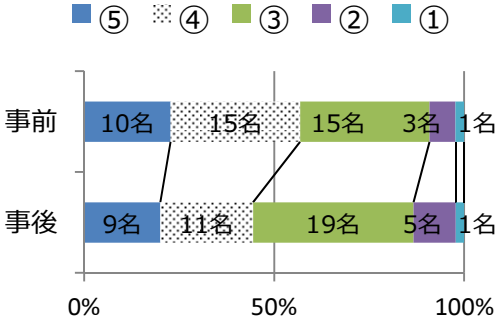
問１．四賀地域について興味がありますか。



問 2．四賀地域の山、水や森などの自然について興味がありますか。



問３．登山や身近な自然を題材にした授業、体験はどうでしたか。



問１． 授業実施前と実施後と比べ、「⑤興味がある」「④まあまあ興味がある」と回答した生徒が減り、「①興味がない」「②あまり興味がない」「③どちらでもない」の生徒が増えた。

■生徒のコメント

「自然について学びたい」「四賀はどんな場所か興味がある」「水質や森には興味がある」「どんな生き物がいるか知りたい」「見慣れてしまってはいるが、興味がないわけではない」といったポジティブな意見と、「興味がない」「どうせ出ていくのだから」「あまりかんがえたことがない」「きにしたことがない」「おもしろくない」といったネガティブな意見があった。

問２.授業実施前と実施後と比べ、「⑤興味がある」「④まあまあ興味がある」生徒が減り、「①興味がない」「②あまり興味がない」「③どちらでもない」の生徒が多少減った。

■生徒のコメント

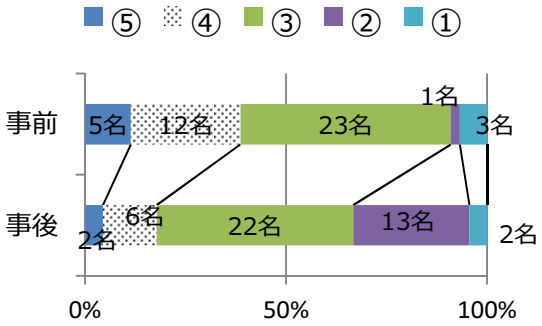
「どこからどんな水がきているのか、どんな植物がはえているのか」「松の木に興味がある」「水のきれいさを知りたい」「時運の生活に影響すること」「どこよりもきれいだから」「みずはどれだけおいしいか」といったポジティブな意見と、「なにもかんじない」「ふつう」「深く知ろうとは思わない」「興味を持っても将来役に立たなそうだからといったネガティブな意見があった。

問３． 授業実施前と実施後を比較し、相対的に「よかった」という生徒が減り、「よくなかった」という生徒が増えた。

■生徒のコメント

「体験しながら学ぶのがおもしろかった」「四賀の知らなかったことを知ることができた」「日々の生活にメリットがあったりすることが多い」「自然にあるもので燃料ができる」「「自然のパワーはすごい」といった意見と、「ふつう」「内容がつまらなかった」「興味がわかなかった」「どういうときに役に立つのかわからない」といった意見があった。

問４．四賀地域の山、水や森などの自然についての体験や学習を続けたいですか。



問４． 授業実施前と実施後を比較し、相対的に「続けたい⑤④」という生徒が減り、「続けたくない②①」の生徒が増えた。

■生徒のコメント

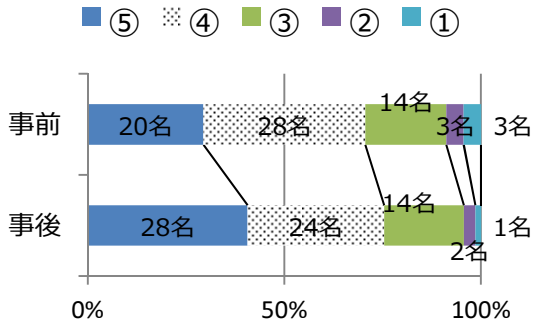
「なんでもやってみたい」「もっとくわしくなりたい」「色々と体験してみたい」「この森に棲む野生生物について考えたい」「自然を活用してどのようなことができるのか」といった意見と、「とりあえず現状維持ができれば十分」「ふつう」といった内容、「そこまでに自然に興味がない」「今後に生かそうと思わない」「興味がない」「どっちかというとやりたくない」という消極的意見があった。

【岐阜県】

児童はこの学習から、地球温暖化がどのような影響を与えるのか、防ぐためには省エネが必要で、自分たちにできる省エネ活動がたくさんあることに気づいた。この問題を自分のこととして理解し、行動を続ける意識が育まれた。

●児童を対象にしたアンケート結果(羽島市立正木小学校　実施前 68 名　実施後 69 名)

1．地球温暖化について興味ありますか。

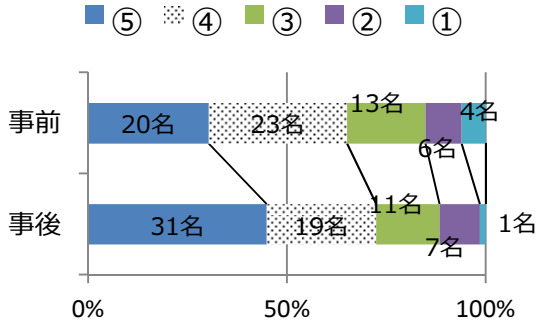


問１． 授業実施前に比べ実施後は、「⑤興味がある」と答えた児童が増え、「④まあまあ興味がある」児童が減ったものの、全体的に興味を持つ児童が増えた。

■児童のコメント

【②→③】地球温暖化はなにかよくわからない→最初は地球温暖化がなにかぜんぜんわからなかったけど勉強していくうちにこんなに大変なことがわかった。【③→⑤】温度が上がっていくのが心配だから→地球がきけんだからエコ。【①→③】地球温暖化をきにしていたら、自分は本当につかっていないのかということで→興味があったりなかったりする。

問２．省エネについて興味がありますか

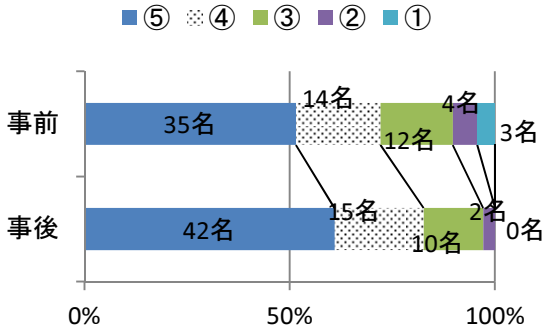


問２． 授業実施前に比べ実施後は、「⑤④興味がある」と回答した児童がかなり増えている。

■児童のコメント

【②→④】むずかしいし、やろうと思えないからです。→地球に関わっている、温暖化を止めることができる方法の一つとして知られているから。【②→⑤】あまりよくわからない→地球温暖化をどのような省エネをして防いでいくか。【①→④】省エネ→エコ?意味があまりわからないから→省エネは「電気を消す」などでもいいので簡単なので学校でも家でもやりたいと思った。【③→①】省エネをしてもあまり変わらいと思う→おもしろくなかったから。

問３．夏休みに取り組んだ省エネ活動はどうでしたか。



問３． 授業実施前に比べ実施後は、「⑤④よかった」という児童が 80%を越え、「①よくなかった」と回答する児童がいなくなった。

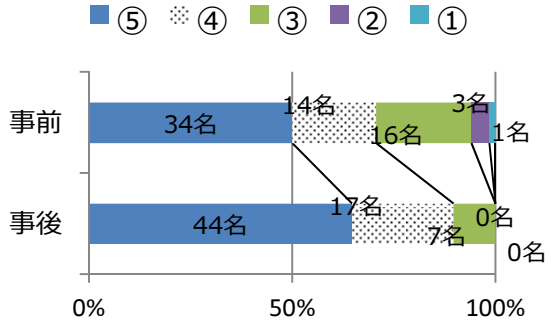
■児童のコメント

【②→⑤】すぐ製品を使ってしまったからです。→使う電化製品をたくさん減らし、CO2 排出量を少なくできたから。

【①→③】いろいろ調べたけど、そんなにページがうまらなかったから→グリーンカーテンでどのぐらい温度が変わるのかなど調べて楽しかった。

【①→⑤】省エネはやっていない→きいた人も、これはこっち、これは消さないとエコをどかしている人がいるから

問４．省エネ活動を続けますか。



問４． ほとんどの児童が、「省エネ活動を続ける」と回答し、「どちらでもない」という児童が数名いる。

■児童のコメント

【②→④】エコクッキングを続ける?→エコクッキングなどでもいいと思いました。味は変わらないので週に 1～2 回やりたいです。

【③→⑤】もっとエコマークを知って、環境にいい物を買いたいです。→リサイクルをすること。家にいない時は電気を消すことを続けたい。

【①→⑤】あんまり楽しくなかったから続けない。→宣言をしたから。

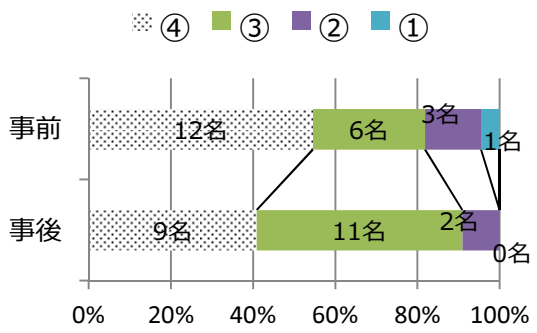
【②→④】省エネ活動を続けないのは続けなくてもいいから。→使っていない部屋の電気を消す。

【愛知県】

児童は、カニを通して「堀川」というまちのの中を流れる川の環境や、生物（特にカニ）の不思議について学んだ。体験や観察をしながら、生物が暮らしやすい環境について、生物と川と人間のつながりについて、多くの気づきと学びを得た。

●児童を対象にしたアンケート結果(名古屋市立八熊小学校　羽島市立正木小学校　実施前後 22 名)

問 1．堀川を使った学習は楽しかったですか



問１． 授業実施前に比べ実施後は、「④とても楽しかった」と答えた児童が減ったものの、「③楽しかった」と答えた児童が増え、「ほぼ全員が「楽しかった」という感想であった。

■児童のコメント

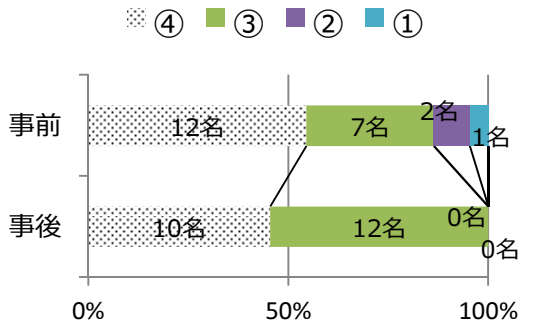
【③→③】カニがいついっぱいいるのかがしりたいからいくのがたのしみだった→しらない生物を知れたこと。色々な生物が見れてよかった。

【②→③】かにがいたこと→堀川のかにがどんな時にとれてどんな時にとれないかわかって楽しかった。

【④→②】カニがいっぱいいたこと→ない

【②→②】わたしはカニとか生物は、あまりすきじゃないのでたのしくなかったです。それにカニを近づけていじめてきたのでたのしくなかったです。→どろどろになったかなしかったです。今日はぜんぜんたのしくなかった。さかの下を見たけど怖くて見れませんでした。

問２．堀川を使った学習はよくわかりましたか



問２． 授業実施前に比べ実施後は、「④とてもよくわかった」という児童は減ったものの、他の児童がすべて「③わかった」と答えた。

■児童のコメント

【②→④】とくにない→秋になるとカニがあまりとれない。

【②→③】フナムシは小さいすきまにいること。→季節ごとに堀川の水が変わることがわかった。

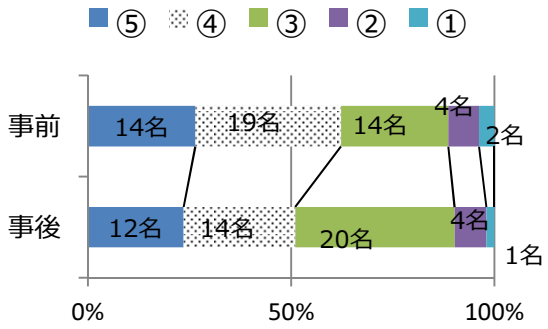
【三重県】

児童は、学校の近くを流れる「嘉例川」を題材に、上流、中流、下流の川と生物の環境を調査した。それぞれの流域の風景や棲息している生物の違いを発見し、生物や生物が住む環境の不思議さや面白さに触れた。

データ上での児童の変容に大きな変化はないが、「魚は今の環境をどう思っているのか」「生きものが川によってちがうのでちょっときょうみがあります」「いがいにおもしろった」といった児童の意見があった。また、児童のアンケートには、「自分が川とかかわりがあることを知った」「もっといろんなことをしりたい」「川のことにきょうみがなかったので、続けてみたい」といった意見があった。

●児童を対象にしたアンケート結果(学校法人津田学園　津田学園小学校　実施前後 52 名)

1．学校の近くの川や生き物など自然に興味がありますか。



問１． 授業実施前に比べ実施後は、「⑤興味がある」「④まあまあある」と回答した児童が減り、「③どちらでもない」と答えた児童が増えた。

■児童のコメント

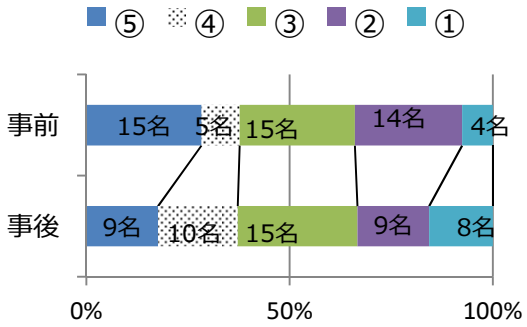
【③→②】魚を釣るところ⇔かれ川にはほとんど魚がいないから

【③→⑤】かめが近くの川にすごくいる→自然がたくさんあり、きょうみ深い事がたくさなるから

【③→④】学校のちかくにそんなに生きものはいないから→知らない生きものをみたいから

【③→⑤】バッタなどにきょうみがある→⑤いつも山であそんでいるけど、じっくり見ないと気づかないところもあるから

2．自分が住んでいる近くの川や生きものなど自然に興味がありますか。



問２． 授業実施前に比べ実施後は、相対的に「興味がある」児童と、「興味がない]児童が同数程度で、「③どちらでもない」児童の数は変わらなかった。

■児童のコメント

【⑤→②】川のきれいさに、興味がある→ないです

【①→④】川がない→興味はあるけど川がない。

【②→④】近くに川や自然がないから→どんないきものが一番住んでいるのか

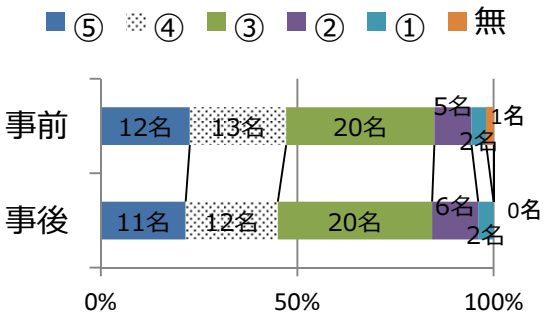
【②→④】あまり生物がいない→近くの川に魚がいるから

【④→①】自然にはまだまだなぞがあるから→ありなどしかいないから

【②→①】くさがどうしてはえるのか→近くにない

【ない→④】川がないから→ドジョウにきょうみがある

３．「5 つのものさし」に取り組んでどうでしたか。



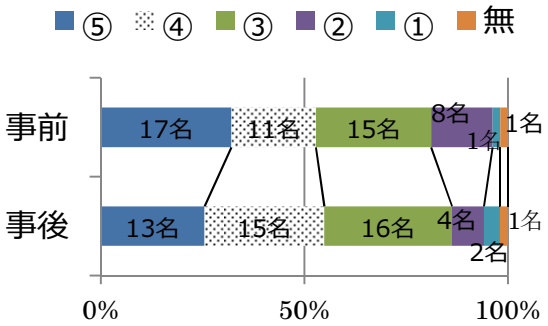
問３． 授業実施前後に大きな変化はなかった。

【①→③】できなかった→ちょっとたのしかった

【③→⑤】とくにない→生物大切さや、環境を守ることは大切だと分かったから

【①→⑤】特にありません→自分たちの近くにいつも身近にある川に目を向けて、環境を改善するために取り組むことは大切なことだから。

４．「５つのものさし」、川や生きものの学習を続けたいですか。



問４． 授業実施前後に大きな変化はなく、「続けたい」児童の割合はあまり変わらず、「続けたくない」児童は若干減った。

【②→④】川の生き物はおもしろそうだから→自然といるともっと学べるから

【③→⑤】川の中にどんな生き物が住んでいるかをもっと知りたい→もっと、生物のことを知りたいです。

【③→⑤】ゆたかな生き物→もっとくわしく調べたい

【②→⑤】あまりない→これからの川(自然)のことを考えたくらしについて、どんな努力がされているのか、自分にできることは何なのかを考えていきたい（がくしゅうしていきたい）

（5）保護者の感想

今年度本事業の実証校の発表会(富山県、石川県、長野県、岐阜県、三重県)に、児童・生徒の保護者153 名(各県参加者合計)の方に参加いただいた。その際にアンケートを依頼し、その質問項目は、下記の 5 点であった。

①取組発表について

②家族で授業内容について家庭で話をするか

③ESD 認知度

④今日の授業について

⑤今日のような授業をつづけたほうがよいか

①については、参加者いただいた保護者のうち、富山県 95%、石川県 100%、長野県 100%、岐阜県 97%、三重県 96%の保護者の方から「良かった」という評価を得ており、理由として、「児童・生徒の主体性がみられた」「自分にできることを考えていた」「地域密着の課題を取り上げ、地域への思いを育んでいた」等が出された。

②については、参加者いただいた保護者のうち、富山県 84%、石川県 75%、長野県 40%、岐阜県 91%、三重県 75%であり、今回扱った各県の教材が、地域の課題をテーマにしていたため、家族での共通話題になった、という意見が多かった。

③の「ESD の認知度」については、参加者いただいた保護者のうち、「知らない」という回答が、富山県 74%、石川県 100%、長野県 80%、岐阜県 93%、三重県 70%と非常に多く、まだまだ認知度が低い。授業に対して理解があり、家庭においても授業について話題にしているにもかかわらず、その授業が「ESD」であることを「知らない」状況にあるため、今後保護者を対象に「ESD とはなにか」「ESD がなぜ大切か」を伝える機会を作ることを検討したい。

④については、富山県 79%、石川県 100%、福井県 95%、長野県 100%、岐阜県 98%、愛知県 100%、三重県 98%の方に「よかった（とてもよかった）」と評価いただき、5 については、富山県 84%、石川県 100%、福井県 100%、長野県 100%、岐阜県 88%、愛知県 100%、三重県 92%の方が「実施してほしい」という希望があることがわかった。**「すべての授業及び発表内容が子どもの未来につながる」「地域の身近な学習テーマを教材に学習を行うことで、地域との交流が生まれ、地域への親しみにつながる」「子どもが主体的に取り組むことにより、知識を習得するだけではない『自分で考える力』が育まれる」「家庭での会話などを通して子どもの成長がわかる」**など、**学校と地域、そして家庭の連携による、子どもを主体とした学習の機会と学習内容の充実が評価された**理由だと捉えている。

また、**「一つの学習テーマを追求する児童の経験が大人になって生きてくる」「子どもが今後の社会の在り方を考えるきっかけになる」「実際の行動の変化を伴い、地域の未来や世界につながる学習である」「社会の課題に向けた一つの方法であるため必要と考える」**と言った意見もあり、**今の社会を生き抜くために、新しい社会を作り出す力をつけるために、このような授業が必要である**ことを理解し、認識されている。

全面的に「ESD」を打ち出していなくても、その手法や概念を取り入れた学習の重要性を、保護者は感じ、理解している。本事業において**「保護者の参加」**は主に普及啓発事業においてだったが、**授業づくりの過程においての積極的参加を検討してもよいのではないかと考える。**昨年石川県では、授業プログラム実施過程で、映像教材を活用した「保護者へのアンケート」を実施し、学習の素材にした。児童生徒にとって、多様な機会で「授業の課題を話題にし、多様な人々の考え方や情報を得るのは、**「多面的思考力」「批判的思考力」等の育み**につながる。家庭の状況は児童・生徒によって様々ではあるが、**できうるだけ学校、家庭、地域のトライアングルで、今後の ESD 展開を検討**したい。

保護者の声(アンケートより一部抜粋)

【富山県】

- 子どもたちは自分の役割をしっかり果たそうとがんばっていました。
- 実体験にもとづいているから、ほんとうに生き生きとした内容でした。
- 市電通りを通るたび、子どもの目ガイキイキとします。
- 親の知らない店等を教えてくれました。
- 子どもたちが机の上だけの勉強ではなく、生きる力みたいなものを養われるのでは
- 今回の取組によって、子どもた地域のことに興味を示すようになった。

●机上の勉強も大切だが、これから求められるのはむしろこちらの方だと思う。
●1 年間の成長（わずかですが）とてもうれしく思います、また不足する力も感じられて親として反省します。
●ファミリーのようにみんなで協力しあいながら立派に発表している姿を見られ感動しました。

【石川県】

●ひとりひとりの伏見川への思いが伝わってきました。
●いままで伏見川はきたない川だというイメージがあったけど、子どもが水を調べているのを見てみんなできれいにしていきたいと思いました。
●昔の伏見川はどうだったのか？と父親に聞いていた。
●自分で考え、好奇心を持ち、知識を増やしていくことが大事だから
●単発的ではなく、年間通して学ぶ事に意味があると感じる。
●大人になって、この事が活きてくれると願うから

【長野県】

●自分発信の意見のやりとりを互いに行い、新しい考え方を知り、自分が思いつかなかったものを知って、知識や考え方が増える問です。
●身近なところから、地域全体へつなげていくことが、未来への自分にも返ってくると思います。後世に残すべき良いものを守るうえで大切な授業だと思う。
●当然のように、自然の中で暮らしているけれど、それでも学んで何かできることがある。

【岐阜県】

●自分の言葉で他人に説明する言葉について尋ねられ、一緒に考える機会になった。
●子どもたちの目線で環境について研究し、考えて自分たちにできることを懸命に考え、宣言する。素晴らしい取り組みです。
●自分の意見を言ったり、興味が出てきたと思う。
●夏休み以降、節電やリサイクルなど家族全員が気を付けるようになった。
●興味があることについて自分で調べていた。
●大人も聞きなれない環境に関する言葉について尋ねられ、一緒に考える機会になった。
●省エネについて関心が高まっていました。もったいないという言葉がよく聞かれました。
●子どもたちの成長がわかる。
●子どもたちが自分で考え、実行することはすばらしいから。
●これこそ本当の学習の姿だと思います。(教科書で知識を増やすことだけが勉強ではないですよね)
●実施する事で、家族との絆もさらに深まると思います。(共通の話題、共通の取組事項として)
●国語や算数と言う勉強よりも大切なことを学んだと思います。目線を上げられる授業だと思うので、今後も続けてほしいです。

【三重県】

●観客の心をつかむストーリーがよかった。
●魚の立場にたって考えることが出来て良かった。
●子どもの頃を思い出した。この教育を通し、子どもが自ら自然に対し学習をし今後に活かせると感じた。
●子どものキラキラした目で楽しそうな活動をしている姿が印象的でした。
●自分が体験することをもう一度学習することで新しい発見をしたり考察する力になるのではないでしょうか。

●身近な水辺に入ることにより、自身の問題として考えることができたのではないか。
●環境を意識して話をするようになった。
●家でも授業の内容を話してくれました。また、パソコンで動画を一緒に見たり、ほとけのどじょうを書いて教えてくれました。
●授業を通じて子どもたちが環境に興味を持つようになるから。
●僕もいっぱい調べたいから。
●これから共存していく意味で知っておくべきだから。
●教科書だけでの知識はすぐに忘れてしまうので
●普段気に留めないことも、多くの人たちと深く考えられる。
●社会で必須な内容だから
●自分で体験し、自分で疑問に思ったことを調べることはとても大切なことだと思うから。
●「教科書だけでは感じられないことがある」と理解できると思う。
●受け身ではなく、自分達で調べ、発表することで関心や理解が深まるから。

（6）映像教材の活用について

本年度も昨年度に引き続き、教育プログラム作成に際しては、教育テーマに併せた映像教材を制作し、授業での活用を進めている。

本事業での映像教材の制作は、知識習得のための映像教材というよりは、児童生徒に対して、**学習テーマに対する興味や関心を高め、新たな課題や気付きを与える映像教材となることを意識して制作**している。また、映像教材視聴後に適切な問いかけやグループワークの実施により、子どもたちの学びへの意欲をより促し、そのきっかけ作りとなる映像教材としている。

自然環境の価値を伝えることを目的とした教育プログラムでは、保全活動を行う人や地域の様々なステークホルダーのインタビュー映像を複数県で組み込むことにより、学習内容の理解をより深めると共に、新たな気付きを与え、多様な思考の拡がりや深化に貢献できたと考えている。

授業実施者向けのアンケートでは、**回答者全員が、「映像を活用した授業実施について」、「とても良かった」、「良かった」と回答**しており、**生徒児童の興味を高める事が出来た、授業にリズムを作ることができた、映像での授業では、子どもたちがいきいきする等のコメント**を頂くことが出来て、映像教材を組み込みの趣旨や目的が果たされていると言える。

また、最近、学校現場では、PC やタブレット端末の導入が進められている。映像教材をクラウド環境にアップロードすることで、手軽に映像を視聴し、予習や復習を行う環境が整備されている。こうした教育現場や家庭でのICT環境の浸透を踏まえ、本年度、愛知県のみの取組みとなったが、**藤前干潟の既存印刷物から、タブレット端末やスマートフォンを通して、気軽に映像が視聴出来る環境（AR：拡張現実）を構築**している。

いつでもどこでもまさに、ユビキタス環境の整備により、外出先でも自宅からも手軽に映像教材へのアクセスが可能となることで、学校教育と家庭教育との連携等が容易となり、まさに ESD に相応しい地域を巻き込んだ学習環境の実現が容易となる。昨年度の反転学習やクラウド環境整備による学校教育と家庭教育との連携や反転学習

環境の整備、本年度の AR 環境の実現等、今後も児童生徒が興味を持ち、**映像教材をより効果的に活用できる様、ICT の進化に併せて最適な学習環境を提供していきたい**と考えている。

また、今回は実施校以外での教育プログラムの展開等を目的として、本年度制作した映像教材を活用した授業展開例をまとめている。**実施校でのカスタマイズや実施校以外で教育プログラムが積極的かつ継続的に活用**されることを願っている。

一方で、本事業の開始時期に影響される事ではあるが、各地域での WG の開催やその後の教育プログラムの検討、映像教材内容の検討を進めると、地域での映像収録はどうしても夏休み明けの秋から冬の時期となる。ロケ収録場所は、自然豊かな場所であることが多く、比較的暖かな時期の収録であれば、数多くの生きものや植物、緑あふれる景観等が収録可能であるため、事業開始時期の前倒しの検討の他、映像収録内容の早期検討を図り、収録内容に併せた収録時期の選択を出来る様、余裕を持って進めていきたいと考えている。

また、今後の映像教材の活用に関して、教育現場における映像教材の優位性を以下の通り取りまとめた。来年度以降、映像教材をより効果的に活用するために、教育現場における映像教材の優位性や利点を意識し、映像教材の制作や活用方法を検討していきたい。

①短時間で非常に多くの情報を伝えることが出来る

視聴覚に訴えることで、短い時間に多くの情報を効果的に伝えることが可能で、授業時間の効率的な活用を図ることが出来る（1 分間で話せる量：300 文字、1 分間で読める量：1,000 文字、1 分間の映像から得る情報：180 万文字分とも言われている）

②物理的制限を超えてコンテンツを紹介出来る

過去や未来、壮大なものからマクロレンズの中の小さなもの、身近な風景から遠くまで、時間的、物理的制約を超えて、コンテンツの紹介を効果的に行うことが出来る

③対象となるコンテンツを異なる視点から紹介出来る

普段見慣れた風景であっても、映像になることで、新鮮な目で見つめ直すことが可能となり、気付きが拡がる

④新たな目線を導入することが出来る

映像に登場する人物・いきもの・キャラクター等の視点に立って語りかけることで、自分とは異なる目線からものごとを捉えるきっかけを提供できる

⑤興味関心を惹き付ける演出を行うことが出来る

音楽、映像などを効果的に使うことによって、関心を引き付け、共感を得やすい

⑥何度でも繰り返し活用出来る

複数年度、クラス（学年）にわたり活用することができる他、授業の復習や予習（反転学習）にも活用可

能である

⑦家庭学習との結び付けが容易に可能となる

授業で視聴した映像を、家庭でも視聴可能な環境（クラウド環境等）で提供することにより、学校の授業を家庭学習と結びつけることが出来る

⑧授業の進行に応じて、自由に活用でき、統一された情報提供が可能となる

1～3 分程度の短い映像教材を複数本準備することにより、授業の進捗具合や強調したい点等を加味し、使う順番や授業での位置付けを教師が柔軟にカスタマイズすることが出来る。また、教師のスキルに依存せず、統一された一定の情報提供が可能である

（7）総括～今後に向けての提案

上記を踏まえて、今年度事業の総括として、事業の成果と課題、今後の事業展開に必要な提案をまとめる。

①成果

学校と地域の連携によって、学校教育において ESD 授業実践、地域主体の ESD への理解が進んだ。

2 年目の事業ではあるが、継続して委員会やワーキンググループのような実施主体を形成し、学校と地域の「違い」を認識しつつも、お互いの資源を持ち寄り、共通課題をテーマにした「授業づくり」を担う協働での取り組みが可能であることが明確になった。また、地域化したプログラムの授業を実施することによって、児童・生徒への学習が広がり、深まり、児童・生徒が「当事者」として授業に参加し、地域の人々等との対話を通して、「自分がすべきこと」「自分にできること」を思考し、仲間と意見交換、共有しながら、「行動のための学習を展開できる」ことが明らかになった。

この成果を他地域に展開、継続するために、ワーキンググループのような**地域で ESD 実践を進める体制**を設置できる環境づくりが必要である。

②課題

■ESD を取り入れた授業の「評価」を行い、価値あるものとして学校及び地域に根づかせる。

■他地域への展開、継続展開を支える「地域基盤を形成」する。

■地域の多様な主体(公民館、社会教育施設、事業者など)をさらに巻き込み、授業内容を豊かにし、実施体制を強化する。

③提案

上記課題に対応し、地域で ESD 実践を継続・発展させ、新たな ESD 実践を生み出すためには、以下のような提案が考えられる。

■ESD 授業実践の評価を行う

ESD を地域に根付かせるためには、ESD に取り組むと何が変わるのか（児童・生徒の変容、教員の変容、学校・地域の変容）など、その成果・効果を検証し、社会化・可視化することが必要である。そのことによって、現状

の教育にESDを取り込む意義や価値を明確に示すことができる。有識識者、教員、地域の主体等が協働し、それぞれの視点から、「持続可能な地域づくり」に必要スキルや知識を育んだか、そして、ESD 授業を実施することで、児童、教員、学校、地域にどのような変容をもたらしたかなどの評価方法を検討する「ESD 授業評価検討会議(仮称)」を設置するなどし、国が検討している評価システム、教育委員会等が導入しようとしている評価方法を参考にし、本事業の成果を十分に活用し検討する。

■ESD 実践のための「地域のステークホルダーによる基盤」の形成

中部 7 県各県においては、ESD 推進のイニシアティブを担う組織（機関）に特色があり、富山県の場合は、富山大学と富山ユネスコ協会、石川県においては、金沢大学と大学コンソーシアム石川、福井県においては福井大学と福井ユネスコ協会、さらに北陸という広域においては、北陸 ESD 推進コンソーシアム、北陸 ESD 推進大学間ネットワーク等の組織が多様な動きを生み出している。

長野・東海においても、信州大学、松本大学、岐阜大学、愛知教育大学、中部大学、三重大学、中部 ESD 拠点、なごや環境大学、EPO 中部、教育 NPO 等がイニシアティブをとってすすめている。

本事業を実施する際の、実証授業実施校の紹介や決定もこれら機関と相談しながら進めており、ワーキンググループへの参加も適宜依頼している。

各地域の状況とこれまで積み重ねてきたネットワーク、本事業での成果、課題を再検討し、市町村レベル、県レベル、広域レベルでどのような基盤があれば、ESD 推進のための環境づくりが可能なのか等を協議する場を設けることが必要である。地域で実践された ESD 授業が、世代を越えて継承されるような協働による基盤、そして地域の多様なステークホルダーの参加と対話と協働が保障されることが必要である。

例）・大学イニシアティブによる協働体制
（富山大学、金沢大学、福井大学、三重大学、中部大学他）
・教育委員会イニシアティブによる協働体制
（勝山市教育委員会、名張市教育委員会、岡崎市教育委員会他）
・学校イニシアティブによる協働体制
（堀川小学校、新香山中学校、薦原小学校、緒川小学校　他）
・地域ユネスコ協会イニシアティブによる協働体制
（富山ユネスコ協会、福井ユネスコ協会、松阪ユネスコ協会、豊橋ユネスコ協会　他）
・NPO・中間支援組織等イニシアティブによる協働体制
（中信環境教育ネットワーク、NPO 法人 e-plus 生涯学習研究所、特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ、NPO法人四日市大学エネルギー環境教育研究会、中部ESD拠点、なごや環境大学 EPO 中部、他）

■地域の ESD 実践を支援する広域の協働スキーム

EPO のような官設民営の協働組織が広域のコーディネーターとして参画しているが、各地域の実践や課題を収集し、課題解決、成果を重ねるための ESD 政策を提案（文部科学省、環境省等）したり、予算確保のための企業や助成機関等資金調達先の開拓を行う機能が必要である。本事業の後継事業の提案、県や市町村への施策提案も事業の継続には必要である。

また、広域の特徴を活かして、東海、北陸、長野での ESD 授業経験交流会、作成した ESD プログラムの活

用法を検討する会議、特に中部の場合は作成した映像活用について協議する場を設け、授業実施者間のネットワーク、学校間ネットワーク、地域間ネットワークを形成するなどし、協働スキームを形成する。

■最後に

本事業は 2 年目を終え、来年度は最終年度となる。この 2 年で培った、ESD 授業のつくりかた、各県ワーキンググループの柔軟性かつ結束力のあるチーム力、形成推進員会の各県の実態を踏まえ、次なる施策を検討する形成推進委員会の専門性を十分に活用し、ESD を推進する地域主体の基盤の構築、地域の ESD 実践を支える広域の協働スキームを形成することが最終年度には望まれる。ステークホルダーの要望や期待を十分に踏まえ、本地域が持続可能な地域となるよう、学習の機会、協議の場を作っていくことも必須である。

最終年度はこうした事を踏まえ、上記の様な各県での ESD 授業づくりと実践をプラスした事業展開が必要となるであろう。

添付資料 1

中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員対象アンケート結果まとめ

中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員対象アンケート結果まとめ

※形成推進委員会委員 9 名中回答者 8 名(内 1 名ヒアリング)

1.本事業についてのご意見、ご提案、ご感想についてお聞かせください。

①環境省 39 モデルカリキュラムについて

評　価	選択数	内　　容
とても参考になった	0	
参考になった	5	●ESD とは何かを現場の教員が考える際の**よりどころ**となっている。 ●各学校が地域の特性やこれまでの経緯の中で、**工夫していることがわかる資料**です。 ●子ども達のやり甲斐を高めるためにも**評価について留意する**ことが必要です。 ●現場では現場の事情に合った単元計画を創るので**そのままでは役に立たない**。特に、中部では映像を加味するのでそのままでは使えない。しかし、**単元計画を考察する際の参考事例としては有用**。 ●長野県は全国でも特徴のある山岳地域で、当初から学校のニーズとして集団登山と学習カリキュラムの関連性づくりがあげられており、今回に関して言えば**参考になった程度**でした。そうした土台がない場合に、ESD の視点を広げたり、具体化するサポートとしては**良い手引書**だと思っています。
あまり参考にならなかった	2	●やったことを通しての**主張を明確にした書き方の工夫**が必要 ●イベント的、もしくは地域特異的なものが多く、**汎用性があり、持続可能なプログラムがまだ少ない**。
参考にならなかった	0	
どちらでもない	0	
その他意見		●カリキュラムとして、**学校へ提案するにはプログラムの立て方に改善**が必要である。 ●プログラムの**活用方法の検討**を要する。

②形成推進委員の役割と機能について

評　価	選択数	内　　容
とてもよかった	1	●関係者間で情報交流をする良い機会が提供された。
よかった	4	●いろいろな情報が得られた ●各地域、各学校の取り組みを共有出来たことはよかったが、**各県の課題を明らかにし、課題解決に取り組んだことが委員会で説明され、評価を受ける**ことが望ましい。 ●私自身は、あまりお役に立てず反省しておりますが、他の委員の**皆様の積極的な活動**が大変ありがたかったです。
あまりよくなかった	1	●**できることが極めて限定的**であるうえ、**集まる機会が少ない**。それぞれの**情報を共有できる場**がほしい。
よくなかった	0	
どちらでもない	1	●中部エポと地元コーディネーター組織、学校の**三者の調整が一番の業務**だったと思います。質問の意図が十分に呑み込めていないので、自身の役割達成度と機能どちらも、どちらでもない、を選択しました。

③事前の打合せ及びワーキンググループについて

評　価	選択数	内　　容
とてもよかった	3	●**具体的な討論ができ、改善の糸口**を多くつかめた ●学校で作成する**単元計画の改善のために非常に有益**である。 ●本プロジェクトの**最大のメリット**と考えている ●現場の先生方が実践をする際に、**様々な角度からアイデアや支援を得る場**となっていた。
よかった	3	●石川県の場合、2 校の応募があり、各学校とも担当学年、担当教員の積極的な取り組みが進んでいることはよかった。一方で、ワーキンググループとして**共通理解が不十分なスタート**であった。 ●**方向性の確認**ができたことと、**おおまかな授業の流れが確認できた**こと。 ●
あまりよくなかった	1	●2 回のワーキングの枠だったため、**回数としては不足**していたように思えます。1 回目のワーキングの後にワーキングメンバーの整理が必要だったことは、関係者に少々混乱を招き、事業推進の難しさを感じました。推進の実際は地元の中信環境教育ネットワークやゲストティーチャーが各自別の事業等も利用してモデル校に支援に入り、結果的に**バトンリレー**をしていました。この**リレーが思いのほか機能したのは結果的に良い**ことでした。
よくなかった	0	
どちらでもない	0	

④映像に関する打合せ及び撮影した映像について

評　価	選択数	内　　容
とてもよかった	2	●**授業を実践される側に立った、また授業を受ける子どものニーズに合った優れた教材**となっていた。授業校の教員が出演するなど、**子どもたちの興味関心を高め、学ぶ意欲を掻き立てる内容**であった。
よかった	4	●もう少し**時間的ゆとり**があれば◎ ●映像有りきではなく、授業に使う教材とする為、**ぎりぎりまで調整、改善の努力がされる点が大きな良さ**です。しかし、授業者や作り手の立場で考えると**現地取材が一回という予算は不十分**に思う。 ●一般論としては、**うまく作成されれば非常に有益**。 ●本年度の効果についてはまだ判断できない。 ●いつも簡潔にまとめられており、生徒には**映像による時空を超えた想像力が広がる可能性**を感じます。とてもよいでないのは、今回はモデル校でしか使えない教材が 1 つあり、恐縮を含めての選択です。
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
どちらでもない	1	●まだ完成していないから。
その他意見		●プログラムのコンセプトに対して、どのような映像を撮るのかはワーキンググループで**情報を共有し、十分議論すべき**である。 ●ESD の知見、及び学校における授業づくりを理解した人が**映像のディレクション**をすることが必要である。

⑤映像を活用した授業実践について

評　価	選択数	内　　容
とてもよかった	3	●先生がこうした教材を**利用するのが上手**で、効果的な使い方となって

		いること。特に長野県では課題を見つけながら授業カリキュラムを作っていく展開を取ったため、**旬な映像が結果功**を奏しました。 ●授業を実践される側に立った、また授業を受ける子どものニーズに合った優れた教材となっていた。授業校の教員が出演するなど、子どもたちの興味関心を高め、学ぶ意欲を掻き立てる内容であった。
よかった	1	●時間のもち方等、新たな授業改善、ESD 展開の糸口を多くつかめた
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
どちらでもない	1	●まだ実践していないから。それにしても、昨年に続き、**開始時期が遅すぎる。**自然関係のものの場合、いつも季節的に厳しくなってしまうことを改善できないものか。**映像の魅力が半減**してしまう。
その他意見		●**必要であれば**、使う。**使い方**による。

⑥児童●生徒の授業に対する反応について

評　価	選択数	内　　容
とてもよかった	4	●授業者、協力者の**努力のたまもの** ●生徒からはあまり意見がでないかもしれない、を前提に先生方も工夫されたようですが、蓋を空ければワークショップでの意見交換は多くの意見が出て**良い雰囲気**でした。 ●これまでの学校の取組、先輩からの伝統となった活動●行事が学習の支えとなり、**意欲的な学習を可能**にしていた。
よかった	1	●昨年度は比較的高い評価ができた。「とてもよかった」と「よかった」の間と評価。 ●本年度についてはまだ未知数
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
どちらでもない	1	●まだ実践していないから

⑦本事業全体について

評　価	選択数	内　　容
とてもよかった	4	●具体的なとりくみで**子どもの成長**につなげられる。**ずっと続け、県全域で広げたい**ものである。 ●**ワーキンググループによる議論**と単元計画の改善が学校にとってのとても**良い刺激**になる。 ●先生があっという間にワークショップの手法を自分のものにされていた姿は大変に印象的でした。展開された授業は生徒からの要望の吸い上げができていました。地域課題の解決は実践に至るまでにこの先まだ距離がありますが、先生が連続する授業のある時点で生徒のスイッチが入ったのが分かった、とコメントされており、これはまさに**生徒のやる気やエンパワメントが授業でなされた**ということであり、今年の**「生徒とともにつくるカリキュラム」のゴールは達成**したと評価しています。 ●学校の取組を**様々な角度から組織的にサポート**できていた。各教科の支援に比べ、**学校外からのアシストが充実**している。
よかった	2	●石川県に於いては授業実証校における取り組みは、**質が高くモデルとなる取り組みを作り上げている。**しかし、市町村、県など**広域にそのモデルとなる実践を広める機会、手立てが不十分**です。また、学校のよ

		き理解者として、**支援者としての校区（公民館、子供会）、PTA などが、ESD の主体となる戦略**が重要です。
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
どちらでもない	1	●まだ終わっていないので
その他意見		●**良い事業**ではある。しかし、継続するには３年の事業が終わった後に、**何等かの展開が必要**である。 ●他の学校での展開には、最初の段階で**この事業をいかに活用**するか、**仕組みづくりを念頭におく**議論を行い、**検討を重ねることが必要**である。

2.ESD の観点、視点、方法、アプローチは取り入れられていたでしょうか。

評　価	選択数	内　　容	
		どういった点	どのように
はい	6	●**具体的活動中心**、仲**間や対象の向き方からの学び**	●**地域に直接的に働きかける**活動が単元の中心にある。 ●取り組み方に視点を当てた VTR から**自分のとりくみを高める手法**
		●学校の評価観点に加えて **ESD の育む力について想定し、評価**しようとしている。	●国立青少年教育振興機構で試行されている**評価観点を導入**予定です。
		●3 県について個別には書きにくいが、単元計画の改善に際し、**ESD の視点をどう取り込むかが議論**されている。	●**全体の構成**に反映、また、子どもたちとの接し方に関して **ESD 的な手法を導入**。
		●登山体験をもとに、生徒が出した「水環境・森林環境」の身近な課題を、裏の学校林に絡めて学習が進められたことです。**自身の体験をもとに地域に帰って課題発見につながる課程**がありました。	●モデル校は外部講師が多く連続性がないのが課題でしたが、そのメリットを生かして**連続性のある、かつ、生徒のニーズを拾う形でカリキュラム化ができてきた**ことがあげられます。
		●単なる道徳的な価値判断を学ぶ、押しつけるということではなく、**学習者自らの判断を求めた取り組み**であった点。	
とくにない	0		
どちらでもない	1	●まだ未実践なのでわからない。	

3.ESD の授業づくり、ESD 人材育成の参考になりましたか。

評　価	選択数	内　　容
とても参考になった	5	●**主張が明確**。ESD に**直結した**取組 ●**単元計画の改善プロセス**が非常に参考になる。 ●それらの情報が**十分に公開・周知されない**では非常に残念。 ●先生方が校長・教頭・学年主任・担任と**比較的一枚岩で取り組んでいただけた**ことは素晴らしいチームワークだと思います。担任の先生の**教育手法の吸収力**にも驚き、こうした方法が広まれば ESD が各地

		で実践されることにつながると感じます。 ●子どもたちの**体験を通した実践が行われ、それを可能にする授業づくり**を、**教員と外部の人間が共同してつくりあげること**ができた点。
参考になった	1	●参考にはなるが、担当した先生方や校長、学校組織、地域連携のその後を**フォローアップすることが重要**です。そのためにも、**授業者や校長のネットワークの構築が重要**で、授業者同士が遠隔地であっても**協力、助言し合えるような関係構築**が重要です。
あまりならなかった	1	●今後もその**学校で続けられるような仕組みが確立されておらず**、今回限りで終わってしまうような実践も多そうだから。**継続的なサポート体制を創り、ESD モデル校として成長を促す**方が良い。
どちらでもない	0	

4.ESDを実践するにあたり、課題と感じている点は何でしょうか。今回のプログラムはその課題を解決する上で役にたちましたか。

評　価	選択数	内　　容 ※課題と感じている点等について具体的にお聞かせください。
とても役に立った	1	●ESD とは何かという**理解が広がり、広く社会に認知**されるようになってきた。
役に立った	5	●どんな視点で授業を考えるか**教師自身の構え**が重要。そのことについて **2 回ずつ授業を行い、解明できた**ことが役立った。 ●採用後の教員に関する**人材育成資質向上の面では、多くの知見を得、多くの教員を育てている**と思う。 ●**育てた人材のネットワーク構築、更なる充実に向けた研修機会の提供といったフォローアップが必要**です。また、大学の教員養成段階での**改善に向けた取り組みが手つかず**で大きな課題です。 ●ESD 実践に際してのポイントは 2 つ。**内容と手法**。北陸では**手法の改善はワーキンググループを通じて進んだ**。他方、内容については、ケースバイケースになるが、**全体的にはまずまず取り込まれるもの**と期待している。 ●学校により進めやすい環境が異なるという点で、まだ**課題を残しています**。**公的コーディネーターが入るか、または、民間で担う**か。先生への**教育手法の広がりも研修など機会を提供する仕組み**が必要です。今回はそうしたことについて行政と話し合う機会を持つことはあまりできませんでした。
あまり役に立たなかった	1	●ESD そのものが**持続可能ではない**点 ●**プログラムや支援体制そのものの持続可能性**。 ●**教員の意識改革** ●**サポート側の知見やサポート頻度**
役に立たなかった	0	
どちらでもない	0	
その他意見		●学校、教員は ESD 授業のマニュアルを求めることもあるが、ESD はマニュアル通りの授業ではないので、**いかに導くか**が課題である。

5.映像や ICT を活用した授業への期待や必要性についてお聞かせください。映像や ICT を活用した学校教育と家庭学習をつなぐ仕組みについてのお考えをお聞かせください。

評　価	選択数	内　　容

とても期待し必要だと考える	2	●**デジタルスキルを身につける**ことは、今後の生きる力を育てるうえで重要なことだと思う。しかし、生徒が主体的に映像やＩＣＴの活用をする機会は極めて少ないので、今後は**そういった点でもサポート**をしたい。もう少し事業そのものを行う**学校にインセンティブ**をつけるか、**継続性を考えなければ、一過性で終わる可能性**が高い。 ●家庭での取組により、**親の関わりが可能**になる。**親の意識改革**が無ければ、単発の活動として終わってしまい、継続的な学びが難しくなる。
期待し必要である	5	●限られた時間の中で、**うまく活用することで子どもの意識を高め**たり、**体験的な活動を行う時間の確保**ができた。 ●石川県金沢市立泉中で行われたように、ESD の学習対象を家庭が共有し、**家庭での学習の広まりや深まりを学校の授業に生かす**ことはおもしろい。 ●子ども達の**学習を表現する手段**としての映像化、ICT 化は重要で、中学生などは**学習結果としての映像づくり、プレゼンづくり**などは、**家庭や地域と学校を繋ぐ可能性を広げて**くれそうです。 ●昨年度の学校と家庭を繋ぐ石川の取組は**画期的であったと評価**。 ●映像やICTは、使い方によっては**大変大きな効果を生む**と思われる。ただし、すべての学校の教員がそれらに精通しているわけではないので、**映像作成の費用ねん出、教員の能力向上**をどうするかが課題。 ●とても、と少々迷った項目ですが、**映像の持つ力は教育に有用**だと常に感じています。一方で**コストパフォーマンスや実現性（常に進化する映像内容）という点**で課題を残すため、“とても”を避けた選択です。学校の先生が**映像教材を作る**のはまだ現実では皆というわけにはいかないですが、**生徒とともにつくる、家庭を巻き込む媒体と**しての期待はしています。
あまり期待しておらず必要でない	0	
期待しておらず必要でない	0	
どちらでもない	0	

6.ESD 実践を拡大するための地域主体の形成に本事業は寄与していると思われますか。また、地域で活動されている団体や市民等との協働での教材づくりについてのお考えをお聞かせください。

評　価	選択数	内　　容
とても思う	2	●**地域住民が教材を作る課程で参加**し、**学校カリキュラムを理解**することと同時に、**学校が地域課題を理解しカリキュラムに反映する**という**双方向の情報交換**ができることは、これからの**地域社会形成においてとても重要な仕組み**になると考えます。先生の異動を考えると、地域にそのテーマを**継続する教育機関なり団体がある**ことは非常に重要なことと考えます。 ●地域における活動を行っている方との**コンタクトをどのようにとったら良いのか**、**窓口やリンクを可能にする仕組み**がわかりやすく提示されると良い。
思う	4	●**いろいろな立場の委員により多様な視点からの意見交換、及び共通理解は役立った**。あとは、**どうやって裾野を広げるか**が問題。

		●本事業は、**地域や市民と学校を結び質の高い ESD の授業、総合的な学習の時間の授業づくりや人材育成に量的質的に大きく寄与**している。しかし、一方で**既存の社会教育機関・施設、関係団体こそが ESD の主体となるべく転換する戦略が今後重要**です。大きな税金が投じられている既存の**生涯学習に影響力を行使**することが重要です。 ●北陸では全体としては**地域との連携は取れている**と評価。 ●各県での 2 年間の取組の中では、**大変高く評価できるものと改善の余地があるものがある**と考えている。
あまり思わなかった	1	
思わない	0	
どちらでもない	0	

7.今回の事業に参加されて、「気づかれたこと」「変化」がありましたら、お聞かせください。

●若い先生方には**大きな可能性**があります。子ども達や同僚と**共に学びながら成長している**様子が見えます。本事業が提供する ESD について**本気で取り組む機会は、教師や教師集団を育てている**と思います。今後も、先生方が **ESD に挑戦できるよう、先生方を勇気づけ、やり甲斐、学びがいを実感出来るよう工夫**していきましょう。

※自治体や教委、企業等が出資したファンドで中部発の ESD 学会設立、実証授業者の会、実証授業者の授業構想夏合宿、実証成果交流春合宿

●NPO や NGO の活躍に期待すると共に、**既存の社会教育施設、関係団体（公民館・子ども会・PTA）、野外教育施設が ESD に取り組むようになるよう戦略的な取り組み**が必要です。**学校の ESD を支え、更に充実**することにもつながります。

●お互いの**実践を見合う機会**が欲しい。また、**できあがった教材も共有**したい。

●このような仕組みは、**仮に映像がないとしても大変有益である**と評価。

●3 年間の事業期間を越えて、**どう地域に定着させるかは大きな課題**。

●モデル校のある松本市では、信州型コミュニティスクールの実践が本年度から始まっており、地域との連携を図る上で、当初より学校から支援を求めるとの強い要望がありました。始まってから ESD という概念が学校教育に取り込まれるまでに時間がかかりましたが、**やってみれば手ごたえを感じる事ができた**、というのが教育現場の実際だと想像しています。コミュニティスクールも地域との体制づくりに留まらず、**この学びをカリキュラムにどのようにつなぐか**という点で、今後多くの学校が課題を抱えると思われます。その際に、**モデル校の例が地域の教育現場に紹介され、普及される**ことを期待しています。

●私自身が **ESD そのものの理解を深める**ことができた。**ESD を教育活動の核として、学校教育の取組の中心に据えることで、学校の活性化や改革に力を与えることができる可能性**を持ったものであることを実感した。

添付資料 2

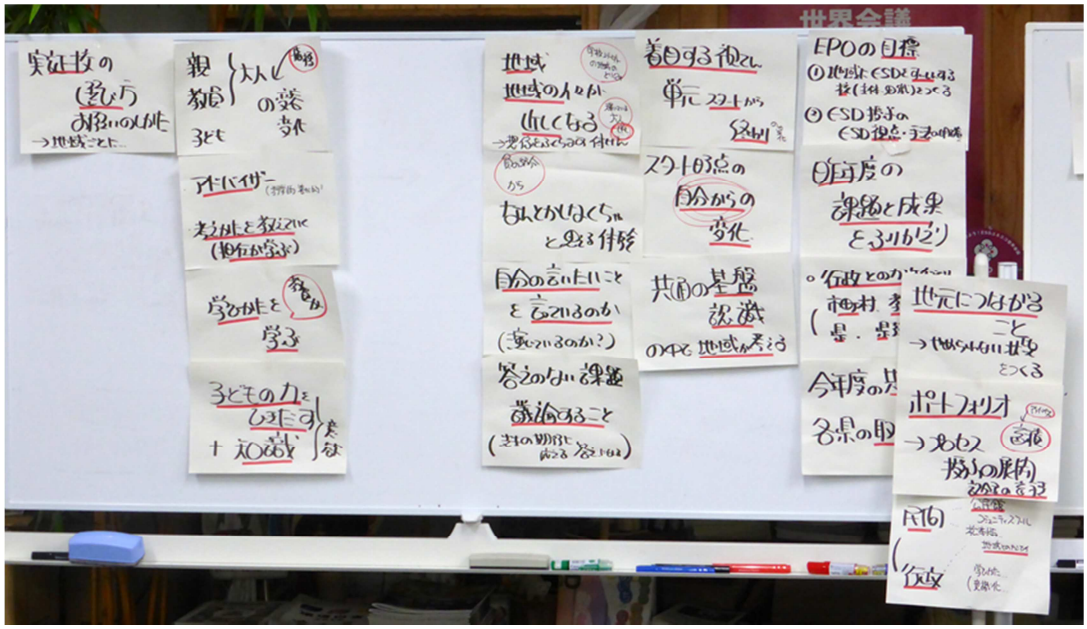
中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員会議事録

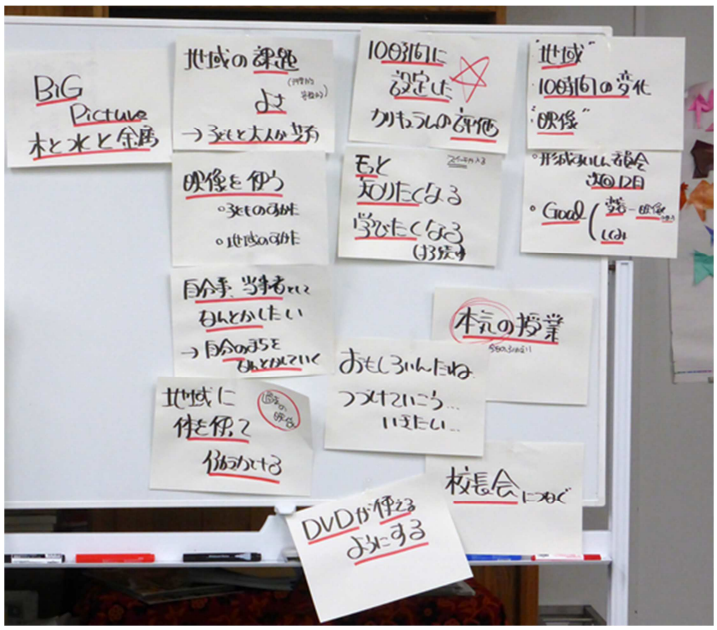
中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会　第１回議事録

日　時：平成 26 年 7 月 4 日(金)　15:00～17:30
場　所：環境省中部環境パートナーシップオフィス
出席者：松本謙一氏 富山大学人間発達科学部教授
池端弘久氏 金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課キゴ山ふれあいの里館長
前園泰徳氏 福井大学教育地域科学部特命准教授
中澤朋代氏 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科准教授
千頭　聡氏　日本福祉大学国際福祉開発学部教授
巽　徹氏　　岐阜大学教育学部英語教育講座教授
松岡　守氏　三重大学教育学部
鈴木克徳氏　中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員・北陸コーディネーター
金沢大学環境保全センター長・教授
新海洋子　中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会委員・長野、東海コーディネータ-
環境省中部環境パートナーシップオフィス
池田善一　環境省中部地方環境事務所所長
遊佐秀憲、高木丈子　　環境省中部地方環境事務所環境対策課
萩谷衞厚、今井麻希子　株式会社 TREE
高橋美穂　　特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ　計 15 名

決定事項

1.　第 2 回形成推進委員会会議の
日程：平成 26 年 12 月 17 日(水) 16:00～18:00
内容：各県の授業実施についての報告
評価・検証
次年度事業について
2.　実証前・実証後のアンケートを実施する。
アンケート項目については各県ごとに設定する。
3.　中部 7 県のプログラムの共通目標
①地域の課題、良さを、子どもも大人も共有する。
②自分事、当事者として子どもがなんとかしたい、何とかしようと思う。
③答えははっきりしなくても良い、もっと知たい、学びたくなる。子どものスイッチが入る。
④地域に体を使って働きかけるような体験。





今後の課題

①各県での実践を進めること

②各県での評価方法の協議

③アンケート項目等（プログラム前・プログラム後）

④昨年度のプログラムと映像教材の公開、ダウンロードでき活用できる環境作り。

議　事

１．今日の会議のねらいと決定すべき事項の確認

①自己紹介

②本事業における共通コンセプト、方針、目標について

③各県の状況・授業実施について

④今後のスケジュールについて

⑤その他

2．挨拶　環境省中部地方環境事務所所長　池田善一

昨年事業の継続になり、本年も株式会社 TREE と特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ、EPO 中部がコラボレーションして、昨年度と同じように事業を進める。フロー図を見るとタイトなスケジュールであるが、昨年度の様々な問題点、反省点を踏まえ、より良い改善されたプログラムになればと思っている。

3．自己紹介、昨年度の事業を通して

●富山県　松本謙一氏

富山大学では教育科学部では理科教育、生活科や総合的な学習の時間の学習指導法を教えている。昨年度は富山市古沢小学校で呉羽山をテーマに実施した。通常の総合学習の長い単元を、映像を用いることで、児童に問題意識を持たせる時間を短縮でき、体験の時間を設けることができた。単元を終えた時には、やり終えて終わりではなく、児童が世界の人、未来に目を向け、何ができるかを考えることができたことが成果であった。

●福井県　前園泰徳氏

福井大学の教職大学院で教師教育に関わっている。福井大学は学長、副学長が ESD に積極的に動き、全学部で授業、プログラムづくり、教師教育講座、教師の免許更新時等に ESD を組み入れている。昨年は坂井市の鳴鹿小学校という、福井で初のユネスコスクールであった小学校で梃入れとして、この事業を実施した。昨年一年で終わるのではなく、現在も活発に動いている。持続可能にしていくためにその後のケアをしっかりしていきたい。映像も効果的に働き、良い教材になった。本年度も新しいことに挑戦していきたい。

●石川県　鈴木克徳氏（北陸コーディネーター）

北陸全体で先生方のサポートを行っている。文科省のグローバル・パートナーシップ事業に通ったので、北陸での連携、ポスト ESD に向けての体制の強化がされるであろう。北陸で 6 ～7 年 ESD に取り組み、大学、教育委員会、ユネスコ協会が連携し、ESD 推進の中心となっているところが北陸の特徴であると思っている。今後も一層強化し、進めていきたい。

●三重県　松岡　守氏

三重大学で中学校の技術科の教員を養成している。昨年は事業の開始が遅く心配したが、名張市の薦原小学校が引き受けてくださり、学校が熱心で結果として上手くいった。ギフチョウをテーマに授業を行い、映像も良く上手く活用できた。本事業は継続するので早くから開始できればと思っていたが、もう７月であるため若干の心配はある。

●岐阜県　巽　徹氏

岐阜大学教育学部で英語教育を担当している。昨年の取組では、自身にとっても ESD って何？がスタートであった。岐阜市内の中学校での実践であり、子どもと同じレベルと目線で勉強させていただいた。今年も少しでも子どもに近づけると良いと思っている。

●長野県　中澤朋代氏

昨年長野県は松本市の意欲的な校長先生の下で、急ピッチで進み形ができた。児童の発表会もとても良かった。長野の委員にとっても学校で、外部とこのようにできるのか、こんな学習ができるのかと学びが多かった。長野県は環境意識が高く、エコについても日常にあるが、あまり系統だっておらず、単発でいろいろなものがあるというのが課題であった。昨年度末の松本市の校長会を経て、本年は中学校でと考え、松本市立会田中学校に実践校が決定した。校長先生も系統立てた学習をしたい、保護者の方にも説明ができるようにしたいと仰っている。ESD と地域独自のものを上手くつないでいきたい。来年度は他市町村にも広げられればと考えている。

●環境省中部地方環境事務所所長　池田善一

多様な議論が出来ることを期待している。

●環境省中部地方環境事務所環境対策課課長　遊佐秀憲

昨年度はスタートが遅く、迷惑をお掛けしたが、結果としてはとても良い実践になった。映像を使ったことも効果的に働いた。中部は多様性に富んだ授業が高く評価された。皆さんのご意見を伺い、さらに良いものを作っていきたい。中部ならではの日本一の授業づくりをできればと考えている。

●環境省中部地方環境事務所環境対策課係長　ESD 担当　高木丈子

皆さんと一緒に地域の人にとって良く、残るプログラムを作りたい。

●金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課キゴ山ふれあいの里館長　池端弘久氏

現職はキゴ山ふれあいの里、キゴ山少年自然の家、キゴ山天体観察センター3 館の館長をしている。昨年は原点に返り、生徒がキゴ山で生物調査などの体験活動をしっかりし、まとめていき、良い実施となった。身近な校区を調査という手法で体験しつつ、学びをまとめることにより様々なことを学んだのではないか。キゴ山にはたくさんの学校が合宿として来ているが、ESD の視点でみると、難しいことが多い。自然の中に来るが、生徒指導の延長が学習目標になっていることが多い。そういったものを改善していきたいと努力をしている。先日、盲学校の子どもと自然観察の機会があり、目からうろこだった。我々の視野に入っている子ども達の中に、そういった子がいることがESD を進化させることができるのではと感じた。触察をするが、盲学校の子どもは触ることで知ることは点でしかなく、全体像が見られない。良い点もあり、難しい点もあったが次回、また来られる時に先生方と考えていきたいとも話している。ESD も 10 年を過ぎ、次に盲学校の生徒を視野に入れるともっと伸びる、伸びしろがでてくるのではないかと思っている。ESD は評価に値しないと前に行けない。筑波大学の先生が開発した「少年自然の家」を測るアンケート調査などはあるが、ESD の評価手法がない。ESD の目標に関する調査手法を考えていきたい。前園先生から子ども達が表現したものをしっかり見ていくのが大切だとお聞きし、そういったこともやっていきたい。金沢市は鈴木先生、気仙沼の及川先生に ESD の種をまいていただいた。育てていかないといけないが、中だるみの状態である。一番の問題は先生が異動すると、根付いたものがなくなる。いかに組織化するか、そういった人材の育成をしなければと考えている。鈴木先生と小学校の校長先生にご相談し、実施校を決めたいと話している。昨年は金沢でも山の手の学校だったので、今年は困難校で ESD を実施することで子どもたちがいかに変わっていくかを見たいと考えている。映像教材についてはESDで子どもがこんなに輝くというのを見せていければ将来につながる。映像も一般化できればと思っている。

●株式会社 TREE　萩谷衛厚

昨年はタイトなスケジュールであったが、みなさんのご協力のおかげで有意義に取組めた。今年度はボランタリーネイバーズと最初から一緒に取組んでいるためスムーズに進められればと考えている。ESD の 10 年にどのような形で関われるのかは不明ではあるが、中部から世界に向けて発信できる ESD のカリキュラム、ESD の手法をつくりたいと考えている。

●株式会社 TREE　今井麻希子

昨年度の実施では、先生、現場で活動されている方と直接お話しし、子ども達が変わっていく様子を見て、自分自身にとっても深い学びとなった。今年度は先生が変わっても定着する、チャレンジしていけることを考えていきたい。現在、2015 年以降の、SDGs（持続可能開発目標）が話され、その中で教育の扱いが薄いと懸念しているとの話もある。持続可能性が何かといったことが教育現場でなされていないため、根本原因の解決にならない、そういったものを国家のプログラムに入れる、先生方に対してそういった教育をすべきではといった話を聞いた。教え

る側の方に定着させることが大きな課題だと感じている。

4.会議目的　新海洋子(EPO 中部)

（1）昨年度の課題と成果をふりかえり、今年度の共通目標

EPO として、地域に ESD を推進するということが核である。ESD に終わり、ゴールはない、ずっと改善しつづけて授業をやっていくことが大事。今年も良い授業を先生方と考えていきたい。今年度はどこまでするか目標を確認したい。昨年の反省としては事業のスタートが遅く、動きながら考えていったため教育委員会との関係が不十分であった。行政との関係づくり、市町村の教育委員会、各県の環境課にきちんと事業を説明し、できればこの事業に参加いただきたい。地域で必要、地域で継続するといったイニシアティブを持てるようにこの事業を使っていきたい。松本市、名張市、富山市は教育委員会がイニシアティブを持っていて、独自に回っていく仕組みをつくっていこうとしているので、良いモデルとしながら他の地域につなげていければと考えている。

形成推進委員会の目的は、全県共通のコンセプト、目標設定を行うと同時に、各県の新しい地域での広域展開ができるように実践をブラッシュアップしながら広げていくことを議論したい。形成推進委員は各県 WG の代表である、WG メンバーが各県の ESD 実証事業の担い手の組織だと考えており、現場で子ども達をみながら、どんな授業が良いかを話し合う。委員会ではこの事業をどう作っていくかを議論したい。

評価に関しても、子ども達、先生達へのアンケートは実施するが項目等を迷いながら実施していたため、どのようなアンケートをとるか、子ども達の変化をどのように見たらよいか、事前・事前アンケートをとるか等、お聞きしたい。地域にしくみ、やろうというモチベーションが残る事業にしたい。

今年度は 39 のモデルプログラムがベースになる。今年度も 10 時間設定で授業をつくり、そのうち 2 単位を実証する。

（2）今年度事業について ㈱TREE

昨年同様、映像教材を制作する。今年度提案するに当たり、同じ映像でもパワーアップできるものに取り組めたらと考えている。例えば、AR（拡張現実）、タブレット端末で紙面、教科書などをかざすことにより、バーチャルな映像、パノラマ風景をみせるといった技術も揃っているので、全県では難しいが、積極に取組み、世界に発信できるプログラムをつくりたい。

昨年、石川県で反転学習という手法を、先生と打合せしながら採用した。ウェブに映像をあげて、家庭学習として家族と見て、事前に最低限の学習をして授業に臨むという手法である。

ユニークな手法を取り入れながら準備しつつ進めていきたい。より成果の出る取組にしたい。

5．質問事項

(1)文科省の協力依頼文書は今年も流れるか。

⇒本省の方で調整中である。各都道府県で流すとの連絡はあり、基本的には同じような通達がされる。

(2)実施校について

対象はユネスコスクールに限定されない。本年度はどのように実施校を選んでいくのか。公平性を考え、実施校を選ぶかを議論したい。

6．各県の実証校をどのように選定するか

●富山

昨年の段階で教育委員会と様々な研究発表、ESD に関わる事業の配分、日程などを調整しながら、最終的には富山市のユネスコスクールが集まった際に、話し合い、調整して決定した。中身については検討中であるが、富山市の堀川小学校が是非と手を挙げてくれた。

⇒北陸は地球環境基金で様々な取り組みをしている。ESD 講座という形で学校での公開事業、地球環境基金によるモデル授業、シンポジウムを各県毎にやっている。

●石川

金沢市にはユネスコスクールがたくさんあるが、最近は学力にやや集中しているところがあり、ESD で何らかの実績をあげていこうというには動きづらい状況も見受けられる。石川県では、能登が里山・里海で世界遺産になったということで教員の里山研修の開始等、取組としても先頭に立つ程である。今年は根本に戻り、指定してやらせるというよりも、困難なことを解決するためどうしていくかといった話の中で、本事業を利用して実施したいと考えていえる。体験的な活動が必要であると校長先生を始め分かっているが、なかなかできない、し難い。今、声をかけようとしている学校は 10 月頃、キゴ山少年自然の家で合宿を予定している。10 時間程度のプログラムであるので、特別活動の中で合宿だけで取り組んできたが、困難を解決するため、教育課程に組み替えてしっかりやっていこうとして話はしている。

候補としてはたくさんあり得る。校長会等でリーダーシップのある校長先生にこれから引っ張ってもらうことが大切ではないかとも話している。金沢市には 46 校のユネスコスクールがあるが、中だるみといった状況も見受けられる。再活性化していくためにも、引っ張ってくれるような校長先生にやっていただけるのであれば戦略としてもとても良い。

●福井

昨年度に引き続き、鳴鹿小学校でさらに展開するという案もあった。しかし、福井の嶺南に全く ESD が入っていないので、そこに持っていこうと鈴木先生と考え、敦賀の私学での実施を計画した。地域になぜ定着しないかと言うと、地域で核となる人、変わらない人がいない。自身がコーディネーターとして地域の核として ESD を進めている勝山市では、学校拠点方式により学校で当たり前のように ESD を進めるしくみをづくりをして、市内の 12 の小・中学校がユネスコスクールに加盟した。本事業として、以前より嶺南での ESD 普及の足掛かりを敦賀にし、ESD を浸透させたい。敦賀の学校では、それなりの活動をやってきたというベースがあり、頑張っている先生もいる。NPO がバックアップしているが、体験を抜け出した教育にはなっていない。敦賀全体でこういった取り組みをしたいと思ってもらえるようなベースを作っていきたい。

●長野

昨年度実施校の校長先生が松本市校長会の会長だったこともあり、3 月に話が挙がった。前年度が小学校だったので、今年は中学校でと検討し会田中学校に決定した。会田中学校は松本氏に合併した町村で自然豊かな場所なので、環境をやるのであればそこだろうという他の先生からのプッシュもあった。松本市には環境教育の地域の指導者の様々な研修を実施、スキルを共有するといった学校に支援する中信地区環境教育ネットワークという任意団体がある。そのコーディネート組織が、市の環境政策課が行っているトライアル・エコスクールという学校に外部講師を派遣する事業の補助を教育委員会と連携し、4 年目になる。そういった基盤があるため、会田中学校の校長先生も引き受けてくださった。長野市の学校登山文化で 3000 メートル級の山に登るというものをやってきたが、学校現場に負担感が大きく、近年は環境学習にシフトするという動きがある。学校登山は心身の安定といった目的になりがちなので、そこを修正する。ばらばらとあるものを、ESD というものでつなげて総合的に環

境教育をしていくのが長野の課題である。校長会でイニシアティブをとり、実施校を選定することは公平性、継続をしていく視点でも大事であると思う。次に担っていける校長先生に声をかけつつ、進めることも大事ではないか。

●岐阜

昨年は中学校、今年は小学校で実践となり、バランスが良く選定された。EPO の運営委員の環境政策課から是非とご指定があり決定した。

●三重

桑名市、名張市と表にあるが、手をあげてもらいたいという期待もある。四日市は市をあげて環境教育に取り組んでいる、ユネスコスクールも市町にあるため選定するのが難しい。より良い取組みができるという学校の選び方は先進的なところ、協力的なところを選んでいかないと難しい。

●新海

EPO としては昨年と同じ、市町での実施の場合、市町内で展開を広げていくにはどういった方法があるか、教育委員会でどのような話をしているか、先生方にどのようにアプローチしているかについて気づき、学ばせていただいている。今年度、市町を変えて実施するところでは、広域展開の場合、何が課題になるかというところも知りたい。実施市町村を変えることも大事だと思っている。その際の展開の仕方という視点で見て、関わっていきたい。愛知は藤前をテーマでできる学校で選びたいと考え、名古屋市に交渉している。画一的にこうしたら、こう広がるではなく、様々な方法を試しながら見つけていきたい。公正、公平といった場合には問題になってしまうかもしれないが、モデルとしてのねらいに対応する選定をしたい。。

●鈴木氏

富山市だけではなく富山県可全域でたくさんのツールを、どこでどのようにと検討しながらその中の配分を考え、実施している。ある教育委員会というよりは、各県の県下全域で戦略として一番良いということを考えている。金沢市は、有力な校長先生のアプローチ、福井の場合はこの事業の最大の特徴である映像を活かすことを考慮し、昨年の鳴鹿小学校ではなく、嶺南の敦賀にアプローチしている。敦賀はかなり熱心になりかかっているので、私立の学校が熱心に取り組むことを敦賀市内、教育委員会に見せることによって、市内の小・中学校に対して起爆剤になるのではと考えている。県下 2 校で実施したいという県もある。

7．意見交換（今年度の実施授業に組み入れたい大事な視点など）

（1）授業の手法について

①反転学習

・この事業の特徴は映像教材を活用できるところがある。泉中学校での反転学習は映像の可能性が見られ、とても良かった。家庭で視聴し共有し、議論したことがよかった。映像教材を最大限活かせるものができると良い。

・泉中学校は家庭を巻き込んで、アンケート調査等をしたのも非常によかった。効果を生んだ、新しい手法となった。

・今年は岐阜で反転学習を検討している。目標のESDの授業、ESDの視点、手法、映像を使ったという点をもう少し、インプットすることが出来るため、地域で考えていきたい。

・昨年、成功した手法が他でも成功するかという視点も重要だと思う。一般化できるとよい。視点と共に、自身の取組から如実に効果が見えたのは、年間を通して、親子が様々な体験をすることの効果が高い。親、子どもにとっても長い時間を他の家族との違いも感じながら一緒に過ごす。学校教育の中でも親との関係をどのように

築いていくかを視野に入れることもできる。昨年実施し、成功した手法を他でもやっていくと面白いのではないか。

②地域、家庭との連携

・松本市の会田中学校の地域は、過疎高齢化が進むと言われている地域である。今回は山をテーマに奥山、里山、地域の自然のつながりという流れで考えているが、最後には自分達の地域が持続可能なのか、というところをやっていきたいと WG メンバーの間で話をしている。学校林があり、その学習も検討しているが、外に行き、見てきたことをつなげ、地域の資源を活かして、生き暮らしていく子どもたちをいかに育てていくか模索していきたい。地域に住んでいる大人、近所の方も子どもと共に同じ課題を考えていけるような、一つのきっかけとしていきたい。

・地球環境基金の別事業で、金沢大学の里山に幼稚園児が自然について学ぶということを年間 10～20 回実施している。1 回の参加ではあまり変化は見られないが、何回か来ているうちに子どもたちが変わってくる。家でもこういった話をするようになる。子どもの変容、教員の変容、親の変容と、自然に関わってくると親の世代も大きく変わってくることもあるのではないかと面白く思っている。

・参加した 5 人の保護者と一緒に自然観察をした。自分の子どもだけでなく、他の子どもも見る。判断しながら歩く、動くというのを見ると成長や、親が子どもに対する理解も深まる要素がある。子どもと先生だけがする授業を、後から保護者に報告ではなく、参観でも具体的に見てもらえると親に ESD を分かってもらえる要素にもなる。学校で子どもが頑張っていても、何をやっているか知らないために家で評価されなければ意味がない。

③地域への発信（課題・魅力）

・福井の場合はメディアを使い、子ども達の活動を地域に積極的に発信している。学校たよりはあまり読んでもらえない。地域の課題、魅力等、メディアを通して見聞きすると地域の大人も当事者意識をもって読んでいただけ　るのではないか。子どもの活動も共有できる。メディアに出ることにより、子どもに責任感も生まれる。メディアを積極的に使うことも一つの手法。福井県の消滅可能性都市が 17 の市町村のうち 9 市町村と発表された。将来県外に出たいという子どもも多い。周囲の大人の仕事がないと幸せになれないという刷り込みも起因しているのではないか。将来、地域に住み続けるにはどうすればいいかが、地域の持続可能性を高める視点になる。学校の存在が持続可能性を高める視点だと持っていくと、地域の大人もどうにかしようと意識を持つ。子どもも自分事と捉えられる傾向がある。ESD の評価・効果として、そういった教育を実施してきた学校、していない学校で「将来住みたいか？」と手を挙げさせると違う傾向がでる。実施していないと 7 割くらい、実施していると自分達の力でなんとかしたいという意見がでる。地域の大人をどう巻き込むかが課題である。

④地域を知る

・ESD の一番の基本は地域である。グローバルも大事ではあるが、地域に着目し、地域を知っていくことが ESD のモデル事業などの一番の基盤になる。山村部でも都市部でも、それぞれに課題がある。

・能登半島は過疎高齢化が進んでいる。能登の人たちは自分たちの良さを知らない。外部の人により地域の良さに気付く。さびれていくところと大人が持つ問題意識を、子どもも持っている。世界農業遺産に登録されたことは良かった。能登にはすばらしいものがある、認識されていないものを見つけていこう、新しい起業みたいなことをやっていこうとなると素晴らしい。そういったことができるとしたら、面白いモデルプログラムになるのではと思ってい

る。

・学校での評価軸が、良い大学に行った、偏差値の高い教育を受けたというところに向きやすいが、幸せに感じていきているか、日々暮らしていて楽しいか、子育てしやすいかといったことを見える化していかないと、地域で住んでいくことの評価がし難い。昔から住んでいる人ほど都市部に出ていく傾向がある。地域の課題はあまり掘り下げられない中で、足元に気が付いてみる、新しい方法で地域の未来を考えていける、といったことをやると課題を解決する人が育まれたという評価軸ができるのではないか。学力だけではなく、解決力、ポジティブな姿勢、物事に取り組む力、生きる力とは別に、独自の指標づくりが私達の目指すところかと思う。そのためにも成果を共有したい。映像で子ども達が輝いていくことをみせていく、ポートフォリオみたいなものも大事。

・地元の子が足元を客観的に、科学的に見るということを大事に一貫して取り組んでいる。そのためにはアドバイザー的な存在が必要。教育そのものが、今は知識を教えるというより、考え方を教える時代になってきた。鳴鹿小学校では先生と講師の 2 人で、授業を行った。担任の先生が学ぶ姿を子どもたちに見せることで、人がどのように学ぶかをみせることも意識した。先生が興味を持って取り組むと子どもの興味も上っていくというものも見られ。評価として、先生がどう変わっていくかも調べたい。先生も一緒に考えていく様をみて、子どもたちも知識だけでなく、様々な事に対処していくときに、こうできるといった学び方そのものを教えることも大事である。

⑤映像の活用

・分かるものを分かったままに見る、聞く、では英語の言葉を使う意味がない。聞く意味がある場面で映像を使う、「これ何だろう？」と分かっているものは聞かない。カエルは緑、で終わりではなく、実は赤色の毒カエルだったみたいな気づきが起きるような、通説でこうと捉われない見方もあることに気づくような映像の使い方がある。

中間のまとめ

＊地域、足元、地元の課題、良さを子どもと大人が共有する。そのために映像を使う（反転学習、子どもの姿、地域の姿を映す等）。

＊大人も子どもも気づき合うことで、当事者意識を持ち、自分の地域、町をなんとかしいこうという学びになる。

＊大人（親、教員）子どもの変容・変化をある種の指標を持って、やったことの成果を測っていくプロセスがステップになる。

＊教員だけではなく、アドバイザー的、客観的、科学的に指導する、アドバイスする人が必要である

＊考え方を教える、担任の先生が学ぶ、学び方を学ぶことを子どもに見せていくことも必要である。

＊里山、温暖化等の具体例がどうではなく、この事業の揺るがないコンセプトは、課題を活用し、良く分かるような映像をつくり、自分事にする、何とかしようと大人も子どもも関係性をつくり、教員も変容していくプロセスをつくることである。

（2）映像について

①大人を見せる

・昨年の三重のギフチョウをテーマに行った授業の映像で、ギフチョウを守る活動をしている方の中に児童のおじいちゃんが偶然映り、児童の眼が変わった。地域のおじいちゃんたちが自然と共生する生活をしてきたため、この地域は守られていると先生の発言から気づいた。家ではそういった話があまりされていなかったが、発見があ

ることで自分の周りの地域、人の見方が変わる。普段、児童は学校にいるので、その間に大人が何をしているのかを知らない。大人が知らないところで里山整備や自然を守る等の活動をして輝いている、そういう大人を見てすごいと思う、出会っていない大人の側面を上手く映像で捉え、そこから子ども達が想像する体験が、感動的であった。そういう要素での効果は高い。

・残してくれた一方、壊してきたのも大人であると気づく、といった大人の現実を見せることも大事である。子どもがゴミを拾う活動がよくあるが、拾ったゴミを分析すると大人が捨てた物がほとんどである。大人が捨てたゴミを子どもが拾っているという矛盾に気づく映像があると強烈である。大人が頑張って残している部分、知識がなくて人だけが豊かになることを考えて知らずに壊してきてしまった部分を効果的に見せる。いろいろなものとの調和を考えていくためにも、良い部分、負の部分をみせる。頼りになる大人だけでなく、自分達が何とかしようと思うためには、負の部分を見せ、そう思わせたい。

（3）答えのない問い

・子どもが大人の求めている答えに合わせるために言っていることもある。ESD で批判的思考と言っているが、本当に自分が言いたいことを言っているか、求める答えに沿うために言っているかが ESD の根本になっていくのではないか。子どもは演じ、本質が抜け去っていることもある。

・答えのある問い、答えのない問いを求めているか、先生が区別するべきという話もある。算数のような一つの解を求める時は良いが、ESD のような答えのない問いでは、議論することが大事である。しかし、小学校 3 年生くらいから先生の顔色や他の人を探ってしまうことがある。先生の「答えはない」という一言がないと、先生が望む答えを求めるようになる。色々な考え方があって良いというようなことを見せる手段が ESD でもある。

（4）評価について

①単元を通した変化

・単元を通して、子どもがどう育ったか、映像がどう働いたかを見ないと意味がない。

・富山では、単元の最初から毎回、色別の付箋を使って個人作業でふりかえり（自己評価）を作り、単元を通した変化を見ていた。

・一つの単元の活動する前と後に子どもがどのように変化したかを、子ども自身が自覚できるかどうかが教育の本質である。

・毎時間最後に 5 分で、授業のふりかえりを共通で入れていくと、後で面白い。

・本気になって学んでみたら素敵と感じられる、自分が変わったと感じられる。何を学んだかを実感を通して感じられるようなことが人間にとして大事なことある。本気で授業に取り組むことによって、自分のウリに気付く、子ども自身が何を感じるかが大事である。

②プログラムの評価

・10 時間のプログラムでこんな子どもにしたいと、毎回、前の状況をみながら自己評価で変化を見ていく。映像教材にどんな効果があったかも測るが、それが中心ではない。ESD の物差しを置いたときに子どもの成長があったかどうかで、プログラム全体を評価する。

・ESD は何かを話し合いながら、学び合っていくプロセスであるため、それを前提にした 10 時間程度のプログラムをつくることが大事である。子どもたちの可能性をどう引き出すか、そこに映像をどう活用するかといったことが大事である。

③気づきの評価

・総合学習や ESD では、調べ学習が中心ではなく、地域に直接働きかける、体を使ってできる事をやりたい。これでいいと思っていたが、これでは良くないと分かってくるかといったものをやりたい。

・今までは当たり前と思い、何もしなかった自分が少しでも、何かを見たときにふっと心が揺れる子どもを育てたい。

・仲間と同じことをやっていても、感じ方が違うことを感じ合うことも大事なこと。認め合うことも大事である。

④中部地域の評価軸

・中部全体として、共通の ESD の評価項目が大切であると思う。県毎に行うのであれば、評価の標準化は必要がなくなる。最終的に、子どもから遡って物事を組み立てていくが、どういったコンセプトで ESD をやろうとしているのかがそれぞれが任されているのかどうか知りたい。→基本的には各県各学校にお任せする。

⑤着目する能力の視点でみる評価

・授業中の発言は上手くなっているが、子ども同士が分かり合う、相手の気持ちを尊重して聞くといったコミュニケーションの本質の力が落ちてきている。ESD が育てたい資質・能力の中でも、この学校はこの部分が難しいのでここに着目して行うといった、着目する視点において単元の前後を比べる、ESD を評価することが必要である。

⑥ポートフォリオ

・10 時間程度のプログラムでの変化を評価するには限界がある。単元計画があり、年間を通してどう変わったか、卒業する時にどんな子どもが育ったかが本来の評価基準であろう。学校により置かれた状況、先生も違うので一律にすることが良いとは思っていない。共通の基盤や認識を持ったうえで、自分の学校はどうしようという自由度があっても良いのではないか。。

・ESD を考えていくと、6 年間のポートフォリオをつくるシステムを考えていく必要がある。

⑦次へつながるステップ

・最後に「僕たちの未来を考えるんだ。」といった方向性のようなものは、それぞれが終わったところで出てくると良い。

・自然は大事、そこに未来を考えると入れると未来を考えていける。最後に次につながる話ができると面白い。

・自分達の世代だけではなく未来を考える。そこに子どもの変容を合わせてみていく。

・鳴鹿ではどうやって社会を変えるかと学習を深めたいと考え、メディアを使う、大人に向けて話をし、地域の人に協力を得る、親子の奉仕作業を子どもの発案で実施した。変え方のノウハウを伝えていく。

・将来、ずっと幸せに生きていく、どうやったらそういう社会をつくれるのかというところに触れないと、楽しいけど何のためかというところに行きつく。自分達が幸せに生きるというところに焦点を当てることは必要である。そのために地球環境が健全であるということは 1 つではある。

（5） 地域の ESD 推進の核をつくる。し続けていく仕組み・基盤を考える。

①ESD コーディネーター

・とても素晴らしい教材はたくさんあるが、学校現場に届いていない。そこをつなぐためにも ESD のアドバイザー、コ

ーディネーターは有効である。様々な教材をいかに学校現場とつなぐか、10 時間という中だけでなく、幅広い全体の中でいかに活用していくか。低学年では、感性を磨くことを強調している、高学年では社会との関わり合いを考えていく事が大事であると思う。
・コーディネーターがいて、アドバイスをしてもらえれば続けやすくなる。誰か助けてくれる人がいることが支えになる。
・松本には任意団体でコーディネート組織がある。民間の企業から協賛を得ながら運営できる仕組みがとれないかと長野県の環境保全協会と働きかけをしている。行政と離れないと、支援が難しい部分がある。それが各市町村である程度存在する形ができるか。長野県は公民館活動が盛んで、学校はコミュニティ・スクールの方針に従い、来年度から信州型コミュニティ・スクールを始める。松本市は今年から松本版コミュニティ・スクールを実施し、地域との良好な関係を地元版でつくりたいという先生の期待もあり、進んでいる。地域との関係をつくることが、学校の学習目標の中に入っている。
　公民館には昔から農業をしているおじさんや、企業等の様々な方も入るため、ESD 的な学び方、伝え方、子ども達の引き出し方が意識化されていない。それをいかに公民館活動の中に広げてくか考えている。大学でも公民館活動を見ながら、学習の部分でノウハウを提供している。3 年間でできるものではないが、公民館活動との連携も必要である。行政には理解いただき、つなぎをつくってもらいたい。教育委員会や環境政策課、他の部局が専門的に行うのはハードルが高いだろうが、こういうことが大事だとの理解をいただくことは非常に大事だと思っている。
・ESD は学問化、学問体系化していき、ESD を学んだ人が学位を取れるようになり、食べていけるようになればという夢もある。

②地域
・鳴鹿では公民館で発表会を行い、地域の方がたくさんいる中で子ども達が発表をし、共感を得た。地域について学んでいることを大人も子どもたちに続けてほしいと思っている。残していくことの第一歩になる。
・地域、地元の方とつながることで、子どもが地域に関心を持つことにより、やめられなくなる。
・地域の、良いプログラムだからずっと続けていこうという後押しがあれば続いていく。
・ファミリーパークのような動物園、博物館も ESD 推進の核に成り得る。いろいろな知識を持つ、地域に詳しい方を紹介できる。

③文科省「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」のプログラムについて
・北陸地域、三重大は文科省のプログラムを使って、支援する仕組みを作ろうとしている。
・愛知はユネスコスクール登録が今年の終わりに 145 校になるらしい。先生達は学び合いたいと思っており、交流会をやりたいとは考えるもののなかなかできない。2014 年以降について先生達は不安をもっている。三重大学はどのようなスキームをつくっていくのか。やる気のある先生がユネスコスクールに登録しても、取組が終わってしまうのではないかと懸念している。しくみ、核をつくり、継続するにはどういうことが必要なのか考えていきたい。

④ノウハウの蓄積
・先生方のノウハウの蓄積もある、ポートフォリオ方式は増えてきている。評価のベースとして、ポートフォリオをつくるプロセスは授業の展開を示してくれる。先生が異動すると教えることも変わるが、ベースはあればそこから展開しやすい。先生と子どもの記録の蓄積が力になるだろう。

⑤校長先生

・市教委員会中心から、校長先生で頑張っている人が中心になれば行政の枠にとらわれずにできる可能性はある。

（6）今年度の事業について

・中部圏域で共通の認識を持ち、具体的には各地域で議論し、考えながら事業実施を開始する。

・いかに地域の核をふくらませるか、根付いていくような仕掛けをつくるか。教育委員会や行政、校長会も視野に入れ、本事業を紹介するプロセスを入れていくことは大事である。

・昨年同様、地域の課題、地域の良さを入れることを基本として、反転学習等の映像の活用法を考えていきたい。

・アンケートで、授業の実施前・後の違い、変化をみる。

・本気の授業をいかに作り上げるか。基盤となる学力がないところで議論をしてもどうなのかというのは一理あるが、子どもは与えられた条件や知恵の中で考え、話し合おうとする。義務教育では、取り組む子どもたちの姿勢が大切である。相手とコミュニケーションをとり、良い結論を出していこうとする努力がなければ、未来を考えていこうという力は育たない。学問的には不完全なところは何かしら残るが、そういった資質能力に根本を置いているのがESD である。学び合うことに信頼感、人間関係に重きを置くことも見せていきたい。

・授業をつくる側が big picture を持ちながら、地域の足元の課題を大人と、子どもが共有し、できるような授業、映像を考える。それらの素材を有効的に使用する方法考えていく。

・学び方を学ぶ。知識は穴ぼこであり、足りない部分があるからこそ学ぶ、うことの繰り返しである。

・評価方法はそれぞれの地域で議論し、考えていく。

・もっと学びたい、知りたいというスイッチが入る、ということも評価方法の一つである。

・昨年の実施校が ESD を継続しているかどうかを把握しなければ、事業そのものの成果は分からないのではないか。昨年の学習が子どもたちの行動の中で持続しているかどうかという視点もあるのではないか。

・学びのスイッチとして、まず地域を知る。比較しないと分からない部分もあるため、遠足や修学旅行で外に行った際に見てみる。視点を徐々に広げていく。

・残る事業にする。

以　上

中部 ESD 環境教育プログラム形成推進委員会「第 2 回」議事録

日　時：平成 26 年 12 月 17 日(水)　16:00～18:20
場　所：環境省中部環境パートナーシップオフィス
出　席：【富山】松本謙一氏　　富山大学人間発達科学部教授
【福井】前園泰徳氏　　福井大学教育地域科学部特命准教授
【長野】宮島和雄氏　　一般社団法人長野県環境保全協会専務理事
（松本大学　中澤朋代氏　代理）
【岐阜】小林由紀子氏　特定非営利活動法人 e-plus 生涯学習研究所代表理事
（岐阜大学　巽　徹氏　代理）
【三重】松岡　守氏　　三重大学教育学部教授
【北陸コーディネーター】鈴木克徳氏　金沢大学環境保全センター長・教授
【長野・東海コーディネーター】
新海洋子　環境省中部環境パートナーシップオフィスプロデューサー
池田善一　　環境省中部地方環境事務所所長
遊佐秀憲　　環境省中部地方環境事務所環境対策課課長
高木丈子　　環境省中部地方環境事務所環境対策課企画係長
萩谷衛厚　　株式会社 TREE
今井麻希子　株式会社 TREE
高橋美穂　　特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ
欠　席：【石川】池端弘久氏　　金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課/キゴ山ふれあいの里館長
【愛知】千頭　聡氏　　日本福祉大学国際福祉開発学部教授

まとめ

1.2015 年度、2016 年以降の事業提案について
昨年度、今年度の成果と課題を形成推進委員会やステークホルダーダイアログで協議し、2016 年以降の ESD 事業についての提案づくりを行う。特に、本事業が次年度で終了するため、その後、本事業の成果を継承する事業、地域で継続的に ESD 実践を実施できる基盤づくりを支援する事業、ESD の評価(学校及び地域における評価指標による評価を検討する事業)などを検討する。
・次年度へ向けての提案を基に、形成推進委員にヒアリングを行う。
・ヒアリングを受けて提案書を再考し、本事業の次年度仕様書が出される前に地域ニーズを伝える。
・2016 年以降の ESD 事業について検討し、国に提案する。
２．ESD ユネスコ世界会議の成果についての報告会を年度内に中部 7 県で実施する。
・早急に日程の調整をする。
３．中部のプログラムガイドブックを作成する予定である。

議 事　**進行 新海洋子（EPO 中部）**

１．第１回形成推進委員会のふりかえり

今年度の各県の事業内容の進捗状況をお話いただき、中部７県での本事業の現状課題を共有する。また、次年度で 3 年間の事業が終了するため、次年度以降についての事業展開についての意見交換をする。事前にアンケートでご回答いただいた結果も踏まえつつ、改善点や本事業の発展的展開についても議論する。成果の見える化、政策提言や各県で ESD を今後いかに進めていくかの枠組み、EPO の役割についても議論し、共有する。7 月に開催した第 1 回の形成推進委員会で、以下の共通目標を設定した。

①地域の課題や良さを、子どもも大人も共有する。

②自分ごと、当事者として、子どもが「なんとかしたい」「何とかしよう」という意欲をもつ。

③答えを明確にだすことではなく、子どもが、もっと知りたい、学びたくなる「スイッチ」が入るように導く。

④地域に体を使って働きかけるような「体験」をいれた授業をつくり実施する。

中部 7 県全県で公開実証授業は終了していないが、これらの共通目標を踏まえつつ、実践を進めている。事業の開始が遅れ、児童・生徒の事前事後のアンケートをまだ実施していないため、目標に対してプログラムの効果がどうだったかについてはまだ読み取れていない。また、形成推進委員会の方のアンケート結果から、以下の事業の課題を把握した。

①各県でワーキンググループが主体的、積極的に実践する、実践を支援する環境を整える。

②各県での ESD 授業の評価方法を協議する。事業を実施しての評価方法を考えていく必要がある。

③アンケート項目（プログラム前・プログラム後の児童・生徒の変容を測る）を作成する際に協議して進める。

④昨年度のプログラムと映像教材を幅広く活用できるように公開、ダウンロードが可能になるなどの環境づくりをする。これら課題を意識しながら、第 2 回形成推進委員会を進めていきたい。

2. 今年度事業の進捗状況

中部７県の進捗状況は、２回のワーキンググループ会議、公開実証授業を終えたのは、富山県、長野県、岐阜県、三重県である。愛知県については公開実証授業を終えたが、授業等のふりかえりを行う 2 回目のワーキンググループ会議はまだである。石川県は 1 月 23 日、福井県は 1 月 22 日に公開実証授業を行う予定である。各県の授業づくり、授業内容、学校や子どもや教員の変容、映像の成果効果、事業全体を含めてご報告いただきたい。

【富山】松本謙一氏

今年、富山市立堀川小学校という、昔から個性化教育、一人一人を大事にする取り組みを長年続けている学校で実施している。児童一人一人の教材としての「地域」であるが、話し合い教材は「仲間の姿である」という考え方があり、一緒に学ぶ仲間を「鏡」にして自分の追究を見直す、話し合いを大事にしている学校である。
2 年生の「まち探検」の単元を教員 2 年目の先生が取り組んでいる。校区にある「市電通りすてきをたくさん見つける」活動をし、次に「すてき」の中でも、一番大好きなところについて深く追究していくという内容である。

映像教材の制作は市内でも山の中にある神通碧小学校と連携して行った。堀川小学校は町の中の学校だが、神通碧小学校も２年生を対象に、「まち探検」を先行して行っていた。すてきを増やそうとたくさん見つけてきて、次に児童が「たくさん」ではなく、すてきを「深く」見つめ、とことん取り組んでいる様子を映像にし、探検を量から質

に変えていく場面を子どもたちと見た。授業は 45 分 2 コマを実施し、1 回目にはすてきの「量」から「質」の変換、1 つに決めて「追究したい」という気持ちを育むことが目的である。映像で見た神通碧小学校の児童の追究の姿を鏡に、自分の追究の質を変えていく。2 回目の授業では、神通碧小学校の、「ありがとうを伝えたい」「他の人に自分の探究を発表したい」といった「伝えたい気持ちを持った児童の姿を映像教材で見て、「伝えたいという気持ちを育む」ことをねらいとした。しかし、子どもたちはもっと知りたい、関わりたいという気持ちをもち、「自分が探究し尽したら発表する」というめあてを示した。

この実践の発表の場は、1 月に開催される ESD シンポジウムを設定している。児童のこれまでの全ての学習をふりかえり、自分がどう成長したかを児童が紹介する予定である。

人を教材にする授業は難しい。映像も見せれば良いというものでなく、どんな投げかけをするかで子どもの意識の方向が変わる。実は、映像教材を活用した授業をそれぞれ２回ずつ実施した。1 回では上手くいかず、一週間後児童への投げかけを変えてもう一度実施し、反応がどのように変わるかを追って検証した。どんな映像を見せて、どう投げかけることが、児童の学びや追究の質的に高めるきっかけになるかについての詳しいデータをとることができた。映像を活用したことで、神通碧小学校との関係が深くなるという効果があり、良かった。

【石川】鈴木克徳氏（北陸コーディネーター）

金沢市立三馬小学校で実施している。小学校の近くに伏見川という川があり、児童が伏見川をどう受け止めるのかを考えるプログラムを実施している。最初は伏見川にサケが遡上してくることを中心に捉え、サケの放流をするというプログラムを検討していたが、2,3 回話合っていく中で、伏見川の上流・中流・下流の環境をどう受け止めるか、児童の近くにあるある川をどう認識するかを中心に考えていく形で再整理をしている。上流は森林組合、中流は公民館、下流は漁業組合に川に関わっている方に、川をどう考えているかについてのアンケートをし、地元の人が川についてどういう思いでいるのかを知り、児童が川について何を感じてくれるか、発見していく、そんな授業にしていく。

映像は認識の共通ができるため、YouTube を通じて家族にも映像を視聴してもらえるかどうか検討している。全員の家庭で映像を見られるかが検討課題である。可能であれば、家庭でも視聴し、家族にアンケートを取り、児童と一緒に考えると、学びの幅が広がる。児童が学び考えたりしたことを意見にして発表する場をしっかり持ちたいと考えるため、発表会は授業参観だけではなく、もっと多くの人に発表する場を検討している。

【福井】前園泰徳氏

実証校は、敦賀気比高校付属中学校という私立の学校である。現在、授業案づくりをしている段階である。映像を撮影してが、時期が秋冬と遅く中池見湿地のイメージがしにくいため、春夏の明るい緑の画像を差し込むことを考え、画像を提供し制作を進めている。1 月 22 日の公開実証授業に向けて、中池見湿地でこれまで続けている外来種の駆除等の活動の全体をつなげ、単発ではない、つながりのあるプログラムにしたい。1 月中旬頃には、講師として授業を受け持つ。生徒の関心を高めて、本番を迎えたい。映像制作の際に NPO の方にお話を聞くなど地域の協力を得ることができた。地域とのつながりは少しずつできているのかと感じるが、学んで終わりではなく、学んだことを発信できるようにしたいと考える。以前、敦賀市民の中池見湿地に対する関心度についてのインタビューをしていたテレビ番組を見たが、地域の人の関心は薄い。「そうした状態を生徒の発信で少しずつ変えていきたい」「学んだ『中池見』という場所を残していきたい」といった子ども達自身が関わっていく主体性を育むこと、社会づくりに自ら参加すること、自分達には何ができるのかを考える授業にしたい。

【長野】宮島和雄氏

松本市立会田中学校で実施している。現在は松本市立ではあるが、少し前までは会田村という山間にある学校である。当初長野の学校で実施されている「学校登山」をテーマに、身近な山（里山）と観光地である山（上高地）との違いなどを学習し、発展させることを検討していたが、悪天候で十分な学びを得ることができなかった。なんとか経験を活かそうと、山によって「水」の味が違うことを体験する「水の味比べ」などをして、山・森と水とのつながりの学習へと展開しようと、身近な水を取り上げることとした。

この学校は校長先生を筆頭に、教務主任の先生、担任の先生が上手く連携し、授業をまとめられていた。地元にある専門機関も授業に協力していた。水の味比べをした際にも、行政機関である環境調査関連のセンターの力を借りて、数値による違いなど示すなど科学的な学習も入れた。学校には学友林もあり、森を学ぶ環境にとても恵まれている。

それらの学習を踏まえ、公開実証授業を実施した。公開実証授業では、50 分 2 コマで実施。最初の 1 時限で、学校登山からこれまでの学習のふりかえりを行ったが生徒からの反応はあまりなかった。2 時限目に入り、ふりかえりを踏まえて、生徒が森や水、この地域についての意見を出してディスカッションした。ふりかえりを行い、みんなの認識を共有して次に進めたことが良かった。授業後に先生から、ある時点でスイッチが入って、活発ないろいろな意見が出てよかった、という感想を得た。参観していても生徒の変化がうかがえた。

共通目標について、地域の課題については、地域の課題を環境から考えることが出来ていた。また、実施した学校の地域が山間にあり孤立しているため、家庭でも会話を重ねていたことが感じられた。自主的に考え、意見を言うという点もディスカッションの活発さでクリアしている。初期の目標はかなり達成されたのではないか。地域に体を使って働きかける体験については判断しかねる。バウムクーヘンづくりに、学友林の木を利用していたが、実施する現場がもう少し村の中、地域に広がって一般の方も関わることができればもっと良かったかもしれない。今後の課題ではないか。映像教材は自分達の足元を上手く編集してあり、短かったが効果的に活用できていた。横展開する場合は、出来あいの映像教材ではインパクトに欠ける。地元の題材を先生がとりあげるのは、先生の技術のレベルアップが必要ではないかと考える。個人的にも課題だと考えている。

【岐阜】小林由紀子氏

羽島市の正木小学校で、毎年実施している環境教育の取組を基に、ESD の観点を取り入れる授業とした。先生は当初、「持続可能な」と聞いてすぐに資源をイメージしたようであったが、そうではなく「社会づくりである」という認識をもたれてから、先生の視点が変わり、授業内容が作り直された。エネルギーの授業は元々取り組んでいたが、今回の事業に参加したことで、授業全体を見直し、自分のエネルギーについてより身近に考えられる良い授業になった。映像教材に担任の先生が出演し、学校での省エネの取り組みを紹介した。また、フードマイレージについても映像で、学校給食の地産地消メニューを紹介し、正木小学校の児童だけではなく、羽島市の児童にも身近なテーマを扱い、良かった。これまでの取り組みが、さらにグレードアップした授業となった。

【愛知】高橋美穂(事務局)

愛知では、藤前干潟をテーマに名古屋市内の小学校で実施したいと考え、教育委員会や NPO 等に相談をし、実施校を決定した。八熊小学校は堀川のすぐ横にある学校で、藤前干潟での学習会を毎年行っている。八熊小学校では、小学 1 年生から 6 年生まで全学年で『堀川』をテーマに学習をし、掘川を大切にしたい、堀川を保全したいという気持ちを育むことをねらいにしている。本事業では、4 年生児童を対象に実施した。4 年生は、

理科で四季の変化と生きものの棲息環境をテーマに、堀川での観察会と藤前干潟での観察会を行ってきた。季節における気温と水温の違いと生きものの数の関係や、堀川と藤前干潟の環境の違いと生きものの違いなどについて映像を使いながら学んだ。気温と水温の変化と、生き物の数を毎月データにしていたので、予想を立てて、堀川でのストラップをかけて、カニを捕まえることができたかなど実際の体験を交えた。その日はカニを捕まえることはできなかったが、どうしてカニを捕まえることができなかったのかや、生き物にとって住みやすい場所はどんな可能なんだろう、をテーマに話し合いをした。月毎のデータを読み解き傾向を見る、そして予測をたてる、実際の現場で体験する、予測と実態の違いの原因を仲間と考える、そんな授業であった。

【三重】松岡　守氏

三重では桑名市にある私立の小学校で実施している。児童は名古屋市や四日市市など桑名市を中心に広いエリアから通ってきている。小学校近くの「嘉例川を保全する」というテーマを、遠方から通う児童がいかに自分事として捉えられるのかと最初は疑問もあったが、結果としてとても良い授業だった。授業を実施したのが初任の先生で、当初、授業案は内容が盛りだくさんになっていたこともあり心配していたが、ワーキンググループでもいろいろな意見や提案を受け、授業内容を絞り込んで組み立て、良い授業になった。嘉例川は元々きれいな川で、周辺では酒米などもつくられている。上流は昔の雰囲気もあってきれいであるが、下流はコンクリーで固められていて生き物もあまり住んでいない。自然が保たれているところと、いないところを見ることができる。児童は公開実証授業の前に嘉例川での観察を行っていた。観察の際に生き物を捕まえて、学校で飼育していたが、ほとんどの生き物が死んでしまった。その事実を、生き物が生きるための環境はどんな環境だろう？生き物が生きるためにはその環境を守っていかない水槽と同じになる、と上手く授業に組み込んだ。公開実証授業では付箋に、嘉例川の観察で見つけた生き物の名前と絵を書き、地図に貼って「生き物生息マップ」を作成した。もしこの川の環境が悪くなったら希少生物はいなくなると言いながら、川がこのまま汚れたり、人工的になったら生きものの名前と絵が書いてある付箋が外されていくというシミュレーションをした。児童は環境を守らないとこうなってしまうと自分事として引き寄せることが出来たようだ。映像教材は嘉例川の上・中・下流と捉えた。授業では動画で流し、止めて説明しながら活用し、ふりかえりでは有効な内容となった。公開実証授業には、上流地域で嘉例川の保全活動をしている方も参観したので、お話を聞く時間があってもよかったのではないかと思った。先生の成長にも驚きました。

【中部地方環境事務所】高木丈子

ワーキンググループ会議、公開実証授業にはできる限り出席している。最初、先生方は困惑された様子で、何をどうやってやればいいかという状況であったが、実施すると児童・生徒の反応から、期待していたより大きな反応が返されることを実感していた授業が多かったと感じた。本事業を実証することにより、学校側の評価は良い感触はあるのではないかと思う。しかし、課題はまだある。昨年度よりは早いが、事業開始が遅いことが、学校側のネックになっている。また、映像の活用方法はいろいろであるが、先生方が慣れていないため、どのように活用するのかを事前に詰める、活用方法についても先生方にある程度示すことが必要だと思う。

【映像】株式会社 TREE　萩谷衛厚、今井麻希子

映像教材は現地のロケと、時期などの都合で足りない映像は既存の素材を組み合わせて制作した。長野の森の機能の映像教材は現地のロケとCGを組み合わせて、学校のプログラムにカスタマイズした。富山では、これまでの映像教材のつくりとは違い、子どもたちが主役のドキュメンタリー的な映像だったため、できるか不安はあったが

チャレンジし、結果的に面白い映像教材を制作することができた。愛知の藤前干潟の映像教材は、AR(拡張現実)という新しい活用方法を展開したいと、制作と準備を進めている。紙媒体などの画像をスマートフォンやタブレット端末等で読み取り、映像が見られるしくみである。広く地域で使ってもらうことを目的に、藤前干潟の冊子の画像に紐付けする。今年度は、本事業の実証校以外の学校でも使える映像教材を意識して制作している。映像をどのように活用し、どのような発問、投げかけをするのか、映像にどのような情報が必要なのか補充しながら制作している。他の学校での映像教材の活用についても今後の課題として考えていきたい。

3.本事業の成果と課題、次年度以降の展開について

今年度の実践を踏まえ、次年度どうするのか。次年度の実践校か想定している地域もあるが、事業の開始を待つと、どうしても学校のスケジュールとずれてしまう。課題はいろいろある。これまでの実践を通じて、難しかった部分、次年度以降改善し実施すべきこと、について意見交換をしたい。次年度の実証予定の学校には、EPO として今年度中にご説明に伺い、依頼をしたいと考えている。また、次年度も映像教材を制作するかについても検討したい。新しく制作するよりは、これまでの映像教材をいかに他でも活用できるかを検討したい。

（1）成果

本事業で一番良かったことは、「ワーキンググループ」である。授業に対して、先生だけでな、いろいろな方が入り、様々な視点からアドバイスをする。ワーキンググループという形であれば、本来資金をあまりかけずに実施することができる。学校が地域にはこういう人がいる、困った時には相談できる人がいるという道筋が立ったところが大きな成果である。一方で、映像教材がないと絶対にできない事業ではない。

（2）本事業における課題と改善策

①実証校の早期決定

次年度実施に向けて、実証校を早く決定し、打合せを行うことで、より工夫をして授業づくりに取り組むことができる。

②モデルプログラムの活用

●モデルプログラムの位置づけを明確にして、最初から意識して実施すると良いのではないか。

●モデルプログラムが先にあり、リメイクするのでは面白くない。まずは先生に授業案を考えもらい、その気になってもらうことが大事だと考える。その後、参考になる部分を合わせて考えていく方が、授業づくりが面白くなるのではないか。

●地域の特性を、その地域の学校に合わせた授業にする必要があるので、単元をつくる際に参考になるものがあれば取り入れる。モデルプログラムにしばられ、似た授業を実施すると先生が意図したねらいに合わなくなる可能性があるため、柔軟に解釈して取り組むことが望ましい。三重県は本年度、モデルプログラムの「5 つのものさし」を基にしているが、ESD の手法や観点を実施校のねらいや、これまでの授業の改善をしながら、ブラッシュアップして実施した。

●モデルプログラムは他地域でつくられているため、もしくは授業案のような組み立てになっていないため使い難い。

●ベテランは参考にできるかもしれないが、そうでない先生にも、参考にできるものであると良い。

●教科にリンクできるようなプログラムの提案、実例として分かり易くし、児童の反応のポイントなどを押さえる等、

教員がやってみたくなるようにつくることが大切である。
※中部のプログラムガイドブックの作成を予定している。

③本事業のメリットの見える化

●本事業を引き受けるかどうか、先生方には不安が多いと感じる。前年度事業で、どのようなことをやってきたのか、授業案の段階からこのようにつくってきたというプロセスをみせると、不安に思うところを解消できると考える。
●授業の映像やそれぞれの活動を残しておいて、提供するだけでも見ようと思う人には使える可能性がある。
●全国版のプログラムガイドブックを見ても、分からない。授業案の改善、カリキュラムのブラッシュアップといったプロセスということをみせることが必要である。

④他校の教員の参加

●公開実証授業や周知啓発事業に先生や、特に来年度実証の可能性のある先生に、研究授業のような形で見に来ていただくと事業についてよく分かり、参考になる。やってみようとなる可能性もある。説明するだけではなく、実際に見ていただくとはよいのではないか。
●富山県では今年度、ユネスコスクールの研究発表会に合わせて公開実証授業を実施した。来年度実施候補の学校の先生にもご参加いただいた。

⑤学校間、教員間、学校地域間の情報共有と学びあう場づくり

●学校間で学び合う、情報の共有を行う。今年度の堀川小学校の実践では、他校の児童の姿を見て、児童が学ぶ先生が学び合えるというおもしろい仕掛けができた。そういったことが出来ると良い。
●対話ができるプラットホームがとても重要である。先生や地域の方がおもしろければ、毎回参加したいと思う。例えば、富山の先生が愛知の公開授業を見る、岐阜の先生が三重県の公開授業を見る等といった交流である。昨年は授業を実践した先生だけの共有の場を設けたが、各県をかきまぜ、共有しながら学び合うといったことをしたい。授業実施の先生や校長先生、管理職が学び合う場をつくる。
●情報発信機能の強化、出会いの場づくりをする。先生や教育委員会同士が出会うなど、管理職同士が出会うことも大切である。
●いろいろなイベント等の情報の発信。別の地域の先生方にも、参加してもらえるように発信する。

⑥教員が実施しやすくなるサポートメニューの可視化

ESD に取り組みたいけれど、一人の先生が実施するには負荷がかかったり、プラスαの部分や作業があり、ネックになっている。平成 27 年の事業はそこを意識し進めることが必要ではないか。一人の先生のネックになっている部分をサポートするしくみ、やサポートを考え、実施しやすくなる状況をつくる。そこを意識しながら事業を動かし、具体的なサポートを実証しながらしくみを検討する。そして、今後の環境省、文科省への提案にしていくと良いのではないか。平成 27 年度の事業はそういったしくみづくりを意識しながら取り組みたい。一人の先生に対してサポートできるしくみ（組織、人等）、動かしながら、しかけをし、評価する。そして、環境省、文科省に提案し、予算要求をしたいと考える。

⑦映像について

●映像の使い方は非常に難しい。授業実施者のスキルが必要である。一方で、何度も映像を活用した経験が

あり、詳しい先生もいて、ギャップがある。

●使い方次第であり、違う使い方もできたのではないか。

●対象校との映像の打合せについても、活用方法などを提案する等、より工夫すると良い。

●映像ありきの事業ではない。使われ方が重要である。

●富山県では、映像を活用し、他校での学びから学ぶという手法ができた。

●昨年の石川県の実践では、YouTube に映像をあげ、家族で同じ映像を視聴し、体験やベースを共有し、対話し、より幅広くベースを共有するといった活用ができた。いろいろなことができる可能性がある。しかし、全ての家庭で見られる環境にあるかどうかという懸念もある。

●映像を活用した授業マニュアルもある程度必要である。映像教材の使い方のノウハウや、映像教材を使ってどういった発問をするか、どのように授業とリンクさせていくかは議論が必要である。

●次年度の映像教材を制作については、検討したい。これまで制作した映像教材の活用を視野に入れる。

（3）次年度について

次年度については予算を確保しており、今年度と同じ程度の予算は見込めるが、多少の減額はあるかもしれない。

①実証校

石川の次年度実証校は金沢市立十一屋小学校を予定している。今年度のワーキンググループ会議に参加していただいており、少し話を進めている。スタートが早くなると思うので、いろいろな工夫ができる。富山は神通碧小学校、長野は山ノ内中学校での実施、三重は四日市の小学校での実施を検討している。

4．本事業終了後に、本事業に成果及び改善策を地域に何をどう残すのか。

「ESD 人材育成事業」は来年度が最終年である。形成推進委員会委員に、課題や取組、改善策についてアンケートに答えていただいた。別紙がそのまとめである。その上で、本事業終了後、環境省に提案していく施策など、ご意見アドバイスをいただきたい。課題もあるが、良い事業だと評価している。単なる普及啓発ではなく、学校や教員と向き合い、提案し、地域を巻き込み、何らかの形にしてきた。3 年間の事業を実施して終わりではなく、継続する、もしくは新たな実践をするために何をすべきか。この 3 年間の成果は、学校教育においてこのような実践が求められている、子どもも教員もこんな変化があった、こんなことが出来たといった気づきがあり、様々な授業ができた。地域も出前講師ではなく、きちんと学校のカリキュラムに入って議論し、教員と授業をつくりあげることが必要だと気づいた。

こういった状況を作り出した本業の成果を、どのように次につなげていくのかを検討することに加え、これまでの実証の評価を行い、本事業での授業を実施することでどんな変容をもたらしたか、どんなプロセスを生み出したのか、など価値を見せ、学校や先生に提案していきたい。そして支える地域の基盤を形成することが継続には欠かせない。そのための評価を行いたい。そして、それが実際に持続可能な社会をつくるために必要な力を育むことにつながっていることを、環境省や文科省に見せていくプロセスを次年度チャレンジしたい。

地域ごとにイニシアティブをとっている団体が異なる。大学、教育委員会、学校、地域のユネスコスクール、NPO や中間支援組織、地域の実情に対応できる政策やプログラムをつくるための議論が必要である。EPO は官設民営の施設であるため、広域なイニシアティブがとれる。EPO をどう使うか、どう使えるかについてもお聞きしたい。それを環境省、文科省への政策提案等にインプットしていきたい。

続けるには資金が必要である。予算確保のために、どんな助成金や、どんな資金調達方法があるかの情報提供もしていきたい。国だけではなく、県に予算措置をしてもらえるような働きかけをしていくことも視野に入れながら、この事業の継続性と発展についてどのように考えていくのかを議論したい。

（1）今後の ESD 事業展開について

①北陸

北陸も自動的に進むのではない。進むような形にどのように組み込んでいけるかが問題である。

●北陸の今後の展開として、コンソーシアムを立ち上げた。その付加価値を感じてもらいたい。コンソーシアムに加入して良かったと思える最大のポイントは情報共有である。情報を共有し、いかに進める体制をつくるのか。情報がまだ末端まで届いていない。情報の提供にはホームページを立ち上げることを検討している。現場の先生が見やすいホームページをつくりたい。

●みんなが会う場をつくる。会うことによって、いろいろ見えてくることがある。ユネスコスクールは自分の学校内で止まっていることが多く見られる。会って、議論することにより、力を分かち合う、元気づけ合うことにもなる。会って、初めて見えてくる、そういった場をつくること、維持していくことが重要である。

●コーディネーターが必要と考える、各県 2 名ずつ程度で、その人たちが戦略的に考えていけるようにしたい。獲得した資金をいかに上手く使うかを考えてもらうことに念を押している。

●北陸はゆるやかなネットワークを形成している。松本先生や前園先生の知見や能力を他の県でも活用していただいている。ゆるやかなネットワークは、知的資源は偏在している。一義的には進めていない。

②富山

実際の授業実施を録画して、どこをどのように改善していくかを議論する場を月 1 回程度設けている。自分の録画した授業、指導案、授業記録を教材にして、話し合っている。参加者は教員が中心で、学生も参加している。募集人数は 20 名の枠内で、60 名の主に先生が登録している。

③長野

長野市内で環境教育のしくみをつくろうと動いている、長野市の環境委員会の方と話をし、協力をしている。ネットワークへの企業の積極的な参加を得るために動いている。

ネットワークを作る際に、NPO 中心になると資金がなく、挫折する可能性が高い。企業の賛同を得て、出資してもらった資金、助成金など確保しながら継続していくと良いのではないか。松本のネットワークは、特定の人の情熱に拠るところが大きいが、資金繰りは難しい。仲間内で資金をキープし合う、仕組み、それを行政が応援する形であることが継続するために必要であると考え、進めている。

ユネスコスクールも長野県では、少ない。動きが出始めているが、全国レベルと比べても教育機関としても自分達の仕事ではないという意識があったのではないか。

④三重

四日市で仲間と ESD を進める組織をつくり、この事業を引き継ごうと検討しているが、資金がなく動けない。

⑤岐阜

県が進めているESDや大学のESD、ユネスコスクールの支援、環境教育など全てが別々で動いている。大学はユネスコスクールの推進はするが、ESD や環境教育は別だと考えている節がある。県は協力的であるが、市町村にもっと積極的に関わっていただけると良い。

⑥文部科学省の方向性について

2008 年の学習指導要領改訂において、ESD は「生きる力とほとんど同義」だと取り上げられ、今進んでいる、学習指導要領の改訂の中でも大きく取り上げられている。教育振興基本計画、第 2 次基本計画でも大きく取り上げられている。文部科学省の方向性としても ESD は「生きる力」と同じであり、キーコンピテンシーと連動する重要なものだと言っている。中教審でも議論がされている。霞が関は大きく打ち出しているが、日本全国、市町村までメッセージが伝わっていないと感じている。

（2）ESD の取組を継続するための仕組みについて

①教員の好奇心とモチベーション維持（向上）

継続する仕組みづくりをする際に、必須なのは、人、金、モノ、教員の好奇心である。この 3 年間を教員がおもしろいと思ってくれるかどうかにかかっている。面白いと思えば、教員が続けたいと思う。進めるためには、人のサポート、お金、インセンティブがあればというのもあるが、先生が面白い、自分もおもしろい児童・生徒の変容や成長が分かると、自分で進められる。楽しいと思ってもらえるかどうかが最優先事項である。

②評価手法の確立

ESD 授業を実施することによる児童の変化、効果、成果を図る指標、評価軸、方法が必要であり、つくりあげるまでの議論が重要である。例えば、「子どもが主体的に動く」「発信する」といったことが評価になるのではないか。事例ではなく、その中の本質的な整理された、評価のようなものが必要である。

③教育の本体に ESD を組み込む

ESDがスタートした時、ユネスコの主な流れは、ESDを教育の本体にいかに組み込むかであった。外からのお金があることが前提では、続かない。指定校制度等に入れ込むことができれば継続できる。切れないしくみにするには、本来の教育の中にいかにしっかり組み込んでいくかを戦略的に考える必要がある。戦略的に「核」になる組織を見つけて、普及させていくことが重要である。また、広げるためには、県全体に広げるためになにができるかを戦略的に考えていくことが大切である。

④ESD を当たり前にするためのアプローチ

消費者教育基本法にも ESD の考え方が入っている。何が ESD なのかをふりかえると ESD は様々なところにある。資源の面や、購買する際にも環境に配慮することを含めて、入口はたくさんある。「持続可能な社会」という言葉は、環境だけでなく、多くの人々が話すようになったが、教育と乖離している。ESD が特別視されている状況がある。そこをどう超えるのか、そのギャップを情報や関わる人を増やしながら、埋めていくことが大切である。

環境教育推進法は、持続可能な社会づくりをうたっている。環境省も持続可能な社会づくりと言っている。しかし、すべきことは非常に幅広い。みんなが安心して暮らせる未来社会づくりである。環境も入るが、環境だけではない。リンクしながら、幅広く解釈し実施できる道がある。

どのテーマでも、「参加」「対話」「協働」「共生」「自立」がキーワードであり、態度を育成する学習であるから、環境、国際社会、人権など、どんな分野からのアプローチもできる。生き方のベース、教育のベースであり、それ

が当たり前になるまで何をどう積み重ねていくのか。いかにアプローチするのか、が重要である。
教職大学院で先進的な教育の方向にある方は、ESD を特別視せず、これこそ今後の主流という見方を出している。今年もラウンドテーブル、プレセッションなど ESD シンポジウムを入れ、全国から多くの人が参加をする。ESD は今後の「主流」になるだろう。今はその過渡期にあたると思われる。ESD の一般的な知名度はまだ低い。ESD が学習指導要領とのつながり、教科とのリンクの方法を説明できることが大切である。特別なことではないことをベースに考えていくと良い。
富山の授業では「人間環境」をテーマにし、仲間意識を育むことをねらいとして、探検を実施した。

③資金調達

いかに資金面で継続できる仕組みをつくっていくかを検討する必要がある。助成金等の情報を提供することが大切である。同じ取組に対して継続的に受けられる資金がない、助成金の申請などに対する支援が必要である。学校の教員が、基金等の申請を出す際のサポートも必要である。

民間ベースで地域の人が地域の学校を支えるというのが一番スタンダード、持続可能な道である。この事業はそれを支える、サポートするしくみづくり、提案することができるのではないか。民間ベースの基金をつくって、役場で管理し、町予算とは別になるように理事会をおき、立て替え払いなどで先生がすぐに使えるお金を作らないと。助成金も報告書等に追われ、負担になる。勝山では民間の地元の企業から基金を作ろうという話もある。

④コーディネーター

世界会議でもコーディネーターの重要性が謳われている。地域のコーディネーターが大きな役割を担っている。本事業では形成推進委員が担っているが、本事業が終わり、その役割がなくなってしまうと何も動かなくなる可能性がある。今後どういう人がコーディネーターになるべきか、今後どういったものをつくっていくと良いかを議論する必要がある。

学校、NPO、行政でコーディネーターが 3 人そろっているとよい。余裕のある先生が関わってくれると ESD は上手くまわるのではないか。出会う場、情報を収集する等コーディネーターには予算をつけることが必要である。

⑤サポートするしくみ

教務主任、教頭等授業を持っていない教員が、全体を見ながら、必要な時にコーディネーターやサポートできるようなしくみができるとよい。先生が苦労される部分をサポートするしくみを意識しながら、次年度事業を実施し、評価をする。そして、環境省や文科省の提案にまとめることが必要である。

先生同士の勉強会や研究会だけでは、限られてしまう。もっと外部の方の意見を聞くと、広がり、深まりにつながる。もっと簡単に声がかけられるようなしくみがあると良い。

NPO の協力を得る時に、先生や NPO の方の個人の意思で続けている状況が多い。ESD 活動を長く、持続的にするしくみが必要である。先生が一番面倒に思うところを支えるシステムが必要である。

長野では、民間団体が支援するのではなく、教育委員会などと連携し、学校で授業実施の際にどうやったらわからない時の受け皿として、サポートできる組織を考えている。本来ならば、文科省、環境省で何等かの方向を出してもらいたい。民間の活動では、足元でサポートはできるが、面的な広がりは難しい。文科省、環境省で政策的なものがあり、それにリンクする形で、足元でサポートするといった状況が望ましいと考える。霞が関からのトップダウンだけでは広く浸透、メインストリームになっていかないため、浸透するためにはボトムアップも同

時に必要である。

⑥EPO 中部の役割

期待する役割は中部 7 県をつなぐ。環境省地方事務所か EPO でないとできない。中部 7 県をどうつないでいくか、中部地方環境事務所か EPO が担うかどうかは分からないが、期待している。そこを大切にしてほしい。

⑦ビジネス化

全体のカリキュラムをサポートするしくみそのものが、コンサルタントの業務として行えるようになるまでいけば、資金調達の課題もクリアできる。サポートする部分をソーシャルビジネスとして考えていくことが重要である。

（3）本事業終了後の提案について

今の ESD 人材育成事業と同じような内容は継続で実施できないため、これまでの成果を活かした新しい別の施策や新たな仕組みづくりを提案する必要がある。単年度の事業であれば、モデルとしてできるが、1 度しかできない。継続することを考えるならばモデル事業にしないほうがよい。この 3 年間は環境省のモデルプログラムを実証することによって、より地域のプログラムにあったものをブラッシュアップするといった流れであった。その成果をどう活かしていくか、地域の ESD 実践が広がり、改善され、質も向上するような提案を作る必要がある。

5. その他

（1）ESD ユネスコ世界会議の報告会について

３月頃に実施する予定である。

6.今後のスケジュール

（1）次年度に向けた提案づくり

今日の会議での意見交換を踏まえ、次年度に向けての提案をまとめる。まとめた提案を基に、周知啓発事業やESDユネスコ世界会議報告会の際に、形成推進委員にヒアリングを行う。次年度の本事業の仕様書ができる前に、提案をする。

（2）本事業終了後の提案づくり

2016 年以降、環境省が行う ESD 事業についての提案づくりを行い、次年度提案する。

以 上

平成 26 年度中部地域における持続可能な地域づくりを担う
人材育成事業に係る ESD 環境教育プログラムの作成・展開業務 報告書
株式会社 TREE

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます。
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断基準にしたがい、
印刷用の紙へのリサイクルに適した材料［A ランク］のみを用いて作製しています。